

科学技術と倫理 (S)

13458

担当者名 / Instructor 鶴田 尚美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

20世紀になって、科学研究はそれまでの小規模で個人的な研究から大学などで大規模に行われるものへと変化した。科学者たちの新たな発見や結果、人々の日常生活も急激に変化した。それらの発見の大部分は、一方では人々の生活を便利にするものであり、われわれの生活は豊かになったが、他方で新たな問題が生まれた。

この授業では、20世紀半ば以降の科学的発展によって生じた倫理的諸問題を取り上げ考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・科学と倫理学の基本的知識と、自分自身で問題を考える態度を身につける。
- ・小論文形式で自分の考えを適切に述べるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要説明	
2	基本的な倫理学理論	功利主義、カントの倫理学
3	科学的知識の価値	知識の価値の外在説と内在説
4	先取権争い	科学的業績、知的所有権
5	盗作、捏造(1)	科学の検証可能性、ピア・レビュー
6	盗作、捏造(2)	
7	医学実験(1)動物実験	3R
8	医学実験(2)人を被験者とする実験	ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、インフォームド・コンセント
9	医学実験(2)人を被験者とする実験	ビデオ
10	医学実験(3)被験者保護	ベルモント・レポート
11	疑似科学と倫理(1)	代替医療
12	疑似科学と倫理(2)	
13	科学者の社会的責任(1)	
14	科学者の社会的責任(2)	
15	科学の倫理の今後	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	授業でとりあげたテーマの中から、受講者が自分の関心に基づいてひとつのテーマを選び、それについての考えを問う。小論文としての形式の適切さ、および論理的説得力を評価する。
平常点評価	20 %	コミュニケーションペーパーの提出を平常点に含める(授業期間中、数回の提出)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分の関心あるテーマに対しては、自分自身で積極的に調べて欲しい。
質問などある場合は、授業終了後に受け付ける。

教科書 / Textbooks

教科書は使用せず、毎回レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
科学の倫理学	内井惣七 / 丸善株式会社 / 4-621-07054-1 /
背信の科学者たち	ウィリアム・ブロード / ニコラス・ウェイド / 講談社 / 4-06-257535-3 /
疑似科学と科学の哲学	伊勢田哲治 / 名古屋大学出版会 / 4-8158-0453-2 /

他に参考文献がある場合は、レジュメに記載する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

ジェンダー論 (SA)

13253

担当者名 / Instructor 堀江 有里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会的に構築された「性別」(ジェンダー)という視点から社会の構造を解説することである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」をつがうものとして認識する社会規範もあわせて持っている(「異性愛主義」)。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在する、これらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ないたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会のなかに、「性別二元論」や「異性愛主義」という価値観が、どのように表れているのかを考えること。そして、日常生活のさまざまな場面で立ち止まり、考える契機を生み出すこと。これらの姿勢を身に付けることが本講義の到達目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。社会学の基礎的な知識を身に付けていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入 / ジェンダー論とは何か	授業の到達目標、進め方、成績評価の方法等 / ジェンダー概念の射程
2	ジェンダーとセクシュアリティを考える(1):その多様性	ジェンダー、性自認、性的指向
3	ジェンダーとセクシュアリティを考える(2):クィア研究の可能性	クィア、カミングアウト、クローゼット
4	同性愛者解放運動の歴史(1):前史 病理化 / 犯罪化の歴史	ソドミー法、宗教的価値観、精神医学
5	同性愛者解放運動の歴史(2) 欧米を中心に	同性間パートナーシップ、同性愛者解放運動
6	同性愛者解放運動の歴史(3) 日本を中心に	グローバリゼーション、アイデンティティの政治
7	日本社会における同性愛者の人権(1) 前史	ゲイ・バー、ブルーボーイ事件
8	日本社会における同性愛者の人権(2) 司法 / 政策	東京都「府中青年の家」裁判、ピア・サポート、コミュニティ活動
9	日本社会における同性愛者の人権(3) 憎悪犯罪	憎悪犯罪 / 憎悪殺人、スティグマ、偏見
10	日本社会における同性愛者の人権(4) 文化活動をととして	映画祭、プライド・パレード、コミュニティ活動
11	同性間パートナーシップの諸問題(1) 保障	婚姻、シビル・ユニオン、社会運動
12	同性間パートナーシップの諸問題(2) 当事者の現状	当事者ニーズ、モノガミー / ポリガミー
13	同性間パートナーシップの諸問題(3) 制度	戸籍法、異性愛主義、天皇制
14	同性間パートナーシップの諸問題(4) DV、暴力	同性間暴力、ドメスティック・バイオレンス、DV防止法
15	ジェンダー / セクシュアリティをめぐる現状と課題	日本社会、尊厳の回復、差別 / 被差別の横断性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

疑問に思った点や、わからない部分は、積極的に、図書館やインターネットなどを使って、調べる習慣をつけてください。また、「単位だけ必要」出席していれば通る、という考え方をお持ちの学生さんは歓迎いたしません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述試験を実施します。授業内容の理解度と受講生自身の意見を総合して判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

大教室での講義では、受講生の方々とのコミュニケーションには限界があるとは思いますが、できる限り、レスポンスを求め、それを講義に反映させるようにしたいと思います。そのために、適宜、「コミュニケーション・カード」を書いていただきます。ご意見、質問、反論などを歓迎します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「レズビアン」という生き方	堀江有里 / 新教育出版社 / /

フェミニズム	竹村和子 / 岩波書店 / /
ケア・スタディーズ	河口和也 / 岩波書店 / /
性の政治学	シルヴィアンヌ・アガサンスキー / 産業図書 / /
「セックスワーカー」とは誰か	青山 薫 / 大月書店 / /

そのほか、講義にて適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ジェンダー論 (SB)

15548

担当者名 / Instructor 高橋 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会学的な見地からジェンダー概念について解説をした後、私たち自身の日常的なジェンダー感覚とはいかなるものなのかを様々な角度から取り上げる。

私たち自身が社会的・文化的な「思い込み」の産物であるジェンダーから隔絶した時空に生きることができないからこそ、それが「他者との出会い」の場面＝相互行為場面でどのように作用し、いかなる帰結をもたらすのかを考察することもまた必要だろうと思われる。自明視するがあまり、あまり意識することのないジェンダー実践を相対化する試みに是非とも参加して欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

高校で「ジェンダー」という言葉を聞いたことのある学生は、ジェンダー論を「男女平等」について学ぶ科目だと思われるかもしれないが、そうではなく、私たちが内面化したジェンダー感覚そのものを検証し、ジェンダー実践の意味を問い直したい。そういった意味で、「男女平等」先にありきの発想からの脱却はいまでもなく、「女の人権」や「子どもの人権」、あるいは「性の自己決定権」という言葉を、社会学的視座から相対化し、そのうえで自分なりの考えを組み立てられるようになって欲しい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学概論」など、社会学系の基礎科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	総括的導入講義	講義の進め方、成績評価方法、約束事の確認 + 授業内容の提示
第2回	生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー概念	男女の分類図式
第3回	生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー	男女の分類図式
第4回	母親へのまなざし	性別役割分業
第5回	母親へのまなざし	母子カプセル
第6回	ビデオ: 生殖医療の現場で(ディスコース分析)	「幸せ」な家族像
第7回	ジェンダー・アイデンティティの実践	「男らしさ」・「女らしさ」
第8回	ジェンダー・アイデンティティの実践	「男らしさ」・「女らしさ」
第9回	ビデオに身体技法を学ぶ	身体技法
第10回	性同一性障害とは	相互行為論
第11回	性同一性障害とは	相互行為論
第12回	性の自己決定権はどこまで認められるのか?	制度的再帰性
第13回	「アクション」を起こせ	戦略
第14回	ジェンダー・フリーの射程	「私」らしさ
第15回	総括 + 最終講義日試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義期間中にレポート課題を与える

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義のはじめにレジュメを配布しますが、後日再配布することはありませんので、遅刻した学生は講義後にレジュメを受け取るようにしてください。

レポート課題については講義内に説明しますが、体裁・提出期限・提出先・提出方法が守られていないものに関しては全て未提出扱い(0点)にし、最終講義日試験の受験資格を認めません。(また課題に関する説明を聞いていなかったという理由は、疾病など診断書がある場合を除いて原則的に例外を認めません。)

レポート課題に不正行為が認められた場合も 同様に扱います。

講義を妨げるような私語を繰り返す学生には退室を求め、成績評価から5点マイナスします。

携帯電話の使用はメールを含め禁止し 同様に扱います。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『性同一性障害 性転換の朝』	吉永みち子 / 集英社新書 / ISBN4-08-720020-5 /

『性同一性障害と性のあり方 性転換手術は 山内俊雄 / 明石書店 / ISBN4-7503-1210-X /
許されるのか』

『中絶論争とアメリカ社会 身体をめぐる戦 荻野美穂 / 岩波書店 / ISBN4-00-023807-8 /
争』

『21世紀家族へ(新版)』 落合恵美子 / ゆうひかく選書 / ISBN4-641-18294-9 /

その他の参考文献は講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

宗教と社会 (GA)

16020

担当者名 / Instructor 木村 至聖

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、宗教と社会とのさまざまな関係を検討し、現代社会を読み解く枠組みを提供することを目的とします。今日、日本では宗教やそれに関わる現象は、しばしば否定的なイメージで捉えられますが、現代社会において宗教は、他者・異文化を理解するための重要な鍵の一つであり続けています。この講義では、「宗教」あるいは「宗教的」とよばれる社会現象について、社会学の立場から考察していきます。前半では「宗教」とは何かを考えるための概論、および社会学における宗教のとらえ方を学んでいきます。それらを踏まえて、後半ではより具体的なトピックに注目しながら、現代(日本)社会における宗教について考えていきます。講義では映像資料も利用します。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.近代社会、国民国家の形成における宗教の役割を理解する。
- 2.世界宗教と地域的宗教が共存する社会の事例を通じて、文化の多様性とその重要性を理解する。
- 3.グローバル化の影響下にある都市化・消費社会化と宗教との関係を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	宗教「的」なもの、先祖祭祀、占い、自己啓発、ヒーリング
第2回	「宗教」とは何か	世界宗教、歴史宗教
第3回	近代社会と宗教	神話と宗教、合理化
第4回	近代社会と宗教	共同体と宗教、儀礼、集合表象
第5回	近代社会と宗教	信仰と宗教、静的宗教と動的宗教
第6回	現代社会における宗教の諸相	世俗化、私事化、市民社会と公共宗教
第7回	現代社会における宗教の諸相	新宗教、新新宗教、カルト、スピリチュアリズム
第8回	前半までの内容の概観と到達目標の確認	
第9回	日本(人)と宗教	土着化、シンクレティズム
第10回	ジェンダーと宗教	シャーマニズム、女人禁制
第11回	観光と宗教	祭りの観光化、ツーリズム、巡礼
第12回	慰霊と宗教	政教分離、集合的記憶、国民国家
第13回	メディアと宗教	メディア・リテラシー
第14回	科学と宗教	生命倫理
第15回	全体の概観と到達目標の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	55 %	
平常点評価	45 %	出席確認も兼ねて毎回講義後に課す小レポート(講義への感想・コメント)に対して、理解度により1~3点を与える

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる宗教社会学	櫻井義秀・三木英編著 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-04996-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

哲学と人間 (S)

13326

担当者名 / Instructor 土屋 敬二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

哲学とは何か - 自己という問題をとおして -

現在、我々の自己は歪んだり希薄化しているといわれます。さて、哲学は古来さまざまな問題を考察してきましたが、その自己という問題にも関わってきました。そこでこの講義では、哲学がそれをいかに考察してきたのかをみることをとおして、自己というものの深みや可能性を探ってみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・哲学とは何かについて考える。
- ・自己という問題について考える。
- ・哲学の基礎的な知識を身につける。
- ・抽象的、論理的に思考する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

西洋思想史に関連した科目(政治、社会など)を履修しておくことと理解が深まります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	、概観 1、哲学とは何か 形而上学と自己	人間はフィジカルなものを超えた(メタ)存在である
第2回目	2、現在なぜ自己は問題とされるのか ハーバースの観点から システムによる生活世界の植民地化と自己	「生活世界の隷属化は、植民地化という形態をとることになる」
第3回目	、古代 1、ソフィスト プロタゴラス 人間尺度説	「人間は万物の尺度である」
第4回目	2、ソクラテス 汝自身を知れと無知の自覚 『ソクラテスの弁明』(プラトン)を読む (参)ニーチェのソクラテス批判	「人智の価値は僅少もしくは空無である」
第5回目	、イエスとキリスト教 幼子のようにへり下ること 『新約聖書』を読む	「この子のように自らへり下るものこそ天国で最大である」
第6回目	、近代 1、デカルト a、「われ思うゆえにわれあり」による近代的自我の確立 『方法序説』を読む	「私は考える、ゆえに私はある」というこの真理は、懐疑論者のどのような法外な想定によってもより動かしえぬほど、堅固な確実なものである」
第7回目	b.精神と物体の二元論	「たとえ物体が存在せぬとしても、精神は、それがあるところのものであることをやめないであろう」
第8回目	2、バスケル a.近代的精神の批判 『パンセ』を読む	「自我は憎むべきものだ」
第9回目	b.考える輩としての人間とキリスト教	「知恵は我々を幼年に向かわせる。幼子のようにならなければならない」
第10回目	3、ホッブズ 欲望存在としての人間と自然状態 『リヴァリアン』を読む	「すべての人における力へのやむことなき意欲」「社会状態の外ではつねに各人対各人の戦争が存在する」
第11回目	4、カント 道徳的存在としての人間 道徳法則と自由	「道徳法則は自由の認識根拠である」
第12回目	、現代 1、ニーチェ a. 力への意志 その抑圧としてのキリスト教 『力への意志』などを読む	「道徳上の奴隷一揆が始まるのは、(反感)そのものが創造的になり、価値を産み出すようになった時である」
第13回目	b.ニヒリズムを超えて 駱駝、獅子から小児へ 永劫回帰と人間愛	「勇氣はこう言うのだ。「これが生だったのか。よし、もう一度」と」
第14回目	2、消費、情報化社会と自己 ボードリヤールの観点から	「人々は自分を他者と区別する記号として(広い意味での)モノをつねに操作している」
第15回目	、総括 我々は哲学から自己について何を学ぼうか	人間は自らを超えうる(メタ)存在である

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

哲学にはさまざまな角度から入ることができます。それぞれの関心に応じて哲学に関連した書物を読むように心がけて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業をいかに理解し、そしてそれをいかに文章化しているかを中心に評価します。
平常点評価	20 %	授業に関連して2度小レポートを書いてもらいます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の展開の基本線を押えるように心がけて下さい。3回に1回質問用紙を配布します。出席のほか、質問の方も心がけて下さい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用ませんが、原典その他のプリントを教科書代わりとします。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
『はじめての哲学史』	竹田・西編 / 有斐閣 / / 分かりやすい哲学への入門書です。
『西洋哲学史』	岩崎武雄 / 有斐閣 / / オーソドックスな哲学の解説書です。
『ヨーロッパ社会思想史』	山脇直司 / 東京大学出版会 / / 社会思想の観点からも哲学することができます。
『哲学のすすめ』	岩崎武雄 / 講談社 / / 哲学とは何かがよく分かります。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

人間性と倫理 (S)

15521

担当者名 / Instructor 門屋 秀一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「どのようにすれば人間は善く生きることができるのか」ということを永遠の根本問題にする倫理学について、その基礎的な知識と考え方を初学者・入門者向けになるべく平易に説明し、学生諸君の教養豊かな人格の形成に資するつもりである。そのさい各テーマに関連のある西洋美術の名作を多数補足的に用いることにする。というのも西欧の美術と思想は密接に関連していると思われるからである。ところで、倫理学には新しい分野として応用倫理学もあるけれども、本講義ではその根底、あるいはむしろ人間性そのものの根底を研究した、いわゆる伝統的古典的な倫理学(プラトン、アリストテレス、カント、ヘーゲル)を取り上げる。こうした論証方法を検討することによって人間にとって根本的な思考のあり方とはいかなるものか、理論の構築術とはどうあるべきか、を概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

善悪の区別にもとづいた実践としての倫理は大学生諸君にとってもうすでに習得済みの事柄であるから、大学教育であらためて德育を行おうとは思わない。これに対して、学問としての倫理学とはこれまで諸君が体得している道徳的事実を整理し、秩序付け、体系化することである。自分の過去の経験を踏まえて、卓越した倫理学者たちの学説を学ぶことによって、揺るぎない自己の人格を確立すれば、将来の実社会において倫理的、道義的にさほど間違った轍を踏むことは決してないであろう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校で倫理を履修していなくても支障ないように配慮している。また履修済みであっても大学生の教養として十分な内容としている。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	自然から人間性へ ソクラテス(1)	自然哲学、「～とは」の問い、無知の知
2	正義とは何か? ソクラテス(2)	ソクラテス裁判、正義と報復
3	弁論術と相対論 ソフィストと哲学者	万物の尺度は人間である
4	真の愛とは何か? プラトン(1)	神聖愛と世俗愛
5	芸術と道徳的国家 プラトン(2)	芸術模倣論、詩人追放論
6	実践という原理 アリストテレス(1)	理論、実践、制作
7	幸福になるために アリストテレス(2)	善く生きる、善くならず、幸福である
8	無秩序な社会でいかに生きるか? ヘレニズムの哲学四派(1)	コスモポリタニズム、懐疑論
9	快楽主義か厳粛主義か? ヘレニズムの哲学四派(2)	エピクロス、ゼノン、ストア派
10	キリスト教と愛の倫理 アウグスティヌス(1)	ローマ帝国、キリスト教化、カトリック教会の成立、神への愛、隣人愛、三位一体
11	人間の意志と神の恩寵 アウグスティヌス(2)	時間と歴史、未来的終末論、救済予定説
12	倫理と信仰の総合 トマス・アクィナス	意志の問題、神の存在、四枢要徳、三対神徳
13	意志主義と幸福主義 カント(1)	法論と徳論、アリストテレスの幸福主義とカントの意志主義、エヴァ・プリマ・バンドラ、厳格主義、適法性と道徳性
14	道徳法則と定言命法 カント(2)	善意志と根源悪、定言命法と仮言命法、シラーによる厳格主義批判
15	道徳性から人倫性へ ヘーゲル	法の哲学としての倫理学、道徳的意志から人倫的意志へ、客観的精神

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業外学習は特に指示しない

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	記述式。持ち込みは不可。試験前における程度情報は開示。
平常点評価	50 %	出席要件を満たした上で、毎回時間内に書いて提出する日常的な小レポートを提出した場合のみ成績評価の対象とし、単に出席の痕跡を残しただけの、所謂「出席点」の場合、加点は一切行わないので注意するように。二次元バーコード(QRコード)持参のこと。

試験点、平常点の割合は若干調整する場合がある。追加点希望者は講義最終日までに、講義に関連したテーマで小レポートを提出のこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

専門分野の知識の習得だけに偏らず、大学生として幅広い教養を身につけていただきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
名画から入る哲学・倫理学(仮題)	門屋秀一 / 晃洋書房 / 未定 / なるべく購入
形而上学の克服	シュヴァイidler著・門屋他訳 / 晃洋書房 / 4771016585 / 購入必須ではない
カント第三批判と反省的主観性	門屋秀一 / 京都大学学術出版会 / 487698428X / 購入必須ではない
エチカとは何か	有福孝岳編、門屋秀一他 / ナカニシヤ出版 / 4888485208 / 購入必須ではない

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

メンタルヘルス (GA)

13355

担当者名 / Instructor 徳田 完二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業ではメンタルヘルスについて、さまざまな側面からとりあげる。ストレスなどについての基本的知識を身につけることだけでなく、受講者自身の自己理解(心理的特性の理解、自分が抱えている問題に対する心理的構えの理解など)も重要なテーマとなる。また、ストレスへの対処法を実習的に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

1. メンタルヘルスに関する基本的な知識を理解する。
2. 自分自身のメンタルヘルスクア能力を向上させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	メンタルヘルスとは	メンタルヘルス
第2回	こころのメカニズム(不安・葛藤・防衛)	意識と無意識、コンプレックス、防衛機制
第3回	青年期の心理	心の発達、青年期、イニシエーション、自我同一性
第4回	対人関係の心理	大学生のメンタルヘルス、対人恐怖
第5回	「適応する」ということ	外的適応、内的適応
第6回	さまざまな「こころの病」	神経症、精神病、心身症、人格障害
第7回	心理測定	質問紙法と投影法
第8回	心理療法	カウンセリング、ロジャーズ
第9回	心理療法	行動療法、認知行動療法、イメージ療法
第10回	第10回「症状」に繋がるこころの動き	症状の意味
第11回	第11回「症状」の変化・治療におけるこころの動き	心理療法のプロセス
第12回	第12回コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル
第13回	第13回ストレスコーピング	ストレス、コーピング、リラクゼーション
第14回	第14回病気とパーソナリティ	病前性格
第15回	振り返りと総括	グループ討議、総括レポート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業の中で、授業内容の理解を深めるのに役立つと思われる図書(主として一般読者向けに書かれた啓蒙書・教養書)を適宜紹介する。それらを中心に自主的、自発的に関連図書を読むよう薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業時間内に、授業で取り上げたテーマに関わる小課題を課し、自主的学習態度を評価する。また、最終授業日の一部を使い、自分の学びの総括を文章化させ、授業で取り上げたテーマについての理解度を測る。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分を振り返るきっかけになることを期待する。

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

授業の進度にあわせて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メンタルヘルス (GB)

15483

担当者名 / Instructor 徳田 完二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業ではメンタルヘルス(心の健康)について、さまざまな側面からとりあげる。具体的には、心の成り立ちや仕組み、その成長と発達、心の問題とそれに対する心理的援助、心の健康を保つ工夫などが主要なテーマとなる。これらの問題を「自分のこと」としてとらえることが要請されるため、この授業には多かれ少なかれ「自分と向き合う」という面がある。

到達目標 / Attainment Objectives

自分を含めた人の心について理解を深めること、また、その理解を基礎に自分や人の心の健康を保つ工夫がある程度できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	メンタルヘルスとは	メンタルヘルス
第2回	こころのメカニズム(不安・葛藤・防衛)	意識と無意識、コンプレックス、防衛機制
第3回	青年期の心理	心の発達、青年期、イニシエーション、自我同一性
第4回	対人関係の心理	大学生のメンタルヘルス、対人恐怖
第5回	「適応する」ということ	外的適応、内的適応
第6回	さまざまな「こころの病」	神経症、精神病、心身症、人格障害
第7回	心理測定	質問紙法と投影法
第8回	心理療法	カウンセリング、ロジャーズ
第9回	心理療法	行動療法、認知行動療法、イメージ療法
第10回	「症状」に繋がるこころの動き	症状の意味
第11回	「症状」の変化・治療におけるこころの動き	心理療法のプロセス
第12回	コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル
第13回	ストレスコーピング	ストレス、コーピング、リラクゼーション
第14回	病気とパーソナリティ	病前性格
第15回	振り返りと総括	グループ討議、総括レポート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業の中で、授業内容の理解を深めるのに役立つと思われる図書(主として一般読者向けに書かれた啓蒙書・教養書)を適宜紹介する。それらを中心に自主的、自発的に関連図書を読むよう薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終授業日の一部を使い、自分の学びの総括を文章化させ、授業で取り上げたテーマについての理解度を測る。 授業期間中に、授業で取り上げたテーマに関わる小レポートを課し、自主的学習態度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分を振り返るきっかけになることを期待する。

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

授業の進度にあわせて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

論理と思考 (S)

13264

担当者名 / Instructor 高木 敏美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

命題論理及び一階の述語論理を取り上げる。
現代論理学が、言語・思考・論理を対象化する際の基本的枠組み、及び様々なテクニックを紹介する

到達目標 / Attainment Objectives

・記号化を通じて、言語表現の多様性を識別しその論理を辿り、さらに自ら展開できる。
・各種資格試験、及び適正試験問題中の<推理、判断>に適切に対処できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義への導入と概要	論証
第2回	日常言語での論証-1	論証の妥当性
第3回	日常言語での論証-2	論証の妥当性
第4回	日本語と論理	記号化
第5回	真理関数的論理・・・命題論理-1	真理値
第6回	真理関数的論理・・・命題論理-2	トートロジー
第7回	意味論と構文論(公理系)	記号、意味、世界
第8回	公理系・・・その導入	規則に従う
第9回	一般性・・・述語論理-1	全て、～が在る
第10回	一般性・・・述語論理-2	ヴェン図
第11回	関係	多重量化
第12回	複雑な関係	同一性
第13回	様々な問題-1	過去問
第14回	様々な問題-2	実践へ
第15回	総括講義	目標到達の確認

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	各回で取り上げた基本問題や概念についてきちんと理解できているかどうかを評価する。
平常点評価	30 %	毎回の授業終了後に、授業内容の理解度を確認する小テストを実施する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリントを使用する。

参考書 / Reference Books

適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

映像と表現 (S)

16762

担当者名 / Instructor 篠木 涼

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

古語辞典には「影像」だけで映像の文字はありません。「映像」という造語は1896年(明治29年)日本に映画技術が紹介されて以降に登場しました。今では写真、映画、テレビ、アニメ、CG等「他の物の表面に映った物の形・姿」を表す言葉として使われています。映像の知識とこれを駆使する能力を伝授します。

なお、講義内容は前期・後期、各クラス共基本は同じですが、受講生の反応をみて多少修正する事があります。

到達目標 / Attainment Objectives

普段何気なく見て楽しんでいるテレビや映画も、学問的に分析していくと随分奥が深いことを、講義を通して実感、理解してもらうこと。そして映像との接し方を考え直す機会にできれば結構です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修してほしい科目はありません。但し、講義には心理学や言語学に関連した話が何度かあります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講師の自画像(VIDEO)	講師の生い立ちをビデオで自伝風に描きながら、映像(学)と講師との関わりを説明します。まずは映像を使って諸君に御挨拶を!
第2回	「映像の時代」の意味	映像という言葉が出現したいきさつを探ると共に、「現代は映像の時代である」と言われる所以(ゆえん)をメディアの今昔を比較して浮き彫りにします。いくなれば映像論序説です。
第3回	歴史 - 絵画から写真へ	以後3回の講義で映像誕生までの足跡をたどります。絵画の歴史を振り返ると、画家が正確な絵を描く工夫を重ねていくうちに、静止画像(写真)を写すカメラが発明されたことが判ります。
第4回	歴史 - 動く映像の発明	絵画や写真を動かしてみたいという人間の遊び心が、動く映像(映画)を生み出しました。映画が生まれるまでの人間の様々な営みをビデオでふりかえります。
第5回	歴史 - 初期の映画	初期の幼稚で短い映像の数々を見ることで、映画誕生から110年有余を経た現代の映像表現技術の進展ぶりが実感できます。
第6回	映像認知の仕組み	ここから3回は映像の特性を考察します。まずは、「人間にとってものが見え、わかるとはどういうことなのか」を認知心理学の研究を基に説明します。
第7回	脳の中の映像と言語	神経心理学の研究を援用しながら「言葉と映像が脳の中でどう処理されているか」その仕組みを解説します。
第8回	映像と言語の比較	記号論を基に「映像と言語の性質の類似と違い」を明らかにします。
第9回	映像表現法1(撮影)	以後2回は映像表現の初歩的技法の講義です。今回はレンズの種類やカメラの動かし方(camera work)等、撮影技法について説明します。
第10回	映像表現法2(編集)	撮影より前の作業として必要な「台本(scenario シナリオ)の作成」や「映像のカット割り(decoupage デクーパージュ)」それに撮影後の作業としての「編集(montage モンターージュ)」について解説します。
第11回	ナチスと映画	これより3回は映像が社会に及ぼしてきた負の側面(弊害)について言及します。まず映画によってドイツ国民を破局に導いたナチス・ドイツの例を検証します。
第12回	嘘つき映像の歴史	「写っているから事実だ」と思いがちな人々の映像信仰を逆にとり、映画誕生当初から、虚偽映像の数々が観客を欺いてきました。過去の事例をフィルムで見ます。
第13回	米国政治とTV	現代アメリカの政治コマーシャルの制作理念とそれが民主政治を歪めている現実をドキュメンタリー番組で見えます。
第14回	映像との付き合い方	講義のまとめとして、今後私たちは映像とどう接すれば良いかを考えます。

第15回

補遺(質問に答え、講義の理解度を確認する)

講義時に受講者が提出したコミュニケーションペーパーをもとに、講義で理解が難しかった箇所や疑問点を取り上げ補充説明を行い、さらに質疑応答形式で理解を深めてもらう。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

興味があれば関連の参考書を何冊かピックアップして読んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	授業で得た「映像」に関する知識と諸君のこれまでの体験を元に、君独自の<考え>を構築して書くこと。表現が下手でも君の頭脳のぬくもりが感じられるものを評価します。
平常点評価	30 %	不定期に5回、講義時にコミュニケーションペーパー形式で講義について感想(関心を持った点、疑問点、批判、提言等)を書いてもらい、授業への積極的参加の度合いをはかる。

将来広告や放送業界を目指す人は是非受講してください。毎回プリントを配布、ビデオ教材を沢山上映します。出席してビデオを見ることが大切です。講師は元TVディレクター。南米ペルー滞在3年。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは使わない

参考書 / Reference Books

参考図書は授業初回時に紹介。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

観光学 (GA)

16297

担当者名 / Instructor 麻生 憲一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、観光に関する歴史的・理論的・政策的・実証的側面の基本的な知識を体系的に理解し、習得していくことを目的とする。観光の語源、概念、歴史の変遷、そして現在の観光にかかわるさまざまな現象を概観していく。特に、観光と地域づくり、グリーンツーリズム、新しい観光形態などについて論じていく予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

観光に関する基本的概念、体系的知識を習得すること。
国際観光の動向、日本の観光政策に関する理解を深めること。
地域振興やまちづくりに対する観光の役割を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ツーリズム学概論、 、ツーリズム学実習、
地理・地域科学にかかわる科目
サービス産業に関する科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	講義概要の説明	講義方式、成績評価
2回	観光の概念と語源	観光概念の定義、観光の3原則
3回	観光財・サービスの特性	自由財と経済財、サービス財としての特性(無形性、非貯蔵性、非自存性、多様性、一過性)
4回	観光の歴史の変遷(1)	西欧の観光史(古代、中世、近代、現代) 産業革命、トマスコック、モータリゼーション
5回	観光の歴史の変遷(2)	日本の観光史(古代、中世、近代、現代)
6回	国内観光の動向	国土開発計画、リゾート法、マストツーリズム
7回	国際観光の動向	観光ピクバン、アウトバウンド、インバウンド
8回	日本の観光政策	観光立国推進基本法、外客誘致法、ビジットジャパン キャンペーン
9回	観光資源の活用とまちづくり	重要文化財、世界遺産、十津川村
10回	観光産業(1)	旅行業、宿泊業
11回	観光産業(2)	テーマパーク、ホスピタリティ産業
12回	滞在型観光	グリーンツーリズム、クラインガルテン、農村民泊、農家 民宿
13回	ホスピタリティ・マネジメント	もてなし、ホスピタリティ・マインド、共創関係
14回	新たな観光	マストツーリズム、ソフトツーリズム、エコツーリズム
15回	観光開発と持続可能性	観光開発、環境保全、 commonsの悲劇、外部不経済

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

観光資源を活かしてまちづくりを進めている地域へのフィールドワークを奨励します。日頃から観光に関する新聞記事やインターネット上の観光情報について関心を向けてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で扱ったいくつかのテーマの中から、受講生の関心に基づいてひとつのテーマを選び、それについての考えを問うもの。
平常点評価	40 %	授業内容の理解度を確かめるために不定期にレポートを課す。Web-CTを使って提出を受け付ける。1回の提出ポイントを10とし、成績評価に加算する。提出レポート内容が著しく優れた者、または著しく劣る者には別途加点、減点がありうる。

Web-CTが利用できない環境にある受講生は授業中に相談に来てください。別の提出方法を説明します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中の説明でわからなかったことはそのままにせず、質問に来てください。メール等での質問も受け付けます。

教科書 / Textbooks

授業では教科書を指定しない。配布レジュメに基づいて授業を進める。授業の資料は全てWeb-CTを利用して配布する。事前に各自がプリントアウトしたものを持参すること。Web-CTを利用できない環境にある受講生に対しては別の方法により配布する予定である。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
総合的現象としての観光	江口信清 / 晃洋書房 / 4-7710-1641-0 / 定価2,000円(税別)
現代社会とツーリズム	多方一成・田淵幸親 / 東海大学出版会 / 978-4486015642 / 定価2,625円(税込)
地域からみる観光学	小松原尚 / 大学教育出版 / 4887307780 / 定価1,890円(税込)
グローバル化とアジアの観光ー他者理解の旅ー	江口信清・藤巻正己編著 / ナカニシヤ出版 / /

その都度、授業中に指示をする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

観光庁 <http://www.mlit.go.jp/kankocho/>
日本旅行業協会 <http://www.jata-net.or.jp/>

その他 / Others

講義中の私語は厳禁です。騒がしい場合は退出を命じることがあります。

京都学 (GA)

13986

担当者名 / Instructor 片平 博文、加藤 政洋、河角 龍典、佐古 愛己、奈良 勝司、藤巻 正己、藤村 健一、三枝 暁子、村田 裕和、吉越 昭久 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は京都をテキストとして、歴史・地理・文学を中心に社会・経済・建築などさまざまな側面から学際的にアプローチし、京都の個性や地域性を総合的に理解する。講義は各専門分野の立場からリレー方式で行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

「京都」を多面的重層的にとらえ、他者に語る事ができる。
自ら「京都」をフィールドワークし、そのフィールド経験を通じて、自身にとっての「京都」を他者に語る事ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「立命館京都学」の創成 (藤巻正己)	立命館京都学、新たな京都学
第2回	平安京の環境史 (河角龍典)	平安京、環境考古学、環境史
第3回	平安京の都市化と文化 - 平安前・中期の京都の姿 - (佐古愛己)	平安京、人口集中、疫病の蔓延、治安の悪化、穢れ意識、怨霊、物の怪
第4回	京都(みやこ)の武士と平安貴族 - 平安京における武と文 - (佐古愛己)	平安京、武士、平安貴族、武と文
第5回	紅蓮の炎に包まれてきた都 - 平安京の火災 - (片平博文)	平安京、火災
第6回	宗教都市京都(1) (藤村健一)	宗教都市
第7回	宗教都市京都(2) (藤村健一)	宗教都市
第8回	近世における鴨川の堤防と防災 (吉越昭久)	鴨川、「寛文新堤」、洪水・治水
第9回	幕末維新と京都民衆 (奈良勝司)	幕末維新、中川祿左衛門、京都民衆
第10回	岩倉具視にみる近代化と伝統 (奈良勝司)	幕末維新、岩倉具視、改革派公家、「古都」再生、近代化と伝統
第11回	立命館草創の地・異聞 (加藤政洋)	立命館大学、京都法政学校、中川小十郎、場所の来歴、歴史=物語の地理学
第12回	遊歩者(フラヌール)の町「京都」とモダニズム文学 (村田裕和)	寺町・新京極、遊歩者、梶井基次郎・中原中也、モダニズム文学
第13回	京都ツーリズム:旅する文学者と創出された「京都」イメージ (村田裕和)	京都ツーリズム、旅する文学者、夏目漱石・谷崎潤一郎・川端康成・『さゆり』、イメージの生産と消費
第14回	金閣炎上をめぐる歴史と文学 (三枝暁子)	三島由紀夫『金閣寺』、水上勉『五番町夕霧楼』、京都文化
第15回	京都の多様な「生活世界」 (藤巻正己)	生活世界、もう一つの京都

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

「京都」をフィールドワークすることを大いに推奨します。フィールドを歩き・観察し・写真やメモをとり、時には関係施設を訪れ、地元の方々へのささやかなインタビューを通じて、現場での身体的学びを追求してみてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	所定のテーマ・方法によるレポート。詳細については備考欄参照。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーの提出。

最も興味をいだいた授業内容の要旨を簡潔にまとめ(本文800字以上)、さらにそれをふまえて自身のテーマを設定しテーマにかかわる「場所」を訪れて得られた知見や参考文献を活用した自身の研究レポートを執筆(本文2200字以上)。合計3000字以上。
その際、自身が訪れ、自身が撮影した風景(景観)写真を3点以上添付し、それらの写真についても概説を加える。
写真をどこで撮影したのか、撮影箇所を明示した地図を添付。
書式などについては、所定の時期に指示する。またコースツールを参照。
インターネットや文献からのカット/ペースト的記述は「不可」となるので要注意。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日頃から、自身でテーマを設け、大いに「京都」をフィールドワークすることを奨励します。
日頃のフィールドワーク経験を通して、授業内容に関連づけ、自身で「京都研究」を試みてください。

教科書 / Textbooks

なし。

参考書 / Reference Books

「京都本」多数あり。自身で探求してください。なお、講師の方々が、授業内容にかかわって有益な図書を推奨してくれることでしょう。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

とくになし。自身で探索してください。

その他 / Others

現代の教育 (S)

15511

担当者名 / Instructor 沖 裕貴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

講義は、現代の教育の諸相と題して、学校内外の教育の諸問題について解説する。現在の子どもの実態、学力低下論争や情報化社会の影の問題、大学教育の課題、教育現場の様子などを解説し、各自の問題意識を高めたい。
大規模授業ながら、一方的に聴くのではなく、積極的に質問をし、授業に参画してほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現代の教育の諸問題について、その背景や原因、検討すべき課題を指摘できる。(知識・理解)
2. 現代の教育の諸問題について、教育的な視点に基づき、解決策や対処すべき課題に関して自らの意見を述べる事ができる。(思考・判断)
3. 教育に関して興味関心を持ち、自ら調べ、考える態度を持つ。(関心・意欲・態度)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標・授業の進め方・成績評価方法等の説明、各回の授業概要の説明
2	現代の教育の諸相1 / 学力低下論争	学習指導要領、学力低下論の類型、データに見る学力の変遷、ゆとり教育の検証
3	現代の教育の諸相2 / 立命館小学校の実践	立命館小学校、百マス計算、モジュールタイム、学習者中心主義
4	現代の教育の諸相3 / 現代の若者像	データに見る現代の若者像、若者像に関する識者の意見、若者像の変貌はゆとり教育が原因か？
5	現代の教育の諸相4 / 情報社会の影(1)	情報社会で子どもたちを待ち受ける罅、コンピュータ・ゲーム、観察学習理論・脱感作理論、認知的発達への阻
6	現代の教育の諸相5 / 情報社会の影(2)	コミュニケーションの在り方を巡る罅、情報モラルや情報犯罪に関わる罅、親や教師の知らない世界 - ホーム、ネットいじめ -
7	現代の教育の諸相6 / 命の教育を考える(1)	豚のPちゃんと32人の小学生、総合的な学習の時間、構成主義の授業設計
8	現代の教育の諸相7 / 命の教育を考える(2)	久留米筑豊高校の「ニワトリからの贈りもの」の記録ビデオをもとに命の授業のあり方の再考。豚ではなく、ニワトリならいいのか。ペットでなければいいのか。短期間の飼育ならいいのか。
9	現代の教育の諸相8 / 現代の大学事情(1)	立命館大学の沿革、歴史、特色
10	現代の教育の諸相9 / 現代の大学事情(2)	現代の大学を巡る国内外の状況、高等教育の質の保証、学生にとって望ましい授業とは
11	現代の教育の諸相10 / 格差問題を考える(1)	階層化や格差の進行は本当か、ニートは本当に増えているか、教育の格差問題の原因
12	現代の教育の諸相11 / 格差問題を考える(2)	子どもの貧困率、教育社会学から見た階層化の意味
13	現代の教育の諸相12 / 教育の現場と課題(1)	要求する親・問われる教師、モンスターペアレント、学校と教師の対応
14	現代の教育の諸相13 / 教育の現場と課題(2)	それでも教師はやり甲斐のある職業、現場の先生の生の声(ゲストスピーカ)
15	まとめ	これまでの講義を振り返り、受講生の小レポートを紹介しながらまとめを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	44 %	現代の教育の諸相1～14に関して、一つもしくは複合的なテーマについて、複数の文献に当たり、多角的に考察し、自らの意見を述べる。 (注意) 自らの意見と引用、参考にした意見とが区別できるよう、引用・参考部分にアンダーラインを引き、文末に出典を必ず明記してください。 小レポートよりも深く多面的に考察したものを求めますので、かなり厳しい採点をする予定です

す。

平常点評価 56 % 毎回の授業の終わりにその日のテーマに関して小レポートを提出(A4一枚、4点×14回 = 56%)。

レポート試験を1回実施する(44点満点)。また、小レポート(各4点満点×14回 = 56点)の書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業で指示した設問に対する回答や、毎回の授業の到達目標の達成度など、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。

毎回の小レポートの結果は、翌週までにコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにするので、毎時確認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記参考書及び毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書、参考URLを紹介する。興味ある内容に関してそれらを参考に深めてほしい。特にレポート試験には、毎回の小レポートと日々の文献研究で深めたテーマに関してより多角的、発展的な論述を求める。付け焼き刃では間に合わないので、毎回の授業を真剣に聴くとともに、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい。

なお、本授業は(教)教育方法論の内容と一部重複するところがあるので、教育方法論をとる予定の人は別の教員の教育方法論をとることをお勧めする。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 C3036 /
仮想現実と子どもたちの心	沖裕貴 / 久美株式会社 / 4-907757-53-0 C3037 /
テレビゲームと子どもの心	坂元章 / メモタル出版 / 4-89595-463-3 C0077 /
脳内汚染	岡田尊司 / 文藝春秋 / 4-16-367840-9 C0095 /
ゲーム脳の恐怖	森昭雄 / 生活人新書 / 4-14-088036-8 C0237 /
メディアと暴力	佐々木輝美 / 勤草書房 / 4-326-60110-8 C3036 /
階層化日本と教育危機	苅谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
大衆教育社会のゆくえ	苅谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
下流社会	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /
就職がこわい	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
オレ様化する子どもたち	諏訪哲二 / 中公新書 / 4-12-150171-3 C1236 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /
「学び」から逃走する子どもたち	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
豚のPちゃんと32人の小学生	黒田恭史 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03833-5 C3037 /
「学力低下」の実態	苅谷剛彦・志水宏吉他 / 岩波ブックレットNo.578 / 4-00-009278-2 C0336 /
公立小学校の挑戦「力のある学校」とはなにか	志水宏吉 / 岩波ブックレットNo.611 / 4-00-009311-8 C0336 /
なぜフィンランドの子どもたちは「学力」が高いか	教育科学研究会編 / 国土社 / 4-337-46025 C3037 /
フィンランドに学ぶ教育と学力	庄井良信・中嶋博 / 明石書店 / 978-4-7503-2164-6 C0337 /
ゆとり教育が日本を滅ぼす	櫻井よしこ・宮川俊彦 / ワック出版 / 4-89831-528-3 C0234 /
学力低下を克服する本	陰山英男・小河勝 / 文春文庫 / 4-16-771716-6 C0195 /
立命館小学校メソッド	深谷圭助 / 宝島社 / 4-7966-5521-2 C0041 /
格差時代を生き抜く教育	寺脇研 / KTC中央出版 / 4-87758-506-0 C0037 /
学校文化の比較社会学 - 日本とイギリスの中等教育	志水宏吉 / 東京大学出版会 / 4-13-056205-3 C3037 /
格差社会 何が問題なのか	橋本俊詔 / 岩波新書 / 4-00-431033-4 C0233 /
学力を育てる	志水宏吉 / 岩波新書 / 4-00-430978-6 C0237 /
コンピュータが子どもの心を変える	ジェーン・ハリー / 大修館書店 / 4-469-21242-3 C3037 /
学力の社会学	苅谷剛彦・志水宏吉 / 岩波書店 / 4-00-022443-3 C0037 /
再生産	ブルデュー & パスロン / 藤原書店 / 4-938661-24-1 C1030 /
殺意をえがく子どもたち	三沢直子 / 学陽書房 / 4-313-63036-8 C0036 /
情報モラル	宮田仁 / 一橋出版 / 4-8348-2114-5 C3004 /

学力論争とはなんだったのか	山内乾史・原清治 / ミネルヴァ書房 / 4-623-04244-8 C3037 /
学力があぶない	大野晋・上野健爾 / 岩波新書 / 4-00-430712-0 C0237 /
教育改革の幻想	苅谷剛彦 / ちくま書房 / 4-480-05929-6 C0237 /
論争 格差社会	文春新書編集部編 / 文春新書 / 4-16-660522-4 C0295 /
「ニート」って言うな	本田由紀他 / 光文社新書 / 4-334-03337-7 C0236 /
「ゆとり教育」が国を滅ぼす	小堀桂一郎 / 小学館文庫 / 4-09-402636-3 C0137 /
ワーキングプア	門倉貴史 / 宝島社新書 / 4-7966-5533-6 C0236 /
若者はなぜ3年で辞めるのか	城繁幸 / 光文社新書 / 4-334-03370-9 C0234 /
現代社会と教育	堀尾輝久 / 岩波新書 / 4-00-430521-7 C0237 /
教育工学事典	日本教育工学会編 / 実教出版 / 4-407-05110-8 C3537 /
教育学小辞典	下程勇吉監修 / 法律文化社 / 4-589-00746-0 C1537 /
新・教育心理学事典	依田新監修 / 金子書房 / /
絶対評価とルーブリックの理論と実際	高浦勝義 / 黎明書房 / 4-654-01729-1 C3037 /
教育評価	梶田叡一 / 有斐閣双書 / 4-641-11226-6 C1337 /
絶対評価 < 目標準拠評価 > とは何か	梶田叡一 / 小学館 / 4-09-104473-5 C9437 /
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
大学淘汰の時代	喜多村和之 / 中公新書 / 4-12-100965-7 C1237 /
大学の教育力	金子元久 / ちくま新書 / 978-4-480-06384-7 C0237 /
大学改革その先を読む	寺崎昌男 / 東信堂 / 978-4-88713-788-2 C3037 /
世界の大学 ハーバード	シャロン・ゾウ編著 / 成文堂 / 4-7923-9062-1 C3037 /
大学教授職とFD	有本章 / 東信堂 / 4-88713-597-1 C3037 /
二十歳の原点	高野悦子 / 新潮社 / /
ケータイ世界の子どもたち	藤川大祐 / 講談社現代新書 / 4-06-287944-6 C0237 /
となりのクレマー	関根眞一 / 中央公論新書 / 4-12-150244-5 C1236 /
若者はなぜ正社員になれないのか	川崎昌平 / ちくま新書 / 4-480-06434-9 C0236 /
学校のモンスター	諏訪哲二 / 中公新書 / 4-12-150258-2 C1237 /

上記以外にも、毎回の授業で、その分野に関する参考書を紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)
 各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)
 学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

その他 / Others

遅刻はやめてください。また、特別な事情のない限り早退も認めません。私も気分が悪いですし、授業の雰囲気壊れます。
 また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。
 授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

現代の教育 (ZB)

16798

担当者名 / Instructor 野田 文香

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
 キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

講義では、学校制度をはじめとする教育政策の動向や教育の諸問題を幅広く取り上げ、日本の教育が直面している課題やジレンマを解説する。さらに、国際的な視点も取り入れ、欧米諸国の教育政策や教育改革を歴史的背景を通して概観する。みなさんが受けてきた教育は諸外国からどのような影響を受けてきたものなのか、その歴史的な変遷を辿ることで現代の教育の位置づけについて考察したい。

到達目標 / Attainment Objectives

教育政策や改革の動向やその歴史的、社会的、政治的背景について説明できる。(知識・理解)
 教育問題について、教育学的な視点に基づき、解決策や対処すべき課題に関して自らの意見を述べる事ができる。(思考・判断)
 教育問題に対して関心を持ち、自ら調べ、考える意欲を持つ。(関心・意欲・態度)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の到達目標、授業の進め方、成績評価方法の説明、各回の授業の説明
第2回	学校制度論	学校の社会的起源、教室空間の歴史
第3回	学校制度論	学校教育の普及、学校系統の形態、近代学校制度
第4回	欧米の教育改革 アメリカ	スプートニック・ショック、危機に立つ国家、No Child Left Behind法
第5回	欧米の教育改革 イギリス	パブリックスクール、コンプレヘンシブ化、ナショナル・カリキュラム
第6回	欧米の教育改革 フランス	バカロレア、グラン・ゼコール
第7回	欧米の教育改革 ドイツ	能力別3分岐型学校制度の形成、ギムナジウム教育
第8回	日本の教育改革	学力観(ゆとり教育・詰め込み教育)、学力低下論争
第9回	学歴論 (中間到達度試験)	学歴と学校歴、文化的再生産、エリート論
第10回	高等教育の歴史	大学誕生の歴史、近代大学の出現、日本の高等教育の課題
第11回	大学入試・アドミッション論	大学入試の歴史的変遷、入試の多様化、学生の多様化
第12回	大学カリキュラム論	カリキュラム改革、教養教育、専門教育
第13回	学生発達理論	エリクソン、チックリングの発達論、アスティンの関与理論、コールバーグ・ギリガンの道徳発達論、マズロー5段階欲求説
第14回	大学院改革	大学院重点化、大学院改革、プロフェッショナルスクール
第15回	大学院改革 (これまでの授業のまとめ)	大学院教育の課題

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	30 %	中間到達度試験
レポート試験	40 %	期末レポート
平常点評価	30 %	小テスト×3回(授業内容に基づいた小テストを計3回行う。小テストの実施日程の事前予告はしない)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

その他 / Others

スポーツと現代社会 (SA)

13266

担当者名 / Instructor 藪 耕太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

実践や消費などを通じて我々の生活と密接に関連しながら、一見していかなる権力からも「イノセント」な(であるべき)存在にみえるスポーツは、実のところ、優れた社会の合わせ鏡(表象装置)でもある。この前提を踏まえて本講義では、スポーツを通じて我々の眼前に提示される、社会の諸問題とその構造を明らかにしていきたい。

なお、本科目名は「スポーツと『現代』社会」であるが、不安定な「現代」という時代を定位するためにも、近代スポーツの誕生および歴史的展開過程に力点を置いた講義を展開する。(広義の身体文化を含む)スポーツが、いかなる社会/時代的背景のもとで、どのように我々の生活と結びついてきたのか、という点を学んだうえで、現代社会におけるスポーツの意味を読み解いていく。

到達目標 / Attainment Objectives

実践や消費のみに抛らない、スポーツへの批判的な眼差しを獲得する。

スポーツを通じて現代社会が抱える諸問題の位相を知り、それにアプローチできる力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	講義目的、進め方、授業評価について
第2回	健康と身体	貝原益軒、養生訓、衛生教育
第3回	健康と身体	国民の健康、健康不安、体質改善と体力向上
第4回	健康と身体	嗜好品(タバコ・アルコール)、フィットネス信仰
第5回	スポーツと近現代	「近代」スポーツの誕生、階級とスポーツ、植民地とスポーツ
第6回	スポーツと近現代	スペクテイター・スポーツ、大衆化
第7回	スポーツと近現代	戦争とスポーツ
第8回	スポーツと近現代	前半まとめ、ビデオ鑑賞
第9回	スポーツの日本的展開	外来スポーツの日本的受容、伝統文化とスポーツ
第10回	スポーツの日本的展開	総力戦体制とスポーツ、武道とスポーツ
第11回	スポーツの日本的展開	スポーツ行政の変遷過程、日本型企业と実業団、大学スポーツ
第12回	現代スポーツの諸相	メディアスポーツと3すくみの構造、スポーツファン
第13回	現代スポーツの諸相	グローバル化とナショナリズム
第14回	現代スポーツの諸相	グローバル化とナショナリズム
第15回	まとめ: スポーツと現代社会	スポーツは誰のものか

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	授業内容の理解度を判定する。
平常点評価	10 %	自学自習を随時受け付ける。様式は自由(インターネットからの転用は一切認めない)。評価基準は提出回数と内容で判定する。この取り組みは受講生の主体性に基づく自発的なものであり、強制ではない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
健康観にみる近代	鹿野野直 / 朝日新聞社 / /
スポーツを考える 身体・資本・ナショナリズム	多木浩二 / ちくま新書 / 4480056475 /
日本近代スポーツ史の底流	高津勝 / 創文企画 / /
現代スポーツのパースペクティブ	菊幸一・清水論・仲澤眞・松村和則編 / 大修館書店 / 4469266132 /

上記以外の文献に関しても、講義において適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツと現代社会 (SB)

15504

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、世界的規模で急変している。グローバルな市場経済に翻弄される一方で、健康づくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活の文化として定着しつつある。「スポーツの価値観の多様化」といわれる現状を分析し、問題点を抽出しながら、「体育・スポーツ国際憲章」でしめされたスポーツ権の実現の方途を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは社会と切り離されて存在はしない。社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係を理解しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を理解し、それを打開していく方向性を考察することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序章 スポーツ観の狭隘さと貧しさ	「習わなかった体育理論」「下手にさせられた歴史」「スポーツの文明化」
2	第1章 近代社会と近代スポーツ 第一節 「身分制の中のスポーツ潮流」	「軍事訓練としてのスポーツ」「生産労働の中の遊び」
3	第1章 近代社会と近代スポーツ 第二節 「近代市民社会の成立とスポーツの自由」	「ギャブリング・スポーツの成立」「スポーツの文明化」「スポーツルールの明文化」
4	第1章 近代社会と近代スポーツ 第三節 「スポーツ・クラブの原則とアマチュアリズム」	「スポーツの私事性と個人責任性」「スポーツの自由と自治」「アマチュアスポーツマンの規範」「プロ＝労働者の排除」
5	第1章 近代社会と近代スポーツ まとめ	
6	第2章 アマチュアリズムの崩壊 第一節 「競技スポーツの自立」	「競技の高度化と専門化」「スポーツ専門家の処遇」「多様なプロ・スポーツ形態」
7	第2章 アマチュアリズムの崩壊 第二節 「ビッグ・イベント・ビジネス」への変容	「ユベロス商法」「サマランチ革命」
8	第2章 アマチュアリズムの崩壊 第二節 「ビッグ・イベント・ビジネス」への変容	「スポーツ・イベントのグローバル化」=「スポーツ・メディア・コンプレックス」の行方
9	第3章 現代日本のスポーツ事情 第一節 「スポーツの社会構造」	「増大するノン・アマチュア」=「スポーツ産業の需要基盤」
10	第3章 現代日本のスポーツ事情 第二節 「スポーツビジネスの多角化」	「スポーツ・グッズ」「エリア・スクール」
11	第3章 現代日本のスポーツ事情 第二節 「スポーツビジネスの多角化」	「スポーツ・イベントとメディア資本」「スポーツタレントと肖像権」
12	第3章 現代日本のスポーツ事情 第三節 「分断的スポーツ政策」	「21世紀日本のスポーツ施策」「競技力の向上」とナショナリズム、地域振興と「総合型地域スポーツクラブ」
13	第3章 現代日本のスポーツ事情 第四節 「地域スポーツの振興」	「総合型地域スポーツクラブ」の理念と現状 「スポーツマネージメントと財務」
14	第3章 現代日本のスポーツ事情 第四節 「地域スポーツの振興」	「スポーツNPO」「指定管理者制度の導入」「寄生的スポーツ組織」
15	終章 揺れ動くスポーツ観	「創るスポーツの時代に」「手をつなぐスポーツマン」「エリートとマスの統一」「スポーツの自由と自律」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

スポーツ報道を批判的に摂取すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは指定しない。講義は章または節ごとにまとめたレジュメに沿って展開する。レジュメは教室でのみ配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツを考える	多木浩二 / 中公新書 / / 問題提起が多角的で鋭意であるが、低回生には少し難しい。
スポーツ・ボランティアへの招待	山口泰雄編 / 世界思想社 / /

参考文献・資料は章ごとのレジュメに明記する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html>

その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目・専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

スポーツの歴史と発展 (SA)

13293

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではスポーツを広い意味での身体運動文化にとらえ、その社会的歴史的存在としての個性を、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、主としてヨーロッパを中心にスポーツ文化の諸相とその発展の経緯から概観していく。講義では文献資料の紹介が中心となるが、受講生の理解を促進するために、できる限り映像資料なども用いて進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義を通じて、それぞれの時代におけるスポーツ文化が当該社会の中でいかなる意味を持っていたのか、また私たちが日頃親しんでいる野球、サッカーなどの「近代スポーツ」が、19世紀のヨーロッパの社会状況からの影響をいかに強く受けて生まれてきたのかといったことを理解してもらい、そのことによって受講者のスポーツ観が一層深まることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「スポーツ」とは何か？なぜ「歴史」なのか？	「スポーツ」の語源および語義の変遷、ヨーロッパと日本の土壌の違い
第2回	古代の身体運動文化(1)	未開社会のスポーツ、古代文明のスポーツ
第3回	古代の身体運動文化(2)	古代オリンピック
第4回	古代の身体運動文化(3)	古代ローマのショー・スポーツ
第5回	中世の身体運動文化(1)	貴族のスポーツ、農民のスポーツ、都市民のスポーツ
第6回	中世の身体運動文化(2)	(ビデオ鑑賞)イギリス・アシュボーンの民俗フットボール
第7回	中世の身体運動文化(3)	民俗フットボール、中世日本のスポーツ
第8回	近代スポーツの誕生(1)	近代スポーツ誕生の社会的基盤、ルールの統一と組織化
第9回	近代スポーツの誕生(2)	イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化
第10回	近代スポーツの誕生(3)	アマチュアリズムの確立、近代スポーツへの女性の参入
第11回	近代スポーツの誕生(4)	(ビデオ鑑賞)映画「炎のランナー」に見るアマチュアリズムと勝利至上主義
第12回	近代スポーツの誕生(5)	近代オリンピックの創設
第13回	近代スポーツの伝播と受容(1)	イギリススポーツの伝播過程
第14回	近代スポーツの伝播と受容(2)	アメリカスポーツの伝播過程
第15回	日本における近代スポーツの受容と展開	近代スポーツの大衆化、在来スポーツの近代化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容全体の理解度を重視する。
平常点評価	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では主としてヨーロッパを中心に、日本の身体運動文化や近代スポーツの受容にもふれることになるが、スポーツ文化が発展していくうえで、ヨーロッパと日本とはどのような基盤の違いが存在しているのか、そのことを常に頭の片隅に置きながら受講してもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考となり得る文献をその都度紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説スポーツ史	寒川恒夫 / 朝倉書店 / 4-254-69023-1 / 講義全体を通じて参照
古代オリンピック	桜井万里子、橋場弦 / 岩波書店 / 4-00-430901-8 / 古代オリンピックに関する最新の研究成果

近代スポーツの誕生

松井良明 / 講談社 / 4-06-149512-7 / イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化に関する文献

スポーツの歴史

レイモン・トマ / 白水社 / 4-560-05750-8 / 寒川恒夫「付論 日本のスポーツ」が参考となる

スポーツと帝国

アレン・ゲットマン / 昭和堂 / 4-8122-9712-5 / 近代スポーツの伝播と受容に関する文献

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツの歴史と発展 (SB)

15500

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではスポーツを広い意味での身体運動文化にとらえ、その社会的歴史的存在としての個性を、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、主としてヨーロッパを中心にスポーツ文化の諸相とその発展の経緯から概観していく。講義では文献資料の紹介が中心となるが、受講生の理解を促進するために、できる限り映像資料なども用いて進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義を通じて、それぞれの時代におけるスポーツ文化が当該社会の中でいかなる意味を持っていたのか、また私たちが日頃親しんでいる野球、サッカーなどの「近代スポーツ」が、19世紀のヨーロッパの社会状況からの影響をいかに強く受けて生まれてきたのかといったことを理解してもらい、そのことによって受講者のスポーツ観が一層深まることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「スポーツ」とは何か？なぜ「歴史」なのか？	「スポーツ」の語源および語義の変遷、ヨーロッパと日本の土壌の違い
第2回	古代の身体運動文化(1)	未開社会のスポーツ、古代文明のスポーツ
第3回	古代の身体運動文化(2)	古代オリンピック
第4回	古代の身体運動文化(3)	古代ローマのショー・スポーツ
第5回	中世の身体運動文化(1)	貴族のスポーツ、農民のスポーツ、都市民のスポーツ
第6回	中世の身体運動文化(2)	(ビデオ鑑賞)イギリス・アシュボーンの民俗フットボール
第7回	中世の身体運動文化(3)	民俗フットボール、中世日本のスポーツ
第8回	近代スポーツの誕生(1)	近代スポーツ誕生の社会的基盤、ルールの統一と組織化
第9回	近代スポーツの誕生(2)	イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化
第10回	近代スポーツの誕生(3)	アマチュアリズムの確立、近代スポーツへの女性の参入
第11回	近代スポーツの誕生(4)	(ビデオ鑑賞)映画「炎のランナー」に見るアマチュアリズムと勝利至上主義
第12回	近代スポーツの誕生(5)	近代オリンピックの創設
第13回	近代スポーツの伝播と受容(1)	イギリススポーツの伝播過程
第14回	近代スポーツの伝播と受容(2)	アメリカスポーツの伝播過程
第15回	日本における近代スポーツの受容と展開	近代スポーツの大衆化、在来スポーツの近代化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容全体の理解度を重視する。
平常点評価	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では主としてヨーロッパを中心に、日本の身体運動文化や近代スポーツの受容にもふれることになるが、スポーツ文化が発展していくうえで、ヨーロッパと日本とはどのような基盤の違いが存在しているのか、そのことを常に頭の片隅に置きながら受講してもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考となり得る文献をその都度紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説スポーツ史	寒川恒夫 / 朝倉書店 / 4-254-69023-1 / 講義全体を通じて参照
古代オリンピック	桜井万里子、橋場弦 / 岩波書店 / 4-00-430901-8 / 古代オリンピックに関する最新の研究成果

近代スポーツの誕生

松井良明 / 講談社 / 4-06-149512-7 / イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化に関する文献

スポーツの歴史

レイモン・トマ / 白水社 / 4-560-05750-8 / 寒川恒夫「付論 日本のスポーツ」が参考となる

スポーツと帝国

アレン・ゲットマン / 昭和堂 / 4-8122-9712-5 / 近代スポーツの伝播と受容に関する文献

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

世界の言語と文化 (S)

13246

担当者名 / Instructor 文 楚雄、久津内 一雄、竹治 進、仲井 邦佳、南 裕恵

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

言語習得(学習)に関わる基本的な課題と論点を整理した上で、異文化理解と多文化共生の観点から、産業社会学部で開設される初修外国語学習の動機付けをも踏まえて、言語と文化をテーマにして、講義を行います。この講義ではドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの言語を話す国の文化について、それぞれリレー方式で講義を行います。外国語、特に初修外国語を学習する意義や目的、または、国際化の観点から、異文化理解、多言語・多文化共生、平和と民族共存などについての教養を深めて欲しいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

平和と民族共存に不可欠な異文化理解・多言語・多文化共生の可能性を探ります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総論	
2	総論	
3	総論、フランス語	
4	中国語	
5	中国語	
6	中国語	
7	スペイン語	
8	スペイン語	
9	スペイン語	
10	ドイツ語	
11	ドイツ語	
12	ドイツ語	
13	朝鮮語	
14	朝鮮語	
15	朝鮮語	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

* 定期試験として実施します。

* 筆記試験による評価で、配点は、講義内容(各論 = 各国語)の基礎知識の確認が六割、講義内容(総論 = 第一回 ~ 第三回講義)と関連した論述が四割となります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義時随時レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『言語学とは何か』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-430303-6 /
『ことばと国家』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-420175-6 /
『多文化主義社会の到来』	関根政美 / 朝日新聞社 / 4-02-259750-X /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

美と芸術の論理 (S)

13259

担当者名 / Instructor 竹中 悠美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

美や芸術という、普段もっばら感性的にとらえ、享受しているものを学問の対象として考察し、論ずるなら、どのような論理的アプローチが可能であろうか？

当科目は、まず古代ギリシアを起源とする西洋美術を研究対象とした美学や美術史学の基本的な問題意識と概念、および方法論から始める。次に19世紀半ばから20世紀半ばまでの芸術を論じたモダニズム理論を検証し、さらに私たちと同じこの時代に生み出されている現代アートが置かれている状況や、現代アートがなにをどのように表現しているのかを考察していく。

また、芸術 / 非芸術の区分を超えた視覚文化という広い視野のもとで「美」や「芸術」という概念をとらえなおしたり、「イメージを見る」ということが文化や社会の中でどのように機能しているかを問うひとまわり大きな視点にも議論を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

美術の歴史と様々な芸術論の基礎的知識を習得し、それを足がかりとして美や芸術について自分で考え、言葉にしていく力を身につけることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業内容と進行の予定、および成績評価方法についての説明
2	様式論(1)	古代ギリシア、中世キリスト教美術、ルネサンス
3	様式論(2)	ルネサンスとバロック、ロココとロマン主義
4	意味論(1)	イコノロジーとイコノグラフィ
5	意味論(2)	マニエリスムとネーデルラント絵画
6	モダニズム論(1)	印象主義と表現主義
7	モダニズム論(2)	抽象芸術とフォーマリズム
8	モダニズム論(3)	アヴァンギャルドと反芸術
9	モダニズム論(4)	反モダニズムとポストモダニズム
10	視覚論(1)	近代の視覚性
11	視覚論(2)	写真の視覚性
12	視覚論(3)	視線の政治学
13	視覚文化論(1)	身体論
14	視覚文化論(2)	現代アートとサブカルチャー
15	視覚文化論(3)	アートのグローバル化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で提示する作品の多くはインターネット上で検索して見ることができるので、参考文献と併せて授業の復習に役立てましょう。

授業内容に関連した展覧会があれば紹介し、自主的な美術展見学や作品鑑賞を推奨します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	選択問題と記述問題によって、授業内容の理解度と論述における合理性及び独自性を見る。試験時の持込みは一切不可。追試や定期試験に替わるレポート課題はなし。

出席は取りません。授業は全授業出席している受講生を念頭に置いて進めていきます。よって、公欠届けを提出できるような正当な理由がある場合を除いて、欠席・遅刻・途中退出によって、授業の進行についていけなくなったり、連絡事項や試験問題についてのヒントを聞き逃したりしても、フォローはないことを理解しておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考文献や参考ウェブサイトおよび配付資料は、下の参考になるホームページ欄でリンクしている授業用ホームページでも公開しています。

授業中に提示する画像は毎回50点以上あり、画質やサーバーの容量や著作権等々の理由により、配付資料やホームページでの公開は行っていません。よって、授業中は作品画像を見ながら素速くメモを取っていく集中力が必要となります。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
美学と現代美術の距離	金悠美 / 東信堂 / /
カラー版 西洋美術史	高階秀爾監修 / 美術出版社 / /
カラー版 20世紀美術史	末永照和監修 / 美術出版社 / /
ヴィジュアル・カルチャー入門	ジョン・A・ウォーカー / サラ・チャップリン / 晃洋書房 / /
アートを学ぼう	大森淳史、岡林洋、川田都樹子編 / ランダムハウス講談社 / /
芸術学を学ぶ人のために	太田喬夫編 / 世界思想社 / /
その他、授業中に随時、紹介します	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業用ホームページ <http://mypage.odn.ne.jp/home/artichoke>

(立命館大学のWebCTではありません)

「Class」のページに配付資料、「Links」のページに参考URLのリンク、「News」のページに連絡事項などを掲示していきます。

その他 / Others

以上、シラバスをよく読み、授業の方針や評価方法を納得した上で受講登録してください。

文学と社会 (S)

15566

担当者名 / Instructor 村田 裕和

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、大正時代の代表的な作家、芥川龍之介、永井荷風、佐藤春夫、谷崎潤一郎を中心として、「文学」と「社会」の相関について学びます。

文学 / 絵画 / 映画を横断しながら、狭い意味での「文学」とはならず、産業資本主義の確立期におけるさまざまな「物語」を読み解いてみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 明治・大正・昭和戦前期の文学史についての基礎的理解
- 2 授業であつかう作品とその作家についての基礎的理解
- 3 社会における文学的想像力の機能・効果についての考察

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入 「隅田川」の象徴性	
2	大逆事件と文学者 (1)	
3	大逆事件と文学者 (2)	
4	下町と山の手 路地裏	
5	文士と映画	
6	ドッベルゲンガー	
7	ユートピア	
8	「支那趣味」	
9	東洋オリエンタリズムと「魔窟」	
10	「南方」という想像力	
11	廃墟の時代	
12	探偵小説	
13	浅草という異次元	
14	病と死	
15	まとめ 「大正」とはどのような時代だったのか ・小レポート提出	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	
平常点評価	60 %	出席 50% (毎回確認) 授業内レポート 10% (最終回)

成績評価方法を変更します。詳細は初回授業時に説明します。(9月25日・記)

変更点: 2回の小テストを廃止し、定期試験を行います。全体に占める割合は同じです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大正幻影	川本三郎 / 岩波書店 / 9784006021337 / ¥1,050

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
美しき町・西班牙犬の家 他六篇	佐藤春夫 / 岩波書店 / 4003107152 / (岩波文庫)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

文化人類学入門 (SA)

13446

担当者名 / Instructor 江口 信清

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

私たちに特定の思考や行動をなさせめる文化とは何か、またその多様性がなぜ生じてきたのか、そして今日生じているグローバル化という現象と文化とはどういう関係にあるのかを、多様な事例を参考にしながら講義する。

到達目標 / Attainment Objectives

人類の一員としての私たちに特有の文化を理解し、説明できる。
他者を見る目と同時に、自省する目を鍛えることができる。
世界で生じている民族問題の背景にある要因を理解し、説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の進め方と「文化」概念について	
2	他者の見方の歴史とフィールドワーク	
3	自然環境と文化	
4	社会の再生産と婚姻	
5	社会構造と文化	
6	政治と国家	
7	国民国家とエスニック・グループ	
8	エスニック・グループとエスニシティ	
9	エスニック・グループとエスニシティ	
10	言語と文化	
11	狩猟採集民と文化	
12	『貧困の文化』	
13	観光と文化	
14	観光とエスニック・グループ	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点評価	20 %	コミュニケーション・ペーパーを毎回書いてもらう。これが全体の20%の評価になる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストは使用しない。参考書は適宜指示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『フィールドワーク教育入門』	原尻英樹 / 玉川大学出版部 / /
『文化人類学の方法と歴史』	原尻英樹 / 新幹社 / /
『グローバル化と観光』	藤巻正己・江口信清 / ナカニシヤ出版 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

文化人類学入門 (SB)

13356

担当者名 / Instructor 福浦 一男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

文化人類学は、多様な人間集団の文化をフィールドワークによって詳細に研究し、「人間とは何ぞや」という問いに答えようとしてきた。本科目では、文化人類学のこれまでの成果を踏まえ、文化の諸側面についての理解を深め、人類と文化の関係性についてつっこんで考えることができるようになることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.文化が、人間集団を取り囲む広義での環境への適応装置であることを説明できる。
- 2.文化の相対性について説明できる。
- 3.国民国家やエスニック・グループと文化の関係について説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	人類と文化 人間とは何か	
2	人類学の歴史	
3	人間と生業形態 / 文化と経済	
4	文化と経済(続き)	
5	性と婚姻 / 家族と親族	
6	ジェンダーとセクシュアリティ	
7	民族・階級・結社	
8	法律・秩序・社会統制	
9	政治と権力	
10	宗教と世界観	
11	宗教と世界観(続き)	
12	人間の一生(時間と儀礼)	
13	人類の移動と共生	
14	全体の概観と到達目標の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる文化人類学	綾部・桑山(編) / ミネルヴァ書房 / 4-623-04577-3 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文化の型	ベネディクト / 講談社 / 978-4-06-159881-2 /
贈与論	モース / 勁草書房 / 978-4-326-60212-4 /
エクスタシーの人類学	ルイス / 法政大学出版局 / 4-588-00153-1 /
フィールドワーク教育入門	原尻英樹 / 玉川大学出版部 / 4-472-40329-3 /
文化人類学の方法と歴史	原尻英樹 / 新幹社 / 978-4-88400-009-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企業と社会 (S)

13323

担当者名 / Instructor 楊 秋麗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本経済を支えている重要な構成要素は企業である。企業の現状を理解するためには、企業の全体像をつかみ、その仕組みや運営を知ることが不可欠である。本講義は、企業に関する基礎的知識を確実に習得することを通じて、企業間関係や企業のグローバル化など現代企業活動および企業が直面する諸問題について理解を深めることをめざしている。

到達目標 / Attainment Objectives

企業に関する基礎的知識を確実に習得すること。
現代企業活動および企業が直面する諸問題について理解を深めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	企業とは何か	企業概念, 私企業と公企業, 会社法, 会社
第2回	企業形態(資本調達メカニズムと企業形態の展開)	個人企業, 合名会社, 合資会社, 株式会社, 株式会社, 有限会社, 合同企業, 会社の誕生
第3回	日本の企業形態	会社法, 株式会社, 持分会社, その他企業形態
第4回	株式会社の特質	株式の公開・上場制度, 株主, 所有と経営の分離
第5回	株式会社の特質	会社機関, コーポレート・ガバナンス
第6回	企業競争と独占	競争のダイナミズム, 企業結合, 連結経営, M&A
第7回	企業間関係	企業集団, 企業グループ
第8回	企業間関係	下請け, 系列, 情報化の進展による変化
第9回	企業間格差	大企業と中小企業, 独占禁止法, 雇用
第10回	会社以外の事業組織	公企業, 事業協同組合
第11回	企業の国際化	対外直接投資, 海外進出の目的と方法, 現地化
第12回	現代日本企業の直面している諸問題	企業活動と企業で働くということ
第13回	現代日本企業の直面している諸問題	環境問題, 地域社会
第14回	まとめ1 - 企業の社会的責任と企業活動	CSR, コンプライアンス
第15回	まとめ2 - 全体の概観と到達目標の確認	全体の概観のおさらいと到達目標の確認

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	基礎的な概念の理解度。
平常点評価	20 %	日常点は小テストではなく、コメントカードによる質問・感想に基づく。なお、VTR教材を見た上で設問に解答してもらおう場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
企業形態論 第3版	小松 章 / 新世社 / 4-88384-0998-0 /

参考書 / Reference Books

多数につき、授業中随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 大平 祐一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、職場における性的嫌がらせ、婚姻にさいして氏を同じにすること、労働現場の変化と法、犯罪とそれに対する刑事罰のあり方、男女の平等な取り扱い、表現の自由とプライバシー、親子の法的問題等、現代における市民生活のなかで生ずる法的問題について論じます。

到達目標 / Attainment Objectives

市民生活のなかで生ずるさまざまな法的問題についての基礎的知識、考え方を身につけ、健全な市民として成長できる素地を蓄積すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1章	はじめに	現代社会と法を学に当たって
第2章	セクハラ	男女雇用機会均等法 人間の尊厳
第3章	夫婦の氏と法	婚姻 自己決定
第4章	派遣労働と法	派遣労働 労働基準法
第5章	犯罪と刑罰	罪刑法定主義 刑罰の正当化
第6章	民事裁判	弁論主義 裁判外の紛争解決
第7章	刑事裁判	適正手続 当事者主義
第8章	表現の自由	知る権利 報道の自由
第9章	プライバシー・名誉毀損	表現の自由 人格権
第10章	平等	男女の平等 アファーマティブ・アクション
第11章	親子	親権 相続
第12章	宗教と法	信教の自由 政教分離
第13章	国際社会と法	外国人 国籍
第14章	消費者と法	売買 消費者契約法
第15章	まとめ	法の理念

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

この授業はテキストがなく、ノートをとる授業ですので必ずノートを持参して下さい。
参考書による自学自習、授業内容の復習が授業の学習に効果的です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業でとりあげた基本的なことがらを的確に理解できていること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

教科書は使用しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
法学入門	末川博 / 有斐閣 / /
現代法学を学ぶ人のために	中川淳 / 世界思想社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

現代日本の政治 (S)

13302

担当者名 / Instructor 堀 雅晴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代日本の政治の諸相を、下記のシラバスの項目に沿って、講義します。なお講義する内容よりも、講義のやり方を、次のとおりに工夫しているので、履修する学生には、その点をよく理解してほしいです。

それは双方向講義の実施です。つまり「出欠用紙」を用いて、毎回の講義への出欠・感想・質問等について受講生とやりとりするというものです。なお「出欠用紙」は、初回の際にのみ配付し、それ以降は配布しませんので、何卒、ご承知おきください(初回に欠席して「もらっていません」という学生さんには、毎年困っております)。こうした措置は登録期間中とはいえ、15回の講義を確保すると大学の意向にそって考えています。

双方向講義については1回目の講義において十分に説明をしますので、絶対に出席してください。やむをえない理由で欠席される方は、あらかじめ担当者まで、正当な理由を書いてhori@lawまで送信しておいてください。その方のみ、特別の配慮(「出欠用紙」の配布等)をします。他の科目に出席を予定している学生も、1回目の前に、同じくhori@law.ritsumeai.ac.jpまで連絡してください。

最後に4回生以上の学生のなかには、就職活動等に対する「特別の考慮」を求める方が、たまにおられます。そもそも当該科目は、4回生以上での取得を想定しておりません。また公平の観点からも、そうした特段の配慮はありません(念のため)。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本の政治を理解し、自らの「考える力」を養い、議論が文書上でも口頭でも思考力を発揮できることを目標としています。この場合、「考える力」とは、理解力・分析力・批判力(非難力ではない)・反論力のことを意味しております。そして、これらの力を養成するために、一方的な講義ではどうにもならず、やはり双方向講義の実施が欠かせません。

なぜならばこうした力は受講生によって、すでに獲得水準が異なっているわけで、先ほどの「出欠用紙」でフィードバックしていただくことにより、個別対応が必要となっているからです。もちろん受講者の理解等を確認するために、「出欠用紙」の正確な記入が前提となっていることはいまでもありません。

なお第1回目の講義では、このあたりの話を十分にします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「現代日本の政治」/ 授業計画、双方向授業の提案、出席用紙の配布、「まとめのレポート」の作成方法と提出の説明	
2	丸山真男: 民主主義の原点を探る	
3	政治的教養とはなにか	
4	現代日本の政治体制論: 憲法体制と安保体制(1)	対象範囲: 五十嵐仁著『概説 現代政治』(法律文化社)の第1章
5	現代日本の政治体制論: 憲法体制と安保体制(2)	同上
6	戦後日本の政権論(1)	第2章
7	戦後日本の政権論(2)	同上
8	戦後日本の政党論(1)	第3章
9	戦後日本の政党論(2)	同上
10	保守政権の支配構造(1)	第4章
11	保守政権の支配構造(2)	同上
12	保守政権の支配構造(3)	同上
13	教育と公共性	拙稿(飯田哲也編『公共性と市民』学文社、所収)
14	教育と公共性	同上
15	現代日本の政治を考える	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、「自分であれば、どのように考えるか」を念頭におきながら、参考書をよんで講義に出席してください。履修者は、観客ではなく、実際の思考の参加者です(念のため)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点評価	20 %	出席票への記入

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

すべては、第1回目の講義に出席して、本講義のコンセプトを理解していただきたい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
概説 現代政治	五十嵐 仁 / 法律文化社 / 4-589-02136-6 / 第1部 現代政治の動態を利用します。
公共性と市民	飯田哲夫編 / 学文社 / 近刊 / 拙稿を利用します

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

浅井基文(明治学院大学) <http://www.ne.jp/asahi/nd4m-asi/jiwen/>
 五十嵐仁(法政大学) <http://sp.mt.tama.hosei.ac.jp/users/igajin/home2.htm>
 加藤哲郎(一橋大学) <http://www.ff.ij4u.or.jp/~katote/Home.shtml>
 水島朝穂(早稲田大学) <http://www.asaho.com/>

担当教員のHP <http://mypage.odn.ne.jp/home/masahori> 「日記」を読んでもらえれば幸甚です。

その他 / Others

4回生以上の方のなかに講義が後半に入り試験まぎわになって、あれこれ申される方がいらっしゃいます。そういう方は第1回目の講義において伺いますので、文書をご用意ください。それ以外は、特段の理由以外、いっさい受け付けられません。就職活動の事情はよく理解しておりますが、当該科目の単位取得を本当に考えておられるのであれば、第1回目の講義(やむを得ず欠席される場合は、あらかじめメールで相談しておくこと)で、担当者に事情を相談する段取りを取っておくべきだと考えているからです。もちろん、各自、いろいろとご事情があることと思われるので、担当者まで、ご相談ください。

現代の経営 (SA)

13464

担当者名 / Instructor 上田 智久

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義は、現代の経営の仕組み、およびそれを取りまく社会・経済についてのごく基礎的な知識を獲得すること、それを通じて「現代の経営」に社会的に何が求められているのか学ぶことを主たる目的としています。このため、講義では基礎的な知識の内容そのものも、もちろん展開されますが、あわせて「現代の経営を学ぶ上で何を知っておかなければならないのか」を理解することが重視されます。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)現代の経営の仕組みについての基礎的な知識を獲得する。
- (2)現代の経営に関わる経済・社会の仕組み及びその社会的課題や問題点について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「企業と社会」などの経営学 (= 特に企業統治、人事・労務、経営戦略など) 系の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	大学でどう学ぶか～イントロダクション	
第2回	どんな会社があるのか	業種 業界 製造業 サービス業 法人企業 個人企業 非営利組織 営利企業 公企業 寡占 独占
第3回	会社は誰のものか	株券 株価 株式市場 所有と経営の分離
第4回	会社の一生:ベンチャーから大企業への成長プロセスと、倒産・清算	ベンチャー 大企業・中小企業 株式公開 合併・買収
第5回	会社は誰が動かしているのか	経営者 トップマネジメント
第6回	会社で働くとはどういうことか	マネジメント・サイクル 日本的経営 ライン・スタッフ
第7回	前半7回の中間総括	
第8回	労働組合ってなに?	労働組合 労使関係 団体交渉
第9回	会社は何に基づいて活動しているのか	経営環境 経営理念 経営戦略
第10回	会社の動かし方としての「経営戦略」	アンゾフ ポーター SWOT分析
第11回	ものが売れる仕組み	ニーズ ウォンツ コンセプト マーケティング
第12回	経済社会の動きと企業経営	高度成長 石油ショック バブル
第13回	企業の社会的責任と社会的企業の成長	社会的責任 企業倫理 過労死 サービス残業
第14回	国際化時代の企業	グローバルイゼーション 多国籍企業
第15回	まとめ・定期試験について	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述形式(持ち込み不可)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1)授業中の私語は厳禁。
- (2)毎回出席をとり、出席回数が3分の2に満たない場合には単位認定の条件を失うものとする。
*ただし、出席は単位認定と定期試験の受験の必要条件にすぎず、成績評価には加味されない。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめの一步経営学	守屋 貴司ほか / ミネルヴァ書房 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代の経営 (SB)

15481

担当者名 / Instructor 上田 智久

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義は、現代の経営の仕組み、およびそれを取りまく社会・経済についてのごく基礎的な知識を獲得すること、それを通じて「現代の経営」に社会的に何が求められているのか学ぶことを主たる目的としています。このため、講義では基礎的な知識の内容そのものも、もちろん展開されますが、あわせて「現代の経営を学ぶ上で何を覚えておかなければならないのか」を理解することが重視されます。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)現代の経営の仕組みについての基礎的な知識を獲得する。
- (2)現代の経営に関わる経済・社会の仕組み及びその社会的課題や問題点について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「企業と社会」などの経営学 (= 特に企業統治、人事・労務、経営戦略など) 系の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	大学でどう学ぶか～イントロダクション	
第2回	どんな会社があるのか	業種 業界 製造業 サービス業 法人企業 個人企業 非営利組織 営利企業 公企業 寡占 独占
第3回	会社は誰のものか	株券 株価 株式市場 所有と経営の分離
第4回	会社の一生:ベンチャーから大企業への成長プロセスと、 倒産・清算	ベンチャー 大企業・中小企業 株式公開 合併・買収
第5回	会社は誰が動かしているのか	経営者 トップマネジメント
第6回	会社で働くとはどういうことか	マネジメント・サイクル 日本的経営 ライン・スタッフ
第7回	前半7回の中間総括	
第8回	労働組合ってなに?	労働組合 労使関係 団体交渉
第9回	会社は何に基づいて活動しているのか	経営環境 経営理念 経営戦略
第10回	会社の動かし方としての「経営戦略」	アンゾフ ポーター SWOT分析
第11回	ものが売れる仕組み	ニーズ ウォンツ コンセプト マーケティング
第12回	経済社会の動きと企業経営	高度成長 石油ショック バブル
第13回	企業の社会的責任と社会的企業の成長	社会的責任 企業倫理 過労死 サービス残業
第14回	国際化時代の企業	グローバルイゼーション 多国籍企業
第15回	まとめ・定期試験について	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述形式(持ち込み不可)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1)授業中の私語は厳禁。
- (2)毎回出席をとり、出席回数が3分の2に満たない場合には単位認定の条件を失うものとする。
*出席は単位認定と定期試験の受験の必要条件にすぎず、成績評価には加味されない。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめの一步経営学	守屋 貴司ほか / ミネルヴァ書房 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代の国際関係と日本 (S)

15509

担当者名 / Instructor 篠原 美江

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマは『世界経済のグローバル化と日本』。現代の国際関係と日本について、主に経済的側面から学ぶ講義です。グローバル化の進展によって表面化した現代の世界経済における様々な諸問題について、日本との関連性を視野に含めながら総合的に把握し、それらの解決へ向けていったいどのような第一歩を踏み出すべきか、議論を通じて理解を深めていくことが本講義の目的です。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、次の3点です。

- 1) 現代の世界経済における現状とその特徴について理解し、説明することができる。
- 2) 現代の世界経済を取り巻く諸問題について理解し、その要因について述べるすることができる。
- 3) 現代の世界経済における諸問題に対して、積極的に関わっていくための対応力、構想力、想像力を身に付けることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標、進め方、成績評価方法、教科書、参考文献などについての説明
第2回	世界経済におけるグローバル化の進展	現代における世界経済の動向、戦後の世界経済体制の確立、ブレトンウッズ体制
第3回	世界貿易と自由貿易協定	GATTからWTOへの移行、貿易自由化の拡大、世界貿易における地域主義の台頭
第4回	多国籍企業と海外投資	国際投資の進展、企業の海外進出、多国籍企業の活動と諸問題
第5回	国際通貨体制	IMF体制の成立と変容、固定為替相場制、変動為替相場制、ドル体制の再編
第6回	人口問題と国際労働力移動	世界人口の動向、国際労働力移動の背景と問題点(ブレイン・ドレイン)
第7回	食糧問題	世界の栄養不良の現状とその要因、飢餓、多国籍アグリビジネスの活動
第8回	ディスカッション	第2回～第7回の講義内容について1つテーマを決めて行う
第9回	地球環境問題 その1	資源問題の本質と論点、枯渇性天然資源と非枯渇性天然資源、資源問題の将来
第10回	地球環境問題 その2	資源問題に関する具体的事例の検証
第11回	発展途上国と累積債務問題	南北問題の登場と国際金融、累積債務問題の背景、多国籍銀行、累積債務危機以後の途上国向け資金フロー
第12回	ディスカッション その2	第9回～第11回の講義内容について1つテーマを決めて行う
第13回	冷戦体制崩壊後における世界の軍事化	冷戦崩壊後における軍事化進展の背景、民間軍事会社(PMC)の台頭
第14回	日本による国際協力のあゆみ	世界におけるODAの現状、日本のODAの原点とその後の変遷
第15回	講義のまとめ	コミュニケーションペーパーの質問と解説

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業に出てくる語句についてわからないものがあれば、授業後に必ず各自で調べるようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述形式の問題。授業中に取り上げた基本概念や重要語句の理解をもとに、出題された問題に対して論理的に説明できるかどうかを中心に評価する。
平常点評価	20 %	ディスカッション(第8回、第12回)の問題提起に対する論述回答(授業の内容を問う試験ではありません。ただし、与えられたテーマに対して自分の意見がきちんと論理的に述べられているかどうかを重視します。コミュニケーションペーパーのコメント、VTRの感想。

成績評価は、定期試験を中心に平常点評価(ディスカッション2回分)を加味して行います。

ただし、コミュニケーションペーパーやVTRの感想については、あくまでも「定期試験+ディスカッション2回分」の評価に対する補完的なものとして扱うこととします。そのため、ただ提出すればよいというものではなく、それらの内容に応じて加点を行うのでくれぐれも注意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講にあたって、経済に関する特別な知識は必要ありません。

ただし、新聞やテレビ、インターネット等を通じて国際関係や世界経済などに関する情報と日常的に接し、関心を高めておくことが、講義をさらに理解するための手助けになります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	///
	///

教科書は特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
経済新語辞典2009年版	日本経済新聞社 / 日本経済新聞社 / /
世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す	ジョセフ・E・スティグリッツ / 徳間書店 / /
グローバル資本主義 危機か繁栄か	ロバート・ギルピン / 東洋経済新報社 / /

その他の参考文献については、授業で説明します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国連貿易開発会議 (UNCTAD) のHP www.unctad.org

経済協力開発会議 (OECD) のHP www.oecd.org

その他 / Others

平常点評価(ディスカッションとコミュニケーションペーパー)について、QRコードシールで全て管理するので、提出の際には必ずQRコードシールを持参すること。忘れた場合については、成績評価の対象として一切対応しないので、十分に注意すること。

現代の世界経済 (S)

15567

担当者名 / Instructor 朝日 稔

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

グローバル化が進んでいる現代の国際社会においては、世界経済を舞台に様々なドラマが繰り広げられています。こうしたドラマを読み解くために、本講義では政治、経済、社会、文化のそれぞれの相互関係や歴史的背景を基礎から把握することで、現代世界経済の諸問題に対する理解を深めたいと思います。本講義は経済学の知識を必要としませんが、共通科目として現代の世界経済について学びたいと思う学生を対象にします。

到達目標 / Attainment Objectives

現代の世界経済をグローバルな視点から捉え、世界経済に関するニュースや新聞記事に対して自分なりの考えを持てるようにすること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定する科目はないが、政治や社会や経営にも合わせて関心を持つことが大事です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	21世紀の世界の経済と社会	
第2回	現代世界経済をとりまく問題群	
第3回	グローバリゼーションとはどういうものか	
第4回	グローバリゼーションはどのように進んできたか	
第5回	グローバリズムの二つの道: アメリカングローバリズムとグローカリズム	
第6回	知財王国アメリカと「世界の工場」中国: グローバル原蓄	
第7回	パクスアメリカーナの世界()	
第8回	パクスアメリカーナの世界()	
第9回	社会主義とは何だったのか	
第10回	モノの世界からイメージの世界へ: ブランド、ファッション、知財	
第11回	ハリウッド映画産業の秘密に迫る	
第12回	産業クラスターとグローバルシティ: 移民とジェンダー	
第13回	金融危機と世界大不況をどう生き抜くか	
第14回	オバマ政権と日米同盟の行方	
第15回	授業のまとめとテスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義は課題の一部であり、大切なことは大いに問題関心を深めて、自ら学習していくことである。この授業を基に現代世界についての認識を高め、一層学習が進むことを期待している。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点評価	20 %	期末試験 小レポート等

最終テスト以外に、授業中に1~2度課題をだし、レポートを提出してもらい、それを評価に加味するので、注意しておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私語厳禁。授業中に私語があると、授業の進行に差し障るので、静粛に受講すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

国際政治経済学の新機軸—スーパーキャピタリズムの世界— 関下稔 / 晃洋書房 / 978 - 4 - 7710 - 2028 - 3 /

これをテキストとして使用し、その内容を順次講義していくので、各自購入して授業に持ってくるようにして下さい。なお授業は板書しながら行います。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

世界地図2009年版

正井泰夫監修 / 成美堂出版 / 978 - 4 - 415 - 10729 - 5 /

現代世界をトータルに捉え、問題群別に世界の状況を知る上でよい資料である。必要に応じて、そのうちからピックアップし、プリントして授業で配る予定だが、受講生が座右においておけば、参考になるだろうし、今後の学習にも役立つと思われる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際化と法 (S)

15506

担当者名 / Instructor 松井 章浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、法の視点から国際社会の動きを学習します。具体的には最近問題になることが多い「死刑」を素材にして、国際社会を規律する国際法の基礎を学びます。

日本でも今年から裁判員制度が始まります。凶悪犯罪が増加していると日々報道されて、裁判所の判断に対する疑問も投げかけられているなか、みなさんも近い将来に裁判員に選ばれ、死刑という判断を下す局面に立たされるかもしれません。

この死刑の問題は日本国内にとどまるものではありません。世界にはすでに死刑を廃止している国もあります。国連総会は一昨年12月、昨年12月と2年連続で、すべての死刑存置国に死刑執行を一時停止するように求めることを決議しました。自由権規約委員会も日本の死刑に懸念を示しています。国際問題にもなるのです。

そこで、裁判員制度が導入されるこの時期に、みなさんが死刑、刑罰、犯罪といった問題を広く考えるきっかけとなるように、国際法の視点から死刑を考察し、同時に国際法の基礎知識を獲得して、最終的には「国とは何か」、「法とは何か」といった問いを思考する講義をめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 国際社会を規律する国際法の基礎知識を獲得する。
- (2) 実際に生じた事例の内容を正確に把握して、論理的に検討することができる。
- (3) 法的な視点から国際社会を俯瞰し、国そのものや法そのものを思考することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「法」は社会のあらゆる事象と関わっているため、文系理系を問わず、さまざまな科目を履修しておくことが間接的に役立ちます。なお、この講義では「法」の問題を扱いますが、大多数の受講生が「法」を初めて学習することを前提に講義を行います。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	死刑を考える	この講義にはどのような目的と背景があるのか、日本における死刑の現実(執行方法、情報の欠如など)
第2回	死刑を考える	死刑廃止は世界的な動向ではないのか、死刑と裁判員制度との関係、死刑を廃止する義務の不存在
第3回	自国領域内における管轄権行使	犯罪処罰の方法は各国の裁量ではないのか、属地主義、属人主義、国籍
第4回	自国領域内における管轄権行使	国境を越える犯罪にはどう対応するのか、保護主義、普遍主義、インターネット上の犯罪
第5回	自国領域内における管轄権行使	犯罪者を海外でも逮捕することができるのか、法執行の限界、犯罪捜査の国際協力、犯罪人引渡
第6回	自国領域内における管轄権行使	自国領域内でも管轄権を行使できない場合があるのか、駐留軍隊兵士、外交特権免除、主権免除
第7回	国際人権における死刑	なぜ国際人権条約が結ばれるようになったのか、国連における人権問題、国際人権規約、欧州人権条約
第8回	国際人権における死刑	人権条約は死刑をどう扱うのか、自由権規約第二選択議定書、自由権規約委員会、欧州人権裁判所
第9回	国際人権における死刑	死刑存置国への犯罪人引渡は拒否されるのか、ゼーリング事件、キンドラー事件、日本への引渡
第10回	国際人権における死刑	自国民に対する死刑執行を止められるか、ラグラン事件、国際司法裁判所の仕組み、自国民の権利保護
第11回	戦後処理における死刑	戦争犯罪人に死刑を執行できるのか、第二次大戦後の戦争犯罪処罰、武力行使の違法化と戦争犯罪
第12回	戦後処理における死刑	国際刑事裁判でも死刑判決が下されるのか、重大な人権侵害の処罰、国際刑事裁判の種類
第13回	死刑の今後	国連総会決議にはどのような意味があるのか、国連決議の方法と拘束力、日本への影響
第14回	死刑の今後	国際社会の動向は日本に影響するのか、死刑存続論と死刑廃止論の内容、終身刑の可能性
第15回	死刑の今後	日本は死刑を結局どうすればよいのか、犯罪被害者の権利との関係、裁判員制度との関係

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この講義では教科書を使用しません。参考書として提示している書籍を積極的に読もう。日本の死刑制度については、「13階段」、「死刑はこうして執行される」のうち、どちらか1冊をできるだけ早い段階(第5回くらいまで)に一読しておく、講義内容を理解しやすくなるでしょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	国際法の基礎知識をどれくらい習得しているか、死刑問題の現状をどれくらい理解しているかを試す。基本概念や語句の理解を確認する問題と、死刑問題を論理的に洞察する力を問う問題を出す。
平常点評価	20 %	「講義メモ」の提出を少なくとも2回求める。受講者が数回提出した「講義メモ」のうち、評価が優れたメモ(2回分)を最終評価に加える。この「講義メモ」の提出は強制ではないので、提出するかどうかは受講者の判断に任せる。

講義中に提出を求める「講義メモ」の詳細は初回講義で説明する。「講義メモ」の提出は少なくとも2回実施し、評価が優れている2回分を最終評価に加える。なお、氏名や学生証番号しか書いていないメモを提出しても一切加点しない。実施回数などは講義の進捗具合によるので、適宜、受講者と相談するが、3回程度を予定している。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1) 出席確認を行いませんので、いわゆる「出席点」は一切ありません。
- (2) 受講者が他の受講者の学習を妨げること(私語をする、騒音を出すなど)を禁じます。
- (3) 受講者が講義中に入退室するのは自由ですが、他の受講者の学習を妨げないようにしてください。
- (4) 他の受講者の学習を妨げる者には受講を認めません。その者には定期試験の結果にかかわらず単位を与えません。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。レジュメと資料を配付する。

レジュメと資料を紙媒体で配布するのは講義中のみである。WebCTにも掲載するので、紙媒体のレジュメや資料を入手できないときは、自らダウンロード、印刷すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
13階段	高野和明 / 講談社文庫 / 4-062-74838-X / 死刑囚、刑期を終えた者、犯罪被害者の遺族など、犯罪に関係した者たちの懊悩を描いた小説。日本の死刑制度、犯罪処罰の現状を問う一冊。
死刑はこうして執行される	村野薫 / 講談社文庫 / 4-062-75304-9 / 死刑の是非を議論するために必要な情報(死刑執行の現状など)を詳細な取材をもとにまとめている。
国際法(Sシリーズ)(第5版)	松井芳郎 他 / 有斐閣 / 4-641-15927-3 / 講義で扱う国際法全般を見渡すのに適している。
判例国際法(第2版)	松井芳郎 編集代表 / 東信堂 / 4-88713-675-7 / 国際法に関する事例を調べるのに適している。
ブリッジブック国際人権法	芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹 / 信山社 / 9784797223279 / 国際的な人権保護をめぐる理論から最近の動向までを見渡す教科書の一つ。

参考になる文献は他にも多くある。講義のなかでも紹介したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際連合 <http://www.un.org>

外務省 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>

国際司法裁判所 <http://www.icj-cij.org>

その他 / Others

持続可能な開発 (GA)

13176

担当者名 / Instructor 高尾 克樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地球温暖化の影響が顕在化しつつある21世紀の現在、化石燃料に依存してきた経済社会のあり方は曲がり角に差しかかっている。この講義では、われわれ人間社会の活動と自然環境とのかかわりについて見ताうで、長期的な環境保護と経済発展の調和について考えていきたい。具体的には、物質循環と代謝、地球環境変化のさまざまなメカニズム、経済社会の汚染排出構造、汚染者負担原則と外部費用、持続可能な開発をめぐる国際的な議論、先進国と途上国、などの論点について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.環境汚染のメカニズムを物質循環とエネルギー循環の視点から説明できる。
- 2.汚染者負担の原則を説明できる。
- 3.国際的な環境保護への歩みを説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション:熱力学の二つの法則	
2	生態系と物質循環	
3	水質汚濁	
4	大気汚染	
5	地球温暖化	
6	有害化学物質による汚染	
7	砂漠化	
8	途上国と環境汚染	
9	森林破壊	
10	海洋汚染と漁業	
11	外部費用と汚染者負担の原則	
12	環境税	
13	排出権取引	
14	持続可能な開発の概念	
15	環境保護と市民	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	75 %	
平常点評価	25 %	折にふれて小テストを実施する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境経済学入門	ターナー、ピアス、バートマン / 東洋経済新報社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キャップ・アンド・トレード	高尾克樹 / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

市民と政治 (S)

15499

担当者名 / Instructor 中谷 義和

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代の国際政治を含む政治現象について一定の理解を得るために、民主政治とその理念の歴史的展開をたどりつつ、政治の基礎概念について説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

現代政治の基本的枠組み、および、その理念の生成と展開の歴史的な理解を期す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学、歴史学、経済学など社会科学関連学科目の履修ないし併行履修

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	序論	課題と方向
2回	日本国憲法「前文」の政治理念	代議制民主政、平和主義、基本的人権
3回	同上	
4回	同上	
5回	政治体制の編成	英米の政治体制、民主政治の思想家たち
6回	同上	
7回	同上	
8回	政治体制の現代的再編	行政国家、圧力団体、政党と政党制の比較、民主政の諸モデル
9回	同上	
10回	同上	
11回	戦後世界と日本	戦後世界の政治、日本の政治
12回	同上	
13回	同上	
14回	グローバル化とは何か	国民国家、国際化、民主政の課題
15回	全体の概観と到達目標の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

欧米の歴史書や新聞を読むこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	設問にたいする論理的説明を重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

必要に応じてアドバイスする。

教科書 / Textbooks

必要に応じて資料を配布する。ただし、次の「参考書」欄の図書に依拠する場合が多い。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
政治学入門 歴史と概念	中谷義和 / 法律文化社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

日本経済概説 (S)

15520

担当者名 / Instructor 平田 純一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、学生が日本経済の現状を理解できることを目指して、これに必要な、基本的な経済概念と経済学の考え方を説明した上で、第2次世界大戦以降の日本経済の変化を解説する。

学生諸君の、これまでの経済現象や経済学に対する認識に関しては大きな相違が存在することが予想されるので、この講義を展開する上では、高等学校における現代社会や政治経済に関する予備知識は前提としない。しかしながら講義のはじめの部分で説明する、経済用語や経済学に関する考え方を着実に身につけることなしに、日本経済の具体的な状況を理解することは不可能であることは認識し、着実に理解を積み上げることが必要である。

到達目標 / Attainment Objectives

現実の経済活動を認識する上で必要となる、経済概念および経済用語に関して十分な認識を得ることが基本である。また、現在の日本経済を理解する上では、第2次世界大戦以後特に高度経済成長期以後の日本経済の発展形態を正確に認識することが必要であるので、1955年以後の日本経済の発展過程を期間区分および基本的な経済構造の変化と関係づけて理解する力をつける。また経済活動を把握するためには、数量的なデータを用いて考えることが重要であるので、数量データを正確に読み取る力をつける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の説明: 経済学と経済現象: 経済主体	財とサービス, 経済現象, 家計, 企業, 政府, 外国
2	経済主体間の取引と財の種類	生産財, 中間財, 原材料
3	基本的なマクロ経済変数の説明	国民所得(GDP), 金利, 一般の物価水準, 為替レート
4	マクロ経済分析とI-Sバランス	貯蓄, 消費, 財政収支, 貿易収支
5	第2次世界大戦後の日本経済の期間区分	戦後の民主化, 高度経済成長期, 安定成長期, 円高とバブル経済の発生と崩壊
6	第2次世界大戦後の日本経済の混乱と社会システムの改革	戦後民主化, 農地改革, 財閥解体, ろうどう3法
7	高度経済成長期の日本経済(1)	投資主導の経済成長, 産業構造の変化, I-Sバランスの特徴
8	高度経済成長期の日本経済(2)	貿易収支の黒字化, 労働力不足, 経済成長への意識の変化, ニクソンショック
9	第1次オイル・ショックと日本経済への影響	狂乱物価, 設備投資意欲の低下, 貯蓄率の上昇
10	安定成長期の日本経済(1)	省エネ, 第2次オイル・ショック, 財政主導の経済成長, 産業構造の転換
11	安定成長期の日本経済(2)	財政再建, 国際資本移動の自由化, 貿易収支の黒字と円安, レーガノミクス
12	ブラザ合意と円高の進行からバブル経済へ	ブラザ合意, 産業空洞化, バブル経済, 株価と地価
13	バブル経済の崩壊と平成不況	公定歩合の切り上げ, 株価の低下, 地価の低下, 設備投資の減少
14	平成不況期の日本経済	不良債権処理, アジア通貨危機, 金融機関の破綻処理
15	平成不況からの脱出と世界同時不況のメカニズム	貿易構造の変化, B R I C Sの台頭, サブプライム・ローンの破綻, 自動車の販売不振

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本講義では、学生諸君に第2次世界大戦後の日本経済の発展を世界経済の動向と結びつけて考える力を基本的な目的にしている。こうした内容を正確に理解するためには、第2次世界大戦後の日本社会の変化に対する幅広い関心が重要である。これと併せて、基本的な経済用語を確実に理解することが必要である。

講義科目であるので、基本的にはレジュメに従って講義を進める。可能な限り事前に配布するので、一通り目を通して授業に来ること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100 % 試験の成績で、60点以上で合格。試験は5者択一、穴埋め、記述を含む。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本国憲法 (S)

15531

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

我々の生活を規律しながら、その実態を把握することが難しい法。その中でも最も基本的な法である憲法が、どのような考えの下に作られ、どのように働きをしているのかを学んでいく。現実社会で起こる様々な問題に対処できるよう、出来る限り具体的な例を挙げながら、基礎知識と法的な思考を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

法についての基本的知識の習得。
憲法についての基本的知識の習得。
憲法的な思考方法の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	法の基本的知識	法、公法、私法、憲法、法と私たちの生活、通説・判例、多数説、少数説、解釈
2	憲法の基本的知識	大日本帝国憲法と日本国憲法、憲法の構造、憲法の三大原理、基本的人権、統治機構、前文、違憲審査制
3	天皇	天皇、象徴天皇制、国事行為、内閣の助言と承認
4	戦争の放棄	第9条、平和主義、自衛権、自衛隊、国際紛争を解決するための戦争
5	人権1(人権総則)	個人の尊厳、基本的人権、幸福追求権、公共の福祉、権利・自由と義務
6	人権2(平等)	法の下での平等、差別の禁止、人種差別
7	人権3(思想・良心の自由と信教の自由)	思想・良心と信教、「国家からの自由」と「国家による自由」、多数者と少数者
8	人権4(表現の自由1)	表現の自由の優越的地位と二重の基準論
9	人権5(表現の自由2)	表現の自由と違憲審査制、違憲審査基準、コミュニケーション技術の発達と表現の自由
10	人権6(経済的自由と生存権)	経済的自由と福祉国家、封建制、居住移転の自由、財産権、損失補償、生存権
11	人権7(法の適正手続き)	デュー・プロセス・オブ・ロー
12	統治機構1(三権分立)	三権分立と民主主義、人権
13	統治機構2(国会・内閣・裁判所)	国会、衆議院の優越、内閣、議院内閣制、裁判所、違憲審査制
14	統治機構3(国会・内閣・裁判所)	民主主義と人権、多数者と少数者、憲法と私たちの生活
15	まとめ	民主主義と人権、多数者と少数者、憲法と私たちの生活

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義では、出来る限りエッセンスを分かりやすく解説しようとするため、詳細な知識や判例などは授業外で補う必要がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な知識の習得及び基本的な考え方、思考能力を問う。
平常点評価	30 %	基本的な知識の修得を問う小テストなど、講義中の応答など。

小テストの回数などは、講義の進行速度により調整を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

資格試験などを旨とする受講生は、この講義で基本的な考え方を身につけ、詳細な知識を学習し、問題演習を行うことを薦める。

教科書 / Textbooks

キーワード集などを配布する予定である。

参考書 / Reference Books**書名 / Title**

いちばんやさしい憲法入門

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

初宿 正典 ほか / 有斐閣アルマ / 4641120870 / 基本的な論点、基本的な考え方を見る、もっともやさしい入門書。

いま日本国憲法は 原点からの検証(第4版)

小林 武 ほか編集 / 法律文化社 / 4589028212 / 上記よりも詳しく、基礎を網羅的に勉強できる。

参考書の他、より詳しく憲法を学ぶためには、基本書と呼ばれる書籍を読むと良い。**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

必要に応じ、講義中紹介する。

その他 / Others

新しい日本史像 (S)

15491

担当者名 / Instructor 佐古 愛己

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:歴史と文学 - 古代・中世の京都 -

概要:この講義では、主に文学作品などの古典資料を題材としながら、古代・中世の京都における諸問題を取り上げる。高等学校までの学習で、「国語」の時間に学んできた古典資料が、歴史学研究とどのような関連を持っているのか、6つのテーマに関する近年の研究成果をふまえて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・歴史学の研究方法を習得するとともに、歴史と文学の関係や歴史的「事実」とはどのようなものなのかを理解する。
- ・異なる世界(この授業では日本古代・中世社会)の人々の生活環境、思考方法、価値観に接し、現在の日本社会に生きる私たちのものの見方・思考方法、社会環境を相対化した上で、現代社会の様々な出来事に問題意識をもつことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに	授業計画 概要 目的
第2回	古代・中世の対外意識	華夷思想 蝦夷戦争 穰れ 唐物 『六国史』 『日本霊異記』 『源氏物語』
第3回	古代・中世の対外意識	華夷思想 蝦夷戦争 穰れ 唐物 『六国史』 『日本霊異記』 『源氏物語』
第4回	平安京の成立と変貌 - 都市と住人 -	都市 市 祭礼 怨霊 『今昔物語集』 『池亭記』 『新猿楽記』
第5回	平安京の成立と変貌 - 都市と住人 -	都市 市 祭礼 怨霊 『今昔物語集』 『池亭記』 『新猿楽記』
第6回	平安貴族の社会の実像	政務 儀式 古記録 『源氏物語』 『大鏡』 『紫式部日記』
第7回	平安貴族の社会の実像	政務 儀式 古記録 『源氏物語』 『大鏡』 『紫式部日記』
第8回	みやこと地方	受領 都鄙間交通 『今昔物語集』 『更級日記』 『土佐日記』
第9回	みやこと地方	受領 都鄙間交通 『今昔物語集』 『更級日記』 『土佐日記』
第10回	荘園公領制	荘園公領制 寄進地系荘園 中世荘園 貴族の日記・古文書
第11回	荘園公領制	荘園公領制 寄進地系荘園 中世荘園 貴族の日記・古文書
第12回	みやこと武士	武芸 源氏 平氏 武士論 『今昔物語集』 『依藤太物語』 『保元物語』 『平治物語』
第13回	みやこと武士	院政 強訴 源氏 平氏 鎌倉幕府 『今昔物語集』 『依藤太物語』 『保元物語』 『平治物語』
第14回	中世の思想	末法思想 百王思想 無常観 未来記 『愚管抄』 『平家物語』
第15回	おわりに	授業のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	論述式の問題。 基本的な語彙や概念を正しく理解し、授業で取り上げた内容について、適切に論じることができるかを評価する。
平常点評価	30 %	授業中に提出してもらった感想ペーパーや小レポートを日常点として加味する。小レポートは、講義のテーマに関わる各自の関心点について、調査・考察したことをまとめ、最終講義日までに提出すること。

第1回の講義日に詳細を説明します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

古代・中世に関する概説書や古典文学作品などを積極的に読んでほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。随時、レジュメと資料を配付する。

参考書 / Reference Books

参考文献は授業中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

今年の大統領選挙が良い例ですが、アメリカ合衆国の「現在」に関する情報は、日本のメディアから簡単に手に入ります。また、アメリカが生み出した文化—「スタバ」だったり、「ピザ・ハット」だったり、「アメカジ」だったり—に関する情報も、もはやそのルーツを意識しないほどに日本の生活に浸透しています。

一方、アメリカ合衆国の「過去」に関する情報は、幕末以来、様々な局面でこの国の歴史や文化に影響を与えたにもかかわらず、日本ではあまり流通していないようです。「現在」のアメリカ合衆国の政治や文化が、そこに住む人々のどのような考えの上で生み出されてきたものなのかについて、皆さんもこれまで関心がなかったのではないのでしょうか。

そこで、この授業では、我々に馴染みのないアメリカの「過去」についての情報を、下で説明するような3つのトピックに分けて説明していきます。そうすることで、最終的に、「現在」のアメリカや日本のことを自分の頭で深く考えていくことができるようになることを目標にします。

「超大国アメリカの光と影」

この単元では、アメリカ史の流れを理解するため、アメリカの歴史と地理についての基本知識を学びます。アメリカを超大国にした経済発展や、発展の裏返しとして生じた労働問題や環境問題に結びつけながら、これらを解説していくつもりです。アメリカ史を始めて学ぶ人のための単元です。

「我々のアメリカ、我々のアメリカ史」

この単元では、アメリカに住んでいる多様な人々の歴史を学びます。北アメリカは、「先住民」がアジアから移動してきて以来、ヨーロッパ・アフリカ・アジアなどからきた人々を加えながら人口を増やしてきました。これらの人々は、それぞれの母国文化を持ち込んで、アメリカ文化を多様なものにしていきました。しかし、力のなかった一部の人々（マイノリティ集団）はアメリカの支配的な人々が作った文化を受け入れることを強いられました。授業では、いくつかのマイノリティ集団を取りあげながら、彼らにとってアメリカ、彼らにとってのアメリカ史とは何だったのかについて解説していくつもりです。

「国民国家としてのアメリカ」

この単元では、多様な背景を持つ人々を合衆国がどのように国民として統合してきたのかについて学びます。はじめに、自由や民主主義という政治理念が合衆国の統合に果たしてきた役割について解説します。その上で、キリスト教や、女性運動、大衆文化が統合に与えた影響について説明していきます。これらをふまえて、合衆国の国民統合をめぐる論理が、自由や民主主義を世界に強要する「帝国」主義に変質するまでの経緯について最後に解説していくつもりです。

到達目標 / Attainment Objectives

アメリカ史の要点を理解し、それを自分の知識として扱えるようになることが最終目標です。したがって、期末試験は、アメリカ史で争点とされている様々な問題を、論理的にアウトプットできるかどうかを各人に問うものです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	「超大国アメリカの光と影(1)」: アメリカにおける経済発展の歴史	アメリカ経済の時代区分、数字でみるアメリカ経済の発展(第2章)
第02回	「超大国アメリカの光と影(2)」: アメリカにおける環境の歴史	国立公園、ミューア、ピンショー、環境保護運動、沈黙の春(第1章)
第03回	「超大国アメリカの光と影(3)」: アメリカにおける労働問題の歴史	自由労働、奴隷労働、賃金奴隷制、工業化、労働運動、ニューディール(第3章)
第04回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(1)」: 先住アメリカ人の歴史	インディアン戦争、涙の旅路、ドーズ法、文明化、レッドパワー、(第4章)
第05回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(2)」: アフリカ系アメリカ人と奴隷制度の歴史	奴隷制度、疑似科学、奴隷制廃止運動、セグリゲーション、ジムクロウ、公民権運動、(第6章)
第06回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(3)」: ラティーノ/ヒスパニックの歴史	米墨戦争、ブラセロ、チカノ運動、国境、農業労働者、キューバ、(第7章)
第07回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(4)」: アジア系移民と移民排斥の歴史	帰化不能外国人、移民法、クーリー、日系アメリカ人、強制収容、(第8章)

第08回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(5):ヨーロッパ系移民の歴史	ワスプ、新移民、ブア・ホワイト、エスニック文化、ホワイトネス・スタディーズ、(第5章)
第09回	「国民国家としてのアメリカ(1):アメリカにおける政治理念の歴史」	合衆国憲法、連邦制度、民主主義、社会進化論、帝国主義、福祉国家、保守主義、(第10章)
第10回	「国民国家としてのアメリカ(2):アメリカにおける民主主義の歴史」	共和制、ジャクソニアン・デモクラシー、ニューディール、(第11章)
第11回	「国民国家としてのアメリカ(3):アメリカ人の統合と差別思想	国勢調査、星条旗、ナショナリズム、国歌の変遷、(第12章)
第12回	「国民国家としてのアメリカ(4):アメリカ人の統合と宗教	ピルグリム、政教分離、プロテスタント、カトリック排斥、原理主義、(第13章)
第13回	「国民国家としてのアメリカ(5):アメリカ人の統合と民衆文化	チームスポーツ、サーカス、博覧会、カウンターカルチャー、(第14章)
第14回	「国民国家としてのアメリカ(6):ジェンダーという視点からの考察	ジェンダー、女性参政権運動、フェミニズム、(第9章)
第15回	「国民国家としてのアメリカ(7):統合理念の世界化	世界システム、帝国主義、米西戦争、パクス・アメリカナ、冷戦、「帝国」、(終章)

(第 章)は「アメリカの歴史」の各章に対応しています

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で配布するレジェメをもとに、毎回復習しておくといいです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	特定の用語を問う問題と、小論文を予定します。
平常点評価	15 %	QRコードを使った出席をとります。QRコードを忘れた人はその授業は欠席になります。授業中に私語・睡眠・無断で途中退出を繰り返す受講生は、授業妨害とみなして、定期試験において厳しい減点を課し、教室からの退出を求めます。

QRコードは毎回持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では毎回簡単なレジェメを配布します。しかし、ノート・メモを取ることを重要視します。プレゼンテーションソフト(プラズマディスプレイ)を多用しますので、授業では見やすい位置に座ってください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実	有賀 夏紀 (編集), 油井 大三郎 (編集) / 有斐閣アルマ / 978-4641121621 /

教科書は、前もって生協などで購入して毎回持参してください。もちろん、教科書交換会を利用したりインターネットなどを經由して古本を買ってもよいです。

<http://www.kosho.or.jp/servlet/top>

<http://www.amazon.co.jp/gp/offer-listing/4641121621>

<http://www.bookoffonline.co.jp/display/001,iscd=0012643715>

参考書 / Reference Books

授業中に紹介していきます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

イスラーム世界の多様性 (S)

13261

担当者名 / Instructor 矢島 洋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イスラームに関する基礎知識を体系的に学ぶことを目標とし、毎回一つのトピックを取り上げて解説を加える。またその際、以下の二つの点に留意する。(1)イスラームの多様性に配慮し、多様なイスラームを多様なまま理解することを目指す(2)イスラーム世界の現状を理解するために必要な歴史的背景の理解を重視する。

到達目標 / Attainment Objectives

イスラームに関する正確な基礎知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論	授業の方針、用語
2	イスラームの基本教義	六信五行
3	神	神学、神の姿、神の唯一性、神の正義
4	ムハンマド	ムハンマドの生涯、後世のムハンマド像
5	クルアーンとハディース	啓典、伝承、アラビア語
6	宗派	スンナ派、シーア派
7	イスラーム法(1)	シャリーア、政教分離
8	イスラーム法(2)	一夫多妻、利子の禁止
9	美術	偶像崇拜の禁止、絵画・書道・工芸・建築
10	アフガニスタン問題(1)	アフガニスタン建国事情、アフガニスタン内戦
11	アフガニスタン問題(2)	ターリバーン、アメリカ同時多発テロ
12	イラク問題(1)	イラク建国事情、イラン・イラク戦争
13	イラク問題(2)	湾岸戦争、イラク戦争
14	日本と中東・イスラーム世界	
15	イスラームについて学ぶ意味	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	すべて講義の内容から出題し、知識の修得度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者は継続して出席すること。また必ずノートをとること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
岩波イスラーム辞典	大塚和夫ほか(編) / 岩波書店 / 4-00-080201-1 / イスラーム世界関係の用語を調べるのに便利である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

エリアスタディ入門 (S)

13280

担当者名 / Instructor 生田 真人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

エリアスタディ(地域研究)とは、社会科学の諸分野で学問分野を越えて展開しつつある研究方法である。すなわち、経済学に地域研究があるし、社会学にも地域研究がある。この講義では、地理学の成果を踏まえつつ、地域研究の意義と方法を概説し、世界の諸地域(主に国家)を対象にして特定地域の歴史、社会、経済、政治的課題を空間的視点から学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

エリアスタディの考え方を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	地域研究の発展	地域研究 アメリカ合衆国 日本 社会科学
2	社会科学の地域概念	フランスの地域主義 地理学の地域概念 地域と国家 地域統合
3	第1部日本の地域再編 日本の地域構造	自然経済の地域構造 商品経済の地域構造 イギリスと日本
4	戦後の地域再編と地域政策	全国総合開発計画 地域構造 国土形成計画
5	東京大都市圏の変貌	多核化 都市圏構造の再編 世界都市論
6	関西圏と関西の都市	バイエリア 第1次都市化 第2次都市化 研究学園都市
7	第2部欧米の都市と地域 西欧の地域主義	地域主義 フランス EUの地域政策
8	イタリアの都市づくり	ローマ帝国 ルネサンス 広場 キリスト教 サードイタリー フィレンツェ
9	カナダの大都市管理	大都市圏政府
10	アメリカの地域経済と都市	都市計画 都市自治
11	第3部アジアの地域発展 アジアの都市と国家	開発主義 過剰都市化
12	シンガポールの国際的都市開発	成長の三角地帯 多国籍企業 マレーシア インドネシア
13	マレーシアの地域開発と民族問題	土地問題 植民地 多民族国家 工業化 民族対立 ブミプラ政策
14	中国の地域発展戦略	地域間分業 都市戸籍 農村戸籍 沿海州発展戦略 西部大開発 郷鎮企業
15	韓国と東アジア共同体	ソウル大都市圏 釜山都市圏 国土計画 東アジア共同体

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容に対する正確な理解の程度。
平常点評価	30 %	この科目に対する関心の深さと態度を、主に出席回数で評価する。
なし		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世界の各地で日々起きている重大事件・事故などに注意してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	///
なし	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『アジアの大都市』全5巻

大阪市立大学経済研究所監修 / 日本評論社 / /

先進国経済の地域構造

松原宏編 / 東京大学出版会 / /

関西圏の地域主義と都市再編ー地域発展の経
済地理学

生田真人 / ミネルヴァ書房 / / 日本の中の関西について考えたい人へ

なし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に指示する。

その他 / Others

なし

戦争の歴史と現在 (GA)

13161

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

戦争の歴史を振り返ってみると、「形の上では」主権平等の国家間の戦争から、「非対称的な」戦争へと変化している。すなわち、特に同時多発テロ以降、テロ組織に対する「戦争」が議論されるようになってきているのである。いずれにせよ、国際関係論の枠組みの中で、主権国家システムの変容と結びつけられて、戦争形態の変化が論じられている。そこで今年は、特にアメリカの視点(覇権国、あるいは、「帝国」)から、戦争形態の変化について論じてみたい。当然ながら、アメリカと安全保障条約を結んでいる日本は、特に、沖縄をはじめとする「米軍再編」の流れの中で、同時に議論されなければならないだろう。この点にも目配りをしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 自ら、進んで新聞やニュースの政治欄や国際欄などを読み、自分なりの意見を形成できるように、また、他者に、自らの主張を、感情論ではなく、論理的かつ説得的に説明できるようになること。
- 2) 戦争形態の変化がなぜ起こってきたのか、国際情勢の変化に敏感になること。
- 3) 翻って、日本国内の状況、特に、若者の「真剣な話」をけむたがる風潮はなぜなのかを、自分自身の問題と絡めて考えられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本政治史や欧米政治史、日本史や世界史に関する教養科目など。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 権力とは？	キーワード アナーキーとヒエラルキー、国家主権
第2回	テーマ 権力の暴走は「暴力」になる？	キーワード プロパガンダ、メディア宣伝
第3回	テーマ 戦争の違法化	キーワード 正戦論、無差別戦争観、国際組織の形成、集団安全保障
第4回	テーマ 戦後国際秩序の形成(1)	キーワード ヤルタ会談、冷戦の始まり
第5回	テーマ 戦後国際秩序の形成(2)	キーワード (古典的)リアリズムとネオリアリズム、
第6回	テーマ 冷戦秩序(1)	キーワード 核による平和、抑止力、集团的自衛権
第7回	テーマ 冷戦秩序(2)	キーワード ゲームの理論、囚人のジレンマ、チキンゲーム
第8回	テーマ 冷戦秩序の崩壊:なぜ、ネオリアリズムは、冷戦の崩壊を予測できなかったのか	キーワード トランスナショナルな動き
第9回	テーマ 大量破壊兵器の拡散	キーワード 不拡散、NPTレジーム
第10回	テーマ ポスト冷戦期の国際秩序の維持	キーワード PKO
第11回	テーマ エスニック・コンフリクト(紛争)の事例	キーワード コソボ紛争
第12回	テーマ 「新しい戦争」	キーワード 軍事におけるグローバリゼーション、小型武器
第13回	テーマ アメリカによる単独行動主義(1)	キーワード 有志連合
第14回	テーマ アメリカによる単独行動主義(2)	キーワード 日本の軍事化
第15回	テーマ 日米同盟のゆくえ	キーワード 米軍再編と日本の動き
第16回	期末試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義に関する必要な連絡は、すべてWebCTを通じて行うので、毎週1回はWebCTをみること。また、積極的な、ディスカッション・ボードへの書き込みを期待する。(話題提供として)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義を通して、どの程度、自分なりにニュースや新聞を読み、自分の頭で考えたのかを問う論述2問。単に知識を問う問題は出題しないので、持ち込みは自由にする。
平常点評価	20 %	WebCTを通じて3回課す。そのうち、最低2回以上提出すること。(3回提出した場合には、110点満点で計算し、100点を超えた場合には、100点とする)

レポートは、小論文形式の文体を求め、参考文献リストを明記すること。レポートを課す最初の講義のときに説明する。字数は、いずれも2000字程度。(長くても、論理的であればかまわないが、分量不足は減点する。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やニュースの政治欄や国際欄に目を通しておくこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
平和学をつくる	池尾靖志編 / 晃洋書房 / / 2009年4月刊行予定。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際紛争	ジョセフ・ナイ / 有斐閣 / / * 原著がかなりの頻度で改訂され、それに応じて翻訳版も新しく出版されているので、できるだけ、新しい版を参照すること。また、大学院を志望する人は、原著はさほど分厚くないので、原著(英書)で読むことをおすすめする。
戦争の記憶と和解	池尾靖志編 / 晃洋書房 / / 特に1章を、講義開始前に読んでおくこと。図書館にあるはずです。
「帝国」の国際政治学	山本吉宣 / 東信堂 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者のホームページ(<http://www.yikeo.com>)を参照のこと。

その他 / Others

中国の国家と社会 (S)

13320

担当者名 / Instructor 増井 寛也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「中国」が日本の最も重要な隣国のひとつであることは、時代により程度の差こそあれ、古来不変の事実であった。ところが、この「中国」という存在は、長大な歴史と地域的多様性により、総合的全身的に把握することが著しく困難である。この講義では、「中国」理解の一環として、支配権力の保持者/組織を基準とした時代区分(授業スケジュール参照)を立て、そうした権力を支える国家と社会の通時的説明を試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

「中国」史の全体的な流れを大きく理解する。
中華帝国の成立から現代中国に至るまでの各時代の政治社会的特徴を把握する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校世界史の授業の履修漏れは、もはや存在しないものとして講義を進める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	地理的中国と歴史的中国の相違	大中国と小中国、外中国と内中国、「華」と「夷」
第2回	前期中華帝国 古代帝国の成立と展開 秦から後漢まで	皇帝制度と官僚制、郡県制
第3回	前期中華帝国 古代帝国の成立と展開 秦から後漢まで	儒教の正統教学化、豪族と「名士」
第4回	前期中華帝国 中世の分裂と再統一 三国時代から隋唐帝国まで	貴族制の成立、五胡と拓跋国家群
第5回目	前期中華帝国 中世の分裂と再統一 三国時代から隋唐帝国まで	律令制と科挙制、律令制国家から財政国家へ
第6回	後期中華帝国 近世的社会の成立 五代・宋	皇帝権力の強化、科挙制度の整備
第7回	後期中華帝国 近世的社会の成立 五代・宋	都市の発展と社会の変貌
第8回	征服王朝 北方民族の中国征服 大元ウルス	北方民族社会と漢民族社会の並存
第9回	後期中華帝国 近世社会の成熟と満洲族の中国征服 明と清	明の「固い」体制、皇帝権力の極大化とその病理
第10回	後期中華帝国 近世社会の成熟と満洲族の中国征服 明と清	清の版図拡大と大中国の成立
第11回	清末・中華民国 アヘン戦争・辛亥革命から中華民国まで	改革(洋務・变法)と革命、北洋軍閥
第12回	清末・中華民国 アヘン戦争・辛亥革命から中華民国まで	国民党と共産党、国共合作と分裂
第13回	中華人民共和国 毛沢東から鄧小平まで	社会主義建設と「大躍進」
第14回	中華人民共和国 毛沢東から鄧小平まで	文化大革命の波乱
第15回	中華人民共和国 毛沢東から鄧小平まで	改革と開放

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

高校等で世界史の科目を履修していない(いまやあり得ないはず)か、していても知識が不十分との自覚のある学生は、内容理解にハンデを負うことになりかねないので、授業に先立ってあらかじめ、もしくは授業と平行して、概説書(第1回目に紹介する)を読むなり等の自助努力をしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に直結する特定ないし任意のテーマに関して期末レポート(2400字以上)を課す。
平常点評価	50 %	受講者数にもよるが、ほぼ毎回、コメントの提出を求める(翌週の授業開始前に教員に直接提出)。これは出席を兼ねる。また、3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とする。それ以下は対象外。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目の授業で講義内容、参考書等に関する説明を行うので、必ず出席すること。

教科書 / Textbooks

教科書は原則として使用しない。それに代えて、レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

参考書は第1回目に配布するレジメに掲載しておく。また、それらに関する簡単な説明も行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

東アジアと朝鮮半島 (S)

13442

担当者名 / Instructor 嚴 敬俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

朝鮮半島を中心に、東アジアの近未来を展望します。過去・現在・未来の歴史軸を縦軸に、そして、安全保障・経済協力・文化交流などのキーワードを横軸にして、東アジアの国際関係を多面的に捉えます。東アジアは、現在どう動いているのか、どこへ向かっているのかを、共に考えるような授業を展開します。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 朝鮮半島の今日を形作った歴史について、儒教文化・近代化・国際関係の観点から理解する。
2. 特に、朝鮮半島と周辺国(今回は日本とアメリカ)との関係を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。高校レベルの世界史の知識、新聞の国際面に関心をもって読んでいるという態度があれば望ましいと思います。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1 - 2	なぜ今東アジアか(1)。	なぜ今東アジアか(2)。
3	なぜ東アジアか(3):東アジアに緊張をもたらすもの	米朝対立、歴史問題、拉致問題、日韓協調の必要性
4	朝鮮の儒教文化	朝鮮人の認識枠組みについて
5	日本・朝鮮の帝国主義への対応	尊王攘夷、交戦、体制の違い、時間との競争
6	朝鮮戦争とベトナム戦争	分断国家の統一問題と国際関係
7	韓国・(北)朝鮮という国の形	朴正熙と金日成を生んだもの
8	中国・台湾・朝鮮半島の反日感情の異同	各国の日本との関係、各国内部の政治体制の違い
9	冷戦後の朝鮮半島	韓国の民主化と(北)朝鮮の孤立
10	朝鮮半島とアメリカ	朝鮮戦争と韓米同盟、韓米同盟の再定義
11 - 12	核問題とは何か(1)	核問題とは何か(2)
13	朝鮮半島と日本	日韓・日朝国交正常化と歴史認識
14 - 15	拉致問題をどう見るか(1)	拉致問題をどう見るか(2)

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点評価	20 %	毎回、講義感想をコミュニケーションペーパーに書いていただきます。講義内容を的確に理解した上で、ある程度賛否などの理由づけをしてコメントすることが求められます。

平常点は、出席とコミュニケーションペーパーの内容によって判断します。
 なお、公欠や病欠、就活による欠席などについては証明書が必要です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書はありません。毎回、プリントを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ヨーロッパの歴史 (S)

13444

担当者名 / Instructor 大戸 千之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

歴史の説明というものは、時代が移るにつれて変わる。かつては常識とされた説明が、やがて常識ではなくなってくる。どうして変わるのか。新事実の発見によって変わることもあるが、多くは視点や解釈の変化に起因しているといえる。それではどうして視点が変えられてくるのだろうか。解釈の変化はなぜ生じてくるのだろうか。

ヨーロッパの歴史について、時代の特質あるいは画期をなす重要事件の説明を例として、通説がなぜ通説でなくなってくるのか、なりゆきを紹介しながら、この問題を考える。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史のとらえかたにおいて重要なのは、事実の暗記ではなく、事実というものをどう考えていくかである、ということを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	歴史について考えるということ	ピラミッドについて考える
第二回	ギリシアの民主政	
第三回	オリンピア祭典の意義	
第四回	ヘレニズム 融合か雑種か	
第五回	ローマ帝国の隆盛 帝国はいかにして築かれたか	
第六回	ローマの衰頹と古代末期論	
第七回	中世への関心	
第八回	ルネサンスとは何か	
第九回	近代世界システム	
第十回	アメリカ史の独自性	
第十一回	フランス革命の評価をめぐって	
第十二回	産業革命と工業化	
第十三回	第一次・第二次世界大戦とドイツ	
第十四回	世界史の構想	
第十五回	全体の概観と到達目標の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点評価	30 %	随時コミュニケーション・ペーパーをかねた小テストを実施し、評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

歴史の勉強は暗記ではない、ということをおぼえてもらいたい授業です。試験(テスト)にさいしても、そのことを忘れずに。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『教養のための西洋史入門』	中井義明・佐藤専次・渋谷 聡・加藤克夫・小澤卓也 / ミネルヴァ書房 / /

参考書 / Reference Books

多数にわたるため、テーマごとに、教室で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

歴史観の形成 (S)

15523

担当者名 / Instructor 小山 俊樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は「歴史とは何であるのか」という問いを考えるための契機として、主に近代の日本において歴史がどのように捉えられてきたのかを概観する。本講義において近代以降の史学史・日本における歴史学の受容・歴史をめぐる論争・地域における歴史の描かれ方などに幅広く触れることで、受講者がそれぞれの関心にもとづき、歴史的なものの見方についての方法論を獲得することを期待する。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史および歴史学の方法論に触れ、その理解を深めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに:本講義のガイダンス	
2~4	歴史とは何か :近代における歴史学の形成と展開	
5~7	歴史とは何か :近代日本における歴史学の受容と変容	
8~11	歴史とは何か :近代日本における歴史叙述をめぐる論争	
12~14	歴史とは何か :近代日本の地域における歴史叙述	
15	おわりに:いま「歴史」を考えるために	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

個別の事象を覚えるのではなく、講義の内容を手がかりとして、歴史および歴史学の意味について考える機会を持ってほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	講義の内容に関連した論述試験を課す。
平常点評価	15 %	講義のなかで数回、コミュニケーションペーパーをとり、その内容で加点を行う。

講義のなかで適宜指示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義のなかで適宜指示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

宇宙科学 (S)

15568

担当者名 / Instructor 吉村 幸雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

宇宙は私たちが観測でき、その上考えられるすべての天体の大集団とそれを含む全空間を含んでいる。しかもこれをはるか昔から無限の未来にわたって考えた場合、時間と空間の一切全部が宇宙と考える。そこで、最初に基礎的な事柄として、素粒子、原子核、原子と分子、相転移と超伝導、量子と実在、エントロピーを学んだ後、宇宙の進化として宇宙の誕生から始めて、恒星、太陽、地球の順序で講義を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、宇宙を科学するための基本法則である物理学の概念を学習した後、宇宙の進化について理解を深めることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業概要、序論;	宇宙物理学を学ぶ意義、宇宙の観測、宇宙からの情報(可視光線、電磁波、距離、時間)
2	基礎的な事柄、素粒子	物理量のスケール、基本定数、素粒子の仲間たち、素粒子に働く力、クオーク
3	素粒子、原子核	本当の基本粒子、素粒子の生成、素粒子物理学、原子核の構成、結合エネルギー
4	原子核、原子と分子	結合エネルギー、核融合、核分裂、放射能、原子の構造、水素原子の場合
5	原子と分子、相転移と超伝導	元素の周期律、原子から分子、原子の物理学の課題、相転移と超伝導
6	相転移と超伝導、量子と実在	超伝導の機構、完全反磁性、電子の粒子性と波動性、粒子と波、光
7	エントロピー	自由エネルギー、エントロピー、熱力学第二法則、揺らぎ
8	宇宙の進化	宇宙の誕生、銀河の運動、ドップラー効果、ハッブルの法則、ガモフの夢
9	宇宙の進化	宇宙マイクロ波放射、定常宇宙論、宇宙の未来、宇宙の暗黒物質、可能な未来、インフレーション宇宙、宇宙の大規模構造
10	恒星	素粒子の大統一理論、漂う雲、星の誕生、水素燃料への点火、主系列星、太陽、赤い巨星
11	恒星	恒星の終末、宇宙の素材、取り残された芯、新たな誕生、パルサーの発見
12	恒星	中性子星、ブラックホール
13	太陽系、惑星	太陽系の形成、太陽系の安定性、惑星の素顔、惑星の誕生、誕生の時刻
14	地球、惑星	惑星を作るもの、惑星の位置、重要な問題
15	地球	宇宙の中の地球、大気の形成、海洋の形成と大気、光合成生物の誕生、地球の内部構造、月の起源

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日常報道される科学ニュースに眼を向けていただきたい。科学の考え方や分析の進め方を私たちの身近な現象に適用し、これからをどのように生きるかを考えるきっかけにしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	定期試験で評価する。

問題は講義のテーマの中から複数出題しその中から1問選択回答とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

宇宙と言う広大な自然に眼を向けることにより私たちが持っている感覚を敏感にし、総合的な観点から自然を見る事の重要性を学んでほしい。そのために教科書並びに参考書を読むことを勧める。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
宇宙・物質・生命 進化への物理的アプローチ	高橋光一 / 吉岡書店 / /

学生諸君は本書を教科書としてだけ読むに止まらず、ここから科学のより広い世界へ眼を向けて行って欲しい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
宇宙論のすべて	池内 了 / 新書館 / /
宇宙科学入門	尾崎洋二 / 東京大学出版会 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

科学・技術と社会 (SA)

15470

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日科学はよりマクロな宇宙へ、よりミクロなクォークへ、そして生命の神秘へと発展を続けている。また技術に応用され、今日のわれわれの暮らしをますます豊かで便利なものになっている。しかしその一方で、化学物質過敏症やBSE問題、人間の卵子売買など科学や技術に関わる社会問題も頻発している。では、われわれにとって、現代社会にとって科学とは何か、技術とは何か？ 本科目は、それを主として科学や技術に関わる社会問題をとらえて考究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)今日の科学や技術に関わる社会問題に関心と問題意識を持つこと
- (2)授業で取り上げる科学や技術に関わる社会問題の代表的な例について、自然科学・技術的、および社会的理解を深めること
- (3)それを通して、科学・技術と社会の関わりについて、科学論・技術論、あるいは科学社会学的に理論的に考えることができるにすること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科学・技術と社会 世紀をこえて	20世紀とは、人工化学物質の時代、科学技術文明とわれわれ
2	人工化学物質と人体 21世紀病	シックハウス、化学物質過敏症、アレルギー
3	環境ホルモン問題の登場	内分泌攪乱物質、動物に現れた予兆、ヒトの精子数の激減？
4	環境ホルモン問題を考える	T.コルボーン、「奪われし未来」
5	環境の世紀へ	R.カーソン、「沈黙の春」
6	環境ホルモン問題の今 不確実のカード	本当に「思い過ごし」か、失速するSPEED98
7	脳とプリオン 動物からヒトへ、ヒトからヒトへ	狂牛病(BSE)、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)、その他のプリオン病
8	BSE問題と対策をめぐって	食の安全、「リスク管理」について考える
9	ヒトゲノム解読 生命の世紀へ	ヒトゲノム、DNA
10	生命の世紀はどこへ、生殖工学の行方	ドリー、クローン人間、iPS細胞
11	医学と医学者、医の倫理	ヒポクラテスの誓い、インフォームド・コンセント、医療事故、病院改革
12	チェルノブイリでは何が起きたか	チェルノブイリ原発事故、人々と暮らしへの影響、原発事故と産業社会
13	原発事故はなぜくりかえすか、地震と原発	中越沖地震と柏崎刈羽原発、関電美浜事故、あいつぐトラブル隠し、原発被爆(東海村臨界事故)
14	マンハッタン計画(その1)	20世紀物理学、原爆構想、原爆工学、原爆開発
15	マンハッタン計画(その2)	原爆開発、製造と投下、科学者の社会的責任をめぐって

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目では、今日の人類の課題を自らみつけ、問題意識を深め、自分の頭で考えるという姿勢が、とくに大事だと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
奪われし未来	T.コルボーンら / 翔泳社 / 88135-985-1 /
沈黙の春	R.カーソン / 新潮社 / 10-207401-5 c0161 /
狂牛病 人類への警告	中村靖彦 / 岩波書店 / 00-430759-7 /
優生学と人間社会	米本昇平 / 講談社 / 06-149511-9 c0245 /

原発事故はなぜくりかえすか

高木仁三郎 / 岩波書店 / 00-430703-1 /

必要最低限(授業中取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配付する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

科学・技術と社会 (SB)

15477

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日科学はよりマクロな宇宙へ、よりミクロなクォークへ、そして生命の神秘へと発展を続けている。また技術に応用され、今日のわれわれの暮らしをますます豊かで便利なものになっている。しかしその一方で、化学物質過敏症やBSE問題、人間の卵子売買など科学や技術に関わる社会問題も頻発している。では、われわれにとって、現代社会にとって科学とは何か、技術とは何か？ 本科目は、それを主として科学や技術に関わる社会問題をとらえて考究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)今日の科学や技術に関わる社会問題に関心と問題意識を持つこと
- (2)授業で取り上げる科学や技術に関わる社会問題の代表的な例について、自然科学・技術的、および社会的理解を深めること
- (3)それを通して、科学・技術と社会の関わりについて、科学論・技術論、あるいは科学社会的に理論的に考えることができるにすること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科学・技術と社会 世紀をこえて	20世紀とは、人工化学物質の時代、科学技術文明とわれわれ
2	人工化学物質と人体 21世紀病	シックハウス、化学物質過敏症、アレルギー
3	環境ホルモン問題の登場	内分泌攪乱物質、動物に現れた予兆、ヒトの精子数の激減？
4	環境ホルモン問題を考える	T.コルボーン、「奪われし未来」
5	環境の世紀へ	R.カーソン、「沈黙の春」
6	環境ホルモン問題の今 不確実のカード	本当に「思い過ごし」か、失速するSPEED98
7	脳とプリオン 動物からヒトへ、ヒトからヒトへ	狂牛病(BSE)、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)、その他のプリオン病
8	BSE問題と対策をめぐって	食の安全、「リスク管理」について考える
9	ヒトゲノム解読 生命の世紀へ	ヒトゲノム、DNA
10	生命の世紀はどこへ、生殖工学の行方	ドリー、クローン人間、iPS細胞
11	医学と医学者、医の倫理	ヒポクラテスの誓い、インフォームド・コンセント、医療事故、病院改革
12	チェルノブイリでは何が起きたか	チェルノブイリ原発事故、人々と暮らしへの影響、原発事故と産業社会
13	原発事故はなぜくりかえすか、地震と原発	中越沖地震と柏崎刈羽原発、関電美浜事故、あいつぐトラブル隠し、原発被爆(東海村臨界事故)
14	マンハッタン計画(その1)	20世紀物理学、原爆構想、原爆工学、原爆開発
15	マンハッタン計画(その2)	原爆開発、製造と投下、科学者の社会的責任をめぐって

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

配付資料をよく読み、その回に取り上げた科学・技術に関わる社会問題について、まとめ、考察を加えておくこと。小テスト、コミュニケーションペーパーなどで、随時チェックする予定。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目では、今日の人類の課題を自らみつけ、問題意識を深め、自分の頭で考えるという姿勢が、とくに大事だと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
奪われし未来	T.コルボーンら / 翔泳社 / 88135-985-1 /
沈黙の春	R.カーソン / 新潮社 / 10-207401-5 c0161 /

狂牛病 人類への警告 中村靖彦 / 岩波書店 / 00-430759-7 /

優生学と人間社会 米本昇平 / 講談社 / 06-149511-9 c0245 /

原発事故はなぜくりかえすか 高木仁三郎 / 岩波書店 / 00-430703-1 /

必要最低限(授業中取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配付する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示する

その他 / Others

科学的な見方・考え方 (S)

13255

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間の歴史の中で、産業革命以後の科学技術の発達は著しく、当初は「科学技術の発達は人間や社会を豊かにする」と信じられていた。しかし、20世紀後半から、この科学技術の急激な発達がもたらす負の側面がさまざまなところで顕在化し、科学技術と人間や社会のあり方を見直す必要が高まっている。この授業では、科学技術の発達と現代の環境問題を通して、科学的な見方・考え方および科学技術のあり方を考える。

この授業では、教科書の各章を参考にして小グループで課題研究を行い、その発表とディスカッションで授業を進める。課題は、公害、薬害、労災職業病、原子力、エネルギー、行政、差別、専門家の役割、の中から選び、教科書を参考にしながら、グループ研究のテーマを定め、図書館やインターネットを利用して調査研究を進める。

授業では最初に教科書に沿った講義を行った後、1回の授業あたり2つのグループ発表とディスカッションを行う。授業の詳しい進め方については第1回目の授業で説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・科学的な見方・考え方を身につける。
- ・自分で問題を調べ、考える力をつける。
- ・グループ研究の仕方を身につける。
- ・ディスカッションできるようになる
- ・授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	科学的な見方・考え方とは何か、授業とグループ研究の進め方、グループ分けの希望調査	【キーワード】科学的な見方・考え方、人間、環境、社会、グループ研究
第2回目	課題研究とは何か、グループ分け、チーム・ミーティング(1回目):研究テーマの相談	【キーワード】課題研究、グループ研究
第3回目	課題研究の方法、チーム・ミーティング(2回目):グループ研究の打ち合わせ	【キーワード】課題研究、研究方法、チーム・ミーティング
第4回目	研究発表の方法、チーム・ミーティング(3回目)グループ研究の中間報告、発表日程の確定	【キーワード】研究発表、チーム・ミーティング
第5回目	講義(公害)、グループ研究発表(1, 2)	【キーワード】公害、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第6回目	講義(労災職業病)、グループ研究発表(3, 4)	【キーワード】労災職業病、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第7回目	講義(炭じん爆発)、グループ研究発表(5, 6)	【キーワード】炭じん爆発、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第8回目	講義(環境行政)、グループ研究発表(7, 8)	【キーワード】環境行政、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第9回目	講義(薬害)、グループ研究発表(9, 10)	【キーワード】薬害、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第10回目	講義(内部告発)、グループ研究発表(11, 12)	【キーワード】内部告発、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第11回目	講義(原子力)7グループ研究発表(13, 14)	【キーワード】原子力、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第12回目	講義(エネルギー)、グループ研究発表(15, 16)	【キーワード】エネルギー、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第13回目	講義(差別)、グループ研究発表(17, 18)	【キーワード】差別、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第14回目	講義(専門家の責任)、グループ研究発表(19, 20)	【キーワード】専門家の責任、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第15回目	講義(今期の授業の総括)、グループ研究発表を振り返って	【キーワード】科学的な見方・考え方、人間

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

グループ研究ではチームワークが重要なので、チーム内では携帯メール等で連絡を取り合いながら進めることが必要である。この授業ではコースツールを活用する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	定期試験は行わない。
レポート試験	30 %	グループ発表に対するレポート(発表に対する自己評価とその理由、発表内容に対する自分の意見)の内容で評価する。
平常点評価	70 %	グループ発表の評価(40%)、発表に対する教室でのディスカッションへの参加度(10%)、コースツールでのディスカッション等への参加度(20%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私は大学の授業は教員の一方的な講義で終わってはならないと考えており、どんな授業でも「双方向型の授業」を基本にしている。双方向型の授業とは、教員と学生の間はもちろん、さらに同じ授業を受けている受講生同士のコミュニケーションを大切にする授業のことである。それはまた同時に、お互いに学びあう関係を作ることであり、自ら主体的に授業に参加することでもある。この授業ではグループ研究を通してその目標を達成したいと思う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 環境と人間 公害に学ぶ	木野茂編 / 東京教学社 / 8082-5013-6 / 第6刷(2009.4刊)を使用する。

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

科学的な見方・考え方 (Z)

53002

担当者名 / Instructor 安岡 高志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

情報化の時代にあつては、知識が豊富であることの価値は徐々に減少し、それに代わって、情報を選択する能力や情報をもとに新しいことを構築する能力が価値を持つようになる。この情報を選択する能力や新しいことを構築する能力は主に次の能力を鍛えることで開発される。第一は自分が何をしたいのか自分を明確に把握する能力である。第二は自分の持っている知識をもとに科学的に判断する能力である。第三は情報を総合する能力である。第一の能力を開発するよい方法は自分の考えていることを文章にしてみることである。第二の能力は疑問を持つことにより、第三の能力は法則性を発見することにより開発される。この授業では科学の歴史的事例を題材として、科学者がどのような疑問を持ち、どのような発想をしたかを紹介する。受講生は日常生活において、疑問に思ったことや発見したことを電子掲示板(BBS)に毎週報告していれば、疑問を持ったり、発見する癖が自然と身に着く。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式+スクーリング(1回)で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができる。受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

スクーリングに出席できない場合の課題については別途連絡する。

なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な疑問・発見の書き込みを期待する。他の学生の疑問・発見に積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待する。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は考える習慣が身に付き、無意識の内に何故だろう、こんな法則が潜んでいるのではないかと考えながら生活するようになることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンスおよび私の発見・発明の紹介	気がついたことは発見、工夫したことは発明、酸素を磁石にくっつける方法
第2回	科学的な見方・考え方とは	再現性 価値観
第3回	質量保存の法則の発見	ラボアジエ、天秤、化学反応
第4回	電子・原子の発見	X線 油滴 イオン クーロン力
第5回	スクーリング	
第6回	くらしの中の発見・発明	鉛筆 消しゴム マッチ
第7回	食べ物の発見・発明	チーズ、アイスクリーム、インスタントラーメン
第8回	有機化学の発見・発明	スセルロイド ベークライト ビニール
第9回	医学・薬学の発見・発明	ワクチン 抗生物質 麻酔 ビタミン
第10回	化学工業の発見・発明	硫酸、織物産業、ダイナマイト
第11回	電気の発見・発明	摩擦電気、電池、発電機
第12回	原子力の発見・発明	核分裂、核融合、ウラン
第13回	エジソン	真空管、蓄音機、レントゲン
第14回	ドクター・中松	フロッピーディスク、CD、DVD
第15回	日常に生かす科学的な見方・考え方	能力開発 癖 習慣 見方 考え方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポート(50%、[小レポート20%、最終レポート30%])の評価
平常点評価	50 %	成績評価は日常的な授業への取り組み状況(50%、特に電子掲示板(BBS)への参加状況)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義自身は科学的な見方や考え方を身につけたり、考える習慣をつけるための刺激であり、自主的に参加しなければあまり意味がありません。大切なことは意識的に教室外で探したり、考えたりして、いつの間にかそれが習慣づくことです。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title

発見・発明の大常識

化学工業の発明発見物語

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

板倉 聖宣 監修 / ポプラ社 / /

大沼 正則 編 / 国土社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

科学と技術の歴史 (S)

13456

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人類は、周囲の環境をつくりかえながら、しだいに人口と生産力をまし、技術やそして科学をも発達させ、豊かだが地球規模の環境問題も激化させるに至ってきた。それではこのような人類の歴史において、生産力の発展に大きな役割を果たした技術や科学(自然科学)とは、いったい何か、それを歴史的に、科学史、技術史、および科学と技術の社会史にもとづいて考察することが、この科目の主な目的である。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)地球規模の環境問題の要因とも関連して、人類史においてとくに近代技術による生産力の拡大が果たした役割について、問題意識を持つこと。
- (2)石器の発達、機械の誕生、産業革命など技術史の大きな転換点(イノベーション)について理解を深めること。
- (3)あわせて科学の誕生や近代科学の成立など科学史の基本的な流れについて、理解すること。
- (4)とくに19世紀ドイツにおいて科学と技術の現代的な社会的ありよう(企業研究所と国立研究所など)が成立するプロセスを系統的に学び、企業や国家と科学技術の関わり、その問題点について考察すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	いま歴史から学ぶこと、人類と環境、科学と技術	イースター島の教訓、「緑の世界史」
2	石器づくりの歴史的進歩 古人類学にみる人間と技術	ミッシングリンク、古人類学の進歩、R.リーキー、石器発達史
3	ギルガメッシュ叙事詩	メソポタミア文明、環境破壊と古代文明の崩壊、
4	科学の誕生	ギリシャ科学、アリストテレス、自然学、運動理論と四元素説
5	道具と機械	すきから5つの単一機械まで、道具、機械、機械の誕生
6	「デ・レ・メタリカ」の世界	アグリコラ、マニファクチュア、機械、ヨアヒムシュタールの鉱山、鉱山学
7	もののけ姫の世界	映画「もののけ姫」を読み解く、近代と非近代、タタラ製鉄
8	近代科学の誕生	ガリレオ、ベネチアの造兵廠、斜面の実験、S.ドレイク
9	近代科学の成立	ニュートン、プリンキピア、デカルト、機械論的自然観
10	産業革命とイノベーション	紡錘、紡錘車、ジェニー紡績機、紡績機の三大発明、道具論と機械論
11	イノベーションとファクトリー	アークライト、クロンフォード工場、機械体系、近代的工場制度
12	科学の社会史	D.S.L.カードウェル、経験的発明と科学に基礎づけられた発明、「科学の組織化」、応用科学、イギリス科学の衰退の原因
13	科学と技術の社会史(その1): 模倣	ドイツ産業革命と技術導入、P.C.W.ボイト、産業助成協会、科学技術助成の起源
14	科学と技術の社会史(その2): 転回点	F.リューローと「フィラデルフィアからの手紙」、品質問題としての「鉄と鋼の等級分け」問題、試験と試験研究所、国立研究所の誕生
15	科学と技術の社会史(その3): 「科学大国」への道	企業と研究所、E.アッペとカールツァイス社、ガラス技術研究所、標準・度量衡検定委員会、帝国物理技術研究所、国家・企業と科学技術

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回の授業後、レジュメや配付資料を読み直し、内容と自分の問題意識をよくまとめておくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点評価	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

模倣から「科学大国」へ 科学と技術の社会史

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

宮下晋吉 / 世界思想社 / 978-4-7907-1328-9 /

参考書 / Reference Books書名 / Title

緑の世界史

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

C.ボンディング / 朝日新聞社 / 02-25963-1 /

技術と労働

大沼正則 / 岩波書店 / 4-00-003662-9 /

科学の社会史 イギリスにおける科学の組織化

D.S.L.カードウェル / 昭和堂 / 3040-058916-3474 /

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示する

その他 / Others

現代環境論 (SA)

13258

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業革命以降の科学・技術の急速な発達による社会の生産力の発展と人間の経済活動の拡大は、地域的な産業公害から地球規模に至るまでの深刻な環境汚染を引き起こし、人類の生存さえも脅かしつつある。公害・環境問題の解決は、21世紀の現代社会が抱える緊急かつ最重要の課題の1つであり、とりわけ地球温暖化の危機はもはや一刻の猶予も許されず、環境保全型社会への転換が強く求められている。

本講義では、地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態を概説し、その原因・発生メカニズム・影響などを、自然科学と社会科学の両側面から考察する。具体的には、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染、化学物質汚染、産業公害、廃棄物問題、自然破壊、放射能汚染などの問題について、現代社会や人間活動と関係づけながら論じたい。これらを通して、今日の地球環境問題の克服への課題について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態、その原因・発生メカニズム・影響などを幅広く理解できる。
- ・現代の公害・環境問題が抱えている課題について、自分の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回目)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに - 20世紀の公害・環境問題	本講義の課題、公害問題、環境問題
第2回目	地球と生命の歴史	地球と生命の誕生、超大陸の形成、生物と自然環境の相互作用と進化
第3回目	オゾン層破壊とフロンガス	成層圏オゾン層、南極オゾンホール、紫外線、モントリオール議定書
第4回目	地球温暖化問題(1)	地球温暖化のメカニズム・影響予測・原因、温室効果ガス
第5回目	地球温暖化問題(2)	気候変動枠組条約、京都議定書、気候政策、排出量取引
第6回目	大気汚染と酸性雨	硫酸酸化物、窒素酸化物、環境の酸性化、光化学スモッグ
第7回目	化学物質汚染と環境ホルモン	内分泌攪乱化学物質、ダイオキシン汚染、有機塩素化合物
第8回目	公害問題(1)水俣病	塩化メチル水銀、カーバイド・アセチレン系有機合成工業、石油化政策、水銀による魚介類汚染
第9回目	公害問題(2)イタイイタイ病	カドミウム、発生源対策、まきかえし、未認定患者、カドミウム汚染米
第10回目	廃棄物問題とリサイクル	一般廃棄物、産業廃棄物、廃棄物処理法、豊島産業廃棄物不法投棄事件
第11回目	アスベスト問題とストック公害	中皮腫、クボタ・ショック、複合型ストック公害
第12回目	森林破壊と生物多様性	熱帯林破壊、生物種の絶滅、自然・生物保護
第13回目	放射能汚染と原子力(1)	原子爆弾、放射性物質、核実験、第五福竜丸事件
第14回目	放射能汚染と原子力(2)	原子炉、原子力発電、原発事故、チェルノブイリ
第15回目	まとめ - 21世紀の持続可能な社会への展望	物質代謝、大量生産・大量消費・大量廃棄、環境保全型社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	講義の理解度、論旨の明瞭度などを評価。
平常点評価	10 %	講義中に随時実施する小レポート(感想・意見・質問)などを評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

予備知識は特に必要としないが、高校の教科書(物理・化学・生物・地学など)をよく復習しておくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
地球白書(各年版)	クリストファー・フレイヴィン / ワールドウォッチジャパン / /
アジア環境白書(各年版)	日本環境会議 / 東洋経済新報社 / /
環境展望(Vol.1~5)	日本科学者会議公害環境問題研究委員会 / 実教出版 / /
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / 4422400177 /
日本公害論	加藤邦興 / 青木書店 / 4250770257 /

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

現代環境論 (SB)

13263

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業革命以降の科学・技術の急速な発達による社会の生産力の発展と人間の経済活動の拡大は、地域的な産業公害から地球規模に至るまでの深刻な環境汚染を引き起こし、人類の生存さえも脅かしつつある。公害・環境問題の解決は、21世紀の現代社会が抱える緊急かつ最重要の課題の1つであり、とりわけ地球温暖化の危機はもはや一刻の猶予も許されず、環境保全型社会への転換が強く求められている。

本講義では、地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態を概説し、その原因・発生メカニズム・影響などを、自然科学と社会科学の両側面から考察する。具体的には、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染、化学物質汚染、産業公害、廃棄物問題、自然破壊、放射能汚染などの問題について、現代社会や人間活動と関係づけながら論じたい。これらを通して、今日の地球環境問題の克服への課題について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態、その原因・発生メカニズム・影響などを幅広く理解できる。
- ・現代の公害・環境問題が抱えている課題について、自分の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回目)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに - 20世紀の公害・環境問題	本講義の課題、公害問題、環境問題
第2回目	地球と生命の歴史	地球と生命の誕生、超大陸の形成、生物と自然環境の相互作用と進化
第3回目	オゾン層破壊とフロンガス	成層圏オゾン層、南極オゾンホール、紫外線、モントリオール議定書
第4回目	地球温暖化問題(1)	地球温暖化のメカニズム・影響予測・原因、温室効果ガス
第5回目	地球温暖化問題(2)	気候変動枠組条約、京都議定書、気候政策、排出量取引
第6回目	大気汚染と酸性雨	硫酸酸化物、窒素酸化物、環境の酸性化、光化学スモッグ
第7回目	化学物質汚染と環境ホルモン	内分泌攪乱化学物質、ダイオキシン汚染、有機塩素化合物
第8回目	公害問題(1)水俣病	塩化メチル水銀、カーバイド・アセチレン系有機合成工業、石油化政策、水銀による魚介類汚染
第9回目	公害問題(2)イタイイタイ病	カドミウム、発生源対策、まきかえし、未認定患者、カドミウム汚染米
第10回目	廃棄物問題とリサイクル	一般廃棄物、産業廃棄物、廃棄物処理法、豊島産業廃棄物不法投棄事件
第11回目	アスベスト問題とストック公害	中皮腫、クボタ・ショック、複合型ストック公害
第12回目	森林破壊と生物多様性	熱帯林破壊、生物種の絶滅、自然・生物保護
第13回目	放射能汚染と原子力(1)	原子爆弾、放射性物質、核実験、第五福竜丸事件
第14回目	放射能汚染と原子力(2)	原子炉、原子力発電、原発事故、チェルノブイリ
第15回目	まとめ - 21世紀の持続可能な社会への展望	物質代謝、大量生産・大量消費・大量廃棄、環境保全型社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	講義の理解度、論旨の明瞭度などを評価。
平常点評価	10 %	講義中に随時実施する小レポート(感想・意見・質問)などを評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

予備知識は特に必要としないが、高校の教科書(物理・化学・生物・地学など)をよく復習しておくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
地球白書(各年版)	クリストファー・フレイヴィン / ワールドウォッチジャパン / /
アジア環境白書(各年版)	日本環境会議 / 東洋経済新報社 / /
環境展望(Vol.1~5)	日本科学者会議公害環境問題研究委員会 / 実教出版 / /
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / 4422400177 /
日本公害論	加藤邦興 / 青木書店 / 4250770257 /

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

2005年にアスベスト・パニックともいべき社会問題が突然起こった。2006年は水俣病公式発見から50年目の年であったが、いまだに水俣病問題は終わっていない。有害物質による環境汚染の問題はかつて「公害」として世に知られたが、今や地球環境問題にまで広がっている。

この授業では具体的な事例として、アスベスト、水俣病、薬害エイズ、原子力問題などを取り上げ、それらのトピックスを通して環境問題の中に潜む本質とは何かを考える。

さらに私たちが今後環境問題にどう対応すればよいのかを考えるため、環境問題と日々取り組んでおられる被害者や専門家の当事者の方々にゲストに招き、直接話をさせていただく機会を設ける。

この授業では環境問題の知識を得るだけでなく、環境問題を通して自分で考える能力を磨くことが目的である。講義はそのためのヒントであり、あなた方への問いかけであり、問題提起である。講義を聞いて終わりではなく、始まりであると捉えてほしい。BBS(電子掲示板)でのディスカッションや、レポートもそのつもりで取り組んでほしい。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式とスクーリング(1回)で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進める必要がある。

受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

オンデマンド授業については下記ページを参照すること。ページからはガイダンス動画を見ることもできる。登録前に必ず視聴すること。

URL : <http://www.ritsumei.ac.jp/ondemand/2009/pre-guide-2009gendai.html>

授業スケジュールは下記ページで確認すること。

URL : <http://www.ritsumei.ac.jp/ondemand/2009/2009gendaisch.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 環境問題とは何かを理解する。
- ・ 自分で問題を見つけ、自分で調べる力をつける。
- ・ 調べたことの受け売りではなく、自分で考える力をつける。
- ・ レポートをまとめる力をつける。
- ・ 授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。大学生なら、わからないことはちょっと自分で調べれば大体は理解できるはずである。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス、水俣病事件から学ぶ (公害認定までの長い道のり)	環境汚染、メチル水銀、食物連鎖、水俣病、公害認定
第2回	水俣病事件から学ぶ (被害者の救済と公害の責任)	見舞金契約、被害者救済、加害責任、認定制度、解決策
第3回	公害と労災職業病 (ある町工場のマンガン中毒事件から)	町工場、マンガン中毒、公害と労働者、労働安全衛生、不作為
第4回	公害と労災職業病 (アスベスト・パニックから)	アスベスト、粉じん、潜伏期間、補償と救済
第5回	スクーリング 日程はスケジュールで確認してください。	オンデマンド授業、公害、環境問題、現代環境論
第6回	薬害から学ぶ (薬害エイズは今……被害者の花井十伍さんに聞く)	薬害、血友病、血液製剤、薬害エイズ、告知、エイズパニック、HIV訴訟
第7回	薬害から学ぶ (薬害を未然に防いだ製薬労働者:北野静雄さんに聞く)	新薬、薬害、大鵬薬品、ダニロン、マイルーラ、データ不正、労働組合
第8回	原子力とエネルギー (原子力の光と影 - 原子力は夢のエネルギーだったか)	原子力、原水爆、原子力発電、事故、被曝、原発労働者
第9回	原子力とエネルギー (プルトニウムと私たち:アイリーン・スミスさんに聞く)	プルトニウム、高速増殖炉、もんじゅ、プルサーマル、エネルギー政策、核拡散
第10回	原子力とエネルギー (エネルギーと人間:京大原子炉の小出裕章さんに聞く)	石油、原発、核廃物、エネルギー浪費、不平等、差別
第11回	公害環境問題と差別(公害や環境問題でも差別の問題は避けて通れない)	公害患者への差別、ニセ患者問題、胎児障害、公害と障害、障害者差別、優生思想
第12回	公害環境問題と行政(自治体の現場から:高槻市議員の二木洋子さんに聞く)	環境行政、環境アセスメント、バイオハザード、住民、環境自治体
第13回	公害環境問題と専門家(水俣病と三池炭じん爆発から:熊本学園大の原田正純さんに聞く)	三池炭鉱、炭じん爆発、CO中毒、後遺症、水俣病、胎児性、専門家の責任

第14回	公害環境問題と私たち(さまざまな専門家の役割を問う。原因究明、被害者救済、専門家、良心、責任、私たちでは私たちは?)	原因究明、被害者救済、専門家、良心、責任、私たち
第15回	現代環境論とは?	現代環境論、大学教育

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

- ・第1～第2回目:教科書のはしがき、あとがき、第1章を読んでくる。
- ・第3回目:教科書の第2章を読んでくる。
- ・第4回目:アスベストに関する記事やWebを読んでくる。
- ・第5回目:教科書の第5章を読んでくる。
- ・第7回目:教科書の第6章を読んでくる。
- ・第8回目:教科書の第7章を読んでくる。
- ・第9回目:教科書の第8章を読んでくる。
- ・第10回目:教科書の第9章を読んでくる。
- ・第11回目:教科書の第10章を読んでくる。
- ・第12回目:教科書の第4章を読んでくる。
- ・第13回目:教科書の第3章を読んでくる。
- ・第14回目:教科書の第11章を読んでくる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	定期試験は行わない。
レポート試験	50 %	最終レポート(50%)は「環境と人間」の範疇に入るものであれば、テーマは自由。調べたことをまとめるだけでなく、自分で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。分量は2000字以上。ただし、多ければよいというものではなく、内容がともなっていることが必要である。
平常点評価	50 %	最終レポート以外に、授業コンテンツの視聴確認テスト(5%)、理解度確認小テスト(15%)、指定課題の小レポート(2回、各500字程度、各5%)の日常学習の評価が計30%である。さらに、オンデマンド授業ならではの電子掲示板(BBS)への読み書き参加状況への評価が20%である。この授業では講義を聞くだけで終わらず、講義を題材に自分の頭で考え、それをみんなと意見交換することを重視している。講義を聞いて考えたことをスレッドに立て、それに対してみんなで意見を交換し合うのであるが、これによって同じ講義を聞いても人によって受け止め方がいかに違うかを知ることができる。お互いの違いを知った上で、自分の考えをまとめる力をつけてもらうことが目的である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外学習で記したように、該当する章を講義の前に読んでくること。教科書を読んでいることを前提にして講義を行う。
 また、この授業ではBBSを使って受講生の授業への積極的な参加を求める。同じ講義を聞いても人によって受け止め方がいかに違うかを知ることが自分で考えるための第一歩である。BBSの書き込みに対しては主として教育コーチ(山中由紀氏)が対応する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 環境と人間 公害に学ぶ	木野茂編 / 東京教学社 / 8082-5013-6 / 第6刷(2009.4刊)を使用する。

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。
 必要に応じて授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

現代人とヘルスケア (SA)

13260

担当者名 / Instructor 空閑 佐智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

様々な健康情報・健康問題が取り巻く現代で、「健康に生きる」ということはどういうことなのか、また、これからますます進む高齢化社会とどのように向き合っていくのか、などについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な健康情報・健康問題を知り、「健康」について自分の考えを持つ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	健康ってなんだろう？	平均寿命・死亡率
2	食べることについて(栄養素)	栄養・五大栄養素
3	食べることについて(食生活)	食事摂取基準・食事評価・外食
4	運動について	運動の効果・身体活動量
5	メタボリックシンドローム	診断基準
6	肥満	体脂肪・減量
7	生活習慣病	高血圧
8	生活習慣病	糖尿病
9	生活習慣病	骨粗しょう症
10	タバコ	有害物質・依存症・禁煙
11	アルコール	代謝・パッチテスト
12	健康食品	保健機能食品
13	食品表示	強調表示
14	心の健康	ストレス・心身症
15	これからの高齢社会	高齢化率・認知症

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点評価	40 %	考察や課題など、講義時間中の提出物による評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

第1回目の授業の時に、シラバスならびに授業運営の詳細については説明する。
受講希望者は出席するように。

現代人とヘルスケア (SB)

15505

担当者名 / Instructor 空閑 佐智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

様々な健康情報・健康問題が取り巻く現代で、「健康に生きる」ということはどういうことなのか、また、これからますます進む高齢化社会とどのように向き合っていくのか、などについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な健康情報・健康問題を知り、「健康」について自分の考えを持つ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	健康ってなんだろう?	平均寿命・死亡率
2	食べることについて(栄養素)	栄養・五大栄養素
3	食べることについて(食生活)	食事摂取基準・食事評価・外食
4	運動について	運動の効果・身体活動量
5	メタボリックシンドローム	診断基準
6	肥満	体脂肪・減量
7	生活習慣病	高血圧
8	生活習慣病	糖尿病
9	生活習慣病	骨粗しょう症
10	タバコ	有害物質・依存症・禁煙
11	アルコール	代謝・パッチテスト
12	健康食品	保健機能食品
13	食品表示	強調表示
14	心の健康	ストレス・心身症
15	これからの高齢社会	高齢化率・認知症

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点評価	40 %	考察や課題など、講義時間中の提出物による評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

第1回目の授業の時に、シラバスならびに授業運営の詳細については説明する。
受講希望者は出席するように。

担当者名 / Instructor 山田 喬彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今や日常の必須生活道具となった携帯電話とインターネット。これらの基本となる技術を入門レベルで講義します。担当者は通信技術に関してNTTで25年間研究・実用化を経験し、また本学で15年間研究を行ってきました。皆さんが当たり前のように使っている携帯電話やインターネットはこの期間に発展を遂げたものです。現代の通信技術について基本となる技術だけでなく、その発展の背景についてもなるべく平易に講義するよう努めたいと考えております。

到達目標 / Attainment Objectives

インターネットや携帯電話などの現代の通信技術について、その動作原理を入門レベルで理解する。各技術に関して感覚的でなく、数量で理解する。例えば、光(電波)の速度はどれだけで、では高速の通信では情報1ビット(情報の単位)を送り出す時間に光は何mm進めるのか。意外と光は遅いなどと数値で理解するようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

入門的な科目であり、特にないが、科学啓蒙書にも興味を持つようにしてほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	アナログとデジタル	アナログ信号とその特徴、デジタル信号とその特徴、アナログ - デジタル変換
2	デジタル多重化と光ファイバ通信	時分割多重化技術、多重化と経済性、光ファイバ、光ファイバによる高速通信
3	アナログ交換とデジタル交換、デジタル通信の利点と欠点	アナログ信号の多重化と交換、デジタル回線の交換、各種の通信情報の統一
4	回線交換とパケット交換	パケット交換、回線交換型通信とパケット交換型通信、プロトコル、通信機能の階層化、ユニバーサルサービス
5	インターネットの基本	IPパケット、IPアドレス、グローバルアドレスとプライベートアドレス、
6	LAN (Local Area Network) の技術	放送型通信の通信法、MACアドレス、アドレス解決、衝突回避、ゲートウェイ
7	IPルーティング	インターネットルーティングの思想、自律分散システム、ルーティングアルゴリズム
8	DNS(インターネットの論理名利用)の仕組みと電子メールシステム	DNSの思想、DNSと名前解決、電子メールに含まれる情報、IPアドレスとポート番号、メールシステムの通信手順
9	Webシステム	サーバクライアントシステム、Webシステムの通信手順、インターネットプロトコル(TCP/IP、UDP/IP)、コネクションとコネクションレス
10	通信システム技術(階層化、)	プロトコル、モジュール化、互換性、OSI、インターネット、コネクションとコネクションレス、保証型サービスとベストエフォート型サービス
11	無線通信の基本	デジタル変調・復調、デジタル変調の基本(振幅・周波数・位相)、隠れ端末問題
12	移動通信システム	移動通信網の構成、通信チャネル、通信手順、ゾーン・セル、固定通信と移動通信の相違
13	高速無線通信の問題と解決例	電波伝搬速度、マルチパス、マルチパス遅延、高速パルスと電波伝搬距離、高速化の工夫
14	セキュリティ	盗聴・改ざん・なりすまし、インターネットのセキュリティ問題、暗号、公開鍵、セキュリティプロトコル
15	今後の通信技術の発展	インターネットの問題、次世代通信網、さらにその後(遅延、消費電力、セキュリティ)、無線通信のさらなる高速化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記) 100 % 平常点と同様のマークシートテストを行う。

15回分の平常テストと同等の問題を出す。
平常点を受けたが平常点が十分でないと考えた人は受験しても良い。

平常点評価 100 % 授業終了間に理解度に関するマークシートテストを行う。15回の平均点とする。本テストを受けた人は定期試験を受ける必要はない。

平常点の問い合わせには応じない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

以下に参考書の例をあげるが、本当の入門という本はなかなかない。また、本講義全体を一冊にまとめた本もない。分からない言葉をWebで検索して、段階的に積み上げる必要がある。辞書で見つからない言葉もインターネットでは見つかることが多い。

教科書 / Textbooks

授業に使うスライドは事前にコースツールにあげておく。受講科目登録前にはコースツールにアクセスできないことがあるが、仮登録でアクセスできるようになるので各事務室に尋ねること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
通信のしくみ	井上 伸雄 / 日本実業出版社 / 9784534038937 /
通信の最新常識	井上 伸雄 / 日本実業出版社 / 453403623x /
新・ネットワーク超入門	日経NETWORK編 / 日経BP社 / 9784822212643 /
無線LAN&セキュリティ超入門	日経NETWORK編 / 日経BP社 / 4822212858 /
情報セキュリティ超入門	日経NETWORK編 / 日経BP社 / 9784822212827 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

分からない言葉はgoo, google, yahooなどの検索システムで自分で検索する習慣を身につけること。

その他 / Others

自然人類学 (S)

13257

担当者名 / Instructor 足立 薫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

私たち人間が生物としてどのような特徴をもち、同種や他種の生物との間にどのような関係を結びつつ生きているのかを考える。人間に近縁な霊長類の行動や生態への理解から、人類進化を解明する方法を紹介し、さまざまな人間らしさの起源を探ることを目標とする。

到達目標 / Attainment Objectives

進化論の基本を知り、進化のしくみを理解する。人間の行動や社会の特徴を、他の動物(とくにほかの霊長類)と比較して、人類進化の観点から論じることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	人類学 動物 環境 「人間とは何か」
第2回	霊長類とは何か	生物の分類 分布 社会構造
第3回	サルと類人猿	近縁種 分岐分類 動物の権利
第4回、第5回	進化論とは何か	自然選択 ダーウィン 総合説 系統進化 進化心理学
第6回、第7回	人類の起源と進化(1)	直立二足歩行 アウストラロピテクス 脳の進化
第8回	人類の起源と進化(2)	ホモ・エレクトス アウト・オブ・アフリカ 更新世
第9回	人類の起源と進化(3)	現代人の起源 ネアンデルタール
第10回	行動学と進化	行動の機能 血縁度 包括適応度
第11回	繁殖と性	性淘汰 配偶者選択 家族の起源
第12回	道具使用と文化	行動の社会的伝達 類人猿の道具使用 伝統
第13回	言語の起源	霊長類の音声 類人猿の言語研究
第14回	コミュニケーションと進化	社会構造 システム理論 ニッチ構築
第15回	人間の社会	狩猟採集民 文化 宗教

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	論述形式
平常点評価	50 %	レポート、小テスト、レスポンスペーパーなど

定期試験に日常点を加味して、総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生物学の予備知識は特に必要としないが、講義で示されるトピックをもとに、「人間とは何か」について、論理的に深く考えることが求められる。講義に関する諸注意の伝達にWebCTを使用するので、各自でアクセスできるようにしておくこと。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。講義中に資料プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都大学理学部人類進化論研究室 <http://jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp/>
 京都大学霊長類研究所 <http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

その他 / Others

講義の進展状況によって授業内容・スケジュールは変更の可能性があるため、WebCTなどのお知らせをチェックすること。

自然と進化 (S)

15501

担当者名 / Instructor 本郷 儀人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目標は、生物進化の基本となる自然淘汰の仕組みを理解することである。さらにその考え方を基盤として、動物にみられる様々な現象を理解してゆく。

到達目標 / Attainment Objectives

生物進化の基本的なしくみ、自然淘汰を学ぶ。
動物の行動や形態などを、進化学的にとらえ、
いかによくできているかを理解してもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	授業内容、進め方など
第2回	自然淘汰と進化1	ダーウィン、行動生態学、適応度
第3回	自然淘汰と進化2 -進化は観察できる！ なぜそんな行動が進化する？ 進化の実例-	アノール、ライオン、子殺し
第4回	自然淘汰と進化3 -「種の利益のために」はあり得るか？ -	ライオン、ハヌマンラングール
第5回	群れ生活の進化	警戒性、うすめの効果、防衛効果
第6回	最適戦略	最適採餌戦略
第7回	性淘汰1	同性内淘汰、異性間淘汰
第8回	性淘汰2	求愛行動
第9回	代替戦略	行動の多型、形態の多型
第10回	信号の進化 -コミュニケーション-	化学的、触覚的、聴覚的、視覚的信号
第11回	共進化と軍拡競争	捕食者、餌生物、隠ぺい色、警告色、托卵
第12回	動物の闘争	儀式的闘争、ゲーム理論
第13回	血縁淘汰	包括適応度、社会性、利他行動
第14回	まとめ1	質問回答編 鋭い質問や面白い質問をとりあげる
第15回	まとめ2	全体の復習、総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

身近にいる動物にみられる不思議な現象をさがしてみよう

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
レポート試験	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義内容を覚えるのではなく、理解することを心がけて下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
進化とはなんだろうか	長谷川真理子 / / ISBN4-00-500323-0 /
動物の社会	伊藤嘉昭 / / /
クジャクの雄はなぜ美しい？	長谷川真理子 / / /
全て強制ではない(買う必要はない)	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

スポーツのサイエンス (S)

13256

担当者名 / Instructor 漆原 良

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近年、プロスポーツ選手のプレーをスローで再生しながら解説するテレビ番組など、多くの人にとってスポーツや運動のサイエンスに触れる機会は増えている。しかし、実際にそれらの情報を正しく理解し、自分たちの健康維持や競技力向上に十分利用できている人はそう多くはない。

そこで、本講義では、受講者が自身の日常生活で経験する運動、スポーツに科学的な取り組みを応用できるようになることを目的として、運動やスポーツのサイエンスを理解するための基礎的な知識や実際のトレーニング方法について解説するとともに、いくつかの身近なテーマについて、実際の科学的な観察を通して考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

日常生活の中で経験する運動やスポーツに対してサイエンスとしての視点をもって観察し、取り組むための基礎的な知識について理解し、自身で応用するための基盤を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入、講義内容の概説	スポーツサイエンス
2	運動を行うための仕組み1	骨格筋の収縮、速筋線維、遅筋線維
3	筋力トレーニング1	フォーム、部位による違い
4	筋力トレーニング2	強度設定、負荷による違い
5	身体組成とダイエット	体脂肪、生活習慣病
6	運動を行うための仕組み2	呼吸、循環、代謝
7	有酸素運動1	健康維持のための運動、心拍数
8	有酸素運動2	インターバルトレーニング
9	トレーニング計画	トレーニングの原則
10	身近なデータを用いて考える1	サッカー、シュート決定率
11	身近なデータを用いて考える2	陸上競技
12	運動を調整する仕組み	神経、脳
13	技術トレーニング	スキル
14	スポーツと運動の違い	合目的性
15	まとめ	復習、質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で学んだことを自分たちの日常生活の中で実践して試してもらうために、定期的に授業内容を整理するための簡単な課題を課すことができるので、常に授業内容について自ら考えておいてもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	運動やスポーツを科学的な自らの力で観察し、自らの言葉で論理的な記述ができる。
平常点評価	30 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義では講義室内でできる程度の範囲で、自分の身体の機能を自分で測定したり、実際のトレーニング方法を体験してもらうことおよびそれに基づく学生間での討論を行うことを予定している(受講者数によっては変更になる可能性がある)ため、常に積極的な姿勢でのぞんでもらいたい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

必要に応じて講義内で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

生物の多様性 (S)

13340

担当者名 / Instructor 佐藤 路子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地球上には海洋、森林、高山、砂漠など様々な環境が存在し、それぞれに適応した様々な生物が生息している。そして、同じ環境に生息している生物であっても、生活を営む方法は種それぞれで違っている。本講義では様々な生物やその営みを紹介し、なぜたくさんの種類の生物がいるのか、どうやって様々な生活の営みが作り上げられてきたのか、その多様性はどのように維持されているのかについて、進化的な側面を交えながら、環境と生物の関係および生物間関係に着目して解説する。また近年の生物多様性の危機や環境保全についても解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・動物や植物の生態や進化のメカニズムについて説明ができる
- ・環境保全についての基礎を修得する
- ・生物に関連する社会問題の情報を得て、対策を考える

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理解を深めるために「自然と進化」を合わせて受講されることをおすすめします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業内容の紹介・受講のルール・評価方法について	
第2回	生物多様性の概念と階層性	個体、個体群、群集、形質、変異、多型
第3回	種多様性と種の形成 その1	種概念、分類、種の表記法
第4回	種多様性と種の形成 その2	進化、自然淘汰
第5回	種多様性と種の形成 その3	進化、性淘汰
第6回	種多様性と種の形成 その4	種分化のしくみ、生殖隔離機構、適応放散
第7回	環境と生物の関係・生物間関係 その1	生態系のしくみ、無機的環境と生物の関係
第8回	環境と生物の関係・生物間関係 その2	生物間相互作用、食う・食われるの関係、軍拡競争
第9回	環境と生物の関係・生物間 その3	相利共生、寄生、共進化、競争
第10回	生物多様性の重要性和現状	絶滅のパターン、生物多様性の価値、生態系サービス
第11回	生物多様性の保全 その1	生息地の破壊、分断化
第12回	生物多様性の保全 その2	環境汚染、環境ホルモン、地球温暖化
第13回	生物多様性の保全 その3	移入種、外来種、交雑
第14回	生物多様性の保全 その4	乱獲、病気、遺伝的変異の減少
第15回	各講義テーマのおさらい、練習問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な語句や概念を理解しているか、現象の原理が説明できるかを評価する。応用力も問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・普段から新聞の科学欄を読んだり、自然科学系のテレビ番組(NHK「ダーウィンが来た」等)を見たりして、生き物に対する意識を高めておくといでしょう。
- ・講義にて配布済みのレジュメはWebCTでダウンロードできます。

教科書 / Textbooks

購入する教科書は特にありません。毎回プリントやビデオなどで解説します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生態学入門	日本生態学会 / 東京化学同人 / 4807905988 / 第1-9回に関連
生き物の進化ゲーム	酒井聡樹・高田壯則・近雅博 / 共立出版 / 4320055225 / 第4-5回に関連
保全生物学のすすめ	リチャードB.ブリマック・小堀洋美 / 文一総合出版 / 4829921161 / 第10-14回に関連

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で適宜紹介します。

その他 / Others

生命科学と倫理 (S)

13447

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

生命科学と先端医療の急激な発達により、「生・老・病・死」の諸相は大きく変容しようとしている。本講座では、生命倫理の問題群の倫理的・法的・社会的な問題を考えるが、とくに先端医療の発達と「生命のはじまり」をめぐる生命倫理問題に焦点を当て、そこから考察を発展させる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・生命科学と倫理をめぐる現代的課題を検討し、初歩的な調査ができる。
- ・一市民としてどのように問題を理解し対処すべきか、判断するための基盤を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション / 授業の概要と解説	
2	近未来における生と死～映画『ガタカ』視聴	
3	近未来における生と死～映画『ガタカ』より論点抽出	
4	遺伝子決定時代の到来?～ポスト・ゲノム時代の「生・老・病・死」	
5	人工生殖技術の現在(1) 生殖技術の歴史	
6	人工生殖技術の現在(2) 生殖技術の現状	
7	ベビーM事件	
8	代理出産契約の是非 / 親権・養育権	
9	代理母契約の背景	
10	分裂する父性・分裂する母性	
11	出生前診断の波紋	
12	優生学と新優生学	
13	再生医療と人体の資源化	
14	治療を超える?	
15	まとめ: 生殖技術が問いかけるもの	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

生命科学と生命倫理に関連する問題は、ドキュメンタリーや新聞などで日常的に話題になる。また、医療問題をとりあげた映画やTVドラマも多い。複眼的な視点で活用し、自らの問題意識を深める機会にしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点評価	40 %	出席の他、授業終了後に、毎回、コミュニケーション・ペーパーの提出を求める。
一定以上の出席が無い場合、評価対象としない 授業中の私語、途中入退中は厳禁します		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生命倫理とは何か	市野川容孝編 / 平凡社 / /
テーマ30 生命倫理	生命倫理教育研究協議会 / 教育出版 / /
他に、参考となる文献や情報については、授業中に適宜プリントほかで配布、紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の概要 / Course Outline

地球変動学

地球表層で生起しているさまざまな変動についてプレートテクトニクスを基礎として理解することを目指す。

はじめに地球についての全体像を解説するほか、現在の地球表層の自然環境がどのように変化して出来上がってきたかを概観する。その後、プレート同士の相互運動により、プレート境界周辺で集中的にさまざまな変動が起きることを学ぶ。

とくに日本列島とその周辺は、世界的に見てもプレート境界で起こる諸現象、すなわち変動がとくに集中しているところである。そこで日本列島の形成と現在生起している変動の特徴についても学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

地球の全体像と共に、地球の各部分が相互に関連して全体が成り立っていることを理解し、説明できる。

地球科学の特殊性を理解すると共に、物理や化学といった面から地球を理解し、説明できる。

地球科学全般にわたる基本的な知識、考え方を習得し、説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに - 地球システムについて	岩石圏、地殻、マントル、核、プレート、水圏、大気圏、磁気圏、生物圏
2	地球と太陽系の誕生と進化	原始太陽系星雲、微惑星、衝突クレーター、潮汐力、成層構造
3	地球表層環境の進化	海、生命の起源、生物進化、酸化的大気、光合成、太陽定数、熱平衡、温室効果、気候変動
4	地球のかたちと重力場	回転楕円体、水平、ジオイド、重力
5	地震波でわかってきた地球の内部構造	地震波、P波、S波、地震波の反射と屈折、走時曲線、地殻、マントル、中心核
6	地球の構成物質 - 元素・鉱物・岩石	元素、鉱物、岩石
7	地震と火山の発生するところ	地震活動、火山活動、大地形、海底地形
8	プレートの概念と球面を動くプレートの運動	大陸移動、海底拡大、海底更新、球面プレート、プレート境界、プレュームテクトニクス
9	地球の磁場 - 現在と過去	地磁気、偏角、伏角、地心磁気双極子、古地磁気、岩石磁気、地磁気の逆転
10	プレート運動の推定 - 岩石・地層に記された昔の地球磁場の記録	古地磁気、地磁気の逆転、見かけの古地磁気極の移動
11	岩石・地層の年代測定	相対年代、古生物の進化、生層序による年代区分、放射性元素、放射崩壊、放射年代決定
12	プレート境界に働く力 - 地震の発生メカニズム	応力分布、プレート運動、地震波初動、地震発生のメカニズム、断層の型
13	プレート境界で起こる変動	発散境界、収束境界、すれ違い境界、地震活動、火山活動、マグマの発生
14	日本列島のテクトニクス	沈み込み、島弧、圧縮場、活断層、地震活動、海溝型巨大地震、内陸直下型地震、火山活動
15	日本列島の形成	沈み込み、島弧、付加体、背弧海盆

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

参考書等による復習が必要。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100 % 基本的な事項の理解とその応用を問う。原則として論述問題を主に課す。

授業では時間の都合で扱いきれなかったトピック的なテーマについてショートレポートを課すことがある。原則として定期試験だけで成績評価をするが、もしレポートを課した場合は、20%を目安としてレポート点とし、定期試験との合計で100%とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

高校地学の知識は要しない。数学・物理・化学等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。

授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
使用しない。	/ / /

次の2つ(部分)は便利な参考書である。
 ニューステージ新訂地学図表 浜島書店編集部編著 浜島書店 4-8343-4007-4 役に立つ図表集。
 理科年表 平成21年版 国立天文台編 丸善 978-4-621-08046-7 データブック。一部が参考になる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説地球科学	杉村新・他編 / 岩波書店 / 4-00-005669-7 / 講義内容全般に関連する基本事項を調べるのに便利な参考書
地球科学入門 - プレートテクトニクス	河野長 / 岩波書店 / 4-00-005667-0 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書
グローバルテクトニクス	杉村新 / 東京大学出版会 / 4-13-062116-5 / 講義内容全般に関連するやや高度な教科書風の参考書
地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム	酒井治孝 / 東海大学出版会 / 4-486-01615-7 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書
惑星科学入門	松井孝典 / 講談社学術文庫 / 4-06-159222-X / 講義内容の一部に関連する参考書

その他、講義内容の一部に関連する参考書

安藤雅孝・吉井敏尅「地震 - 理科年表読本」(丸善, 1993)4-621-03831-1
 藤田和夫「変動する日本列島」(岩波新書, 1985)4-00-420306-6(絶版?)
 松田時彦「活断層」(岩波新書, 1995)4-00-430423-7
 平朝彦「日本列島の誕生」(岩波新書, 1990)4-00-430148-3
 Kenneth J. Hsu 高柳洋吉訳「地球科学に革命を起こした船 - グローマーチャレンジャー号」(東海大学出版会, 1999)4-486-01460-X
 土木学会関西支部編「地盤の科学 地面の下をのぞいてみると・・・」(講談社ブルーバックス, 1995)4-06-257088-2
 池田安隆・他「活断層とは何か」(東京大学出版会, 1996)4-13-063309-0
 寒川旭「地震考古学 遺跡が語る地震の歴史」(中公新書, 1992)4-12-101096-5
 上田誠也「プレートテクトニクス」(岩波書店, 1989)4-00-005929-7
 瀬野徹三「プレートテクトニクスの基礎」(朝倉書店, 1995)4-254-16029-1
 寒川旭「地震の日本史 大地は何を語るのか」(中公新書, 2007)978-4-12-101922-6

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国土地理院、気象庁、産業技術総合研究所地質調査総合センター、防災科学技術研究所などのホームページ

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

車のCMを見ていて、車のホイールが、進行方向とは逆に回転しているのを見たことはないだろうか。これは、アナログからデジタルに変換する過程で起こる、情報の欠落によるのであるが、おわかりだろうか。

また、人間の未来は、多くの可能性を秘めており、不確定であるが故に、可能性を過大に評価していないだろうか。我々人類が得ることのできる知識の限界や、量をはかり、提示することはできるのであるか。

コンピュータを利用した技術は、日進月歩の進展を見せており、人工知能や人工生命あるいはロボットなど、情報に関わる技術は、映画「2001年宇宙の旅」や「マトリックス」のように、人類を脅かすものとなっていくのだろうか。コンピュータの能力は人間の能力に匹敵するものなのだろうか。このような答えの一端をこの授業で明らかにしていく。

到達目標 / Attainment Objectives

情報化とはどのようなことか。また、情報化の進んでいく方向を見極める目を養うことを目的とし、情報処理のメカニズムについて理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 情報科学で扱うこと	キーワード 情報 表現 処理 アナログとデジタル 連続と離散
第2回	テーマ 情報概念出現の歴史的背景と科学的背景	キーワード 物質 エネルギー 情報 汎用化
第3回	テーマ 情報とネット社会の現状	キーワード 世界的盗聴システム エシロン 情報の表現と人類の限界 情報公開とプライバシー保護
第4回	テーマ 情報の表現をどのようにするか	キーワード 符号化と復号化 暗号 個人認証
第5回	テーマ 最適な情報の表現について考える	キーワード コンパクト符号 ハフマンの符号化法 情報の圧縮
第6回	テーマ 情報の価値を科学的に量るために	キーワード 情報量 エントロピー 生起確率
第7回	テーマ 情報量を求めてみる	キーワード TV 光の三原色 DVD CD サイコロ
第8回	テーマ 機械的情報処理のメカニズム	キーワード 人工生命 複雑系 オートマン セルオートマン
第9回	テーマ オートマトンによる情報処理の表現	キーワード 状態図 オートマトンによる認識 形式言語
第10回	テーマ 生物の情報処理のメカニズムを真似て	キーワード 脳 マカロックとピッツ 神経回路網 人工知能 生物知能 自動機械
第11回	テーマ コンピュータの原理を考える	キーワード チューリングマシン コンピュータ
第12回	テーマ 人間と計算機の情報処理能力の比較	キーワード チューリングテスト ゲーデル
第13回	テーマ 人間とコンピュータの情報処理能力を比較する2	キーワード 人間の能力 計算機の能力
第14回	テーマ 人間とコンピュータの情報処理能力を比較する3	キーワード クリーニーの定理
第15回	テーマ 授業で扱った内容の関係について整理	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Turing Testなど授業中に随時レポートを指示します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業全般にわたっての理解を確認する
平常点評価	30 %	授業の進行に従って、問題を出題し、正解が出れば加点する。出席も重視

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書に沿って授業を行う。積み上げ式なので、授業を遅れたり休んだりすると理解しにくい。また、問題には積極的にチャレンジして欲しい。授業を毎回まじめに聞くことが重要。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

情報学概論・Prologプログラミング

吉田要 / 八千代出版 / 4-8429-0874-2 / 生協書籍部にて

授業は教科書に沿って

参考書 / Reference Books

授業中随時

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報技術と社会 (S)

13304

担当者名 / Instructor 杉本 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会は急速に情報化社会に移行している。すなわち、大量生産による効率向上を目指した社会から、個性化重視の情報化社会に移りつつある。

本科目では、情報化社会を支える情報技術について学ぶとともに、情報技術によって人々の社会生活がどのように変わってきているのかを、具体的な例をあげて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.情報社会を支えるコンピュータおよびネットワークの基本的な仕組みを理解し、説明できる。
- 2.情報技術を活用した製品やサービスが社会に与える影響について理解し、説明できる。
- 3.情報社会の進展にともなう課題とその対策について理解し、説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報処理、情報リテラシーの技術を身につけているとより理解が深まるが、本科目を履修する上においては必須ではない。レポートの提出に利用する予定であるWebCT等の詳細な使い方は授業の中で説明する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入(授業の進め方、評価方法、WebCTについて)、情報技術とは	IT, ICT
第2回	ハードウェアの基礎	コンピュータの歴史、コンピュータの5大装置
第3回	ソフトウェアの基礎	ソフトウェアの分類、ユーザビリティ、アクセシビリティ
第4回	ネットワークの基礎(1)	インターネット、World Wide Web、TCP/IP
第5回	ネットワークの基礎(2)	パケット、DNS、ルーティング
第6回	ネットワークの活用(1)	ブログ、RSSフィード
第7回	ネットワークの活用(2)	Wiki、SNS、CGM、Web 2.0、ロングテール
第8回	中間のまとめ	これまでのまとめと復習の演習問題、レポート課題の出題
第9回	ビジネスにおける情報技術の活用	インターネット広告、SEO
第10回	ICタグ	RFID、ICタグ、ICカード
第11回	行政における情報技術の活用	電子政府、電子自治体、電子投票
第12回	医療分野における情報技術の活用	CTスキャナ、MRI、病院情報システム、電子カルテ
第13回	情報技術と著作権	著作権、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス
第14回	情報技術とセキュリティ	個人情報の保護、コンピュータウイルス
第15回	最新の技術動向とまとめ	授業で取り上げたテーマのまとめと最新の技術動向について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業を受講する前に閲覧・利用が望まれるWebサイト等がある場合は、事前に指示する。

授業の内容を復習するとともに、授業で紹介したWebサイトやサービスを、マルチメディアルーム等で可能な限り実際に利用して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	75 %	(1)授業で説明した情報技術やそれらを用いた製品・サービスの基本的な知識を問う。 (2)授業で説明した情報技術を用いた製品・サービスが社会に与える影響(長所、短所、問題点など)について説明できるかを問う。
平常点評価	25 %	(1)与えたテーマ(課題)について実際のWebサービス等を利用し、その長所・短所や問題点の指摘および改善のための提言ができていないかを問うレポートを課す。(課題内容は第8回頃に授業中に説明する。WebCTを使って提出を受け付ける予定である)[15%] (2)授業中の発表等、授業への参加を考慮する[10%]

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「参考になるWWWページ」で紹介している情報技術に関するニュースサイトを閲覧するなどして、日頃から情報技術に関するニュースに関心を持って欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

授業中に適宜プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報倫理	木暮 仁 / 日科技連出版社 / 978-4817192837 / 情報化社会全般に関する参考書であるが、特に、著作権、セキュリティに関して詳しく説明されている。

上記のほかにも、授業中に適宜、参考文献を紹介する予定である。
授業で取り扱う各テーマについて、さらに詳しく知りたい人はぜひ読んでほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日経BP記事検索サービス : <http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/>
(日経BP社発行雑誌のバックナンバーの全文記事検索サービス。授業内容に関連した記事を紹介するので利用して欲しい)

[情報技術に関するニュースサイト]

IT media ニュース : <http://www.itmedia.co.jp/news/>

CNET Japan : <http://japan.cnet.com/>

ITpro : <http://itpro.nikkeibp.co.jp/>

[情報技術の用語辞典サイト等]

IT用語辞典 e-Words : <http://e-words.jp/>

ASCII.jp - アスキー デジタル用語辞典 : <http://yougo.ascii24.com/>

誰でもわかる! パソコン用語 : <http://support.microsoft.com/gp/glossary/>

上記サイトの他にも、参考になるWebサイトやWebページ(記事)を授業の中で紹介する。

その他 / Others

情報の数理 (GA)

15532

担当者名 / Instructor 福本 善洋

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ものの集まりである集合の表記法から始め、ものとの間の関係や対応付けをグラフで表現するための基礎を学ぶ。さらに、道路交通網、通信ネットワーク、電気回路網をはじめとしたネットワークを数学的にモデル化したグラフ・ネットワークを対象とし、最短路問題、最大流量問題、並びに電気回路網の解析の基礎を扱う。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークにまつわる具体的な問題を抽象的なグラフの問題として表現し、最適な解を求めるための基礎を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校における数学 , , A, Bを理解していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	集合	要素、集合、集合の演算
2	関係とグラフ	順序対、直積、関係、グラフ、逆関係、関係の演算
3-4	関係の性質	反射性、対称性、推移性、順序関係、同値関係
5-6	対応付け	対応付け、関数、逆関数、合成関数
7-8	グラフ・ネットワーク	ネットワーク、接続関係、路と閉路、頂点の次数
9-10	最短路問題	路の長さ、最短路問題、最適性の原理、ダイクストラ法、最短路木
11-12	最大流量問題	流れ、容量、流量、最大流量問題、カット、増大路法、残余回路網
13-15	電気回路網	電流、電圧、抵抗、キルヒホッフの法則、オームの法則

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

板書、および配付資料による。授業後は、ノートや配付資料をみて、できるだけ自分で手を動かして理解するように。わからないときは、参考書で調べたり、質問をするようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	具体的な問題に対し、諸概念を正しく用いて解くことができるかを評価する。
平常点評価	40 %	諸概念を体系的に捉え、具体的な問題の解法を正しく説明できるかを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

概念を理解し記号を正しく用いるようにしましょう。そして、具体的な問題を抽象化し、実際に応用できるようになることが大切です。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
コンピュータサイエンスのための離散数学入門	C.L.Liu (成嶋弘、秋山仁 共訳) / オーム社出版局 / 4-274-13007-X /
岩波講座インターネット第5巻 ネットワーク設計理論	滝根哲哉、伊藤大雄、西尾章治郎 / 岩波書店 / 4-00-011055-1 /
分割の幾何学 デーンによる2つの定理	砂田利一 / 日本評論社 / 4-535-78306-3 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

数理の世界 (GA)

15362

担当者名 / Instructor 福本 善洋

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

物事の定量的な考察に必要な数学の基礎を身近な具体例から学んでいく。0の発見にはじまり、円錐曲線と惑星の軌道、情報と計算機の発熱、結晶群とエッセーの絵など、真理の探求と応用において発展してきた数学の世界と社会や芸術との接点を調べてみる。

到達目標 / Attainment Objectives

定規やコンパスを用いた作図や多面体の作成など、実際に手を動かしながら、結論よりもそれまで過程を丁寧に考えていくことにより、様々な問題に対する応用力を身に付けることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校における数学 , , A, Bを理解していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	0の発見	自然数、0、負の数
2回	単位と測定	有理数、測定、誤差
3回	定規とコンパスによる作図	公理、公準、命題、ユークリッド幾何学
4回	自然界や芸術に潜む黄金比	黄金比、フィボナッチ数列、無理数
5回	つるかめ算	変数と方程式、関数とグラフ
6回	三角測量	三角比、円周率、三角関数
7回	惑星の軌道と円錐	デカルト座標系、平面二次曲線、座標変換、円錐曲線
8回	丁半で一儲け	事象と確率、確率変数、期待値と分散
9回	バクテリアの増殖と年代測定	指数関数、対数関数
10回	気圧の高度変化	微分方程式、ネビアの数
11回	自乗すると負になる数	複素数、オイラーの公式、代数学の基本定理
12回	情報駆動エンジン	メッセージ、自由エネルギー、計算の熱力学
13回	多面体とあそぼう	多面体、展開図、オイラー標数、オイラーの多面体定理
14回	エッセーの絵とペンローズ・タイリング	運動群、基本領域、結晶と準結晶
15回	てまりの宇宙	球面上の幾何学、正多面体群

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

パワーポイント、板書、および配付資料による。授業後は、ノートや配付資料をみて、できるだけ自分で手を動かして理解するように。わからないときは、参考書で調べたり、質問をするようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	具体的な問題に対して、諸概念を正しく用いて解くことができるかを評価する。
平常点評価	40 %	現実的な課題の実践を通じて、概念や手法を筋道を立てて説明できるかを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

数学は、自分自身で絵を描いたり計算したりして実感することが大切です。そして、学んだことが身近な問題にどのように応用できるかを考えるようにしましょう。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
直観幾何学	D.ヒルベルト, S.コーンフォッセン(芹沢正三 訳) / みすず書房 / 4-622-02451-9 /
ファインマン計算機科学	A.ヘイ, R.アレン編(原康夫, 中山健, 松田和典訳) / 岩波書店 / 4-00-005941-6 /
黄金分割 ピラミッドからル・コルビュジェまで	柳 亮 / 美術出版社 / 4-568-30024-X /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

統計学 (S)

15565

担当者名 / Instructor 小池 行弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

統計学は、多数の資料を整理しその傾向を探るための方法であり、社会調査などから得た標本をもとに母集団のありさまを推測するために活用されています。この講義では統計学の基礎的な手法を学ぶことを目的としています。ほとんどの学生にとっては、これまでに統計学を学ぶ機会は少なかったと思われるので、受講にあたり特別な予備知識は必要としていません。

到達目標 / Attainment Objectives

資料の整理と統計的な分析を、社会科学において運用できる能力を習得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	種々の平均値	平均値 中央値
第2回目	代表値	平均 分散 標準偏差
第3回目	度数分布表	加重平均
第4回目	標準化	Zスコア 偏差値
第5回目	順位	四分位数 百分位数 ローレンツ曲線 ジニ係数
第6回目	相関	正の相関 負の相関 相関係数
第7回目	回帰分析(1)	単回帰 最小2乗法
第8回目	回帰分析(2)	重回帰 決定係数
第9回目	確率変数	確率変数の期待値
第10回目	二項分布	二項係数
第11回目	正規分布	二項分布の正規近似
第12回目	母集団と標本	母平均・母分散の推定
第13回目	区間推定	大数の法則
第14回目	仮説検定	帰無仮説 対立仮説 有意水準
第15回目	復習と試験の概要	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内で行った演習問題と同程度のもの
平常点評価	30 %	毎回授業の後半に演習問題を課します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

毎時授業ごとにテキストを配布します

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

教養ゼミナール(1)

52004

担当者名 / Instructor 保坂 芳男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【英語名人の学習法研究】

昨年2008年は日本人が英語を始めてちょうど200年の記念すべき年であった。このゼミでは、この200年間に日本人がいかにして英語を学んできたかを学習する。ゼミの前半では、英語教育・学習の歴史の概論を学ぶ。次に、明治から現代までの英語名人(ジョン万次郎や津田梅子ら)のうち、1人を取り上げ、業績や英語学習法を紹介してもらい。最終的には、自分の英語学習法の見直しにつなげて欲しい。取り上げる英語名人に関しては、前半の歴史概論を学習する過程で決定したい。また、学生の出身地(郷土)の偉人(英語名人)を取り上げても構わない。他にはTOEFLやTOEIC対策をまとめてくれてもいい。

概論のまとめ、英語名人の研究など基本的には学生のプレゼンを中心とした授業である。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、約200年間の英語教育・学習の歴史を学び、その時代背景とともに全体的な流れをつかんで欲しい。次に、明治以来の英語名人を取り上げ、その個人の業績・業績学習歴を報告してもらい。最後に、自分の英語学習歴を見直し、英語力向上につなげて欲しい。最終的には、主体的に英語が学べる自律した学習者を目指して欲しい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	オリエンテーション、英語教育史概論(1)日本人にとっての英文法	講義
2回目	英語教育史概論(2)英語教授法の歴史	講義
3回目	英語教育史概論(3)英語教科書の歴史、NSの採用の歴史、英語教育行政の歴史	講義
4回目	英語教育史概論(4)英語教授法の歴史1	グループ討論
5回目	英語教育史概論(5)英語教授法の歴史2	グループ討論
6回目	学生のプレゼン(1)	質疑応答
7回目	学生のプレゼン(2)	質疑応答
8回目	学生のプレゼン(3)	質疑応答
9回目	学生のプレゼン(4)	質疑応答
10回目	学生のプレゼン(5)	質疑応答
11回目	ゲストスピーカー講演	聴講
12回目	学生のプレゼン(6)	質疑応答
13回目	学生のプレゼン(7)	質疑応答
14回目	学生のプレゼン(8)	質疑応答
15回目	検証テスト、総括	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	約6割を授業内でのプレゼンで評価する。残り4割は検証テストで評価する。詳しくは、受講人数が決まってから授業の中で指示する。

このクラスは教養ゼミなので、授業は基本的には学生の発表を中心とする。履修の人数によって、その後の授業内容(プレゼンの計画など)が変わる可能性が高いので、最初の授業には必ず出席すること。ゼミの性格上、4回以上欠席した場合やプレゼンを行わなかった場合などは、原則単位を認定しません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学問に王道なしとはよく言ったものです。だからこそこれだけ文明が発達した現代でも絶対的な外国語習得法は見つかっていません。重要なことは、このゼミを通じてさまざまな学習法を知り、自分の英語学習に生かすことです。多くの学習法から自分にあった学習法を見つけて実践することです。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

日本の英語教育200年

伊村元道 / 大修館 / 4-469-2448-4 /

英語達人塾

斉藤兆史 / 中公新書 / 4-12-101701-3 /

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
間違いだらけの英語学習	近江誠 / 小学館 / 4-09-387567-7 /
日本人に一番合った英語習法	斉藤兆史 / 祥伝社 / 4-396-50073-4 /
英語達人列伝	斉藤兆史 / 中公新書 / 4-12-101533-9 /
よりよい外国語学習を求めて	竹内理 / 松柏社 / 4-7754-0052-5 /
英語学習7つの誤解	大津由紀雄 / 生活人新書 / 978-4-088229-0 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>**その他 / Others**

教養ゼミナール(2)

60276

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「ボランティアを科学する」

「ボランティア」とは、社会や自然環境、地球が抱えるさまざまな課題解決のために、自らの意思に基づき進んで関わりを求めようとする人を指します。ゼミでは、各自の専門や問題関心を融合させながら、ボランティアの可能性や限界について理解を深めます。特に、社会と自分の「いま」を見つめ、「これまで」を振り返り、さらに私たちの「これから」を見通す力につながる学習コミュニティを目指します。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

「ボランティア」の可能性と限界を理解し、「ボランティアとは何か」という問いに対する自分なりの答えを見つけることが目標です。ボランティア活動経験の有無は問いません。また、「ボランティアって素敵！だからもっと勉強したい！」という人だけでなく、「ボランティアなんて偽善だ。なんでボランティアするのか分からない。だからこそボランティアの世界を知りたい。」という人も歓迎します。一緒に楽しく学びましょう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域参加活動入門、地域活性化ボランティア、ボランティア入門、ボランティアコーディネーター養成プログラムほか
科目の履修だけでなく、普段から新聞記事を読みこなし、ボランティアに関する動向を把握するなどの情報収集を心掛けると授業の理解も深まります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション - 授業の進め方、受講のルール、目標などについて -	自己紹介・グループ編成(4人×5班)
2	コミュニケーションスキル	プレゼンテーション・対人援助技術
3	プレゼンテーション&ディスカッション	グループA・グループB
4	プレゼンテーション&ディスカッション	グループC・グループD
5	プレゼンテーション&ディスカッション & フィールドワーク準備	グループE
6	フィールドワーク準備	計画書作成・マナ - の確認
7	フィールドワーク計画発表	グループA~E
8	テーマ別ディスカッション	ボランティアの範囲
9	テーマ別ディスカッション	ボランティアの社会的意義
10	テーマ別ディスカッション	ボランティアと公助・共助・自助
11	テーマ別ディスカッション	ボランティアによる自己実現とボランティアの利他性
12	フィールドワーク振り返り	目標達成度の検証と自己評価
13	成果発表の準備	経験から得た学び
14	フィールドワークの成果発表	グループA~E
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

グループによるプレゼンテーションとディスカッションの機会が多いので、その準備は授業時間外で行うことになります。また、第7講から第12講までの期間を利用して、授業時間外にフィールドワークまたはボランティア活動(グループ単位)を行います。活動分野は、受講生の問題意識や関心に沿って、グループの話し合いにより決定します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	プレゼンテーション フィールドワーク計画書・報告書 授業への積極的な参加とリーダーシップ 毎週のコミュニケーションペーパー などを総合的に吟味して評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール4 「人間と科学」

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

教養ゼミナール (5)

52794

担当者名 / Instructor 保坂 芳男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

立命館大学の教学理念は、「平和と民主主義」である。

映画俳優で監督でもあるチャップリンは、映画を通じて「平和と民主主義」を訴えてきたように思う。本授業では、前半でチャップリンの伝記を読む。後半は、チャップリンに焦点を当てて学生自身が決めてテーマで研究して欲しい。

映画そのものを分析してもよい。歴史背景を調べてもよい。セリフやスピーチを暗唱してもよい。波瀾万丈の彼の人生を心理学的アプローチから分析してもよい。

本授業はゼミ形式であるので、後半2回のプレゼンが中心となる。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

この授業を通じてチャップリンの人生を振り返ると共に、「平和とは何か」や「民主主義を生かすとはどういうことか」などについて考えてほしい。そして、チャップリンの遺志、戦後生まれ変わった立命館大学の精神を受け継いで、将来社会で活躍して欲しいと思う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	授業の概要の説明、輪読の担当を決める。 映画鑑賞(1)	イントロダクション
2回目	輪読研究テーマ、プレゼンの担当を決める 映画鑑賞(2)	講義
3回目	輪読、発表、討論、映画鑑賞(3)	講義、グループ討論
4回目	輪読、発表、討論、映画鑑賞(4)	講義、グループ討論
5回目	輪読、発表、討論、映画鑑賞(5)	講義、グループ討論
6回目	講演(チャップリン研究家)	聴講
7回目	学生のプレゼン(1)	質疑応答
8回目	学生のプレゼン(2)	質疑応答
9回目	学生のプレゼン(3)	質疑応答
10回目	学生のプレゼン(4)	質疑応答
11回目	学生のプレゼン(5)	質疑応答
12回目	学生のプレゼン(6)	質疑応答
13回目	学生のプレゼン(7)	質疑応答
14回目	学生のプレゼン(8)	質疑応答
15回目	検証テスト、総括	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業でもチャップリンの代表的な映画を見るが、時間の関係でそう多くは見れないし、ワンカットのみの紹介という場合もありうる。個人的に興味のある学生は全編を見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	約6割を授業内でのプレゼンで評価する。残り4割は検証テストで評価する。詳しくは、受講人数が決まってから授業の中で指示する。

本授業はゼミ形式である。従ってプレゼンを最低2回はすること、最終レポートを書くことが評価の最低の条件となる。欠席は3回までが原則である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Charlie Chaplin	Peter Milward / 桐原書店 / 4-342-23700-8 /
チャップリン再入門	大野裕之 / 生活人新書 / 4-14-088141-0 /

上記の2冊は必ず、最初の授業までに購入しておくこと。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
My Autobiography	/ Penguin Classics / /
チャップリン	橋本勝 / 現代書館 / 0330-10245-1935 /
私のチャップリン	淀川長治 / ちくま文庫 / 4-480-03020-4 /
チャップリン自伝 上 若き日々	中野好夫 / 新潮文庫 / 4-10-218501-1 /
チャップリン未公開フィルムNGの全貌	大野裕之 / NHK出版 / 978-4-14-081183-2 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本チャップリン協会のHP
インターネットで「大野裕之」「チャップリン」で検索して出てくる情報など

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール(6)

60235

担当者名 / Instructor 加藤 善子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本ゼミナールでは個人と集団との関係を考えるが、現代社会でまさに起こっている文化的交流を教室というマイクロな次元で実現することで、大学内の知識と人間の交流を促し、参加者(教員を含む)の知を統合し、知の生産を基礎とするコミュニティを作り上げることを目的とする。

ゼミナールで扱う個人と集団間の問題は、友人関係から国家まで複数のレベルにわたり、複数の学問を横断してアプローチする。毎週、短編小説や論文を読んだ上で、理論的な議論の仕方を習得し、複数の視点を獲得する練習をする。社会科学・自然科学・人文科学で共通に使われている概念や理論を、私たちの日常生活に適用して個人の生活へのフィードバックを提供することが、毎回のゼミナールの目標である。同時に、知的な議論の過程そのものが、自己理解と集団との関わり方の理解を深め、一見役に立たぬ学問を「使う」スキルを獲得することに利するだろう。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

論文を正確に読みこなす(要約ができる・具体的な例が挙げられる・応用を考えることができる)。

自らの専門領域を学際領域の文脈に位置づけることができる(他の分野との相違点を把握する)。

具体的な現象を理論を使って分析することができる。

理論を日常生活や実践に応用することができる。

論文を書く力を伸ばす。

礼儀正しく議論に参加することができる。

(聞く・話す・同意する・反対する・感情を処理する・アイデアを出す・合意に達する)

年齢・性別・経済状況・専攻分野・信念や価値体系を問わず、個人を尊重する態度を身につける。

自己を正当に主張しながらグループで働く方法を身につけ、実践することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	イントロダクション 個人と集団との関係(心理学)1	シラバス・評価の方法・名前・その他の説明と約束事の 確認 囚人のジレンマ
第二回	個人と個人の関係(心理学)2	社会的ジレンマ
第三回	個人と複数の個人の関係(情報学・数学・社会学)1	ネットワーク分析
第四回	個人と複数の個人の関係(情報学・数学・社会学)2	コミュニティ・モデル
第五回	中間論文提出 < 閑話休題 > 文章を深く読むために	読解実験と練習
第六回	集団の中の個人(歴史・哲学・文学)1	小説との対話の仕方
第七回	集団の中の個人(歴史・哲学・文学・社会学)2	自殺(理論編)
第八回	個人と集団との関係(歴史・哲学・社会学)3	自殺(応用編)
第九回	集団の中の個人(歴史・哲学・文学)4	物語(理論編)
第十回	集団の中の個人(歴史・哲学・文学)5	物語(実践編)
第十一回	集団の中の個人(歴史・哲学・社会学・心理学)6	想像の共同体
第十二回	個人と集団との関係(歴史・哲学・社会学・心理学)7	東洋的自己と西洋的自己
第十三回	プロジェクトのためのグループワーク	
第十四回	プロジェクトのためのグループワーク	
第十五回	グループ発表・授業評価・ふりかえり・論文提出	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の予習課題(30%)。1回につき3点(優3点、良2点、可1点、不可0点)×10週分。レポート(30%)。中間試験として課する。ガイドラインは後期開始後に配布する。期末のグループプロジェクト(40%)。グループ点と個人点を合計して算出する。内容の完成度とグループとしての機能を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎週、論文や短編小説の読書課題を与える。読書ガイドに従って、予習をすること。

15分以上の遅刻は、欠席一回分として計上する。

中間試験として個人レポートを課するので、計画を立てた上で執筆の時間を確保すること。

期末試験としてのグループプロジェクトは、少なくとも週に一度はグループメンバーが集まれるよう、早めに予定を調整すること。

教科書 / Textbooks

下の本の一部を使用します。使用箇所をまとめてこちらで用意しますので、購入の必要はありません。一部変更することがあります。

- 『社会的ジレンマ』山岸俊男 PHP新書
 - 『ネットワーク分析』安田雪 新曜社
 - 『想像の共同体』アンダーソン 図書新聞
 - 『自殺論』デュルケム 中公文庫
 - 『千の顔を持つ英雄』キャンベル みすず書房
 - 『チャイナタウンの女武者』キングストン 晶文社
 - 『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ニスベツト ダイヤモンド社
- ほか

参考書 / Reference Books

歓迎：一人で本を読むのは辛いが勉強してみたい人。
話し方・聞き方を練習したい人。
自分の力を正しく知りたい人。
自信を持ちたい人。
好奇心の幅が広い人。
共に学ぶ友達がほしい人。

学習(レポート執筆・予習の問題等)、グループ活動運営の相談にも応じます。少人数ゼミの特権を活かして、教員を大いに利用してください。歓迎します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール (7)

60237

担当者名 / Instructor 安岡 高志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【発見・発明ワークショップ】

発見や発明は全ての人に平等にチャンスが与えられています。しかし、そのチャンスを活かすためには多少の訓練が必要です。今までに何かに気づいたり、工夫したことのある方は小さい発見や発明をしたのです。これを発見や発明と自覚することにより本人の持っている発見・発明能力は増強されます。

大切なことは、人から教わったり、書物から知識を得ることではなく、自分自身で発見したり、気づくことです。発見したことを調べてみると既に誰かが、発見してあっても問題はありません。自分自身の発見・発明を繰り返すことにより、確実に発見・発明能力は身に付きます。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

履修者が発見・発明の習慣(考える習慣)が身に付いたと実感する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス 今までの発見の経験を含めた各自の自己紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
2	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
3	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
4	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
5	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
6	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
7	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
8	中間まとめの発表	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
9	中間まとめの発表	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
10	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介、法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
11	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介、法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
12	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介、法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
13	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介、法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
14	疑問に対する回答、発見した法則についてのプレゼンテーション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
15	疑問に対する回答、発見した法則についてのプレゼンテーションとレポート提出	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	オリジナルな発見・発想・発明などが含まれていることが必要です。
平常点評価	60 %	最後のプレゼンテーションを聞いて、気づき、発想の展開、工夫などのよさを評価します。評価には受講生の相互評価の結果も含めます。 授業外の取り組み状況、授業への積極的な参加の状況を評価します。

参考図書の「文化の法則を探ろう」を読んで、第4週目の授業までにA4用紙2枚以内に感想を提出してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

何かを教わろうと思ってきても何もありません。あなたの持っている能力を活用する訓練をするのみです。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books**書名 / Title**

文化の法則を探ろう

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

中川正 / 三重大学出版会 / 4-944068-42-5 / 定価=本体価格1200円 + 消費税

< 三重大学出版会 >

〒514-8799 津中央郵便局 私書箱 88

電話:059-232-1211 内線3711 or 2699

Fax:059-231-9199

電話 & Fax:059-232-1356

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>**その他 / Others**

教養ゼミナール (9)

60273

担当者名 / Instructor 森 利博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

サブプライムローン問題が表面化した2007年春先以降に世界の金融市場で起こった出来事について学ぶ。主に新聞や雑誌などに掲載されたこれらの出来事に関する記事をマテリアルとして用い、それらの発生理由や意義について考える。学生は、それらに関して事前に準備された質問に答えるべく、マテリアルを読み、インターネットでキーワードを検索し、さらにクラス・ディスカッションを行う。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

現代の世界金融市場についての認識を深め、それが直面する諸問題に関して自分の意見・見解を述べられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、マクロ経済学に関する基礎知識を持っていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	サブプライムローン問題について(その1)	サブプライムローン、プライムローン、オルトAローン、コンフォーミングローン、オリジネーター、モーゲージブローカー、証券化
第2回	サブプライムローン問題について(その2)	MBS、ファニーメイ、フレディーマック、ローンプール、信用補完、優先劣後構造、格付け
第3回	サブプライムローン問題について(その3)	アモティゼーション、住み替えと借り換え、繰上げ返済、キャッシュアウト
第4回	ヘッジファンドとSWF(その1)	ヘッジファンドの歴史、ロング・ショート、グローバル・マクロ、アルファ値とベータ値、イベント・ドリブン
第5回	ヘッジファンドとSWF(その2)	SWFの成り立ち、投資対象と投資スタンス、サブプライム危機で果たした役割
第6回	モノライン保証会社	地方債の保証業務、対象リスクのレベル、サブプライム危機との関わり、格下げ
第7回	BIS規制とSIV(その1)	銀行の自己資本規制の必要性、Tier1とTier2、リスク・ウエイト、オフBS
第8回	BIS規制とSIV(その2)	SIV、ABCP、キャピタル・ノート、流動性補完、連結化
第9回	CDSとCDO(その1)	スワップ取引、プロテクションの売買、参照企業、参照証券、信用事由、CLN
第10回	CDSとCDO(その2)	キャッシュフローCDO、合成CDO、アンファンデッド・ポジション
第11回	証券業と銀行業(その1)	直接金融と間接金融、グラスステイーガル法、ユニバーサル・バンキング、対顧客ビジネスと自己勘定取引
第12回	証券業と銀行業(その2)	レバレッジ、アービトラージ、投資銀行の銀行持ち株会社への移行
第13回	危機時の金融政策(その1)	政策金利、市場操作、ディスカウント・ウインドウ
第14回	危機時の金融政策(その2)	TAF、PDCF、TALF、TARP、バッドバンク
第15回	まとめ-米国型資本主義の次に来るもの	カバードボンド

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で取り上げたトピックに関する新聞・雑誌記事などを探し出し、積極的に学習するよう心がけて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	内訳は、出席点15%、クラス・ディスカッションへの貢献度及びプレゼンテーション55%、小テスト30%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日ごろから、新聞の経済・金融欄の記事に目を通すように心がけて欲しい。

教科書 / Textbooks

市販の書籍などは特に用意しない。

授業で取り上げるトピックに関するクエスチョン・リスト、及びそれに答えるための参考となる新聞・雑誌記事のコピーを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

資本主義はなぜ自壊したのか「日本」再生への
提言

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

英文のサイトであるが、日々の金融市場情報が入手できるものとして、www.bloomberg.comを推薦する

教養ゼミナルHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール (10)

60270

担当者名 / Instructor 中谷 義和

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

グローバル化と国民国家との関係について、次いで、民主政治について説明するなかで、政治を見る基本的視座を養う。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

グローバル化とは、どのような現象を指し、どのような現代的課題を提起しているかについて一定の理解を期す。また、それが越境型の構造であるだけに、国民国家型政治体制の基本的構造にどのようなインパクトを与えているかについて説明しつつ、民主政治の現代的課題の理解を期す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

歴史学、社会学、政治学関連学科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	序論	グローバル化の概念
2回	民主政の原理	日本国憲法の位置、基本的人権、平和、議会制民主政、国民国家、民主政の諸モデル
3回	同上	
4回	同上	
5回	同上	
6回	同上	
7回	国民国家の政治体制	国民、国家、ナショナリズム、主権、統治システム、政治と経済・社会
8回	同上	
9回	同上	
10回	戦後世界の構造と動態	ブレトンウッズ体制、冷戦と冷戦体制の崩壊、新自由主義的世界編成、世界政治の諸理論
11回	同上	
12回	同上	
13回	グローバル化と国民国家	リージョナル化、グローバル・ガバナンス、民主政の現代的課題
14回	国民国家の位置	グローバル民主政の理念史、国家の基礎的理論
15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎日、新聞を読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点評価	70 %	講義と質疑応答を中心に進めるので、出席と事前学習を重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

質問を積極的に受け止め、アドバイスする。

教科書 / Textbooks

必要な資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民主政の諸類型	D. ヘルド / 御茶の水書房 / /
グローバル化とは何か	D. ヘルド編 / 法律文化社 / /

また、質問に応じて指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール(11)

54831

担当者名 / Instructor 土居 靖範

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テ - マは「交通とまちづくり・ワークショップ形式 - 京都をケースに - 」である。クルマ社会偏重の現状を変え、ひとと環境にやさしいまちづくりを行うにあたって、京都の交通をどのように変えていったらよいかワークショップ形式で具体的に上げたい。サステイナブル・コミュニティ(いつまでも住みつけられるまち)づくりの実現に交通をどのようにしていくかを、共に考えたい。

クルマ社会偏重の現状を変え、また今後の高齢化の進展にも備え、ひとと環境にやさしいまちづくりを行うにあたって、身近な都市の京都あるいは草津の交通をどのように変えて、まちづくりをしていったらよいか具体的に上げる。

世界の都市交通とまちづくりの現状と解決方向、カーシェアリングの動向、公共レンタサイクルシステムのヨーロッパの動向等を、講義の中で学びつつ、サステイナブル・コミュニティ(いつまでも住みつけられるまち)づくりの実現に交通をどのようにしていくかを、ワークショップ方式を取り入れて考える。班に分かれてアイデアをブレン・ストーミングで出し、KJ法を使って整理する。クルマ社会偏重の現状を変え、また今後の高齢化の進展にも備え、ひとと環境にやさしいまちづくりを行うにあたって、身近な都市の京都あるいは草津の交通をどのように変えて、まちづくりをしていったらよいか具体的に上げる。

世界の都市交通とまちづくりの現状と解決方向、カーシェアリングの動向、公共レンタサイクルシステムのヨーロッパの動向等を、講義の中で学びつつ、サステイナブル・コミュニティ(いつまでも住みつけられるまち)づくりの実現に交通をどのようにしていくかを、ワークショップ方式を取り入れて考える。班に分かれてアイデアをブレン・ストーミングで出し、KJ法を使って整理する。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

問題点を発見する能力と解決する能力を 集団のなかで話し発表することで切磋琢磨し身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・「新規コミュニティバスの導入策を考える」 ・「LRTの導入策を考える」 ・「ペロタクシーの導入策を考える」 ・「まちづくり会社を作って、『LRTを導入する』、『公共レンタサイクルシステムを作る』、『カーシェアリングシステムを作る』」	授業ガイダンス
2	京都はどんな 都市かの調査作業	
3	京都はどんな 都市か 調査作業(続き)	
4	京都はどんな 都市か のプレゼンテーション	
5	「現行のバス問題の改善策を考える」(続き)	
6	「現行のバス問題の改善策を考える」プレゼンテーション	
7	「ペロタクシーの導入策を考える」	
8	新規コミュニティバスの導入策を考える」	
9	新規コミュニティバスの導入策を考える」(続き)	
10	まちづくり会社を作って、『LRTを導入する』	
11	「まちづくり会社を作って、『LRTを導入する』(続き)	
12	「まちづくり会社を作って、『LRTを導入する』(続き) ルシステムを作る』、『カーシェアリングシステムを作る』」	
13	「まちづくり会社を作って、『公共レンタサイクルシステムを作る』、『カーシェアリングシステムを作る』」	
14	「まちづくり会社を作って、『公共レンタサイクルシステムを作る』、『カーシェアリングシステムを作る』」	
15	事業企画書の発表会	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール (12)

60269

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「ユニバーサル社会へのいざない」

私たちはそれぞれに多様です。しかし、私たちが構成している社会のありようは必ずしもすべての人にとってユニバーサルではありません。それは、年齢や性別、障害や文化などの違いによって社会的障害が作られているからです。障害disabilityは、その人個人にあるのではなく、社会によって作られていると見る視点を「障害の社会モデル」と呼びます。ゼミではこの視点に立って、多様な人々の存在を前提とした共生社会をつくるにはどうしたらよいか、ユニバーサル社会の実現を模索します。ユニバーサル社会とは、社会的障害を超えて「誰もが暮らしやすい社会」「誰もが参加できる社会」を意味します。つまり、私もあなたも含めてみんなが楽しく幸せに暮らせる社会を私たちはいかに築いていけるのか、みんなで一緒に考えます。

視覚障害や聴覚障害、肢体不自由の人々のために開発された様々な機器を実際に使ったり、ユニバーサルデザインの商品を探して街に出たり、フィールドワークを行ったりします。さらに、グループに分かれて多様な人々との出会いや交流を通して自身の学びを深めます。キャンパスの内と外を行き来しながら、授業時間と課外時間を使って学習を展開します。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

多様な人々の存在を知り、ユニバーサル社会を自ら築いていくセンスと行動力を身につけることが目標です。受講には、自分の世界を広げたい！新しい発見をしたい！という積極性が大切です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

普段から新聞記事を読みこなし、ユニバーサル社会に関する動向を把握するなどの情報収集を心掛けると授業の理解も深まります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション - 授業の進め方、受講のルール、目標などについて -	自己紹介・グループ編成(4人×5班)
2	ユニバーサル社会とは何か	Normalization, Barrie-fee, Usable, Accessible
3	プレゼンテーション	テーマ「身近にあるユニバーサルデザイン」(5班×15分) 現物または写真持参
4	活動(ボランティア活動・リサーチ・フィールドワーク)に向けたオリエンテーション	活動先の選定・マナ - の確認
5	活動(ボランティア活動・リサーチ・フィールドワーク)に向けたオリエンテーション	目標設定 - 所属する学部での専門学習や今後の学生生活との関わり
6	プレゼンテーション	活動計画と活動目標の発表(5班×15分)
7	ディスアビリティとユニバーサルサービス体験 - 教室の中で	聴覚・視覚障害、肢体不自由 - 講義の情報保障(PCテキスト、音声ガイドなど)
8	ディスアビリティとユニバーサルサービス体験 - 教室の外で	聴覚・視覚障害、肢体不自由 - 日常生活におけるサポート
9	知識習得	社会とバリア(法律、社会制度、都市計画、意識などの視点から)
10	知識習得	社会とバリア(法律、社会制度、都市計画、意識などの視点から)
11	知識習得	社会とバリア(法律、社会制度、都市計画、意識などの視点から)
12	プレゼンテーション	テーマ「身近にあるバリア」(5班×15分) 現物または写真持参
13	活動の振り返り	目標達成度の検証と自己評価
14	活動報告会準備	
15	プレゼンテーション	活動報告(5班×15分)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

グループによるプレゼンテーションとディスカッションの機会が多いので、その準備は授業時間外で行うことになります。また、第6講から第13講までの期間を利用して、授業時間外にフィールドワークまたはボランティア活動(グループ単位)を行います。活動は、実際に障害のある人と協働するボランティア活動に参加したり、ユニバーサルデザインを商品として製作している企業へインタビューに行ったり、キャンパス近隣のバリアを調査したり、受講生の問題意識や関心に沿って希望する活動内容をグループの話合いにより決定します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	プレゼンテーション フィールドワーク計画書・報告書 授業への積極的な参加とリーダーシップ 毎週のコミュニケーションペーパー などを総合的に吟味して評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

教養ゼミナルHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>**その他 / Others**

教養ゼミナール (13)

60268

担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 地域社会の活性化をめぐる 持続可能な社会を実現するには?

「地域社会の活性化」という言葉は昨今よく聞かれるところであるが、それはそもそもどのようなことなのだろうか。また、地域活性化によっていかなる社会が目指されているのだろうか。

このゼミナールでは、こうした問題意識から、各地で取り組まれている地域活性化の事例を取り上げつつ、地域社会の現状と課題、そして持続可能な社会のありようについて学び、考える。

実に地域社会は、現在、さまざまな問題に直面している。少子化、高齢化、定住人口減少と人口流出、中心市街地の衰退、地方分権、市町村合併、自治体の財政難など。このゼミナールでは、これら地域社会の現状と問題について(たぶん中山間地を取り上げることが多くなるが)、その背景にある人口減少や高齢化、財政問題などの諸要因を分析し、交流人口拡大をめざす国策の流れ(都市・農山漁村交流・対流など)や、地域おこし、グリーンツーリズムなど各地で取り組まれている活性化事例について見てみたい。そうするなかで、交流人口の拡大の意味、NPOや社会的企業の果たしうる役割、コミュニティ・ビジネスの意義、公民連携協働の展開と手法などが重要な論点として浮上してこよう。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

このゼミナールでは、社会学、産業論、経済学、公共政策論、地域文化論、市民活動論といったさまざまな分野の文献を手がかりに、地域活性化をめぐる議論を読み解きつつ、そして、そうした諸分野をクロスオーバーさえもしつつ、社会的にも環境的にも持続可能な地域社会の形成に向けていかに活性化させることが可能かを考えてみたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「地域」とは何か	中央と地方、コミュニティ、地域主義
2	地域をめぐる	地域づくり、地域活性化、地域再生
3	地域の主体をめぐる	行政、住民、NPO、地元学
4	持続可能性をめぐる	環境、文化、経済、金融
5	地域の課題をめぐる その1	人口減少社会、定住人口、交流人口
6	地域の課題をめぐる その2	地方財政の諸問題
7	地域の課題をめぐる その3	行政効率化・広域化、市町村合併
8	地域の課題をめぐる その4	公民連携、NPO、社会的企業
9	地域の新しいつながり その1	コミュニティ・ビジネス、地域金融
10	地域の新しいつながり その2	地域通貨
11	中山間地の課題と活性化 その1	「限界集落」、農林業の諸課題
12	中山間地の課題と活性化 その2	グリーンツーリズム、CSA(地域支援型農業)
13	観光まちづくり その1	観光、まちづくり
14	観光まちづくり その2	事例研究
15	地域の未来を切り開くには	全体のまとめとワークショップによる振りかえり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業では、基本として、ゼミナール形式をとるものとするが、適宜、必要であれば講義や説明を行う。また授業内容は、受講生の関心にあわせて若干変更することもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	ゼミを通じて自分なりに学んだことを、研究成果報告レポートとしてまとめてください。
平常点評価	60 %	出席、授業への参加、新聞記事や文献紹介、ゼミ論文企画書などにもとづく複数回の発表

単に出席するのみならず、積極的な参加が望まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めない。資料などは講義時に適宜指示する。ただし、参考文献の一部をテキストとして利用することがある(その際は、事前に指示するようにします)。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地元学をはじめよう	吉本哲郎 / 岩波書店 / 9784005006090 / 岩波ジュニア新書
地域再生の経済学 豊かさを問い直す	神野直彦 / 中央公論新社 / 4121016572 / 中公新書
地域再生の条件	本間義人 / 岩波書店 / 9784004310594 / 岩波新書
宮本常一著作集2 日本の中央と地方	宮本常一 / 未来社 / 4624924029 /
東北からの思考 地域の再生、日本の再生、そして新たな協働へ	入澤美時、森繁哉 / 新泉社 / 9784787708137 /
まちづくりNPOの理論と課題	澤村明 / 溪水社 / 4874408478 /
グリーン・ツーリズム実践の社会学	青木辰治 / 丸善 / 4621073923 /
福祉がいまできること 横浜副市長の経験から	前田正子 / 岩波書店 / 9784000246439 /
社会起業家に学べ!	今一生 / アスキー / 9784048671873 / アスキー新書
連帯経済 グローバリゼーションへの対案	西川潤、生活経済研究所(編) / 明石書店 / 9784750326207 /
公民連携白書	東洋大学大学院経済学研究科(編著) / 時事通信 / 9784788708686 / 各年版
社会が変わるマーケティング	P・コトラー、N・リー / 英治出版 / 9784862760098 /
社会的責任のマーケティング	P・コトラー、N・リー / 東洋経済新報社 / 9784492555743 /
マイクロ・ファイナンスのすすめ 貧困・格差を変えるビジネスモデル	菅正広 / 東洋経済新報社 / 9784492443538 /
地域通貨	嵯峨生馬 / NHK出版 / 414088102X /
CSA 地域支援農業の可能性 アメリカ版地産地消の成果	E・ヘンダーソン、R・エン / 家の光協会 / 9784259518127 /
集落支援ハンドブック(現代農業増刊号)	現代農業編集部 / 農山漁村文化協会 / / 2008年11月増刊号
「村」が地域ブランドになる時代	関満博、足利亮太郎(編) / 新評論 / 9784794807526 /
観光と環境の社会学	古川彰、松田素二(編) / 新曜社 / 4788508672 / シリーズ環境社会学 第4巻
入門 文化政策 地域の文化を創るということ	井口貢(編) / ミネルヴァ書房 / 9784623051342 /
祭りとイベントのつくり方	鶴見俊輔、小林和夫(編) / 晶文社 / 4794959931 /
民が立つ 地域の未来をひらくために	信濃毎日新聞社(編) / 信濃毎日新聞社 / 978478407063 /
石見銀山 四季暮らしものづくり	いなとみのえ / 織研新聞社 / 9784881241738 /
国民生活白書	内閣府 / / 各年版、内閣府国民生活局のHPよりPDFファイルで閲覧、ダウンロード可能

上記のなかから少なくとも1冊ないし2冊をゼミの中で紹介してもらうことを考えています。これ以外の文献については、適宜、紹介するようにします。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

持続可能な地域のあり方、地域社会の活性化について、上述のような多分野的なアプローチを活かした学びの中で、それぞれの受講生の専門をふまつつもそれをも越境しうような学際的・多分野的な視野や考え方を身につけられるようにしたい。

また、単なるディスカッションだけでなく、ワークショップ方式をも併用・活用することにより、受講生諸君の多種多様な見解に互いに触れ合う絶好の機会となるようにもしたい。

先進的取り組みをしている地域への視察(ゼミ旅行)やゼミ合宿もぜひ実現したい。

教養ゼミナール (14)

60267

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ゼミのタイトルは「ことばの世界」です。どんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双壁をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。具体的には、久津内一雄『ことばの世界』をテキストにして、班単位で報告し合い、それに基づいて、議論を深めていきたいと考えています。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

別にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	近代言語学の成立とその背景 ソシュール(1)	ソシュールが求めたラングは、話し手の意識の中にあり、それ以外のどこにもない。
2	ソシュール(2)	
3	ソシュール(3)	
4	ソシュール(4)	
5	ソシュール(5)	
6	ソシュール(6)	
7	言語相対主義の潮流	ソシュールが提示してみせたのは、これは後に言語論的転回と呼ばれるパラダイムをもたらした考え方である。ソシュールは、ことばが存在して初めて、概念や対象が誕生する。なぜならば、ことばが、境界のない連続的現実世界を切り取るにより、概念が作り上げられるからというわけである。
8	フホルトに始まる言語相対論	フホルト言語学が近代言語学の三大源泉の一つと言われる最大の理由は、近代言語学を一貫して貫く言語相対主義の考え方の発端、すなわち母語の発見と言語と民族との間に生ずる不可分の関係の発見をそこに見いだすことが出来るからである。この考え方は、フホルト言語学に端を発し、ソシュール言語学で理論的肉付けを完成し、後のザビアウーフ仮説やドイツ意味論学派に受け継がれて行く、言語相対主義に貫かれた言語理論である。
9	ドイツ意味論学派 = 新フホルト学派	フホルトに端を発する言語相対論の考え方の基本にあるのは、言語共同体に固有の分節・認知の仕組みこそが、その構成員の魂であり、精神であり、アイデンティティである、という積極的な人間のあり方を規定する、というものである。つまり、人間がことばを支配するのではなく、ことばが人間を支配することになる、ということは、まさしくフホルトが、言語を創られたものという意味でのエルゴンではなく、創るものという意味でのエネルギアとして定着させた、言語に対するポジティブな考え方の帰結なのである。
10	レヴィ=ストロース	レヴィ=ストロースの神話論や親族構造の研究は、二項対立、神話を構成する最小限の要素 神話素、交換のシステムという補助線を引くことによって、経済上の動機と目に見える諸制度の間には、人間の無意識が作り上げている目に見えない制度がはさまっており、むしろこれが社会制度の動きに大きな役割を果たしている、という新しいイメージを提出している。

11	カノの欲望論(1)	我々の欲望の対象は常にある何ものかの代理であり、そのあるものもまた他のものの代理であるという性格を持つ。そしてそれは果てしなく続く。それをずっと辿っていくと、結局 ファイという記号が出てくる。これはファロス(=ベニス)で、このように究極の不在を辿ることは、ベニスが欠けていることなのだ。トラカは説明する。人間の欲望は、いわばこの根元的に欠けていることへの欲望の代理的連鎖である。
12	カノの欲望論(2)	
13	ワイトゲンシュタイン言語ゲーム論(1)	ワシュールと同じように、言語をゲームとして語ることは、ルールに従うということを言語活動の考察の中心におくということに他ならない。ゲームのルール問題には、明文化されたルールを持つゲーム以外では、明確な答えは存在しない。それは言語活動の規則性が、明文化されたルールと根本的に異なっていることを示している。ワイトゲンシュタインはこのルール問題を探求して行く。そこで絶えず問われているのは、我々がことばを知り、話すとはどういうことなのか？それは無秩序な現象や自然界の秩序的現象とどう違うのか？ということである。こうした探求において言語的秩序を求めるとき、我々は必然的にそれをことばで説明することになる。しかし我々が今求めているものは、あらゆることばをことばとして機能させる根元的秩序であり、その秩序の説明に、すでにこうした秩序のおかげでことばとして機能しているものを用いるのは、我々の説明がまだ根元そのものには接していないことを暗示している。ワイトゲンシュタインが求めるものは、あらゆることばがことばとして機能する根本条件であり、それ自身はいかなることばによっても語り得ないような根元である。すなわちワイトゲンシュタインが求めるものとは、我々のあらゆる探求の鋤を跳ね返す岩盤なのである。
14	ワイトゲンシュタイン言語ゲーム論(2)	
15	言語と現代思想の問題 まとめ	[1]欲望論、[2]言語ゲーム Sprache Spiel、[3]パフォーマンス(performativity) (=行為遂行性)、[4]理論より現場への関心、[5]ことばと社会、[6]言語使用と身体、[7]ことばの詩的機能と論理的機能、[8]エピステーメー épistémè (=思考の枠組み)の変換、[9]人間諸科学と言語のモデル、[10]ポスト構造主義 post-structuralisme の登場と言語観の変容

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートを課します。
平常点評価	50 %	授業への出席と班活動への取り組みを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

久津内一雄『ことばの世界』をテキストとして配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール (15)

60266

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ゼミのタイトルは「シネマの世界」です。このゼミは映画鑑賞ゼミではありません。理論的ゼミです。どんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。キーワードは人間・虚構化・文化です。私たちが問題にするのは、私たちの外部に客観的に存在する現象としてのフィルムではなく、私たちの内部に立ち現れてくる虚構化された内的空間です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、観客の外部に客観的に存在するものではなく、観客が存在して初めて姿を見せる後驗的な世界なのです。言い換えると、観客の内部に絶え間なしに立ち現れてくる映像とは、観客によって分節化される時間の密度、すなわちその時間性が観客の内部に絶え間なしに作り上げる、構造化され、時間化されていく生成の世界なのです。つまり重要なことは、映画作家がフィルムに刻印した時間を、観客がそのフィルムを観ながら分節化する時間のあり方、すなわちその時間性こそが観客の内部に、シネマという内的虚構化空間を現前化させ、現在化させる原動力だ、という点です。一言で言えば、観客によって絶え間なく分節化され、構造化され、時間化されていく、いわゆる生成の世界としてのシネマというものを考えていきたいのです。具体的には、久津内一雄『シネマの世界』をテキストにして、班単位で報告し合い、それに基づいて議論を深めて行きたいと考えています。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeiji.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と虚構化と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

別にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～3	映画芸術論への導入	ヘーゲルのアート論、空間アートと時間アート、モニター・ジュとクロスアップという映像の操作術
4	モニター・ジュ論	演劇(=ライブ・アート)に対して映画(=モニター・ジュ・アート)が獲得した途方もない自由
5	作家主義論	作家主義を標榜するヌーベル・ヴァークとは、イタリア・ネオ・リアリスモの精神を受け継ぎ、さらにハリウッド的なスタジオ・システムを否定し、独自のリアリスムを追求した映画改革運動である。
6	ショット論	映画の秘密はショットの中を流れている時間にある。映画の越境性とは、言語の壁を容易に越えてしまうという特性である
7	創生期の映画	リュミエール兄弟とエジソン、メリエス、ゼッカ、ポーター、イタリア史劇、グリフィス、チャップリン、ドイツ表現主義、ガンズ、ソヴェイト映画、イェンシュティンのモニター・ジュ理論、フランス・ヌーヴェル・ヴァークのグリフィス再評価。
8	アメリカ映画黄金期	グリフィスとフォードはアメリカ映画を代表する二大監督といわれ、時代に翻弄されながらも最後まで自分たちの美学を貫き通したことが彼らに共通する特徴である。しかし作家主義の観点から見ると、グリフィスは映画作家が目指すべき作家の映画の原点であるのに比べて、フォードは作家の映画とは相容れない、スタジオ・システムの映画、プロデューサーの映画の巨匠と見なされる。その意味で、作家主義を信奉するヌーヴェル・ヴァークが批判の矛先をフォードに向けたのは正解である。なぜならば、ジョン・フォードは良きにつけ悪しきにつけ、アメリカ映画を代表する唯一の映画監督だからだ。第二次大戦後の世界の映画状況が一気に変化する。イタリアで、新しいリアリスム映画が誕生する。イタリア・ネオ・リアリスモの誕生とは、古典的ヒューマニズムを越えた新しい社会的リアリスムの誕生を意味する。第二次世界大戦が映画スタイルを構造的にいかに変えてしまったかが分かる。それは一言で言えば、スタジオ・システムの映画(=プロデューサーの映画)から、ある映画作家が企画、脚本、キャストイングから撮影、編集までの映画制作の全てを取り仕切る、現場主義の映画への変換である。アメリカン・ニュー・シネマとは1960年代後半から70年代前半にかけてハリウッドで作られた、既存のスペクタクル路線とは一線を画した作品を一般には言うが、一言で言えば、作家性に貫かれた映画史に燦然と輝くアメリカB級映画群のことである。

50年代日本映画黄金期、溝口健二、小津安二郎、黒澤明、成瀬巳喜男、木下恵介、今井正、小林正樹、市川崑。特に、日本を代表する二人の映画作家、溝口健二と小津安二郎。さらに、ヌーヴェル・ヴァーグの日本映画評

作家主義論を提唱したフランス・ヌーヴェル・ヴァーグの最大の功績は、イタリア・ネオ・リアリズムが果たした現場主義の映画への変換を継承し、さらに映画創造の真の主体を作家に置き、その作家性をシネマ・アートの第一要素として捉えたことである。ここに構造主義の手法に共通する二項対立によって、言語と文化の枠を超えた関係の構図を鮮明に描き出すことが可能となった。すなわち、映画の世界には国境はなく、ただ、非作家の映画と作家の映画という二つの種類の映画が存在するだけである、と主張できるようになった。作家とは、自己の哲学と美学とを作品全体にわたって展開する映画人で、多くの場合自ら脚本を書き、台詞を書き、そして演出もする。彼らはこの立場から映画を作り、便宜的なモンタージュによらず現実の多様性を反復不可能に切り取ることを心がけた。これこそが真のリアリズムだと考えた。そして観客の想像力を刺激する作り方の姿勢と、一つ一つのショットへのこだわりこそ、ヌーヴェル・ヴァーグの映画作家たちが目指したものである。このように映画のアートとしての可能性をもっと強く証明しようとしたのが、ヌーヴェル・ヴァーグの映画作家たちである。

フランス映画改革運動の理論的ソルである作家主義論は、国境を越えて、他の国の映画改革運動に受け継がれていく。彼らの自由な作風は、後のアメリカン・ニュー・シネマの監督たちに影響を与える。そしてアメリカン・ニュー・シネマを見ながら青春時代を送ったヨーロッパ各国の映画作家らが、一斉に映画を作り始めた。これが80年代ヨーロッパ映画の復興期である。80年代以降のヨーロッパ映画作家たちは、アメリカ映画に比して益々、凋落傾向にある自国映画を復活させようと努力した。これらの映画復興努力は国境を越えて(=言語と文化の壁を越えて)ヨーロッパ各国に及んだ。彼らの多くは、日本の溝口健二や小津安二郎、あるいはヌーヴェル・ヴァーグやアメリカン・ニュー・シネマから多くのことを学んだ、作家主義の立場に立った映画作家たちである。

シネマ・アートとは、事実存在(=実存)としての人間が出会う、可能性としての時間、その時間のアートである。

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートを課します。
平常点評価	50 %	授業への出席と班活動への取り組みを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

久津内一雄『シネマの世界』をテキストとして配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeit.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール (16)

53006

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

市民メディアが拓く世界

「組織された利害団体の広報活動と消費的公共圏」に占有されてしまったマスメディア公共圏に対し、近年いわゆる「市民メディア」が欧米にもアジアにも制度化され、多様な芽を出しはじめた。コミュニティラジオやケーブルテレビ、インターネットを活用した市民メディアは、地域住民どうしのつながりを創り出し、地域課題の解決やまちづくりに役立つなどの公共圏機能を果たし始め、過疎地域、障害者や在日外国人のコミュニティ形成にも欠かせないツールとなってきた。

このゼミでは、参加者それぞれが、さまざまな市民参加型メディアをフィールドに、市民メディアの発信内容、経済基盤、担っている人々の意識や課題などの実態を検証し、「市民メディア公共圏」が拓く新しい社会のメディア・情報システムの展望と課題をさぐる。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

市民参加型メディアのフィールドワークによって、「理念先行」で始まっている「市民メディア」の具体的な効果や影響を観察・評価し、今後の市民社会におけるメディアや公共圏のありかたを考えるとともに、マスメディア中心のメディア・情報の価値体系を再考し、学生の進路問題もあわせて再考していきたいと考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	授業の概要、ねらい、メンバー自己紹介
2	市民メディアとは何か	ゲスト・スピーカー(京都コミュニティ放送町田寿二局長・予定)
3	基礎研究1・関西の市民メディア	ラジオ・カフェ、FMわいわい、目で聴くテレビ、Scrap、奈良どっとFM.....
4	基礎研究2・市民メディアのネットワーク	『メディア・ルネサンス』(風媒社)、市民メディア全国交流集会
5	基礎研究3・メディア資源と分配	「メディアは誰のものか」(『現代思想』34巻4号)
6~7	市民メディアでのフィールドワーク	
8	班ごとのまとめ	
9~13	研究発表	
14~15	市民メディアとは何か 現況と課題の整理、報告書作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
パブリック・アクセスを学ぶ人のために	津田正夫ほか / 世界思想社 / /
市民メディア論	松野良一 / ナカニシヤ / /
非営利放送とは何か	松浦さと子 / ミネルヴァ / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

別途連絡

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール (17)

54830

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

自分史と現代史を架橋する

誰もがかけがえのない、たった一つの自分の生きた歴史をもっており、それは家族や地域の記憶や、現代日本の歴史とつながっているはずである。しかし戦後の高度成長や都市化にともなうコミュニティの崩壊の中で、共同の記憶、集合的な記憶が失われ、アイデンティティを喪失しつつある。

一方、戦後メディアの記録の中に、とりわけ映像(家族や地域の行事の写真や、そのときどきのニュースやドキュメンタリー)の中には、共同の記憶、集合的な記憶が豊かに残されてきている。

このゼミでは、身近に残された家族写真やフィルム、地域の写真、さらに社会的なニュース映像やドキュメンタリー番組を発掘し、それらを多角的に関わり合わせる作業を手がかりに、家族や自分の生きた時代と戦後史、自分史と現代史を架橋し、自らのアイデンティティを構築する一環とする。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeiji.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

歴史の学びを、他人から与えられた知識として集積するのではなく、映像アーカイブを媒介として、自分史/家族史/地域史/現代史を、統一したものととして自ら獲得することで、社会の主体として意識・行動する契機としたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	授業の概要、ねらい、メンバー自己紹介
2	自分史と現代史の架橋とは何か	
3	基礎研究1	「嫌われ松子の一生」から
4	基礎研究2	写真自分史の作成
5	基礎研究3	同時代資料の読み方 テレビ/映画でたどる、音楽で、CMで、政治/社会事件、 流行語.....
6~7	フィールドワーク	
8	中間総括作業	
9~13	研究発表	
14~15	自分史/現代史架橋の捉え直しと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	
平常点評価	60 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために	谷富夫 / 世界思想社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeiji.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール (18)

60265

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

立命館大学をはじめとする立命館学園は2006年、立命館憲章を制定しました。その中で、私たちの学園をあげて目指す人材像として「正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間」を掲げています。

本授業では「正義と倫理」のタイトルの下、立命館大学の卒業生の英知と豊かな人間性に触れることで、立命館憲章の精神である「高い志を持ちつつ生き働く人生」について深く考察します。

具体的には、高い志と大きな夢を持ちながらビジネス社会の第一線で活躍する30代、40代、50代の卒業生を対象に、受講生チームが周知な事前学習と準備(取材ノート作成)の上で取材(ヒアリング)し、報告書をまとめるまでのプロセスを通じてその実現を目指します。

受講生チームは、回生、学部垣根を越えて編成され、総合大学ならではの多様な顔ぶれで活発な意見交換を行い、取材に備えます。事前学習では基礎的講義をはじめ、取材(ヒアリング)の基本技法や取材ノートの作成法など、基礎的なスキルを学びます。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeit.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

本授業では講演のような一過性のもものと異なり、1セメスターをかけて本物の「正義と倫理」に触れます。立命館大学は強固な卒業生ネットワークを保有することで知られています。取材の対象となる卒業生はいずれも、その中から厳選された志の高い大きな人物です。授業を通じて、世代を超えた生き方・働き方を学び取り、一回り大きな人材へ成長することができます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義は、キャリア教育センターが提供する科目です。同センターは全学型キャリア教育科目として、「キャリア形成論」(1回生前期配当科目)、「キャリア形成論」(2回生前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)を開講しています。キャリア形成に関心の深い学生は、本講義とともにぜひ受講してください。

さらに、キャリア教育センターは発展的な科目として、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオブ演習」(3回生以上後期配当科目)も開講するほか、その関連科目として、高度なインターンシップ、コーオブ教育を柱とした「コーオブ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、BKC開講)も夏期集中講義として開講しています。本講義で培ったキャリア観をさらに発展的に修得したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme [導入・事前学習]	キーワード / Key Word
第1回目	テーマ / (導入)正義と倫理を持つ人生を考える (講義 + グループワーク)	概要 / 正義と倫理に満ちた高い志を持ちつつ働き、生きることを意味を考え、それに必要な基礎的素養は何かをグループワークを通じて考察する。講義内に取材チームを結成するとともに、各チームとも折衝担当、取材担当、記録担当を決め、30代、40代、50代の取材対象者との折衝に入る。
第2回目	テーマ / 事前講義「倫理について考える」	概要 / 映像教材をもとに、倫理観を持ち生き働くことの意味を深く考察する。教材は、不正の内部告発に踏み切った西宮冷蔵社長を追ったドキュメント。業界の内部告発が同社や社会にもたらした波紋を辿りながら、倫理観を持つ経営のあり方を問い直す。小レポートを課す。
第3回目	テーマ / 取材手法を修得する (講義 + グループワーク)	概要 / 世代を超えたメッセージを引き出すための必須スキルとして、取材ノートの作成法、取材技法の修得、を学習する。後半は、取材チームに分かれ模擬取材に備えるワーキングを行う。
第4回目	テーマ / 模擬取材の実践 (取材対象:加藤敏明教授)	概要 / 講義担当教員の加藤教授を対象に、模擬取材を取材チーム単位で行う。取材に当たっては、各チームとも前回講義で学んだ取材ノートを事前に用意する。
第5回目	テーマ / 模擬取材の総括 (講義 + グループワーク)	概要 / 本番の3取材を前に、模擬取材で明らかになった課題を整理する。
	[本取材]	
第6、7回目	テーマ / 30代取材 (取材チーム別に日程を調整し実施)	概要 / 30代卒業生を招き(訪問し)、チームで取材を行う。
第8回目	テーマ / 30代取材の総括学習	概要 / 各取材チームは30代取材の経過を総括し、40代取材に備えるとともに30代取材の記録整理作業に入る。
第9、10回目	テーマ / 40代取材	概要 / 40代卒業生を招き(訪問し)、チームで取材を行う。

第11回目	テーマ / 40代取材総括学習	概要 / 各取材チームは40代取材の経過を総括し、50代取材に備えるとともに40代取材の記録整理作業に入る。
第12、13回目	テーマ / 50代取材	概要 / 50代卒業生を招き(訪問し)、チームで取材を行う。
第14回目	テーマ / 50代取材総括学習	概要 / 各取材チームは50代取材の経過を総括し、その記録整理作業に入る。
	【総括学習】	
第15回目	テーマ / 総括講義「正義について考える」	概要 / 映像教材をもとに、正義を貫き生き働く意味を深く考察する。教材は、日本・中国の文化的架け橋を追究する大富社が制作したドキュメント。世代を超えて思いと志を伝承する中国人家族の生き様をもとに、正義を貫くことの意味を問い直す。小レポートを課すとともに、期末レポートに該当する報告書作成の指示も行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

- ・取材ノートや報告書の作成は、チームによる自律的な授業外学習となります。中でも報告書の作成はレポート試験に該当し、成績評価の30%を占めます。
- ・本取材は、準備などを含めれば実質的には2回の授業枠で納まりません。こちらも事実上授業外学習の要素が生じます。
- ・受講を機に、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。取材対象者はもちろん購読者です。噛み合った取材(ヒアリング)を実現するためにも、ぜひチャレンジしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	3取材を踏まえたチーム単位の報告書作成が、レポート試験に該当します。報告書の作成要領や提出期限は、最終授業で示されます。
平常点評価	70 %	出席状況、受講(取材を含む)態度、小レポート(2、15講)、の3要素をもとに評価します。

キャリア教育センターが提供する本講義は、教養科目であるとともにキャリア教育としても位置づけています。いずれ受講生の皆さんが巣立つ先のビジネス社会では、約束を守ることが絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。特に取材で遅刻が発生すると、取材を拒否される事態もあり得ます。講義でも始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなります。70%を占める平常評価のうち「出席状況」は大きな評価軸とされますので十分留意してください。受講を機に、時間厳守の生活リズムをぜひ身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・学生時代は、キャンパスにいる限り教職員を除けばわずか数歳違いの同世代同士の顔ぶれです。しかし、卒業後は受講生の両親を超える世代とも意思疎通を行わなければなりません。本講義では、卒業後の進路・就職も意識し、世代を超えた方々と円滑なコミュニケーションがとれる体験的学習でもあります。
- ・取材ノートの作成は、一種の歴史学(日本現代史)の学習にもなります。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、取材対象となる方々はいずれもビジネスの第一線で活躍する顔ぶれです。ホームページで検索すれば多くの情報が得られますので、事前に必ずチェックしてみてください。取材内容が一層充実したものとなるはずです。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

受講生にとって世代を超えた意見交換の最も身近な事例は、家族や親族です。受講を機に、周辺の異世代を見つけ出し、コミュニケーションをとるよう心がけてみてください。講義の枠を超えて、きっと役立つこととなります。

教養ゼミナール (19)

60264

担当者名 / Instructor 江原 武一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【今日の教育改革について考える】

日本の教育はいま危機的な状況にあるといわれ、さまざまな改革が実施されている。しかしその改革は時代や社会の変化に適切に対応し、教育の本質に適ったものなのだろうか。この演習では、私たちの身近なところに横たわっている教育の生きた現実や具体的な事例から出発して、転換期にある日本の教育改革の現状を検証し、そのゆくえを探ることをめざしている。

私たちは小さいときから現在まで、さまざまな教育を受けたり、学んだりしているが、教職志望の学生や教育学を専攻する学生を除けば、教育の問題を正面からとりあげたり、考えたりする機会はありません。この演習では、全学部全回生に開かれた「教養ゼミナール」の特徴を生かして、受講生が自分自身の専門や問題関心をふまえて、さまざまな立場から、現代の教育の諸問題について理解を深めるとともに、自分の過去と現在をふりかえり、さらに大学で学ぶことの意義や自分の今後を考える機会を提供してみたい。

受講生の興味と関心を生かした演習にするため、演習の前半では、教科書の『基礎教育学』を読みながら教養としての教育学の概要を理解するとともに、具体的な研究テーマを受講生と相談しながら柔軟に決めていきたい。また演習の運営方法は、グループで調べた研究テーマについての報告、参加者全員の討議を基本とし、各自が幅広い観点から教育をめぐる諸問題の理解を深め、自分にふさわしい教育観をいっそう充実していくことをめざしている。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeiji.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

現代の教育の諸問題を考えるのに必要な基本的知識や用語を理解し、活用できる(知識)。

プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーション、調査・分析・考察・報告・レポート作成などの技術を身につける(技能・表現)。

教育や学校に関する諸問題を、幅広い観点から主体的に考えたり、判断したりすることができる(価値観・思考)。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	オリエンテーション、自己紹介と関心のある教育改革の研究テーマ	
第2回目	『基礎教育学』の概要紹介(江原)と発表分担の決定(仮)	
第3回目	今日の教育改革の背景と課題(江原)、グループ別プレーストリーミングと今後の研究計画	
第4回目	文献検索の方法	
第5回～8回目	グループ別『基礎教育学』の発表と討論、研究実施状況報告	
第9回～10回目	グループ別研究の中間まとめ報告	
第11回～14回目	グループ別最終報告の発表	
第15回目	グループ別最終報告レポート作成のための作業	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業の進め方・基本方針

自分が関心のある研究テーマに主体的にとりくむ。

グループ作業を行う。グループの規模は2～3名から5～6名の範囲にする。

演習の時間内の作業を活用する。ただし2単位の計算では授業時間の他、同時間の予習と復習を含めるので、実際には授業時間以外の研究が必要になる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況や発表・討論への参加、グループ別最終報告レポート(執筆分担箇所を明記する)などを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に質問や意見などを積極的に発信することを希望する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『基礎教育学』	江原武一・山崎高哉編著 / 放送大学教育振興会 / 4595307041 / 2007年刊

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『教育改革の国際比較』

大桃敏行他編 / ミネルヴァ書房 / 4623049752 / 2007年刊

『大学の教育力 何を教え、学ぶか』

金子元久 / 筑摩書房 / 4480063847 / 2007年刊

『格差社会と教育改革』

苅谷剛彦・山口二郎 / 岩波書店 / 4000094262 / 2008年刊

上記の他、必要に応じて授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本学図書館 <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/mr/lib/index.html> (論文・記事検索(データベース) CiNiiにアクセスすると、国内で刊行された人文社会系の雑誌記事、学術雑誌などの記事検索を行うことができる。)

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール (20)

60263

担当者名 / Instructor 鳥居 朋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、青年期にあたる大学生の発達に関する基本的な理論や具体的な事例の検討を通じて、受講生自身が大学生活を設計するための視点を育むことを目的としています。

具体的には、青年期の発達課題や、映画等に見る現代の青年・大学生像、大学の諸機能についての解説を通して、受講生が自らの存在を発達の「可能態」として捉え、主体的に学習に取り組むための視点を培っていきます。また、ミニ演習や小レポートの作成によって、大学で求められる能動的な学びのスタイルや思考様式の獲得を促します。

個人およびグループでの作業に取り組むなかで、大学における学習・研究活動に必要な基本的な方法と態度を身につけ、知的探求プロセスの面白さを追求します。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeiji.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.人間の発達に関する基本的な理論や現代の大学生を取り巻く状況を理解し、青年期に固有な発達課題について説明できる。
- 2.大学生の学習・研究の基本的な方法や大学の特性を理解し、自分なりの知的探求の課題を提示できる。
- 3.大学生の発達にかかわるテーマについて、調べる・考える・書く・発表する・議論する・ITを活用する等の基礎的学習スキルを身につける。
- 4.大学での学びのルールを尊重し、多様(他分野・異年齢)な学生で構成される集団のなかで他者を理解し、共に学びあう雰囲気醸成に貢献する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標、毎回の授業概要、授業内外の学習課題、成績評価の基準と方法
2	青年期の発達課題(1) / 人間の発達段階と課題	発達の可能態、適時性、結晶性知能、流動性知能
3	青年期の発達課題(2) / アイデンティティの形成	意欲、感情、無気力、自尊感情
4	青年期の発達課題(3) / ミニ演習の発表と議論	発達過程の振り返り、影響を与えた要因分析、自己理解、他者理解
5	現代の青年・大学生像(1) / 海外編	人間理解、トラウマ、恋愛、メンター、自己表現
6	現代の青年・大学生像(2) / 日本編	自分と他者、進路決定、友人関係、「自分探し」
7	現代の青年・大学生像(3) / グループ演習の発表と議論	青年像の種類、発達課題、学習共同体、自己有用感
8	大学生を取り巻く環境(1) / オンキャンパス	カリキュラムと単位、学習支援機能、コーチング、正課外活動
9	大学生を取り巻く環境(2) / オフキャンパス	地域社会での経験、アルバイト、ボランティア、インターンシップ
10	学生の変容を促す大学(1) / 学習の理論と方法	教授・学習過程、Surface Learning / Deep Learning、「一人思考」、リフレクション(内省)
11	学生の変容を促す大学(2) / 学習デザインの発想	SWOT分析、成果体系図、学習ポートフォリオ、キャリア開発
12	学生の変容を促す大学(3) / おとなの学びへの移行	成人教育学(アンドラゴジー)、自己決定型学習、応用の即時性、経験の学習資源化
13	学生の変容を促す大学(4) / 研究への参画	アカデミックコミュニティ、学問的誠実性・倫理、研究者という専門職、地域社会への貢献
14	学生の変容を促す大学(5) / ミニ演習の発表と議論	大学の諸機能と学生、多様性の尊重、自己の相対化
15	まとめ / 大学生の発達と学びの探究をめぐる今日的課題	コミュニケーション、他者理解、共感、想像力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎回の授業を自分の問題関心に照らしながら聴くとともに、積極的な質問や文献検討、新聞記事や各種メディアからの情報収集等に努めてください。とくに、関心あるテーマについて自主的に調べ、十分な授業外学習によって学習成果を高めてください。なお、授業後の学習課題(ミニ演習やレポート作成)を課し、それに基づき次週の授業を進める方式をとる回があります。積極的に取り組んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	大学生の発達と学びの探究に関するレポート試験課題を出します。人間の発達に関する基本的な理論や現代の大学生を取り巻く状況を理解し、青年期に固有な発達課題について自分

の言葉で説明されている、大学生の学習・研究の方法や大学の特性を理解し、自分なりの知的探求の課題を設定できている、大学生の発達にかかわるテーマについて、調べる・考える・書く・発表する・議論する・ITを活用等の基礎的学習スキルを身につけている、を基準とし評価を行います。

平常点評価	45 %	毎回の授業の終わりにその日のテーマに関してミニペーパーを提出する(400~500字程度、3点×15回)。教育に関して興味関心を持ち主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示していることが基準となります。
-------	------	---

3分の2以上の授業に出席しレポート試験を提出した者のみを成績評価の対象とします。ただし、いわゆる「出席点」の加点は行いません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

少人数クラスの利点を活かし、応答の機会が多い双方向的な授業を行います。講義を聴いて内容を理解するだけでなく、グループでの議論や発表、ミニ演習に積極的にかかわり、主体的に授業に参加してください。また、各自が興味関心を持った個々のテーマについて、自分自身で掘り下げて考えてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キャンパスは変わる: シリーズ「現代の高等教育」2	苅谷剛彦編 / 玉川大学出版部 / 978-4-472-04075-7 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社 / 4-06-149827-4 / 講談社現代新書
大学生論: 戦後大学生論の系譜をふまえて	溝上慎一編 / ナカニシヤ出版 / 4-88848-735-9 /
日本のニート・世界のフリーター	白川一郎 / 中央公論社 / 4-12-150197-7 /
若者の法則	香山リカ / 岩波書店 / 4-00-430781-3 /

この他、授業中に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
審議会報告・白書・最新情報などが提供されています。

(財)日本青少年研究所 <http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>
児童・生徒に関する各種調査結果や研究の成果などが提供されています。

国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/>
教育施策の判断・立案のもととなる研究を行っている機関です。研究活動の発表のほか、教育情報データ、刊行物、シンポジウムの案内などが掲載されています。

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeit.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

- ・障がいをもった学生の学習支援: 障がいをもった学生は、すみやかに担当教員に連絡してください。学習を支援できるようなクラス環境や授業方法について検討します。
- ・不正行為: 大学での不正行為とは、カンニング行為によって自分の能力を不正確に伝えたり、他人の論文などを剽窃したりすることで他人の権利を侵害することなどがあたります。万が一、不正行為があった場合は、大学の規則にそって対応します。
- ・受講のルール: 他の受講者の学習環境を阻害するような行動をとる者に対しては、履修を取り消すように求めることがあります。授業への遅刻、途中退出、私語や携帯電話・メールの使用など、他者の迷惑になるような行動をとらず、マナーを守ってください。皆が気持ちよく学べる環境づくりをしましょう。

教養ゼミナール (21)

60262

担当者名 / Instructor 野田 文香

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

教育政策は社会のニーズやその時代背景を反映している。教育に対する社会の関心の高さは日本だけの現象ではなく、米国でも大統領が変わるごとに新たな教育政策が打ち出されるように教育問題は常に重要視されてきた。本ゼミナールでは、日米の教育政策を初等・中等・高等教育と幅の広いレベルから総括的に概観し、特に学力向上政策を軸に議論を進める。今、日米の教育界がどのような問題を抱え、どのような歴史的経緯を辿り、そして今後の教育政策がどのような方向に向かっているのか、歴史的・社会的・政治的な視点で事象を発見し、理解することを目的とする。日米両国に共通する教育的課題を探り、比較検討する力を養う。授業は、受講者の主体的な参加を前提とし、学習者が中心となって課題を見つけ、自ら多様なリソースを収集し、プレゼンテーションやディスカッションをベースに議論を進める。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

日米の教育政策を概観し、両国に共通する教育課題を見つける問題発見力・リサーチ力(海外の文献を読み込む力も含む)を獲得する。プレゼンテーションやディスカッションを通じて、主体性・積極性・情報発信力を身につける。多様な専門性や学年の垣根を越えて、教育問題について関心を持ち、自ら調べ、議論をする意欲をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション:(自己紹介、ゼミの進め方、成績評価方法、文献リソースの調べ方、学生個人の関心テーマについての情報交換)	「比較教育学」について
第2回	アメリカ教育制度論:K-12と高等教育	
第3回	日米教育改革の変遷	
第4回	米国がみた日本の教育	
第5回	学力テストとアカウンタビリティ:No Child Left Behind法	
第6回	能力別カリキュラム編成:トラッキングと受験戦争	
第7回~10回	各自のテーマの中間報告	発表やディスカッションを通じて、各自のテーマに関する理解を深める。
第11~14回	個人研究発表とディスカッション	
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	各自、テーマを決めて研究レポートを書き上げることを目的とする。
平常点評価	60 %	出席・発表・小レポート (特に授業内ディスカッションに積極的に参加した学生を高く評価する)

- ・事前に関心のある教育のテーマについて各自考えておくのが望ましい。
- ・海外の文献も適宜、読解に使う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール (24)

60259

担当者名 / Instructor 清水 凱夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本文化に強い影響を与えた中国の漢語で書かれた詩文中で一般常識として知っておくべきものを取り上げ、その意義を考察しつつ、講読してゆくようにする。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

一般常識としての有名な漢語による詩文を読解できる力をつける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	先秦文学1	詩経
3～4	先秦文学2	楚辞
5～6	漢代文学	司馬相如・古詩十九首等
7～8	魏晉文学	三曹・竹林の七賢等
8～10	南北朝文学	陶淵明・謝靈運・ユ信等
10～13	唐代文学	李白・杜甫・王維・白居易等
14～15	宋代文学	蘇シヨク・欧陽修・王安石等

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

教養ゼミナール (25)

60258

担当者名 / Instructor 中川 順子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

このゼミでのテーマは、個人・家族を支える地域社会をどうつくるか、である。

家族の福祉機能も弱まるなかで、地方行政も住民の生活サポートから撤退しようとしている。個々人の生活をささえる家族や地域をどう作り直すのか、それを「生活の共同」をキーワードに考えていく。講義形式と質疑、レポートと議論、など、進め方は、テーマに応じて変える。多様な学部からの参加を生かし、各自の経験を生かした多様な角度からの議論を期待する。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

家族や地域は身近すぎて見えないものである。家族も地域も、自分自身でつくり上げているようでありながら、意外にも、政策的に方向付けられていることも、見えづらいものである。それを講義と議論とおして自分なりに見えるようになってほしい。家族や地域の作り直しにとってのキーワードは「生活の共同」と設定した。なぜ今「生活の共同」なのか、その内容について理解を深めてほしい。地域社会にどのような「生活の共同」が必要か、意見・提案がまとまることを期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族、地域・自治体、協同組合や住民組織に関連する科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション:このテーマの持つ意味について	関係の希薄化 家族の変化 地域の再生
2-3	最近の家族の状況について認識の共有をはかる。最近の家族データについて、議論し、状況を読み取る。	少子化・高齢化・家族の多様化・標準家族
4-7	家族政策とは何か、そのとらえかた、および日本の家族政策の特徴と、戦後の開過程を講義・質疑形式で学ぶ。	中立的家族政策・規範的家族政策・近代家族・老親扶養三世家族・日本型福祉社会
8-9	従来の家族政策が、どのように家族や個人に作用したか、を検討。	企業社会・性役割分業型家族
10 - 11	個人・家族の生活を支える地域社会のネットワークの検討。	社会資源・ネットワーク
12-15	生活の共同とは何か:講義と質疑とおして、家族の行方、地域社会の再生について考える	共同性・サードセクター・協同組合・市民組織

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業外学習:授業に関連する家族・地域に関するトピックを新聞・雑誌で探し、議論に生かすようにしてほしい。メディア...テレビ・映画・コミックその他媒体は問わない...での家族の描かれ方、なども、事例として役に立つことがある。住宅などの設計思想も家族像なども密接にかかわる。自分の専門領域を生かして、多角的に論じてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	最後に自分なりの「生活共同」への意見をレポートにまとめてもらう。この最後のレポートを評価の対象とする。
平常点評価	70 %	日ごろの出席、議論への積極性を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

1冊のテキストで進めることはしない。授業の内容は、1現状・2政策・3生活共同の3つのパートに分かれている。2, 3については、中心となる文献を参考文献として準備する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家族の政治社会学	ジャック・コマユク / 御茶ノ水書房 / 4 - 275 - 01901 - 6 / 神奈川大学ブックレット
生活の共同	大沢真理編著 / 日本評論社 / 978 - 4 - 535 - 58503 - 4 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に指示する

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>

教養ゼミナール (26)

60257

担当者名 / Instructor 中川 正之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本人や日本語が外国人にはどのように映っているのか。非言語コミュニケーションや感嘆詞、挨拶、応答表現などを観察し、どのような特徴があるのかを考える。その上で、それがどの程度普遍性を持つものかを議論し、誤解される可能性や外国人には不愉快な表現になるのかどうかを検討する。授業の性質上からも外国人留学生の参加が望ましい。

教養ゼミナールHP <http://www.ritsumeiji.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

帰属集団の価値観が意外なところで顔を出し、それがコミュニケーションの障害となり、必ずしも真意が伝わらないことを体感し、違いを言語で説明する習慣を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本人・日本語の特質、あるいはステレオタイプのことが論じられている授業を履修していることが望まれるが、必須ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	母語を客観的にみるということ	感嘆詞、感動詞、フィラー
2	感動詞の役割	ポライトネス、言いよどみ
3	挨拶について	ポライトネス、話し手、聞き手
4	言語の規則	文法、イントネーション、並列語
5	中国人の「日本語」	文法、リズム、イントネーション
6	誤解される日本語(1)	語用論
7	誤解される日本語(2)	りきみ、不明確な表現、嘘
8	誤解される日本語(3)	応答、叫び
9	誤解される日本人(1)	誠実さ
10	誤解される日本人(2)	体験と知識
11	誤解される外国人	体験談
12	コミュニケーションギャップ(1)	ステレオタイプ、血液型、民族性、県民性
13	コミュニケーションギャップ(2)	世界の切り取り方、名づけ
14	コミュニケーションギャップ(3)	知識、体感、経験
15	コミュニケーションギャップ(4)	「世界」と「世間」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日常身辺で行われているコミュニケーション活動を観察すること。
現在学習している外国語学習に力を注ぐこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	行わない。
レポート試験	50 %	自ら見つけた問題について授業で得たことを踏まえて解決の糸口を見つけるレポートを課す。
平常点評価	50 %	毎回、積極的な発言が求められる。すでに書かれている本から問題を見つけ出すのではなく、日常的コミュニケーションの中で誤解された体験を記録し、問題の所在を考える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

インターネットで「定延利之」と入力し、ヒットした書籍、論文、エッセイなどで入手可能なものに目を通してくと授業のイメージがより明確になるであろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
漢語からみえる世界と世間	中川正之 / 岩波書店 / N4-00-006835-0 /
ささやく恋人、りきむレポーター	定延利之 / 岩波書店 / N4-00-006836-9 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

その他 / Others

現代の人権 (S)

13292

担当者名 / Instructor 徐 勝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

21世紀は「人権の世紀」だと言われている。冷戦の崩壊後、平和の到来が期待されたが、アメリカの一国覇権主義の欲望が新たな「戦争の時代」をもたらした。しかし、オバマ政府の登場により、世界では、人権、環境、平和、ジェンダーなどがキーワードとして再び注目を浴びている。これらの課題のすべてが、「人間が人間らしく生きることのできる世界」の創造を目指しているが、各地で戦争や紛争が多発し、重大な人権侵害が行われている。今日、人権ほど広く用いられている言葉は少ないが、明確に説明できる人は少ない。本講義では、人権の基本的な概念と歴史を概観し、人権の前提としての戦争と平和の問題に注目しながら、人権の実際を分かりやすく理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

人権が国家権力からの自由を本質的な性格を持っていること、そこから人権がどのように発展してきたかという歴史的過程を理解する。
戦争と人権の関係について考える。
世界人権宣言、国際人権規約、国連憲章、ジェノサイド条約など、重要な国際人権条約や国際人権文書を読み、それを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

一回生配当なので、履修科目を要求するのは難しいが、人権や平和の概説書、世界人権宣言、国際人権規約、国連憲章などを読んでおいてほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
3	国連憲章、世界人権憲章(世界人権宣言、国際人権規約)を読む	国連、世界人権宣言、ジェノサイド条約
1	人権とはなにか	人権
4	人権概念の成立と自由権的人権	近代国家の成立、産業革命、社会契約説、市民社会、自由放任主義、夜警国家、フランス人権宣言
2	人権論の展開(社会権的人権)	福祉国家、社会権、労働権、教育権、労働者の人権宣言
1	発展権的人権	集団的人権、資源に対する主権、発展権、環境権、平和権
1	国家安全保障論(非常事態論)と重大な人権侵害	集団虐殺、国家保安法、開発独裁
2	国際刑事裁判所(ICC)条約と現代の人権	ジェノサイド、戦争犯罪、人道に対する罪、国際司法裁判所
1	現代人権の見取り図	東アジアの歴史的人権、日本の人権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

人権の歴史と世界人権宣言について、幅広く本を読んでほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義の内容をよく理解し、概念の理解を的確にしているのか。配布資料をよく読み、把握しているのか。
平常点評価	30 %	中間レポートを課す。

講義中静粛を守り、講義開始後、30分以後の出席は認めません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義の時にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人権宣言集	高木八尺訳 / 岩波書店 / /
人権の歴史	杉原泰雄 / 岩波書店 / /
国際法から世界を見る	松井芳郎 / 東信堂 / /
人権の歴史	浜林正夫 / 吉川弘文堂 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国連ホームページ <http://www.unic.or.jp/>

財団法人アジア・太平洋人権情報センター <http://www.hurights.or.jp/index.j.html>

Yahoo!カテゴリ人権: http://dir.yahoo.co.jp/Society_and_Culture/Issues_and_Causes/Human_Rights/

http://dir.yahoo.co.jp/Society_and_Culture/Issues_and_Causes/Human_Rights/

その他 / Others

日本の近現代と立命館 (GA) § 特殊講義(日本の近現代と立命館) (GA) § ヴィジョン形成特殊講義(日本の近現代と立命館) (GA)¹³⁷²⁵

担当者名 / Instructor 芦田 文夫、岡本 直輝、小関 素明、川口 清史、倉田 玲、坂本 和一、柳ヶ瀬 孝三、山崎 有 恒 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『立命館百年史』の編纂、立命館学園の運営に深くかかわってきた複数の担当者によるリレー式の講義である。学園の創設からほぼ今日までの立命館学園の歩みと直面する課題が歴史的・問題視的に語られる。

到達目標 / Attainment Objectives

近代化のひずみや教育の危機などの日本の近現代史のなかで近代日本の高等教育ならびに立命館の歩みを学び、大学の歩みを客観的に捉えるとともに、自らの学びの位置を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、日本近代史や世界史についての授業は積極的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
前期第1回	序論:この講義の狙い、全体的概観と聞くべきポイント、本論の前史などの説明。	以下の授業の表題は担当者の都合により、わずかに変更することがありうる。
第2回	立命館の黎明と発展 明治後期～大正期	
第3回	立命館の黎明と発展 大学の拡充と自立化の模索	
第4回	戦争の影と教育・思想の危機 京大事件と立命館	
第5回	戦時体制下の立命館 日本型軍国主義の進行・転落とわが学園の意外の曲折	
第6回	敗戦後の混乱と学園の再建	
第7回	『立命館民主主義』の創成	
第8回	『高度経済成長』と大学の大衆化(1960年代) マスプロ教育に抗する『小集団教育』	
第9回	『大学紛争』と立命館教学(60年代末から70年代) 『大学解体』を否定して、さらに『大学改革』へ	
第10回	転換期の高等教育政策 『学園創造』はどのように開始されたか?	
第11回	学びのシステムの新展開 その特質と課題をめぐって	
第12回	立命館における課外スポーツ活動の歩み	
第13回	BKCはいかにしてつくられたか	
第14回	立命館創立100周年と立命館アジア太平洋大学(APU)	
第15回	総長講演	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業の内容の全般的な理解と的確な記述が求められる。絶対に出席していないと解答できない試験である。
平常点評価	20 %	出席状況を評価に加味する。

出席していても、単位を落とす受講生が多い授業である。単に出席しているだけでなく、担当者の話と授業の流れを理解することが肝要である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
立命館百年史 通史編1・2	／ ／ 大部であるが全般にわたる参考文献。
西園寺公望	岩井忠熊 / 岩波書店 / 西園寺公望を知るには便利。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

立命館で平和を学ぶ (GA)

15510

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「平和と民主主義」を教学理念と掲げる立命館大学で、なぜ、「平和学」を学ぶ必要があるのだろうか。

「平和学」は、現在の国際社会の状況を踏まえて、「平和」とは、どのような状況や、社会のありようをいうのか、また、どうすれば、紛争を解決して、「平和」の状況を導くのか、といった、科学的研究を行う「平和研究」、その研究成果を教育の現場で実践する「平和教育」、そして、教育を受けた人たちが、実際に、自分に何ができるだろうか、一人では無理でも、同じ気持ちや志を持つ人たちと連帯すれば、ひょっとしたら、自分にもなにがしかの貢献ができるのではないかという「平和運動」の、3つの柱からなっている。

立命館大学には、世界の中でも唯一、大学立の「平和博物館」を有しているが、「平和博物館」を、大学が平和教育の場として、あるいは、平和研究の推進拠点として活用できているのだろうか。

また、平和運動も、最近では、例えば、環境問題や開発問題、人権問題など、これまで別々に行動してきたNGOが、「連帯」して運動を展開するようになってきた。そのため、立命館大学の「平和博物館」には、そうしたNGOどうしを結ぶ結節点としての役割を担うことが期待されるのだが、これが果たして成功しているのだろうか。

これらの点を、是非、自分の目で見て、人の話をよく聞いて、そして、率先して、平和の「担い手」として実践できるようになる礎を築くことが、この講義のねらいである。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 現在の日本社会や国際社会の構造や問題点が、新聞やテレビのニュースを見ていて、「なるほど」と理解できるようになること。
- 2) かつての先達が築き上げてきた「平和学」の歴史の上に、21世紀の課題を重ね合わせてみたとき、何が喫緊の課題かを、自分の頭で整理し、理解できるようになること。
- 3) 外部との交流を深めて、立命館から世界に「平和」の尊さを発信できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

あらゆる科目が「平和」の実践には重要であることを理解できるようにしておくこと。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	平和学のあゆみ(1)	権力、暴力、核抑止力批判
第2回	平和学のあゆみ(2)	南北問題、構造的暴力
第3回	平和学のあゆみ(3)	地球環境問題の浮上
第4回	平和学のあゆみ(4)	文化的暴力とは？
第5回	戦争の違法化という観点から見た、「立命館大学国際平和ミュージアム」	戦争の違法化、*この日までに、事前に平和ミュージアムを改めて見学しておくこと
第6回	なぜ、日本には「平和博物館」が他国に比べて多いのか	戦争の記憶、被害と加害、自虐史観
第7回	南北問題の登場	先進国と途上国、戦後国際経済秩序(ブレトン・ウッズ体制)、構造調整プログラム
第8回	食糧問題のゆくえ	穀物市場、アグリビジネス、開発教育、
第9回	国際的相互依存の進展	敏感性と脆弱性
第10回	南北問題のグローバル化	グローバリゼーションの進展、ダボス会議、グローバル・アパルトヘイト
第11回	国際協調の可能性(1)	地球温暖化とは、エビステティック・コミュニティの役割
第12回	国際協調の可能性(2)	レジーム、ネオリベラル・インスティテューショナルリズム、京都議定書
第13回	国際協調の可能性(3)	排出権取引、洞爺湖サミット後の日本、第1約束期間後の温室効果ガス削減の取り組み
第14回	地球市民社会の形成(1)	対人地雷全面禁止条約の交渉過程
第15回	地球市民社会の形成(2)	NGOの影響力の高まり、グローバル・ガバナンス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義の連絡事項は、すべてWebCTを用いるので、1週間に1度は見ること。

また、ディスカッション・ボードに積極的に書き込みをすること。(話題提供として)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義を通じて、自分なりに、どの程度、新聞やニュース、インターネットなどを通じて調べ、自分の考えを形成するにいったかを見る論述2問。単に知識を問う問題にはしないので、持ち込みは自由とする

平常点評価 20 % WebCTでレポートを3回課す。そのうち2回以上を提出すること。
3回提出した場合は、110点満点で採点し、100点を超した場合は100点とする。

レポートは論文形式のものとし、参考文献リストを最後に明記すること。
レポートを課した初回に、レポートの書き方に関する講義を行う。
字数はいずれも2000字程度。(論理的であれば長くてもかまわないが、分量不足の場合は減点する。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日頃から、新聞やニュースの政治面や国際面を見ておくこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
平和学をつくる	池尾靖志編 / 晃洋書房 / /

参考書 / Reference Books

講義中に随時指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者のホームページ(<http://www.yikeo.com>)

その他 / Others

立命館で平和を学ぶ (GB)

15675

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「平和と民主主義」を教学理念と掲げる立命館大学で、なぜ、「平和学」を学ぶ必要があるのだろうか。

「平和学」は、現在の国際社会の状況を踏まえて、「平和」とは、どのような状況や、社会のありようをいうのか、また、どうすれば、紛争を解決して、「平和」の状況を導くのか、といった、科学的研究を行う「平和研究」、その研究成果を教育の現場で実践する「平和教育」、そして、教育を受けた人たちが、実際に、自分に何ができるだろうか、一人では無理でも、同じ気持ちや志を持つ人たちと連帯すれば、ひょっとしたら、自分にもなにがしかの貢献ができるのではないかという「平和運動」の、3つの柱からなっている。

立命館大学には、世界の中でも唯一、大学立の「平和博物館」を有しているが、「平和博物館」を、大学が平和教育の場として、あるいは、平和研究の推進拠点として活用できているのだろうか。

また、平和運動も、最近では、例えば、環境問題や開発問題、人権問題など、これまで別々に行動してきたNGOが、「連帯」して運動を展開するようになってきた。そのため、立命館大学の「平和博物館」には、そうしたNGOどうしを結ぶ結節点としての役割を担うことが期待されるのだが、これが果たして成功しているのだろうか。

これらの点を、是非、自分の目で見て、人の話をよく聞いて、そして、率先して、平和の「担い手」として実践できるようになる礎を築くことが、この講義のねらいである。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 現在の日本社会や国際社会の構造や問題点が、新聞やテレビのニュースを見ていて、「なるほど」と理解できるようになること。
- 2) かつての先達が築き上げてきた「平和学」の歴史の上に、21世紀の課題を重ね合わせてみたとき、何が喫緊の課題かを、自分の頭で整理し、理解できるようになること。
- 3) 外部との交流を深めて、立命館から世界に「平和」の尊さを発信できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

あらゆる科目が「平和」の実践には重要であることを、理解しておいてほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	平和学のあゆみ(1)	権力、暴力、核抑止力批判
第2回	平和学のあゆみ(2)	南北問題、構造的暴力
第3回	平和学のあゆみ(3)	地球環境問題の浮上
第4回	平和学のあゆみ(4)	文化的暴力とは？
第5回	戦争の違法化という観点から見た、「立命館大学国際平和ミュージアム」	戦争の違法化、*この日までに、事前に平和ミュージアムを改めて見学しておくこと
第6回	なぜ、日本には「平和博物館」が他国に比べて多いのか	戦争の記憶、被害と加害、自虐史観
第7回	南北問題の登場	先進国と途上国、戦後国際経済秩序(ブレトン・ウッズ体制)、構造調整プログラム
第8回	食糧問題のゆくえ	穀物市場、アグリビジネス、開発教育
第9回	国際的相互依存の進展	敏感性と脆弱性
第10回	南北問題のグローバル化	グローバリゼーションの進展、ダボス会議、グローバル・アパルトヘイト
第11回	国際協調の可能性(1)	地球温暖化とは、エビステティック・コミュニティの役割
第12回	国際協調の可能性(2)	レジーム、ネオリベラル・インスティテューショナルリズム、京都議定書
第13回	国際協調の可能性(3)	排出権取引、洞爺湖サミット後の日本、第1約束期間後の温室効果ガス削減の取り組み
第14回	地球市民社会の形成(1)	対人地雷全面禁止条約の交渉過程
第15回	地球市民社会の形成(2)	NGOの影響力の高まり、グローバル・ガバナンス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義の連絡事項は、すべてWebCTを用いるので、1週間に1度は見ること。

また、ディスカッション・ボードに積極的に書き込みをすること。(話題提供として)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義を通じて、自分なりに、どの程度、新聞やニュース、インターネットなどを通じて調べ、自分の考えを形成するにいたったかを見る論述2問。単に知識を問う問題にはしないので、持ち込みは自由とする。

平常点評価 20 % WebCTにレポートを3回課す。そのうち、2回以上提出すること。
3回提出し、100点を超えた場合には100点とする。

レポートは、論文形式のものを要求する。最後に参考文献リストを明記すること。
レポートを課す最初の講義のときにレポートの書き方に関する講義を行う。
字数はいずれも2000字以上。(論理的であれば、長くてもかまわないが、分量不足の場合には減点する。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日頃から、新聞やニュースの政治面や国際面を見ておくこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
平和学をつくる	池尾靖志編 / 晃洋書房 / /

参考書 / Reference Books

講義中に随時指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者のホームページ(<http://www.yikeo.com>)

その他 / Others

国際情勢の変化に応じて、講義内容を入れ替える場合がある。

スポーツ方法論I (1)

10130

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (2)

10131

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (3)

10268

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (4)

10269

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (5)

10270

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (6)

10778

担当者名 / Instructor 権 学俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (7)

10779

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (8)

10780

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (9)

10919

担当者名 / Instructor 西川 啓子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (10)

10920

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (11)

10921

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (12)

11424

担当者名 / Instructor 西川 啓子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (13)

11425

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (14)

11426

担当者名 / Instructor 藤田 太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (15)

11612

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (16)

11613

担当者名 / Instructor 藤田 太朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (17)

12172

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (18)

12187

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (19)

12315

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (20)

12346

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (21)

12748

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (22)

12753

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (23)

12752

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (24)

12838

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (25)

12839

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (26)

12840

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (1)

10208

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (2)

10209

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (3)

10365

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (4)

10369

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (5)

10370

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (6)

10848

担当者名 / Instructor 権 学俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (7)

10849

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (8)

10850

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (9)

11008

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (10)

11009

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (11)

11010

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (12)

11511

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (13)

11512

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (14)

11513

担当者名 / Instructor 藤田 太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (15)

11690

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (16)

11691

担当者名 / Instructor 藤田 太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (17)

12243

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (18)

12257

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (19)

12401

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (20)

12432

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (21)

12792

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (22)

12794

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (23)

12795

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (24)

12925

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (25)

12926

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (26)

12927

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

特殊講義(映像学)(GB) § ヴィジョン形成特殊講義(映像学)(GB) § 特殊講義(基礎)I(映像学)(GB) § 特殊講義(基礎)II(映像学)(GB) § 1(映像学)(GB) § 特殊講義(映像学)(GB)

担当者名 / Instructor 宿南 達志郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「情報産業論(Information and Communications & Industry)」です。(映画鑑賞の授業ではありません。)

急激に進化する情報機器や伝送技術により、情報産業の市場が大きく拡大するとともに、情報産業相互間の融合や他の産業分野における情報技術の活用が進んでいる。このような現状を定量的に把握するとともに、技術のトレンドやニーズの変化を分析することによって、情報産業の将来を見通すための議論を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

情報産業の全体像を理解する。

更に、それぞれの分野別の産業構造や今後の融合の可能性についても理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報社会論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	
第2回	コンピュータ産業1	コンピュータ発展の歴史
第3回	コンピュータ産業2	ユビキタスコンピューティングへの発展
第4回	通信産業1	電話サービスの発展と限界
第5回	通信産業2	携帯電話サービスの歴史と将来
第6回	通信産業3	ブロードバンドサービスの歴史と将来
第7回	放送産業1	民間放送の歴史と課題
第8回	放送産業2	公共放送の歴史と課題
第9回	コンテンツ産業1	アナログ分野
第10回	コンテンツ産業2	デジタル分野
第11回	インターネットビジネス1	インターネットビジネスの特徴
第12回	インターネットビジネス2	製造業の変化
第13回	インターネットビジネス3	サービス業の変化
第14回	インターネットビジネス4	コミュニティの変化
第15回	講義全体の整理とアップデート。	まとめ、質疑、レポート提出等。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テレビ、新聞、雑誌等で情報産業の動向を常に把握すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	課題の理解、分析力、論理性により評価する。
平常点評価	40 %	各講義でのミニレポート(30%) 出席率(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

QRコードを持参していない場合は欠席とする。

授業後にアップする講義資料や関連資料をチェックして復習に活用すること。

<http://www.ritsumeit.ac.jp/~shuku/>

教科書 / Textbooks

特に定めなし。

参考書籍、論文、記事等を授業時に提示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

メディア産業論	宿南 達志郎 他 / 有斐閣 / 9784641173117 /
クラウド・コンピューティング ウェブ2.0の先にくるもの	西田 宗千佳 / 朝日新聞社出版 / 9784022732545 /
iPhoneの本質 Androidの真価	日経コミュニケーション編集 / 日経BP社 / 9784822210816 /
誰も教えてくれない地デジTVの裏側	保岡 裕之 / 実業之日本社 / /
情報通信白書 平成21年版 (2007)	総務省 (編さん) / ぎょうせい / / 平成21年版は2009年7月に発行。
情報通信データブック2009	情報通信総合研究所 (編集) / NTT出版 / /
コンテンツ学	長谷川 文雄 (編集), 福富 忠和 (編集) / 世界思想社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(映像学)(GC) § 特殊講義(基礎)II(映像学)(GC) § 特殊講義(基礎)2(映像学)(GC) § 特殊講義(映像学)¹¹⁴⁷⁰(GC)

担当者名 / Instructor 宿南 達志郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『情報社会論(Information Technolgy & Society)』です。(映画鑑賞の授業ではありません。)

現代は情報化社会と呼ばれているが、そのような社会の中で生活、経済、経営、政治、法律、犯罪などが大きく変化してきている。そのような変化について認識を深めるとともに、変化が起きる原因やマイナス面を最小化しプラス面を最大化する可能性を探る。情報化社会の進展に大きな影響を与えている政府の政策についても詳細に分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

情報化社会の光と陰について理解し、リスクを回避しながら利便性を最大限享受するための課題等について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報産業論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と講義の進め方	講義内容のポイント、および到達目標の提示など
第2回	情報化社会と生活	ネットショッピング、電子マネー、住基ネット、Web新聞
第3回	情報化社会と安全・安心	災害情報、位置情報、警備システム、トレーサビリティ
第4回	情報化社会と経済・経営	ムーアの法則、ロングテールの法則、バーチャルカンパニー、ICタグ
第5回	情報化といじめ	学校裏サイト、メール攻撃、ホットライン
第6回	情報化と犯罪	闇サイト、違法取引、ネットギャンブル、出会い系
第7回	情報化と高齢者・障害者	情報バリアフリー、遠隔診療、ひとナビ
第8回	情報化と環境問題	省エネ機器、リサイクル、センサー
第9回	情報化と政治・選挙	ブログ、動画投稿、公職選挙法、
第10回	情報化と教育	eラーニング、ゲーム機利用、遠隔授業、電子図書館
第11回	情報セキュリティと個人情報保護	P2P、情報漏洩、ウィルス、迷惑メール、個人情報保護法
第12回	テレワークと雇用機会の変化	ブロードバンド、VPN、フレックスタイム
第13回	海外各国における情報化と社会(1)	欧米、コミュニティ、電子政府
第14回	海外各国における情報化と社会(2)	アジア、選挙、電子マネー
第15回	講義全体の整理とアップデート。	講義のまとめとレポート提出等

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビ、雑誌、新聞等で話題となっている 이슈 をフォローすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	知識、分析力、論理性などにより評価する。
平常点評価	40 %	各講義ごとのミニレポート(30%) 出席率(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

QRコードを持参していない場合は欠席とする。

授業後にアップする講義資料や関連資料をチェックして復習に活用すること。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~shuku/>

教科書 / Textbooks

特に定めない。
授業中に、最新の書籍、論文、資料、記事等を紹介する。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
ネット君臨	毎日新聞取材班 (著) / 毎日新聞社 / 4620318361 /
ケータイ世界の子どもたち	藤川 大祐 (著) / 講談社 / 9784062879446 /
学校裏サイト 進化するネットいじめ	渋井 哲也 (著) / 晋遊舎 / 9784883807482 /
個人情報保護法の解説 新訂版	中島成総合法律事務所 (著) / 一橋出版 / 9784834836271 /
NHKスペシャル グーグル革命の衝撃	NHK取材班 (著) / 日本放送出版協会 / 9784140811924 /
倫理と法 情報社会のリテラシー	矢野 直明 (著), 林 紘一郎 (著) / 産業図書 / 9784782851524 /
ウェブ時代をゆく	梅田望夫 / 筑摩書房 / 9784480063878 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(映像学)(GD) § 特殊講義(基礎)I(映像学)(GD) § 特殊講義(基礎)1(映像学)(GD) § 特殊講義(映像学)20354
(GD) § ヴィジョン形成特殊講義(映像学)(GD)

担当者名 / Instructor 新 清士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『インタラクティブ空間デザイン』

インターネットの発達と開発ツールの一般化によって「イノベーションの民主化」ともいべき状況が発生している。これまで企業だけがイノベーションの主体となり、製品とすることができ、ユーザーはその商品を選択し消費するという行為を通じる以外の方法で、開発に関わることができなかった。しかし、企業のイノベーション活動に、ユーザーも実際に様々な形で関わることができるようになりつつある。アルビン・トフラーのいう「生産消費活動」の領域がますます拡大しているのだ。ユーザーは、消費者であると同時に生産者にもなりうる。

ゲームの分野は、このイノベーションの民主化が、顕著に進んでいる分野の一つである。PCゲームを中心としたユーザーが自由にデータを改変できる「Mod」と呼ばれる活動を通じて、実際にイノベーションが発生している。

この講座では、そのユーザーが引き起こしたイノベーションの代表例ともいえる「カウンターストライクソース」のMod環境を利用して、実際にゲーム内のマップを開発する(レベルデザイン)を通じて、ゲーム開発の仕組みと、ユーザーが関わることができる生産消費活動を実際に体験する。そして、現在の高度なゲーム機向けのゲーム開発がどのように行われているのかを実践的に理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

「カウンターストライクソース」のMod活動を通じて、実際にユーザーでも十分にプロに通用するようなゲームが開発できることを実感できるようにすること。また、Modツールの利用を通じて、使用方法を習得し、特に現在のゲームデザイン分野の実践的ノウハウを体感的に習得する。集中講義期間中に、マップを一つ以上完成させることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション～全体の講義概要の理解	
第2回	「カウンターストライクソース」の基礎	
第3回	「カウンターストライクソース」のModツールの環境構築	
第4回	ハンマーエディターの使い方1 最初の部屋	
第5回	ハンマーエディターの使い方2 武器の設置、ライティングなど	
第6回	ハンマーエディターの使い方2 AIパス計算・実際のプレイ	
第7回	レベルデザインの概念の解説	
第8回	紙面マップ作成	
第9回	作成実習	
第10回	現在のゲーム機での開発手法の理解	
第11回	ライティングの理解	
第12回	作成実習(2)	
第13回	評価(1)	
第14回	評価(2)	
第15回	評価(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義は、毎日講義時間外に行われるレポート作成、もしくは、実際のマップ制作の作業データやスクリーンショットの提出を義務づける。講義時間外に、講義で求められる製作の時間を取ることを前提とする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点評価	70 %	日常点30%、ゲームデータ40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『富の未来』	アルビン・トフラー、ハイジ・トフラー / 講談社 / /
『ウィキノミクス』	ドン・タブスコット、アンソニー・ウィリアムズ / 日経BP / /

『民主化するイノベーションの時代』

エリック・フォン・ヒッペル / ファーストプレス / /

『ダンジョンズ&ドリーマーズ』

ブラッド・キング、ジョン・ポーランド / ソフトバンク / /

日本経済新聞Web IT Plus「新清土のゲームスクランブル」

<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx>

ユーザーが勝手に作ってしまった「ガンダム」新作ゲームタイトル

<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx?ichiran=True&n=MMITew000013042007&Page=1>

ゲーム業界のユーザー参加型コンテンツ「Mod」が流行る理由

<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx?ichiran=True&n=MMITew000019042007&Page=1>

CSEC Mod Communities

<http://www.c-sec.net/phpBB/>

Source SDK Docs 日本語版

<http://developer.valvesoftware.com/wiki/Category:Japanese>

参考書 / Reference Books

特にないが、ゲーム自体が好きで遊んできた経験を持っていることが望ましい。

「カウンターストライクソース」を事前に購入してプレイしておくことが望ましい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(映像学)(GE) § ヴィジョン形成特殊講義(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)I(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)II(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)III(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)IV(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)V(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)VI(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)VII(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)VIII(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)IX(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)X(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XI(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XII(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XIII(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XIV(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XV(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XVI(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XVII(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XVIII(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XIX(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XX(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XXI(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XXII(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XXIII(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XXIV(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XXV(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XXVI(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XXVII(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XXVIII(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XXIX(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)XXX(映像学)(GE)

担当者名 / Instructor 川村 健一郎、富田 美香

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「映像文化の創造と倫理」

映像文化はどのように保存され、次世代へと適正に継承されるべきか。また、映像文化は地域社会の中でどのように活用され、マネジメントされるべきか。これらの問いは、現在の映像文化を考える上で見過ごすことのできないアクチュアルな課題である。

この講義では、フィルム保存から最新のデジタル復元に至るまでのアーカイブ活動に関わる諸問題と、地域における公共映画上映とそのマネジメントに関わる諸問題について、その第一線で活躍する方々をお招きし、解説していただく。

第2回から第7回までが、アーカイブをテーマに、第8回から第14回までが、映像マネジメントをテーマに、担当教員及びゲスト講師によるレクチャーが行われる。第1回は担当教員2名による本講義のガイダンス、第15回は本講義の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

映像資料の保存・復元のあり方を学ぶことを通して、文化遺産・歴史資料としての映像の価値についての理解を深める。また、映像マネジメントの実際を学び、映画上映の社会的意義についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 映像文化の保存と活用	
第2回	フィルム・アーカイブとは / 富田美香	
第3回	多様な規格の映画文化とその保存について / とちぎあきら(東京国立近代美術館フィルムセンター 主任研究員)	
第4回	フィルム・アーカイブの活動と倫理的問題について / 岡島尚志(東京国立近代美術館フィルムセンター 主幹)	
第5回	小型映画の保存と復元について / 松本夏樹(大阪芸術大学非常勤講師、精神史・映像史研究家)	
第6回	『羅生門』の復元について / 天野ゆに子(角川映画株式会社 映像事業部 業務管理グループ)	
第7回	ラボ:フィルム復元について / 山本毅(株式会社IMAGICA ウェストフィルム事業部 フィルムプロセスグループ 係長)	
第8回	映画上映の倫理学:実践知としての映像マネジメント / 川村健一郎	
第9回	文化による地域活性化と映画 / 立木祥一郎(tecoLLC代表、NPOharappa理事)	
第10回	上映ホール・マネジメントの実際 / 濱田尚孝(株式会社デジタルSKIPステーション事業企画第一部)	
第11回	国際映画祭と地域 / 宮沢啓(元・山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局長)	
第12回	映画祭から映画館へ / 野々川千恵子(川崎市アートセンター映像部門ディレクター)	
第13回	映画、アート、都市 / 小川直人(せんだいメディアテーク 学芸員)	
第14回	美術館の映画製作と上映 / 越後谷卓司(愛知芸術文化センター主任学芸員)	
第15回	映像文化の創造と倫理 まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

授業内で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内で適宜指示する。

その他 / Others

特殊講義(映像学)(GF) § 特殊講義(基礎)I(映像学)(GF) § 特殊講義(基礎)1(映像学)(GF) § 特殊講義(映像学),²⁰³⁵⁵
(GF) § ヴィジョン形成特殊講義(映像学)(GF)

担当者名 / Instructor 鈴木 岳海

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「映像文化の創造と倫理“花街”のオーラル・ヒストリーと映像記録」

花街「上七軒」における“文化の多面性”を取り上げ、オーラル・ヒストリーをもとにビデオ作品を制作する。具体的には、花街の身体所作の一つ“舞踊”をテーマに取り上げ、専門家をお呼びし、講義と実演の観察、受講生の体験を経て、ビデオ作品の撮影をおこなう。

到達目標 / Attainment Objectives

花街文化に関して多面的な理解を実践を通して深める。
花街文化を映像として後代に残す。
撮影現場での即応性を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス:知的財産としての花街文化 / 花街の歴史講義 / お茶屋建築講義・見学(3時限)	知的財産 Edit in Camera撮影法 花街の歴史 お茶屋建築
第2回	舞踊の稽古実践(4時限)	舞踊 身体 所作
第3回	舞踊成果発表 / お座敷での舞の撮影(2時限)	座敷舞 室礼 空間
第4回	作品編集 / 芸妓インタビュー撮影(4時限)	芸妓 インタビュー調査
第5回	編集最終確認 / 作品講評と意見交換(2時限)	知的財産の記録・保存

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	作品制作と最終レポート
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都 舞妓と芸妓の奥座敷	相原恭子 / 文藝春秋 / /
花街:異空間の都市史	加藤政洋 / 朝日新聞社 / /
京の花街	渡会恵介 / 大陸書房 / /
北野踊り	水上勉 / 中央公論社 / / 水上勉全集第3巻
女人風土記	円地文子 / 新潮社 / / 円地文子全集14巻
他、適宜提示する	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

講義の場所は、以下の通り。各場所へは自費で集合することになります。

第1回:3時限@衣笠キャンパス / 上七軒井上邸

第2回:4時限@衣笠キャンパス

第3回:2時限@衣笠キャンパス / 上七軒お茶屋「藤幾」

第4回:4時限@衣笠キャンパス

第5回:2時限@衣笠キャンパス

受講人数によりませんが、2人で1グループになってもらいます。

場所や講義内容の詳細は、夏期休暇に入る前にガイダンスで説明します。

回を選んでの受講は認められません。

講義準備の都合により、講義内容と場所を変更することがあります。

特殊講義(オンデマンド)(ZA) § ヴィジョン形成特殊講義(オンデマンド)(ZA) § 特殊講義(基礎)I(オンデマンド)(ZA) 53003
 特殊講義(基礎)1(オンデマンド)(ZA)

担当者名 / Instructor 木村 利人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間生命の始まる前から、終わった後に至る、バイオエシックスのさまざまな問題を自然環境や社会環境の中でどのように把握すべきかを、「自己決定」「公正」「善行」などの、バイオエシックスの基本原則により検討します。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施されます。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができますが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めてください。なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められます。他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待します。

授業は早稲田大学から配信されます。受講登録完了後、早稲田大学オンデマンド事務局より、みなさんのRainbowMail宛に受講のページ案内、ID / PWなどの連絡があります。連絡後、受講を始めてください。

配信日程は早稲田大学・立命館大学だけではなく、他に開講している他大学と調整の上決定しています。

配信開始日が皆さんの登録決定より早いなど、立命館大学との学年暦と一致していない部分もありますが、皆さんの不利益にならないよう、受信期間を長くするなどして開講しますので、安心して受講してください。

到達目標 / Attainment Objectives

生殖医療、患者の権利、安楽死、高齢者のケア、バイオエシックス公共政策などを手がかりに、バイオエシックスの問題点とその具体的対応を学習します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	事前ガイダンス(オンデマンド授業について) 受信可能期間4月6日～4月26日	
第2回	第1講 バイオエシックスへの出発、第1回小テスト 受信可能期間4月13日～4月26日	
第3回	第2講 患者の人權と医療の考え方とは?、第2回小テスト 受信可能期間4月20日～4月26日	
第4回	第3講 医学人体実験・臨床試験は正当化されるのか?、 第1回小レポート 受信可能期間4月27日～5月3日	
第5回	第4講 生殖医療とバイオエシックス、第3回小テスト 受信可能期間5月4日～5月10日	
第6回	第5講 臓器移植をめぐるバイオエシックス、第4回小テスト 受信可能期間5月11日～5月17日	
第7回	中間討議 5 / 18(予定)	
第8回	第6講 末期ケアとアドバンス・ディレクティブ、第5回小テスト 受信可能期間5月25日～5月31日	
第9回	第7講 高齢者の生きがい、第6回小テスト 受信可能期間6月1日～6月7日	
第10回	第8講 いのちを学ぶ/ケアの心、第2回小レポート 受信可能期間 6月8日～6月14日	
第11回	第9講 難民救援と開発途上国をめぐる問題、第7回小テスト 受信可能期間 6月15日～6月21日	
第12回	第10講 未来のいのちのために - 新しい文明の創造に向けて、第8回小テスト 受信可能期間 6月22日～6月28日	
第13回	最終討議 6月29日(予定)	
第14回	最終討議教員フォロー、最終レポート	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	最終レポート(20点)
平常点評価	80 %	小レポート(20点 / 1回10点 × 2回)、小テスト(40点 / 1回5点 × 8回)、各回授業BBS(10点)、中間・最終討議BBS(10点)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めること。

なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められる。他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

テキストは使用しない。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

参考文献は必要に応じて授業の中で提示する。

その他 / Others

特殊講義(オンデマンド)(ZB) § ヴィジョン形成特殊講義(オンデマンド)(ZB) § 特殊講義(基礎)I(オンデマンド)(ZB) 54828
 特殊講義(基礎)1(オンデマンド)(ZB)

担当者名 / Instructor 西村 正雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ヨーロッパで最初に起こった産業革命以来、多くの人々が、産業(工業)の発展こそが私達の生活を豊かにし、それゆえに幸福をもたらすもの信じてきました。同時に、それにともなつた一連の概念 - 能率主義、合理主義など - こそが、そうした豊かな生活の基本的コンセプトとして取り入れられるべきものと信じてきました。この結果、まだ産業化が進んでいない部分(地域など)を産業化すること - 開発 - は、「進歩や発展から取り残された人々」を引き上げ、文明化し、幸福にする事であり、また積極的に能率主義、合理主義を取り入れることこそ、そうした目標に近づくことと信じてきました。この点で開発は素晴らしいことであり、「なされるべきこと」でした。しかし、近年こうした開発を見直し、それに伴う多くの問題が指摘されています。そしてこの問題は、文化の問題と密接に関連しており、現代文化人類学の最も中心的なテーマの一つとなっています。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施されます。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができますが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めてください。なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められます。また他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待します。

授業は早稲田大学から配信されます。受講登録完了後、早稲田大学オンデマンド事務局より、みなさんのRainbowMail宛に受講のページ案内、ID / PWなどの連絡があります。連絡後、受講を始めてください。

到達目標 / Attainment Objectives

本授業では、まず「開発」とは何かについて考え、文化人類学がそれをどのように捉え、分析しているのかを述べます。さらに私達が普段常識のように考えてきた「進歩」「発展」ということを、世界の事例を使いながら再検討してみたいと思います。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	事前ガイダンス	
第2回	オリエンテーション 授業のねらいと自己紹介	
第3回	第1講 文化人類学の基本的立場：文化的適応と文化変動	
第4回	第2講 「開発」とは何か？ - 文化人類学から見た「開発」 - いくつかの見方	
第5回	第3講 伝統的な経済システム	
第6回	第4講 世界システムの誕生と発展	
第7回	第5講 開発と社会変動	
第8回	中間討議(テーマ視聴とリアルタイムBBS)	
第9回	中間討議教員フォロー	第6講 開発プロジェクトの性格
第10回	第7講 開発の問題点 1：ブラジルのセルタオの例	
第11回	第8講 開発の問題点 2：インドネシアの緑の革命の例	
第12回	第9講 開発の問題点 3：東南アジアを中心とする地域の観光開発の例	
第13回	第10講 今、私たちが抱えている問題 - 「開発されていない」社会は本当に取り残されているのか？	
第14回	最終討議(テーマ視聴とリアルタイムBBS)	
第15回	最終討議教員フォロー	最終レポート提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	最終レポート(20点)
平常点評価	80 %	小テスト(40点 / 1回5点 × 8回)、小レポート(20点 / 1回10点 × 2回)、各回授業BBS(10点)、中間・最終討議BBS(10点)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めること。

なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められる。他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待する。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は必要に応じて授業の中で提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(オンデマンド)(ZC) § ヴィジョン形成特殊講義(オンデマンド)(ZC) § 特殊講義(基礎)I(オンデマンド)(ZC) §⁵⁴⁸²⁹
 特殊講義(基礎)1(オンデマンド)(ZC)

担当者名 / Instructor 赤間 亮、竹本 幹夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

世界には多くの演劇がありますが、日本を代表する古典演劇である能楽(能・狂言)と歌舞伎は、その伝統の長さにおいて、類を見ないものがあります。もちろん能や歌舞伎よりも古くからあると自称する演劇は少なくありませんが、それが現代まで途切れなく続いているという証拠を、文献資料(台本・上演記録その他)によって示すことの出来る分野は、そう多くはないのです。また日本の能楽や歌舞伎は、世界で高く評価されており、それは伝統的な演劇の中でもきわめて洗練度の高い演技を持っているためです。世界の伝統演劇の中には、きわめて古い文学的古典作品を劇化したものも少なからずあります。しかしながら演技の奥深さと美しさが、その詞章の言語芸術的レベルの高さとあいまって、演劇的な完成を遂げているのは、やはり日本の古典演劇においてはいいのです。このようなすぐれた文化遺産を世界の人々に紹介し、共有してもらおうという志から、この授業を構想しました。能・狂言7回、歌舞伎7回の授業で、早稲田大学と立命館大学との協力により実現したものです。

またこの授業は2003年度文部科学省21世紀COE事業の研究拠点に選ばれた、早稲田大学演劇博物館演劇研究センターと立命館大学アート・リサーチセンターの、それぞれの研究成果の社会的還元という意味も持っています。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施されます。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができますが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めてください。なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められます。また他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待します。

授業は早稲田大学から配信されます。受講登録完了後、早稲田大学オンデマンド事務局より、みなさんのRainbowMail宛に受講のページ案内、ID / PWなどの連絡があります。連絡後、受講を始めてください。

到達目標 / Attainment Objectives

毎回の授業を通じて、日本の古典演劇の歴史を正しく認識し、その魅力をより深く理解することを目指しています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	能楽の源流と現代の能・狂言	
第2回	狂言の魅力	
第3回	観阿弥時代の能	
第4回	世阿弥の時代	
第5回	世阿弥の能・世阿弥時代の能	
第6回	ポスト世阿弥時代	
第7回	室町後期の能	中間到達度テスト
第8回	お国歌舞伎から野郎歌舞伎前夜	
第9回	元禄歌舞伎の華	
第10回	音曲の発達と歌舞伎舞踊	
第11回	人形浄瑠璃と歌舞伎	
第12回	歌舞伎の完成と爛熟期	
第13回	三大名作の世界	
第14回	歌舞伎の舞台と演技	
第15回	最終到達度テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

映像として見せられる舞台は非常に限られているので、受講期間中に実際に劇場や能楽堂等に行き生の舞台を鑑賞していただくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	テスト(前半能1回、後半歌舞伎1回の計2回)とする。 講義前半7回、後半7回のうち、いずれか3回以上の欠席で受験資格を失う。前半分は1回のうち2章以上の未視聴がある場合は欠席扱いとする。(後半歌舞伎に関しては各回1章のみのため、未視聴は欠席扱いとなる)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アート・リサーチセンター <http://www.arc.ritsumeai.ac.jp/>
赤間研究室 <http://www.arc.ritsumeai.ac.jp/lib/geino/>
演劇博物館 <http://www.waseda.jp/enpaku/index.html>

その他 / Others

特殊講義(海外留学英語演習)(PA)

14213

担当者名 / Instructor 西山 淳子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得し、留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927
 PA・PCクラスの担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

特殊講義(海外留学英語演習)(PB)

14214

担当者名 / Instructor 飯田 未希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得し、留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927
 PA・PCクラスの担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

特殊講義(海外留学英語演習)(PC)

16491

担当者名 / Instructor 西山 淳子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得し、留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927
 PA・PCクラスの担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

特殊講義(海外留学英語演習)(PD)

16492

担当者名 / Instructor 飯田 未希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得し、留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927
 PA・PCクラスの担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

京都学概説I (L) § 京都歴史回廊概論 (LA) § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム) (GA) § ヴィジョン形成特殊講義14093
歴史回廊概論 (PA)

担当者名 / Instructor 三枝 暁子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

歴史学の方法論に基づく多様な視点から、京都における過去の事物・事象、京都に根付く伝統や文化について考察することにより、京都を断片的な「点」から「線」そして「面」として把握し、総合的に理解する。あわせて、京都の歴史、文化や伝統が日本全体にどのような影響を及ぼしたのか、時間的な広がりをもって考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

京都の歴史についての理解を深めることにより、京都の文化や景観を成り立たせている様々な要素を発見することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義内容の概要を説明の上、京都の歴史・地理に関する基礎的事項を確認する。	
第2回	平安京成立前史として、渡来人ののこした景観・技術・文化について紹介する。	
第3回	平安遷都の持つ意味を、その時代背景から考察・紹介する。	
第4回	平安京の空間的特質について紹介し、現行地図との比較等を行う。	
第5回	平安京に花開いた文化のありようを、とくに「国風文化」の展開から紹介する。	
第6回	院政期に展開した京都の空間的変容と、祭礼の興隆について紹介する。	
第7回	鎌倉における武家政権の誕生が、京都に与えた政治・文化的影響について考察・紹介する。	
第8回	南北朝内乱、及び京都における武家政権の誕生が、京都の空間と文化に与えた影響について考察・紹介する。	
第9回	飢饉や戦乱にまきこまれながら果敢に生きた室町・戦国期の京都の人々の暮らしについて紹介する	
第10回	秀吉の京都改造と、江戸における幕府の成立が京都にもたらした影響を、考察・紹介する。	
第11回	近世期における京都の名所化・観光化の展開について紹介する。	
第12回	東京遷都前後の混乱と復興について、考察・紹介する。	
第13回	京都の近代化を、西陣織をはじめとする諸産業における「伝統」の創出から考察する。	
第14回	戦中戦後の産業・暮らし・観光のありようについて紹介する。	
第15回	これまでの講義内容をふりかえりつつ、現代京都のかかえる問題について検討する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容が理解できているか、関心や問題意識に基づく自己作業ができているか、など。
平常点評価	50 %	出席状況など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『京都の歴史』全10巻	/ 学藝書林 / /

『京都』

林屋辰三郎 / 岩波書店 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

京都学概説Ⅱ(L) § 京都歴史回廊研究Ⅰ(L) § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム)(GC) § ヴィジョン形成特殊講義(14094)
歴史回廊研究Ⅰ(P)

担当者名 / Instructor 河角 龍典

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

< 歴史都市京都の景観と環境 >

本講義は、歴史都市京都の「景観」や「環境」、「産業」にかかわるトピックを取り上げ、主に地理学の視点からの講義を進める。講義の対象は、単に現代の京都にとどまることなく、平安京建設以前、以降のすべての時代を対象とする。都市の開発の舞台となった自然環境、都市の景観や環境の歴史、各産業の実態を通して、現代や未来の京都のあり方考える。

到達目標 / Attainment Objectives

京都をフィールドとして研究していくための地理的な基礎知識を身につける
京都の景観、環境、産業などにかかわる問題を明確にする。
地図の読解を通して地域を分析する方法を理解する。
研究資料としての地理情報の収集方法を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション: 地図で読み解く京都の移り変わり	地形図・空中写真・絵図・地理情報システム
第2回	平安京の都市計画と自然環境	風水思想・船岡山・池亭記・バーチャル平安京
第3回	京都の碁盤目状区画	条坊制・天正地割・御土居・近代都市計画・建物疎開
第4回	京都のくらしと水	鴨川・扇状地・水害・地下水・琵琶湖疎水・産業
第5回	京都の気候	ヒートアイランド・地球温暖化・花見・年輪・古気候
第6回	京都の地震と文化財	直下型地震・花折断層・火災・世界文化遺産・文化財
第7回	京都の森	北山杉・禿げ山・マツタケ・燃料革命
第8回	京野菜、宇治茶とブランド化	産地形成・ブランド京野菜・宇治茶の定義
第9回	京都の伝統産業	西陣織・地場産業・ハイテク産業
第10回	京都の観光	観光資源・国際観光都市・旅の変容
第11回	京都の商業	錦市場・大型店・商業地域再編
第12回	京都の景観問題と京町家	マンション・京町家の活用と再生・景観保全・京都市新景観条例
第13回	京都の安心・安全とリスク	ハザードマップ・犯罪地図
第14回	小京都	小京都ブーム・景観要素
第15回	まとめ	地図から読み解く京都

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業内容の理解度、研究方法の理解度、地図の解釈の的確さなどで評価します。
平常点評価	20 %	コミュニケーション・ペーパー

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業内容をより一層深めるためには、実際に現地に赴き観察することが大切です。授業中にフィールドワークを行うことはできませんが、各自、授業中に取り上げたフィールドを地図を片手に歩くことをお勧めします。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都地図絵巻	植村善博・香川貴志編 / 古今書院 / 978-4772231114 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京・まちづくり史	高橋康夫・中川理編 / 昭和堂 / 978-4812203149 /
バーチャル京都	矢野桂司・中谷友樹・磯田玄編 / ナカニシヤ出版 / 978-4779501005 /

適宜授業中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

「バーチャル京都」(立命館大学地理学教室)

<http://www.geo.it.ritsumeai.ac.jp/webgis/ritscoe.html>

その他 / Others

京都歴史回廊研究II (L) § 人文科学総合講座特殊講義I (LL) § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム) (GD) § ヴィジョン¹⁶³¹⁰
成特殊講義(京都歴史回廊研究II) (P)

担当者名 / Instructor 河原 典史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

〔京都文化の創造と景観の復原 歴史地理学的アプローチ〕

古都・京都には、さまざま伝統が息づいている。その姿を変え、なかにはすでに過去のものもある。一方、近現代において、新たに創造されたものも少なくない。

本講義は「文化」「景観」「保全」などをキーワードとし、転機を迎えつつある京都の歴史・地域的背景を取り上げ、地域振興の実践を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

京都をめぐるいくつかのトピックを年代順で紹介して、それに関して歴史地理学的なアプローチを理解する。そして、「文化」「景観」を創りだしてきた人びとの生業を捉える。これらの学術的な記述を活かしながら、京都文化を「保全」する方法を考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに: 京都文化を読み解くために	京都、歴史地理学、フィールドワーク
第2回	京都郊外の条里システム: 歴史的景観とは	古代、嵐山、条里システム
第3回	平安京プランの創造: 地図に蘇らせよう	平安京、条坊制、景観復原
第4回	平安京プランの変貌: 自然・社会・経済条件から考える	条坊制、片側町、両側町
第5回	聚楽第の遺構: 景観復原のおもしろさ	聚楽第、豊臣秀吉
第6回	秀吉の京都改造(1): 小京都の誕生	近世城下町、寺町、同業者町、
第7回	秀吉の京都改造(2): 丸竹夷にない小路	御土居堀、天正地割、辻子と突抜
第8回	京都近代化事業の展開: 新しい京都文化の創造	琵琶湖疎水、水道事業、道路拡張、市電敷設
第9回	『京都地籍図』にみる近代化: 一次資料の基礎	三条通と四条通、土地法典
第10回	『工場通覧』にみる近代化: 一次資料の応用	西陣織、動力化
第11回	京町家の変貌と保全: 京都らしい町並み	京町家、類型、両側町、
第12回	京都文化の新たな発見: 海を渡った京都の食文化	歴史地理学的アプローチ、軍都・伏見、缶詰
第13回	京都文化の保全(1): 川端康成の『古都』から考える	北山杉、林業(生業)、組と同齡集団
第14回	京都文化の保全(2): 文化の消失?	磨丸太、女性労働力、技術革新
第15回	おわりに: 京都文化を保全するために	京都、歴史地理学、フィールドワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	京都文化の創造・保全をめぐる歴史地理学的アプローチの理解
平常点評価	20 %	授業中に実施する一次資料の読解に関する小レポート

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

とくに使用しない
適宜、レジュメを配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都地図巻	植村善博・香川貴志編 / 古今書院 / 978-4-7722-3111-4 /
京都地図物語	植村善博・上野裕編 / 古今書院 / 4772216855 /
バーチャル京都	矢野桂司・中谷友樹・磯田弦編 / ナカニシヤ出版 / 4779501008 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都歴史回廊プログラム <https://lms.freemind.co.jp/rekishi/>

京都歴史回廊協議会 <http://www.kairou.org/>
その他、適宜紹介する

その他 / Others

京都市文化財保護課からのゲストスピーカーによる討論会を予定している。また、受講生数を鑑みて、京都市内のフィールドワークも計画している。その場合、事前の告知によって授業計画を変更する。

京都学概説Ⅳ(L) § 京都歴史回廊研究Ⅲ(L) § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム)(GE) § ヴィジョン形成特殊講義¹⁶³⁶¹(京都歴史回廊研究Ⅲ)(P)

担当者名 / Instructor 島田 康寛

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

明治から大正、昭和にかけて京都で活躍した主な日本画家、洋画家を選んで、それぞれの事跡をその関連作家をも含めて具体的に辿り、その展開の必然性と特徴を明らかにする。この作業を通して京都の近代美術史の概要を理解出来るようにする。

到達目標 / Attainment Objectives

近代京都画壇の主要画家の事跡を知ること。
近代京都における日本画と洋画の歴史を把握すること。
明治以降、京都人ひいては日本人の美意識にどのような変化が起こったかを確認すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

京都学プログラムの他の科目および広く美術、文学、文化、歴史にかかわる科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	田村宗立の「西洋」との出会い	眼鏡絵 写真 油絵 陰影 色彩 遠近法 合理性
第2回	幸野楳嶺と京都府画学校	田能村直入 久保田米僊 望月玉泉 四宗 学校教育 画塾制度
第3回	竹内栖鳳と日本画の近代化	鶴派 写生 写実 写意 円山応挙 与謝蕪村 松村月溪 四条派 コロー 京都市立美術工芸学校 京都市立絵画専門学校 文展
第4回	浅井忠と京都洋画の形成	関西美術会 洋画家二十日会 聖護院洋画研究所(関西美術院) 水彩画 洋画と日本の風土
第5回	千種掃雲、田中喜作と明治末～大正初期の新動向	日本画と洋画 現実社会に注ぐ眼 リアリズム 客観表現から主観表現へ 芸術の自立的性
第6回	土田麦僊と国画創作協会	京都市立絵画専門学校 中井宗太郎 西洋美術 東洋美術の古典 芸術家と美術団体 個性 悪写実 新古典主義
第7回	甲斐庄楠音と耽美主義芸術	岡本神草 木村斯光 菊池塾 歌舞伎 遊里 精神と肉体 耽美主義文学
第8回	安井曾太郎・梅原龍三郎と日本洋画の成熟	セザンヌ ルノアール 理知主義 感覚主義 日本的美意識の表現 二科会
第9回	上村松園と美人画	美人絵 美人画 女性像 文展美人画室 北野恒富 錦木清方 男の眼と女の眼
第10回	須田国太郎と油彩画の本質	油彩画法の歴史 ヴェネツィア派 バロック絵画 明暗・色彩の階調 「切り花的芸術」 リアリズム 東洋的美感
第11回	戦後日本画の危機感とパンリアルの画家たち	俳句第二芸術論 日本画滅亡論 創造美術 走泥社 世界性 現実直視 マチエール 三上誠 下村良之介 上村松篁 秋野不矩 八木一夫
第12回	堂本印象と抽象絵画	絶えざる挑戦 渡仏 アンフォルメル 新造形 障壁画 東丘社
第13回	福田平八郎における写生と装飾	自然 生命 見ることの喜び 色彩と形態の簡略化 写生 装飾 六潮会
第14回	小野竹喬・徳岡神泉における象徴	自然 生命 象徴と幽玄 見ることと感ずること
第15回	池田遙邨と俳諧の伝統	京都画壇と俳句 山頭火 ユーモアと哀愁 人生と旅

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

出来るだけ展覧会を見て美術作品に触れること。堂本印象美術館には授業の一環として見学を予定。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点評価	30 %	出席率を平常点として考慮する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books**

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
浅井忠と京都洋画壇(日本の美術353)	島田康寛 / 至文堂 / T1060016431600 /
改訂版京都洋画の黎明期	黒田重太郎 / 山崎書店 / 4-903711005C0070 /
-----	-----
国画創作協会の全貌	原田平作・島田康寛他 / 光村推古書院 / 4838101678C0071P28000E /
-----	-----
安井曾太郎(岩波新書)	富山秀男 / 岩波書店 / /
-----	-----
福田平八郎	島田康寛 / 光村推古書院 / 4838102941C0071 /
-----	-----
その他の参考書はその都度紹介する	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

京都学概説Ⅲ(L) § 京都歴史回廊研究Ⅳ(L) § 特殊講義(京都歴史回廊プログラム)(GF) § ヴィジョン形成特殊講義¹⁴⁰⁹⁵
都歴史回廊研究Ⅳ(P)

担当者名 / Instructor 中本 大

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

平安時代以来、日本における文学活動の中心であり、多くの芸術的成果を生み出した作品の宝庫、京都。『古今和歌集』や『源氏物語』をはじめ、近代の森鷗外「高瀬舟」や三島由紀夫「金閣寺」などに至るまで、数々の文学作品の舞台であるとともに発信源である京都。この授業では、日本古典文学史を彩る「京都」と関わる文学作品に注目し、作品の中で「京都」がどのように描かれてきたか、作者は「京都」をどのように捉えているか、読者はどのように読解、理解し、その結果、京都に対してどのようなイメージを抱いたか、など多様な視点を通して浮かび上がる日本文学史における「京都」を総合的に探究することを目的とする。その上で、文化・芸術空間としての「京都」の個性や特質について明らかにしたいと考えている。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業では、

文学生成の空間として、作品の舞台として、作品に関わった人々の活動拠点として多様に捉えることのできる京都の文学史的・文化史的意義を理解すること

文学研究の手法から「京都」に関連する問題を解明していくために必要な方法論の基礎を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

予備知識は不要。逆にこの科目の受講が「京都学」を深めていく上での基礎となる。また、文学・史学・地理学の概論科目をあわせて受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	唐の長安・洛陽と平安京 都人は『万葉集』をどう捉えたか	平安遷都と平安京文壇の確立
第二回	『古今和歌集』と『万葉集』	『古今集』は「京都」の文学か 和歌における都鄙
第三回	『源氏物語』の「京都」	物語に描かれない「京都」 物語はなぜ祇園・伏見を描かないのか
第四回	『源氏物語』の「京都」	物語が生み出した名所 夕顔はなぜ五条に住んでいたのか
第五回	『源氏物語』の「京都」	光源氏はなぜ六条院に住んだのか
第六回	『枕草子』の京都	宮廷女房の行動半径
第七回	京都の「歌枕」	和歌に詠まれた「京都」
第八回	動乱の目撃者、長明の見た「京都」 福原遷都の意味	『方丈記』の描く「京都」
第九回	兼好の観察眼その一	『徒然草』と洛北・洛西の風景
第十回	兼好の観察眼その二	風景の記憶と景観
第十一回	禅宗寺院と京の伝統	禅寺は鎌倉の「居留地」か
第十二回	京の出版事情	朝廷・豊臣、そして徳川と古活字版
第十三回	名所図会の展開	近世観光都市としての京都
第十四回	文学史における「京都」	日本人は「京都」とどう接してきたか
第十五回	人文学的地域貢献のあり方としての「文学的方法」	人文学的地域貢献は可能か

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

古典テキストを対象とする授業であるため、事前に物語の梗概を理解し、作品を読了していることが望ましい。ただ、現代語訳に重きを置いた授業ではないので安心(?)すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業内に実施する2回のレポートテスト(授業外学習の成果含)の成績(1回につき45点満点)で判定する。併せてコミュニケーションペーパー等に示されたオリジナリティあふれる優れた知見を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は京都学プログラム所属の学生については、京都学プログラムのコア科目の一つとして位置づけている。毎授業終了時にコミュニケーションペーパーを配布し、受講生の到達度や問題意識の顕在化を目指す予定である。したがって日常点を重視し、その上で新知見を獲得したか否かを2回実施予定の授業内テストで判定する。定期試験などは実施しない。

もちろん京都学プログラム以外の学生の受講も大いに歓迎する。授業で取り上げる作品は立命館から見てもまさに「地元」の文学。京都で学び、実際にゆかりの地をすぐに訪れることのできる喜びを噛みしめつつ精励してほしい。

教科書 / Textbooks

使用しません。

参考書 / Reference Books

授業のなかで適宜指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域研究にリンクした「複合的」文学研究は、他大学に類を見ない本校独自の新しい取り組みです。したがって参考となる先行研究はほぼ皆無です。この授業の受講生のなかから後代のエキスパートを育成していきたいと考えています。

担当者名 / Instructor 今仲 康之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、日本の行政について、一般的に常識として備えておくことが望ましい「国の仕組み」とそれぞれの組織の最近の政策課題に関する基礎的な知識・知見を養うものとして開講する。

各回のテーマに沿って中央省庁から、中堅幹部行政官の方々をゲストスピーカーとして招き、各府省庁がどのような役割を果たし、また、現在ではどのような行政課題があり、どのような政策を考えているのかを、実際に仕事に就いている人たちから語ってもらおう。また、その中で、仕事に携わる人が備えていることが望ましい力とその力が要請される所以を、日常の業務体験を通じて語ってもらおう。各回の具体的な語り手は各府省庁の中堅幹部行政官であり、日本の行政組織の在り方と政策課題を常に念頭に置きながら各自の職務を考えている人たちである。従って、この講義全体を通じて、受講生が総合的に日本の行政組織全般を見渡して正確な国の行政についての認識と問題意識を構築することを目指している。

これらを通して、大学生として身につけることが相応しい教養を養う科目として開講する。

この講義は、必ずしも公務員・公務従事者といった具体的な進路選択との直接的な関わりを念頭に置いたものではないが、今の時点で考える将来進路において国家ないし地方の公務員関係を念頭に置いている者は奮って受講してくれることが望ましい。

なお、この授業は1・2回生のみを対象としています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・国の行政組織全体に関する高い見識が養える。
- ・各府省庁の政策課題と今後の展望について理解できる。
- ・大学で「何をどのような問題意識から学ぶことが重要であるか」を考えるための見識を養える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前の予備知識は特に必要はないが、受講の過程において、高校卒業までに既に身に付けている社会や理科の領域についての総合的知識の意味をもう一度よく確認することが望ましい。そして受講後は、広く公共政策を論じるために必要な知見がどんなものであるのかを主体的に関連づけて他の教養科目や学部専門科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	本講義をうけるにあたって～この授業の目的と到達目標について	
2	外務省 日本の外交政策	
3	内閣府 経済財政諮問会議の変遷について	
4	経済産業省 日本経済の今後の方向性について	
5	警察庁 警察機構とその課題	
6	法務省 出入国管理の課題	
7	防衛省 日本の防衛政策	
8	公正取引委員会 市場経済体制と国家の関わり	
9	国土交通省 国土基盤・交通体系の整備	
10	文部科学省 国民に必要な教育・地域住民に必要な教育・個人に必要な教育 ～文部科学行政の現状と課題～	
11	農林水産省 日本の食料問題	
12	人事院 国家公務員選抜と人事管理における課題	
13	総務省 地方自治制度の課題と今後の展望	
14	財務省 日本の財政の現状	
15	金融庁 世界的な金融・資本市場の混乱への対応	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

- ・日々、新聞に目を通す習慣をつけておくこと。
- ・毎回、事前に関係する各府省庁について調べておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
平常点評価	50 %	出席・講義ごとに小レポートを課す予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生自身の問題関心・意欲が重要であり、授業においては質疑応答の時間を設けるので、受講生の積極的な参加を求めたい。いうまでもなく授業に際しては、私語・飲食等は、禁止します。

教科書 / Textbooks

特にありません

参考書 / Reference Books

適宜、授業において紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.e-gov.go.jp/link/link.html>

各府省庁・独立行政法人等(府省別)等のホームページに案内してくれるリンクサイトです。
授業の前に関連する各機関のサイトをチェックすること。

その他 / Others

授業スケジュールについて、都合により、招聘府省庁やテーマを変更する場合があります。

特殊講義(国際平和交流セミナー)(GA) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GA) § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー)(GA) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GA) § 特殊講義(自由選択)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GA)

担当者名 / Instructor 藤岡 惇

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際平和交流セミナーは、教員の指導のもとでの旅行と実地体験を通して、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の教学プログラムです。夏期休暇を利用し担当教員のガイドのもとで様々な地域を旅し、現場に身をさらす国際的な体験学習を通して、世界平和の構築、国際理解と協力の道を探ります。

広島・長崎への原爆投下、これにともなう「核の時代」の幕開けが何を意味するかについて、米国民とアジアの人々、日本人、そして被爆者の間には、大きな認識ギャップがあります。本プログラム「被爆地で世界の若者とともに、「核の時代」の意味と平和創造の方策を考える」は、このギャップを埋めようと、ワシントンにあるアメリカン大学と本学とが共同で企画・実施してきたものです。1995年にスミソニアン航空宇宙博物館において原爆展が中止されるという事件が起こりました。これをうけてアメリカン大学が被爆遺品をひきとり、独自に原爆展を開き、広島市長はじめ、多数の被爆者を招いたことが、このプログラムを始めるきっかけとなり、今年で15回目の開催となります。米国から10名余り、カナダのバンクーバーから数名、立命館アジア太平洋大学から数名の国際学生が参加します。立命関係の受講生数は15名程度とします。旅行期間は8月2日から10日です。

到達目標 / Attainment Objectives

調査と討論の柱としては、(1)原爆雲の下で何が起ったのか、(2)原爆投下は「必要悪」だったのか、それとも「悪質な戦争犯罪」だったのか、(3)核兵器の廃絶は可能か、安全保障上望ましいのか、(4)憎悪と戦争の悪循環を克服し、国際理解と協力を促進するには何をすればよいのか、などが考えられます。教員の指導と支援のもとで、戦争遺跡やミュージアムを訪ね、外国の若者との交流を通じて、戦争の歴史と平和づくりの課題についての知見を深め、平和な世界づくりに貢献する「国際人」になっていただきたいと願っています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「立命館で平和を学ぶ」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	事前講義	
2回目	事前講義	
3回目	事前講義	
4回目	8月1日有志参加のプレ企画ー アメリカン大生と京都観光、歓迎パーティ	
5回目	8月2日ー正規プログラムの開始 平和ミュージアム 参観、対話ワークショップ	
6回目	戦争展見学、対話ワークショップ、京都各地をめぐる体験学習	
7回目	広島へ出発、平和資料館など見学	
8回目	ジョン・ハース「ヒロシマ」の追跡調査、中間点検のワークショップ	
9回目	慰霊式典に参加、被爆者や各種団体の訪問調査	
10回目	広島市長を招いた討論会。長崎に移動、原爆資料館などの見学	
11回目	被爆者との交流会、戦跡調査	
12回目	城山小学校での式典、市主催の慰霊式典に参加、軍艦島見学	
13回目	まとめのワークショップ、長崎で現地解散(帰途は自由に)	
14回目	10月上旬に事後講義	
15回目	事後講義	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	事前の予習レポートと事後の最終レポートを作成してもらいます。

平常点評価 50 % 国際的な交流と討論にどの程度積極的に参加し、貢献できたか、ホスト側として、各プログラムを実りあるものにし、参加者を幸せにするために、どのような役割を果たしたかを自己評価してもらいます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目の登録は一般の受講登録とは別に行い、受講登録制限外の扱いになります。

詳しくは下記ホームページを参照してください。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/kokusaiheiwa.htm>

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

ヒロシマ ジョン・ハーシ / 法政大学出版局 / /

20世紀において米国人にもっとも深刻な影響を与えた本のトップとして米国のジャーナリストたちが選んだ本がジョン・ハーシのルポルタージュ「ヒロシマ」。この本を日米全員の共通テキストにします。このテキストに登場する最年少の赤ん坊が近藤紘子さん。24名の原爆乙女の渡米治療運動リーダー谷本清牧師の長女でアメリカン大学の卒業生でもあります。彼女に全行程同行してもらう予定です。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

ヒロシマ、60年の記憶 近藤紘子 / リオン社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

過去4年間の旅行のスナップ集は

http://www.american.edu/academic.depts/cas/hist/nsi/nsi_photos2004.cfm

このプログラムを共催しているアメリカン大学核問題研究所のHPは

http://www.american.edu/academic.depts/cas/hist/nsi/nsi_prog_abroad.cfm

過去2年間、通訳を務めていただいた乗松聡子さんのHP

<http://peacephilosophy.blogspot.com/> に昨年度の参加者の感想が掲載されています。

<http://peacephilosophy.blogspot.com/2008/05/invitation-to-ubc-students-to.html>

昨年度のプログラムが英文で掲載されています。

その他 / Others

熟達の通訳が付きませんが、英語を軸とする交流となりますので、ある程度は英会話のできる学生、平和の問題や体験型の学習に関心のある皆さんの応募を期待します。

特殊講義(国際平和交流セミナー)(GB) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GB) § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー)(GB) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GB) § 特殊講義(自由選択)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GB)

担当者名 / Instructor 勝村 誠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際平和交流セミナーは、教員の指導のもとで現地におけるフィールドワーク・講演・討論などを通して、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の教学プログラムです。戦後50周年を記念して1995年度より開始し、今年で15回目になります。毎年、夏期休暇の期間を利用し担当教員のガイドのもとで様々な地域を訪れ、現場に身をさらし、五感で感じ取ってもらう国際的な体験学習を通して、世界平和の構築、国際理解と協力の道を探ります。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業は夏期休業中に韓国のソウルで「東アジア大学生平和・人権キャンプ」という研修旅行に参加することを中心に組み立てられています。この「キャンプ」では、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、琉球大学、全南大学校、済州大学校、ソウル大学校等の学生を中心に「現場で学ぶ平和と人権」をテーマとして、現地における講義、フィールドワーク、参加学生による討論を採り入れた実践型の学習・活動をします。日本人、韓国人、在日朝鮮人など国籍やエスニシティを異にする学生たちが同じ講義を受け、同じ現場を歩き、意見をぶつけ合い、同じ時間を共有し、歴史や現在を同時体験していきます。そして平和や人権についてともに考え、行動できるきっかけを作ることが目的となります。

原則として、変更されることはありません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本と北東アジア地域の近現代史に関する諸科目、朝鮮半島の歴史・文化・政治経済等に関する諸科目、平和学関連諸科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第1回事前研修: 国際平和交流セミナーで何を獲得するか	
第2回	第2回事前研修: 北東アジア近現代史について	
第3回	第3回事前研修: セミナーでの個人テーマ、グループテーマの発見	
第4回	第4回事前研修: 個人テーマ、グループテーマの事前学習結果の発表	
第5回	出発: 目的地到着・現地学習	
第6回	東アジア大学生平和・人権キャンプ(1日目)	
第7回	東アジア大学生平和・人権キャンプ(2日目)	
第8回	東アジア大学生平和・人権キャンプ(3日目)	
第9回	東アジア大学生平和・人権キャンプ(4日目)	
第10回	東アジア大学生平和・人権キャンプ(5日目)	
第11回	現地学習	
第12回	現地学習	
第13回	まとめのワークショップ	
第14回	事後研修第1回: レポート中間発表とメモ・写真等の記録物の提出	
第15回	事後研修第2回: レポートの完成に向けた指導	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目の登録は一般の受講登録とは別に行い、受講登録制限外の扱いになります。

詳しくは下記ホームページを参照してください。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/kokusaiheiwa.htm>

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(国際平和交流セミナー)(GC) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GC) § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー)(GC) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GC) § 特殊講義(自由選択)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GC)

担当者名 / Instructor 松野 周治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 中朝露国境地域で考える東北アジアのナショナリズムと平和構築

東北アジアの歴史において戦争と対立の最前線となってきた中朝露国境地域(吉林省延辺朝鮮族自治州、遼寧省東部)において、国境地帯の現況、諸国民や民族の史跡(「満州国」、高句麗、渤海国、長白山など)、また、現在の発展状況等を確認し、東北アジアにおけるナショナリズムの克服と平和構築について考える。また、中国を代表する総合大学のひとつである吉林大学において講義を聞くとともに、現地調査等には同大学学生も参加し、ともにテーマを考える。

事前研修(4授業時間)、現地講義と見学(10日程度)、事後研修(2授業時間)を通じて科目目標を達成する。

到達目標 / Attainment Objectives

日中韓露の諸国・民族が交流し対立した土地に足を踏み入れ、歴史を思い起こすとともに、現状を確かめ、偏狭なナショナリズムを克服し、平和を構築するための方策を考察する。現地での講義、見学・訪問等の記録をグループで協力、分担しながら作成するとともに、最終個人レポートにおいて、学習の成果をまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

東アジア史に関係する諸科目(教養、専門)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第1回事前研修: 国際平和交流セミナーで何を獲得するか	
第2回	第2回事前研修: 東北アジア近現代史	
第3回	第3回事前研修: セミナーでの個人テーマ、グループテーマの発見	
第4回	第4回事前研修: 個人テーマ、グループテーマの事前学習結果の発表	
第5回	現地学習1日目: 出国、大連経由で目的地(長春)到着	
第6回	同2日目: 開会式、キャンパス見学、講義「日中関係の歴史と東北アジアの平和構築」その1	
第7回	同3日目: 講義「日中関係の歴史と東北アジアの平和構築」その2、長春市内見学(「満州国」関連史跡など)	
第8回	同4日目: 図們、延吉へ移動; 北朝鮮との国境地域、朝鮮族文化地域等見学	
第9回	同5日目: 長白山へ移動: 朝鮮族ナショナリズム、中朝国境問題	
第10回	同6日目: 通化へ移動: 渤海国史跡、関東軍の最終根拠地・「満州国」解体の地	
第11回	同7日目: 集安、丹東へ移動: 高句麗史跡(広開土王碑)、中国と北朝鮮の最大交通路見学	
第12回	同8日目: 大連へ移動: 東北アジアの物流・金融センター、開発区日本企業見学	
第13回	同9日目: 旅順地域、大連市内見学: 日露戦争史跡、日本「租借地」期建築物など	
第14回	事後研修第1回: 行動記録、訪問記録提出、個人レポート構想発表	
第15回	事後研修第2回: 個人レポート指導	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自ならびにグループで設定、分担したテーマについて、図書館等で関連文献、資料等を収集し、これまでの研究成果を吸収する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	現地訪問や見学等がどこまで反映されているか。多くの参考文献・資料をもとに、どこまで自分の言葉で、書かれているか。

平常点評価

50 % 事前、事後研修への出席と事前準備の内容、現地学習での記録作成などの内容などを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目の登録は一般の受講登録とは別に行い、受講登録制限外の扱いになります。

詳しくは下記ホームページを参照してください。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/kokusaiheiwa.htm>

日中韓関係およびアジアの歴史と現状について、自らの現実体験を踏まえて考えることを重視します。

現地でのヒアリングや見学の際の記録メモ作成についても、習熟して下さい(普通の講義での自筆ノート作成やその整理なども役立ちます)。

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
東北アジア共同体への道: 課題と現状	松野周治・徐勝・夏剛編著 / 文眞堂 / 4830945435 /
カメラ: 満洲国の肖像	山室信一 / 中央公論新社 / 4121911385 / 中公新書1138
世界のなかの日清韓関係史: 交隣と属国、自主と独立	岡本隆司 / 講談社 / 9784062584203 / 講談社選書メチエ420
図説「満洲」都市物語: ハルビン・大連・瀋陽・長春	西澤泰彦 / 河出書房新社 / 4309760805 / ふくろうの本
東北アジアビジネス提携の展望	仲田正機・松野周治・徐継舜・李向平 / 文眞堂 / 4830944951 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

特殊講義(茶道文化史)(GA) § 特殊講義(基礎)I(茶道文化史)(GA) § ヴィジョン形成特殊講義(茶道文化史)(GA) 20316

担当者名 / Instructor 千 玄室

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ、礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。それは茶の湯の本質と全く違った見方と言える。茶道に礼儀作法の要素が全くないとは言わないが、その本質は日本を代表する総合的な文化体系であると言える。その総合性とは、哲学的な要素などを含む点にある。

茶が日本に伝来して以来1000年以上も経過しているが、伝来した当初から文化性を備えていたわけではない。本講では、照葉樹文化を代表する嗜好飲料である茶を通して、その文化性の特色を探るとともに、わが国の飲料として伝来した茶が、日本独自の文化性を備えた茶道へと変遷していく過程を明らかにしていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

茶道を通じて日本文化を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は事前登録科目です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	岡倉天心「茶の本」にみる日本文化論について	裏千家学園
第2回	裏千家基本点前の意味とその精神	裏千家学園
第3回	裏千家基本点前の意味とその精神	裏千家学園
第4回	千 玄室大宗匠(客員教授)特別講義「茶の文化」	衣笠キャンパス
第5回	初歩の茶道論	今日庵
第6回	露地の役割と意味について	茶道会館
第7回	日本人の美意識における茶道の「わび」について	裏千家学園
第8回	裏千家内お茶室について	茶道会館
第9回	濃茶の精神	茶道会館
第10回	不完全美の世界観	茶道資料館
第11回	お茶菓子・香・座禅について	裏千家学園
第12回	茶花について	裏千家学園
第13回	道教と茶道	裏千家学園
第14回	総復習 (お茶を通した日本文化)	茶道会館
第15回	総復習 (お茶を通した日本文化)	茶道会館

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	レポート 最終講義日に課題提示します。提出されたレポート内容を評価します。 講義と実技への参加態度をもとに評価します。
* レポート提出は必須とします。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学外での授業となりますので、社会人としての一般的なマナーや儀礼を身につけること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
裏千家茶道	/// 第1回目授業で配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

* 授業については、裏千家学園で行います。集合場所等の詳細については、6月頃改めてご案内します。

特殊講義(白川学の世界)(GA)

16784

担当者名 / Instructor 石井 真美子、今場 正美、阪谷 昭弘、高島 敏夫、谷口 義介、張 莉、萩原 正樹、真下 厚、
芳村 弘道 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本学名誉教授・白川静博士(1910-2006)は、本学が輩出した多種多様な人材のなかで、最も著名な方のお一人であろう。その学問は世界的にも高く評価され、2004年11月には本学出身者としては初めての文化勲章を受賞されている。「白川学」と総称されるその学問は、日本や中国を含む東アジアの、古代から現代、未来をも見通す可能性を秘めたきわめて有用な学問体系である。本講義では、各分野の専門家である複数の担当者が、さまざまな角度から難解な「白川学」を解き明かしていく。「白川学」の概要を把握することを通して、独創的な発想や批判的精神など、学問研究の基礎を学ぶとともに、本学出身である世界的な学者の学問と生涯について理解を深めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「白川学」の概要について理解する。
- ・「白川学」の独創性や意義について、報告することができる。
- ・「白川学」の理解を通して、発想の転換や批判的精神など、学問研究の基礎を身につける。
- ・白川静の生涯について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	コーディネーターによるオリエンテーション(白川静の生涯と立命館大学)(萩原正樹)	
第2回	白川静と古典研究(芳村弘道)	
第3回	詩経と西周時代1(谷口義介)	
第4回	詩経と西周時代2(谷口義介)	
第5回	中国の神話(阪谷昭弘)	
第6回	屈原と楚辞(今場正美)	
第7回	白川静の古代文学論(今場正美)	
第8回	古代歌謡の世界、詩経と万葉集(真下厚)	
第9回	孔子と古代思想1(石井真美子)	
第10回	孔子と古代思想2(石井真美子)	
第11回	詩経研究から文字学へ(高島敏夫)	
第12回	殷代社会と日本古代社会(高島敏夫)	
第13回	白川文字学の体系(高島敏夫)	
第14回	中国からみた白川文字学(張莉)	
第15回	コーディネーターによるまとめの授業(白川静と東洋の理想)(萩原正樹)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

白川静出演のテレビ番組や特集番組、講演会のビデオなどを見ると、さらに理解が深まる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	出席点・授業中の小レポートなど

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のものを使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
白川静著作集	白川静 / 平凡社 / /
回思九十年	白川静 / 平凡社 / /
桂東雑記 ~	白川静 / 平凡社 / /

白川静 漢字の世界観

松岡正剛 / 平凡社 / /

學林第46・47号白川静先生追悼記念論集

中国藝文研究会 / 中国藝文研究会 / /

大航海第63号白川静と知の考古学

/ 新書館 / /

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

中国文学専攻ホームページ

<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/lt/cl/index.htm>

その他 / Others

人文科学総合講座特殊講義Ⅰ(LD) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(TA) § 特殊講義(総合)(GA) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(C) § 14048
 ジョン形成特殊講義(日本文化の奔流)(GA)

担当者名 / Instructor 佐古 愛己, 杉橋 隆夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、読売新聞社の協力を得て、過去4年間実施してきたリレー講義「現代社会と宗教」次いで「日本文化の源流を求めて」を継承し、さらに展開する試みである。本年度は、これまでの成果と潮流を受け、京都を核としつつもいっそう洞察を深め、力強くほとばしり流れる日本文化の特質を究めようと企図する。しかしてこれらを包摂する概念は「京都学」である。当然のことながら、この場合の「京都学」は、たんなる地域学ではない。今日の日本文化の本質を探り、広く世界に接するための学問なのである。

本講義は、従前からの京都歴史回廊協議会の活動や、近年あい次いで設置された現代GP(京都歴史回廊プログラム)、グローバルCOE、京都文化講座(東京・大阪キャンパス)、そして今年度文学部に開設された京都学プログラム、などと有機的に結合するものとして、その役割が期待されている。

これらを総合して、われわれが目指す「立命館京都学」は、総合性、学際性、国際性、地域連携、現在性、の5要素を具有、実現する内容になるであろう。もって「立命館京都学」は、京都という都市格の形成に貢献する学問でなければならない。

到達目標 / Attainment Objectives

日本文化にまつわる精神的営みと文物の概要を客観的に理解できるよう努める。また、「京都学」が目指すところとその意義を精確に認識し、できれば「立命館京都学」の創成にみずから参加する意欲と具体的手段とを見出したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

激動の現今、日本の伝統的文化や精神世界を改めて回顧し、自省の念を深めることは、重要な意義を持つ。他の文化・思想・宗教関係科目の履修は有意義だし、とりわけ「京都学」関係では、「授業の概要」に關説した諸活動に注意を向け、文学部においてこれからもますます拡大・充実していくであろう「京都学」関連科目(特に「京都プログラム」)の並行履修も、大いに推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	杉橋 隆夫(コーディネーター 文学部教授)	
2	芦田 淳(ファッションデザイナー)	
3	茂山 千之丞(狂言役者)	
4	有栖川 有栖(作家)	
5	小川 光三(仏像写真家)	
6	栄原 永遠男(大阪市立大学教授)	
7	中村 紘子(ピアニスト)	
8	桂 福團治(落語家)	
9	河瀬 直美(映画作家)	
10	田端 泰子(京都橘大学学長)	
11	河村 晴久(能楽師)	
12	山本 容子(版画家)	
13	中尾 堯(立正大学名誉教授)	
14	石毛 直道(元民族学博物館館長)	
15	佐古 愛己(文学部准教授)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義内容だけでなく、日本文化と精神世界、京都の歴史と文化への関心を常に温めながら、見聞を深めたい。本講義の内容は、読売新聞の紙面や社のHPIに要約掲載されるので、要旨の確認・復習の糧となる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終講義日に実施する「検証テスト」50%、その他、出席・質問用紙の提出状況等を含め総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のものを使用しない。資料等は必要に応じて配付する。

参考書 / Reference Books

各招聘講師の著作等を事前に一読しておきたい。プロフィールを含め、インターネットなどで容易に検索可能である。また、『いま、宗教を

問う!、現代社会と宗教』『宗教者に聞く!、日本編上・下 現代社会と宗教』(いずれも法蔵館)は、前述、本講義の前身企画の記録・成果であって、参考に資すべきところが多い。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

前・後期とも受講するのが望ましい。

人文科学総合講座特殊講義I (LE) § 特殊講義(基礎)II (TA) § 特殊講義(総合) (GB) § 特殊講義(基礎)2 (C) § 16326
 ジョン形成特殊講義(日本文化の奔流) (GB)

担当者名 / Instructor 佐古 愛己, 杉橋 隆夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、読売新聞社の協力を得て、過去4年間実施してきたリレー講義「現代社会と宗教」次いで「日本文化の源流を求めて」を継承し、さらに展開する試みである。本年度は、これまでの成果と潮流を受け、京都を核としつつもいっそう洞察を深め、力強くほとばしり流れる日本文化の特質を究めようと企図する。しかしてこれらを包摂する概念は「京都学」である。当然のことながら、この場合の「京都学」は、たんなる地域学ではない。今日の日本文化の本質を探り、広く世界に接するための学問なのである。

本講義は、従前からの京都歴史回廊協議会の活動や、近年あい次いで設置された現代GP(京都歴史回廊プログラム)、グローバルCOE、京都文化講座(東京・大阪キャンパス)、そして今年度文学部に開設された京都学プログラム、などと有機的に結合するものとして、その役割が期待されている。

これらを総合して、われわれが目指す「立命館京都学」は、総合性、学際性、国際性、地域連携、現在性、の5要素を具有、実現する内容になるであろう。もって「立命館京都学」は、京都という都市格の形成に貢献する学問でなければならない。

到達目標 / Attainment Objectives

日本文化にまつわる精神的営みと文物の概要を客観的に理解できるよう努める。また、「京都学」が目指すところとその意義を精確に認識し、できれば「立命館京都学」の創成にみずから参加する意欲と具体的手段とを見出したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

激動の現今、日本の伝統的文化や精神世界を改めて回顧し、自省の念を深めることは、重要な意義を持つ。他の文化・思想・宗教関係科目の履修は有意義だし、とりわけ「京都学」関係では、「授業の概要」に開説した諸活動に注意を向け、文学部においてこれからもますます拡大・充実していくであろう「京都学」関連科目(特に「京都プログラム」)の並行履修も、大いに推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	杉橋 隆夫(コーディネーター 文学部教授)	
2	東儀 秀樹(雅楽師)	
3	水戸 夕香里(女流棋士)	
4	加藤 恒夫(企業メセナ協議会専務理事)	
5	杭迫 柏樹(書家)	
6	安原 晃(真宗大谷派宗務総長)	
7	猪熊 兼勝(京都橘大名誉教授)	
8	片倉 もとこ(前国際日本文化研究センター所長)	
9	千 宗屋(武者小路流若宗匠)	
10	上田 紀行(東京工業大学教授)	
11	小林綾子(女優)・矢崎節夫(絵本作家)	
12	大田 大穰(永平寺監院)	
13	河野 裕子(歌人)	
14	吉田 義男(プロ野球解説者)	
15	佐古 愛己(文学部准教授)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義内容だけでなく、日本文化と精神世界、京都の歴史と文化への関心を常に温めながら、見聞を深めたい。本講義の内容は、読売新聞の紙面や社のHPIに要約掲載されるので、要旨の確認・復習の糧となる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終講義日に実施する「検証テスト」50%、その他、出席・質問用紙の提出状況等を含め総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のものを使用しない。資料等は必要に応じて配付する。

参考書 / Reference Books

各招聘講師の著作等を事前に一読しておきたい。プロフィールを含め、インターネットなどで容易に検索可能である。また、『いま、宗教を問う!、現代社会と宗教』『宗教者に聞く!、日本編上・下 現代社会と宗教』(いずれも法蔵館)は、前述、本講義の前身企画の記録・成果であって、参考に資すべきところが多い。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

前・後期とも受講するのが望ましい。

特殊講義(総合)(ZA)

20447

担当者名 / Instructor 伊坂 忠夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
 キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

スポーツパフォーマンスの向上に必要なトレーニング、食事、睡眠、用具・装具の開発において、スポーツ科学の研究成果が活かされていることはよく知られている。また、健康な身体を維持するためには、運動・栄養・休養を意識した生活が重要であることは言うまでもない。この科目では、一般人の健康からトップアスリートの競技力向上に役立つ運動・トレーニング・栄養について科学的なデータに基づいて講義する。

【主な授業内容】

- ・老化と健康の維持
- ・スポーツのパフォーマンス向上について
- ・スポーツとトレーニングの関係
- ・運動と健康との関係
- ・今後の高齢化社会で運動の果たす役割

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツ健康科学の分野で明らかにされてきている、スポーツパフォーマンスへの応用、スポーツトレーニング、運動と健康の関係、加齢と健康・体力についての最新の知見を理解することが授業の目標である。さらには、これらの科学的根拠を実践へ応用できる力量をみにつけることが最終目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(第1日目)	はじめに 全体の進め方, 担当者の紹介	スポーツ, パフォーマンス, 体力, 健康, 高齢化, 栄養
第2回(第1日目)	スポーツパフォーマンスを計測する	計測装置, センサー
第3回(第1日目)	スポーツパフォーマンスを計測する	ゲーム分析
第4回(第1日目)	スポーツパフォーマンス向上のためのエンジニアリング	計測装置の開発, IT関連装置の開発
第5回(第2日目)	スポーツトレーニング	筋力トレーニング
第6回(第2日目)	スポーツトレーニング	持久性トレーニング
第7回(第2日目)	栄養とトレーニング	食事, タイミング, 睡眠, サプリメント
第8回(第2日目)	加齢とトレーニング	筋萎縮, 筋力トレーニング, 加齢
第9回(第3日目)	日常の身体活動と健康	健康日本21
第10回(第3日目)	中高年期の生活と健康	メタボ, ストレス, 食事
第11回(第3日目)	科学的根拠に基づく正しいダイエット	カロリー摂取, カロリー消費, 食品
第12回(第3日目)	自立高齢者となるためには?	ライフスタイル, 日常活動, 運動の考え方
第13回(第4日目)	ゲストスピーカーによる講義	
第14回(第4日目)	まとめ	
第15回(第4日目)	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

スポーツ科学, 健康科学に関連する図書, 雑誌などをできるだけ関心を持って読んでおくことを勧めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	試験で学習理解を確かめます
レポート試験	20 %	科学的根拠を理解し, 応用できる力を確かめます
平常点評価	20 %	授業中の理解を確かめます

評価については、現時点での基本案です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ健康科学の科学的根拠を理解し, そして積極的に活用することを目標に据えて, 積極的に参加して下さい。ここで身につけた知識, 理解は生涯の財産になる可能性があります。

教科書 / Textbooks

担当者ごとに案内します

参考書 / Reference Books

担当者ごとに案内します

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(総合)(ZC)

20448

担当者名 / Instructor 飯田 洋治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
 キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

[いきいき物理わくわく実験 - 市民の科学 -]

アマチュアはもちろん、専門を目指す人にとっても必要な科学とは何なのか、数式・計算とは一味違った科学の魅力を追求したい。討論や身近な実験などを通して、自然の不思議さ・奥深さを追求し、科学の真の面白さ、誰でもが心から楽しめる科学に迫りたい。

(1) だまされない市民になるために - いくら科学・技術が発展していても、現代のような情報化社会においては情報操作に惑わされる傾向を生きやすい。超能力実験、科学マジックなど、だましあいを楽しむことによって、だましに対する免疫をつけながら、「科学的に考えるとはどういうことか」を考える。

(2) 科学はどこにでもあり、誰でもができる。 - ちょっと見方を変えただけで新しい世界が広がる。新発見・発明につながる。身近な材料、テーマから、興味ある問題を取りだし科学・技術の発想を学ぶ。

(3) 21世紀の科学・技術のあり方を問う。 - R・カーソン、S・コルボンの警告。20世紀の大量生産・大量消費・大量廃棄の文明は人類のみならず生物そのものの生存を脅かし始めた。21世紀はこのような問題を解決するために必要な科学とは何か、人類の知恵と能力が問われる時代である。環境問題と化学物質の関わりを中心に問題を明らかにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

身近なものを通して、科学・技術やそのあり方に興味と関心を持ち、ものごとに対する批判的、多角的見方・分析力をつける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	だましあいを楽しむ	- 「超能力実験」「ひのえうま」「虫の知らせ」など
2	科学マジックを通して考える	- 「空中浮揚」「さらし首」など
3	「ごまかし勉強」から本物の学びを	- 「国際数学・理科教育調査」から
4	強い形、弱い形の秘密に迫る	- 「卵の上に人は乗れるか」「一枚の紙から、ストローの形から」
5	科学はどこにでもあり、誰でもができる	- 「遊びの中の科学」「おもちゃの科学」「スポーツの科学」「キッチンの中の科学」
6	音と楽器の秘密を探る	- 「音階ができれば何でも楽器」
7	光とものの色の不思議を探る	- 「3原色の影の色」
8	生活の中の電気・磁気	- 「感電する？しない?」「何でもマイクスピーカー」「ハイテクも原理は簡単」
9	自然の階層性、押しつぶしの科学	- 「大きさを比べるだけでここまでわかる」「原子から宇宙へ」
10	高校生・大学生の力学的概念調査から	- 「経験をたよりにすれば間違えるのは当たり前」
11	地動説	- 「動いていてもそれを感じない世界の発見」
12	エアコンの秘密、フェーン現象	- 「押すだけで燃える?」「振るだけで水の温度は?」
13	「水飲み鳥」で考える地球環境とエントロピー	- 地球上の水や空気や資源の有限性、エネルギー開放系と物質閉鎖系
14	化学物質と生態系。カーソンやコルボンの警告	- 化学物質の毒性、生体濃縮、発ガン、奇形、環境ホルモン、原子エネルギーなど
15	一市民として、これからどうすればいいのか	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ほぼ毎回、討論や身近な実験を通して授業を展開する。

授業中に意見を出し合い、毎回授業内容に対するコメントを求める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終レポート
平常点評価	50 %	出席状況は成績に加味する。毎回提出するコメント及び小レポートの内容などで評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回授業に出席し、興味ある分野を調べたり、関連する書籍を読み、授業以外でも友人と議論するように心がけてほしい。

教科書 / Textbooks

授業では適宜、資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
いきいき物理わくわく実験1	愛知・岐阜物理サークル / 日本評論社 / 4-535-78337-3 /
いきいき物理わくわく実験2	愛知・岐阜・三重物理サークル / 日本評論社 / 4-535-78338-1 /
その他、必要に応じて授業中に紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業中に紹介する。

その他 / Others

特殊講義(総合)(ZD)

16800

担当者名 / Instructor 岡 毅

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
 キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

文系学部でも「経済数学」等の科目が設置されている経済系学部は言うまでもなく、他学部においても講義で数学の概念や用語が使われることも増えている。知識基盤社会といわれるこれからの社会において、数学の基本的内容を理解し、論理的思考法を身につけることは、“常識”と言っても過言ではない。

数学が苦手或いは嫌いとの理由で文系学部を選んだ人もいるかもしれないが、高校までの数学の延長と考えず新たな科目を学ぶという気持ちで取り組んで欲しい。

講義では、これまで学習した内容で今後大学において用いられることの多い分野である「微分・積分」、「行列」、「ベクトル」、「場合の数と確率」について高校数学の内容を中心にしながら、専門科目で使われる数学への橋渡しとなる少し発展した内容も扱う。

到達目標 / Attainment Objectives

「微分・積分」、「行列」、「ベクトル」、「場合の数と確率」について高校で扱う内容を理解し、基本的な活用に習熟する。
 大学で扱う2変数関数の微分、行列式及び固有値・固有ベクトル、ベクトルの一次独立、差分方程式、微分方程式、確率分布について基本的な内容を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	導関数の定義および計算(1変数関数)
2	微分法の応用(1変数関数)	
3	積分法およびその応用(1変数関数)	
4	2変数関数の微分法	
5	行列の定義および演算	
6	2次正方行列の行列式、逆行列および応用	
7	n次正方行列(主に3次正方行列)の行列式、逆行列および応用	
8	2次正方行列の対角化、固有値および固有ベクトル	
9	平面におけるベクトル(2次元ベクトル)の演算および応用	
10	n次元ベクトル(主に3次元ベクトル)の演算および応用	
11	差分方程式の定義と解法	
12	微分方程式の定義と解法	
13	微分方程式の解法	
14	確率の基本概念と計算	
15	確率分布、平均および分散	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習: 高校の教科書あるいは参考書を所持していれば、該当部分を読んでおくこと。

復習: 指示された練習問題の演習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	講義内容の理解・定着をみる基本的な問題を出题する。
平常点評価	60 %	毎回、前回の内容についての簡単な小テストを行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を単に聞くだけでなく、自ら手を動かして計算や証明をすることにより理解を深めること。

教科書 / Textbooks

プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

高校の数学教科書或いは参考書

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(総合)(WA)

20452

担当者名 / Instructor 桜井 均

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
 キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

テレビは多様な人的リソース(資源)を要する巨大システムである。番組は多彩な英知とセンスの結集である。私は37年間、ディレクター、プロデューサーとして、多くのすぐれた“仕事人”と協同作業を続けてきた。この講座では、私が出合った一流のスタッフにゆかりの番組を持って登壇してもらい、テレビの仕事とは何か、プロとは何か、現代社会においてメディアとは何かなど多角的な観点から、受講者をオーディエンスとするトーク・ショーを行う。そして、この5日間を、受講者がオーディエンスから取材者・演出家の側へと意識を変換していくような場としたい。ゲストとして登場するのは、世界のどこにでも出かけ、交渉によってロケを貫徹してくるディレクター 自分のイメージを実現するために周到な企画を立案してスタッフを率いるディレクター ファインダーを覗き、納得いくまでシュートのチャンスをねらうカメラパーソン 膨大な映像ラッシュのなかからファーストカット、決めカット、ラストカットを職人技で選び出す編集パーソン 全体構成を把握し各シーンにメリハリのある音をつける音響効果パーソンなど、多士済々である。授業の形式は、理論 関連番組視聴 仕事人のトークをよび受講生との質疑。キーワードはスペシャリストよりプロフェッショナル。そしてinter - active(相互活性化)。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一日目	ディレクター	何を伝えたいのか
第二日目	ディレクター	よい企画とは何か
第三日目	カメラパーソン	何を撮るのか
第四日目	編集パーソン	意味の構築
第五日目	プロデューサー	放送するとはどういうことか

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	出席状況も加味する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テレビの自画像 ドキュメンタリーの現場から	/ ちくまプリマーブック / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テレビの自画像 ドキュメンタリーの現場から	/ ちくまプリマーブック / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
 キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

普段何気なくテレビのスイッチをつけると、どのチャンネルがどの状態で立ち上がるか等、何も考えずに発信し続けるテレビとは、一体何者なのだろうか？放送とは文字通り、放って送る事。一瞬にして表示しては消え続けるコンテンツの集合体に我々は、日々やもすると振り回されたり涙したり、時間と共にある放送番組は、スポンサーと視聴料に支えられている。この時間の中に漂う放送が、生活のパターンの中で時間に応じた視聴率に支えられ、この視聴率に基づく広告費に応じて、コンテンツへの質や、内容が異なるモデルが数年前までのモデルであった。ところが、インターネットの広告モデルの進展や、ハイビジョン対応のHDDの普及により、最早時間に捕らわれない、タイムシフト視聴が生活スタイル化すると共に、無料視聴ビジネスを支えるスポンサーのCMスキップまでが当たり前前の視聴形態になろうとしている。個人・家庭・社会を取り巻く全てのメディアのビジネスモデル環境が大きな変革の時期を迎えており、その環境下で略50年間日本の産業界で高給取りの地位を欲しいがままにしてきた寡占状況の広告代理店と、認可事業としての特権階級！放送局を取り巻く全ての環境を上位レーヤーから下位レーヤーに至るまでを、外部並びに一部内部の目線から論理的・科学的に紐解いていく。

到達目標 / Attainment Objectives

これからのICT時代を迎えて、日本らしい放送事業とは如何在るべきか？、メディア王？としての放送事業として、他メディアとの積極的融合とは如何なるものなのか？、「報道から端を発するこれらのメディア群が文化の継承と進展更には、世界への日本のコンテンツビジネスへの道導となる為には何が必要なのか？」への“解”を自ら探し出す事の出切る自発的知力が芽生えるまでを目指すものしたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・イントロダクション：放送業界の実情、様々な問題提起 ・放送の歴史的背景と放送とは何なのか？ ・認可事業は儲かる魔法の箱なのか？！ ・CS・BS・地上波・CATV・IPTVの住み分けと競合。 ・IPTVはCATVのライバル！ ・広域局と、系列局の実情 ・独立県域局の生き様 ・系列地方局はIPTV時代に生き残れるか！ ・変わるライフスタイルと放送 ・お茶の間の団欒から個の世界へ ・テレビが無くてもケータイがナイト困と言う層の時代 ・厳しくなる世間の目 番組内容・報道への批判 ・「ネチズンの餌食」では済まされない視聴者側メディアネットワークの勃興 ・NHKはどうなるのか ・「護送船団」からの競争原理へ：通信・放送融合法制の時代へ	
2	・放送の制度とビジネスモデル ・放送法を含む認可事業の本質 ・戦後米国と民主主義理想からの出発と変節 ・NHKと民放と言う二元体制の現実と今後 ・総務省の放送行政とは！？ ・国が・制度・法律・予算他を作る4姉みの理論とは！？ ・道路は、税金で放送波 & 通信網は何故民間投資なのか！？ ・著作権としてのコンテンツ = 文科省 コンテンツ産業 & テレビ端末 = 経済産業省 ・コンテンツ流通 & 放送免許事業許可 = 総務省で何が出来るのか？ ・現れては淘汰される「情報通信省」構想 ・動き出している通信・放送融合法	

- 3
- ・放送のビジネスモデル
 - ・視聴率と、広告費
 - ・CMと番組がシームレス?
 - ・番組が全てプロモーション!
 - ・なぜ6時56分に番組が始まるのか!?
 - ・タイムCMからスポットCMへ遷移視聴率至上主義がもたらした数々の弊害と事件
 - ・世間常識とは逆なキー局から系列局へのビジネスモデル
 - ・広告主は効果測定型のNET広告へ遷移したか?
 - ・美味しかった広告モデルから「幾分BtoCモデル」に遷移するか?
 - ・放送法に元づく報道&教育番組と視聴率を意識する相反状態
 - ・韓流ブームに見る文化と言語のビジネスモデル
 - ・民放とNHK
-
- 4
- ・「デジタル放送とは」その光と影
 - ・そもそも何故デジタル放送にするのか
 - ・デジタル放送で変わる事:電気屋さんの店頭で見ただけで葉わからないその実力
 - ・使われていない(流行していない)テクノロジーと考える
 - ・国民は受け入れているか:普及の課題&これからの2年間
 - ・民放経営に与える影響
 - ・「デジタル放送」だけではない「デジタル」放送の全容:「放送・通信融合とは」オンデマンドの降臨
 - ・双方向のキーワードは?:全てデータ放送か?通信放送融合、連携型?か携帯を如何取り込むのか?
 - ・データ放送はインターネットへのゲートウェイ
 - ・デジタル放送の規格を考えた90年代後半と現在のメディア環境の違いとは
-
- 5
- ・「デジタル放送とは」その光と影
 - ・データ放送は何故利用されないのか
 - ・データ放送の機能・容量と放送事業者の自主規制他お家の事情
 - ・データ放送の広告規制は何故なのか?
 - ・HTMLとBML
 - ・データ放送から通信へのリンクはインターネットの出島
 - ・CATVの普及で知らぬ間に増えている双方向な環境
 - ・放送局が考えるデータ放送のビジネスモデル
 - ・全て放送側で完備するのか「得手、不得手」をカバーしあい通信・放送融合で行くべきなのか?
-
- 6
- ・自治体が想定するデジタル地上波の使い道
 - ・各府県のWGの構築とその実情
 - ・行政サービステストモデルの紹介
 - ・防災情報事業モデルの紹介
 - ・具体的実施事例の紹介
 - ・国土交通省と河川情報のデジタル展開
-
- 7
- ・デジタル地上波双方向と健康・医療情報(救急医療を含む)事業構想
 - ・地上波デジタル双方向サービス実証のご紹介
 - ・地上波デジタル双方向で出来るインターネット情報に勝る事業モデルを考える
 - ・メタボ対策事業を想定した厚生労働省・国保連合会の反応
 - ・ケーブルテレビ事業者から始まる双方向サービス
 - ・介護福祉医療はB2Bの遠隔からB2Cの家庭へ向う
-
- 8
- ・デジタル地上波双方向と民間事業の進展
 - ・視聴率広告モデルは崩壊する?
 - ・広告から販促そして決済への販売ツールへの進展
 - ・番組占有のCMIは、番組ジャックが当然!出来る
 - ・祇園祭、桜便り等アナログ デジタル移行期の新たなプロモーションのご紹介
 - (本線放送 データ放送(ワンセグ放送含む) Webサイト(携帯含む実証実験))

- 9
- ・著作権とそのビジネス
 - ・案外、放送局が持っていない「著作権」
 - ・オンデマンド・ブロードバンド進出へこんなに足かせになった著作権
 - ・「得手不得手」をカバーしあう「制作委員会方式」と著作権ビジネス
 - ・著作権は誰の物(ビデオ化権は！DVD化権は！)
 - ・録画再生はアナログ＝劣化で個人利用に許される！
 - ・海賊版とその防止の為にBCASカードが不詳な理由
 - ・著作権ビジネスで儲けなければマルチユースできる番組を売れ
 - ・日本の番組のフォーマット著作権
-
- 10
- ・放送局は地場産業
 - ・引きずっているマスメディア集中排除原則と地方の経営統合に備えている実情
 - ・ローカル民放がローカル番組を作っても生き残れないビジネスモデルとその危機
 - ・きっちりと認識しなくてはならない「地方重視」の掛け声と東京発番組に視聴率が集中する現実との乖離
 - ・全国4曲が出の疲弊、デジタル化投資の追い討ち、CATV区域外再送信が攻めてくる
 - ・やっぱり東京の番組が見たい!! 長野県CATVの区域外再送信問題に見る視聴者の本音
とオンデマンドは究極の区域外再送信か?!
 - ・CATVの台頭とローカルメディアとしての可能性
 - ・もっと草の根の地域メディアとインターネット
 - ・放送局とテレビメーカの利益相反
-
- 11
- ・魂を売った通信販売の実情
 - ・Cレート(視聴率が取れない時間帯)はどちらも”通販”!
 - ・コミュニティチャンネルのはずが通販のCATV,BS無料放送の通販オンパレード
 - ・何故、通販番組なのか
 - ・通販はどうしたら売れるのかの裏話
 - ・無料広告放送と称した「通販中心のBS」はもう増えなくて良いと言った総務省
 - ・案外別物「番組関連グッズ販売」と「通販番組」のままではよいのか
 - ・そうは言ってもこっそり儲かる番組関連ビジネス(キャラクター!? 生と録画)
 - ・通販番組と視聴者の実態
 - ・新たな通販番組の模索
-
- 12
- ・IPTVとCATVのデジタル化
 - ・IPTVは国策NGN構想に支えられ何処に向かうのか!?
 - ・CATVはIPTVと如何協業して、如何差別化するのか!?
 - ・日本の情報化戦略とケーブルテレビ
 - ・日本の情報通信戦略とは
 - ・アナログ放送の停波、通信のIP化
 - ・「放送」と「通信」の融合とは
 - ・地域情報化、家庭内情報化、個人情報化
 - ・オンデマンドサービスの重要性
 - ・IP化の動向
 - ・まとめ
-

- 13 :ワンセグ放送の将来展開
 ・ワンセグ放送とは日本のお家芸
 ・視聴率の取れないワンセグと通信連携
 ・エリア限定受信とビジネスモデル
 ・独自番組か何時もの番組か
 ・エリアワンセグビジネスモデル「イベントFM」に変わりエリア限定ワンセグ花盛りへ
 ・アナログテレビの跡地を狙え!デジタルラジオ、次世代モバイル向け放送メディアの熱い戦い
 ・果たして世間様はモバイル向け放送メディアにお金を払うのか?
 後半
 ・広告放送のこれから
 ・CM規制を考える
 ・CMと番組がシームレス?で良いのか?
 ・番組が全てプロモーション!「パブは有意義や」とプロダクトプレイスメント
 ・「砂漠に水を撒いてきた」テレビCMが嗜好検索型のネット広告と競争・共存するには?
 ・視聴率広告モデルは崩壊する!?
 ・広告から販促そして決済への販促モデルへの進展
 ・「日替わり定食」型の日本のテレビはより嗜好が細くなる
 コレカラ/メディア環境下でどうする
 ・美味しかった広告放送ビジネススタイルからBtoCも幾分入れたビジネスモデルへ
-
- 14 : 第6のメディア「デジタルサイネージ」概論
 ・デジタルサイネージとは
 ・5つのマス広告メディアとその現状
 ・ターゲットメディア事業の出現
 ・デジタルサイネージ市場の現状と将来
 ・次世代マーケティングプラットフォーム
 ・第6のメディアへ
-
- 15 : テレビメディア表現と放送再編～現役アナウンサーの視点から～
 ・テレビメディアの特性
 ・テレビの情報伝達
 ・日本のアナウンサー事情
 ・デジタルテレビの光と影
 ・地上波民放テレビの将来

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods**

- ・デジタル地上波放送、BS、CS、CATVのデジタル機能、取り分けデータ放送サービスの隅々までを見て全体像を掴んで下さい。
- ・出来ればネット対応サービスを体験する機会を得て頂き、自分なりに機能検証をして下さい。
- ・ワンセグの携帯電話を友人を含めて体験頂き、その機能検証をしてください。
- ・街に出た際、デジタルサイネージに触れる機会があると思います。これらの機能についても検証してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	・正しく業態の実情を理解しているかの深度、見識度 ・実情を踏まえた将来への展開への創造力 & 想像力の発揮度
平常点評価	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

放送の20世紀/HNK出版「戦前、戦後に於ける認可事業としての監督官庁からの縛りや、GHQの報道統制から始まり、現在の放送まの実情を懇切丁寧に開設している。
 書名:次世代マーケティングプラットフォーム/著者:湯川鶴章「アメリカからのインターネットビジネスの打倒に従来型の視聴率依存の放送事業がどのような位置付けに成ろうとしているのかを、最新のICTの世界観を持って開設している。」

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(地域参加活動入門)(G) § ヴィジョン形成特殊講義(地域参加活動入門)(P)

56761

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

大学生の学びの場はキャンパス内にとどまるものではない。ボランティア活動などの、地域へ参加する活動を通じて、かけがえのない学びを得ることができる。人間的な成長や、専門知識への関心を高めることが出来る。地域参加の活動は、地域に貢献するだけでなく、参加する学生にとっても、得るものが大きいのである。

しかし、地域参加活動の魅力や、そこで得られる学びは、活動を行っていない者にはなかなか理解しがたい。また、社会的な活動であるため、事前に諸々の注意事項を理解しておく必要がある。本講義では、地域参加活動へ誘う動機づけをおこなう。そして、活動に参加するための心構えを身につけることも目的としている。

本講義では多くのゲストスピーカーが登場する。いずれも日常の学生生活では出会えない人ばかりなので、臆せずに質問等を行ってほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

地域参加活動の意義・現状・課題を整理し、方法を学び、活動するための準備となることを目指している。本講義を終え、地域に参加する受講者が一人でも多く現れてほしいと望んでいる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	本授業の目的とスケジュール、地域参加活動とは何か
2~3	若者と地域参加	歴史的な文脈における若者と地域参加の有り様と変化。若者の地域参加の現在的な意義。ボランティア活動の可能性。大学生のボランティアの現状。
4~8	地域問題と大学生の地域参加	環境保全の活動、青少年育成の活動、在日外国人支援の活動、情報発信の活動、文化伝統の活動など
9~13	大学生の地域参加の課題	大学ボランティアセンター、地域の青少年社会参加支援団体、サービスマネジメント、海外の大学生ボランティア活動支援、リスクマネジメント
14-15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	与えられた設題について十分に論じられているか。文章は論理的か。誤字脱字やインターネット丸写しはないか。
平常点評価	50 %	中間まとめのときに、レポート課題を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・本講義では基本的にレクチャーを中心とした授業スタイルとなるが、できるだけ学生の授業参加があるよう、工夫していきたい(質問用紙の配布、演習形式の取り入れなど)。それらに対する積極的な姿勢を望みたい。
- ・当然のマナーであるが、講義中は携帯電話・PHSの電源は切ること。私語も禁止。受講マナーが悪い場合は注意の上、退席を願う場合もある。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

いま、環境と生命に関わる問題は人々から大きな関心をもたれているテーマである。
この授業では環境と生命に関するテレビ・ドキュメンタリーの中から選んだ9本を教材にし、ドキュメンタリーを題材にしたディスカッションを通じて、自分の意見を人に伝える力と自分の考えをまとめる力をつける。

さらに、ドキュメンタリーに関連する課題研究のテーマを設定してグループ研究を行い、その成果を教室で発表し、クラスメイトとQ&Aを行うことにより、グループ研究の仕方を身につけ、プレゼンテーションとディスカッションの力をつける。

また、学部・回生の異なるクラスメイトと一緒に受講することにより、異なる視点からのものの見方・考え方を理解できるようになる。

この授業では、受講生の自主的・能動的な学習と授業への参加を促し、自ら学んだという実感を得てもらいたい。

授業内容・授業計画の概要

第1回～第9回の授業では毎回1本(30分～50分程度)の環境と生命に関連するテレビ・ドキュメンタリーを教材として鑑賞する。ドキュメンタリーの作品は最近数年間に放映されたものが中心で、多岐に渡っている。なお、授業スケジュールにあげた課題は昨年度の授業で取り上げたものをベースにしているので、一部変更することがある。確定版は第1回の授業で発表する。

第1回から第9回のドキュメンタリーについては、各自感想や意見を400字程度にまとめ、授業後、コースツールに書き込む。皆の書き込みを読んで最も良かったと思うものを翌週教室で投票する。(最多得票者を称えるアトラクションもあり。)

また、第9回までの授業と並行して、ドキュメンタリーに関連した課題研究をグループで行う。グループは各自の関心を尊重しながら5～6人程度になるように調整する。第2回から第9回の授業の後半では、グループミーティングも行う。教員は各グループを順次回り、グループ研究の指導と相談を行う。

第10回からは、グループ研究の発表を中心に授業を進める。発表はグループの全員で行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ドキュメンタリーを観て、何が問題かを理解できるようになる。
- ・ドキュメンタリーに関連した情報を自分で調べることができるようになる。
- ・ドキュメンタリーに対する自分の意見を持つことができるようになる。
- ・自分の意見を所定の字数にまとめ、人に伝えることができるようになる。
- ・他の人とディスカッションをし、人の意見を理解することができるようになる。
- ・グループ研究ができるようになる。
- ・所定の時間で発表ができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリーの課題「食品偽装」、授業の進め方、グループ分け	
第2回	ドキュメンタリーの課題「森林」、グループ・ミーティング	
第3回	ドキュメンタリーの課題「化学物質過敏症」、グループ・ミーティング	
第4回	ドキュメンタリーの課題「生殖医療」、グループ・ミーティング	
第5回	ドキュメンタリーの課題「世界の国々」、グループ・ミーティング	
第6回	ドキュメンタリーの課題「ハンセン病」、ゲスト:金正美さんのお話を聞く	
第7回	ドキュメンタリーの課題「差別」、グループ・ミーティング	
第8回	ドキュメンタリーの課題「地方自治」、グループ・ミーティング	
第9回	ドキュメンタリーの課題「難民」、グループ・ミーティング	
第10回	第1班と第2班のグループ研究発表とディスカッション	
第11回	第3班と第4班のグループ研究発表とディスカッション	
第12回	第5班と第6班のグループ研究発表とディスカッション	
第13回	第7班と第8班のグループ研究発表とディスカッション	
第14回	第9班と第10班のグループ研究発表とディスカッション	
第15回	授業の振り返りとまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・授業後、ドキュメンタリーに関連する情報をインターネットや図書館を利用して調べる。
- ・グループ研究に関する情報や資料をグループのメンバーで分担協力して調べる。

・グループ研究発表に向けて、グループメンバーと授業時間外にも連絡を取り合い、準備を進める。

・レポートの課題は以下の通りである。

授業期間中にTVで放送されるドキュメンタリーの中から環境と生命に関する1本を選び、その要旨(400字程度)と自分の意見(400～600字)をまとめる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	課題レポートの要旨および意見について総合評価する。
平常点評価	80 %	毎回のコースツールへの投稿とその評価を50%、ドキュメンタリーの要約(各自1回)の評価を10%、グループ研究の評価を10%、グループ研究への貢献度を10%とする。なお、原則として2/3以上の出席を成績評価の要件とし、欠席回数に応じて日常点を減点する。

【レポート】

* 評価の対象は、所定の字数が守られているか、書き方(誤字、段落、引用・参考文献など)の是非、要旨のまとめ方、どこまで自分で考えたかという考察力である。

* 課題レポートの提出先はコースツールとする。

【その他】

* 番組内容の要約やグループ・ディスカッションの報告は原則一人1回を前提とするが、2回以上担当した人にはプラスアルファの評価を加える。

* グループ研究発表のディスカッションでのQ & Aの要旨をコースツールに投稿した人には、授業に対する積極的な参加としてプラスアルファの評価を加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講にあたっては、コースツールの読み書きができること、インターネットで情報検索ができることが必要である。これらは受講の条件なので、開講までにできるようにしておくこと。

教科書 / Textbooks

ドキュメンタリーの参考資料は当日プリントにして配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

「生命環境系の週間テレビ予報 on the Web」 <http://homepage2.nifty.com/yukidon/>

その他、必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

受講生の定員は80人とする。

特殊講義(日本政治のメカニズム)(GA) § ヴィジョン形成特殊講義(日本政治のメカニズム)(GA)

11095

担当者名 / Instructor 福岡 政行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代日本の政治を動的に分析し、政治の判断力の上昇に寄与する授業を目的とする。
 実証的政治学を主軸とする。政治において、理論や枠組はどうしても実態を離れる。
 そのため、政治や報道の現場にいる人にゲストスピーカーとしてレクチャーしてもらう。
 私の授業を中心に、いろいろな視座からの情報・知識の提供を行う。
 授業中での質疑応答を行い、学生の質問力やプレゼン力などを助長することも考えている。

授業は下記日程の火曜日3・4時限の連続授業で行います。

到達目標 / Attainment Objectives

政治学の基本コンセプトの修得と同時に、現実の場でどのように作用しているか、言葉の表面的意味だけではなく、機能的な面を重視する。政治の世界についての的確な判断力を要請する。

90分15回の授業は、5冊分位の本の量に値する。これだけやれば、政治・ジャーナリズム関係では十分なレベルに目標設定します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回 (4月14日)	小泉政権から麻生政権まで	～ 構造改革とは何だったのか～
第2回 (4月28日)	メディアと政治と世論	～ 世論操作とテレビ政治～ テレビ・新聞からの現場報告
第3回 (5月19日)	自民党の構造的危機と民主党の限界	～ 日本政治の危機の深度～
第4回 (5月26日)	政権交代か大連立 国民目線の政治とは何か	～ 大政翼賛会の危険と挙国一致内閣～ 政界再編はどうなる・・・ゲストスピーカー
第5回 (6月16日)	平成ニューディールと経済危機 霞が関官僚の報告	～ 雇用対策と景気対策そして世界的金融危機～
第6回 (6月30日)	超格差社会日本の実態	～ 生活の不安をどうする～ 福祉の現場から報告
第7回 (7月14日)	霞ヶ関主権から国民主権へ	～ 天下り・公務員天国をどう改革する～ 霞が関の現状報告
第8回 (7月21日)	ディスカッション 「日本をどうする！」	～ 政治家とジャーナリスト～

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業に対する取組状況等において評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ポートして四年間より、何かを求めて汗をかく時間を！

教科書 / Textbooks

適宜、授業で指示します

参考書 / Reference Books

適宜、授業を通じて紹介します

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜、授業を通じて紹介します

その他 / Others

授業は上記授業スケジュール日程での火曜日3・4時限の連続授業で行います。

特殊講義(ピア・サポート論)(GA)

14047

担当者名 / Instructor 鳥居 朋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっている。また、ピア・サポータを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせない。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込む。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とする。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポータ志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものにした。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
2	立命館学	立命館大学の教育と歴史
3	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートの理念と役割
4	現代の若者像	自分たちの世代を知る
5	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
6	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	人を動かすコミュニケーションの秘訣
7	コミュニケーションの手法を学ぶ1	聴き手に求められる力 - オーディエンス教育 -
8	コミュニケーションの手法を学ぶ2	妥協点を見つけるために受容的に聴く力 - 犬バラ法 -
9	コミュニケーションの手法を学ぶ3	相手の気持ちに立って話をする力 - アサーション -
10	コミュニケーションの手法を学ぶ4	表現力とアイコンタクト - 無言面接 -
11	コミュニケーションの手法を学ぶ5	議論に負けない力 - 少女とハゲワシ -
12	コミュニケーションの手法を学ぶ6	自分の情報を整理する力 - 強制連結法 -
13	コミュニケーションの手法を学ぶ7	情報を構造化する力 - フォトランゲージ -
14	コミュニケーションの手法を学ぶ8	主張し、提案する力 - 目的分析 -
15	コミュニケーションの手法を学ぶ9	道徳的に判断する力 - コールバーグ -

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢が望まれる。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められる。さらに本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	A4二枚程度
平常点評価	60 %	各回の授業内容について的小レポートやその他の課題を課し、適切なフィードバックを行う。

小レポートの書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。小レポートの結果はコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにするので、毎時確

認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「コミュニケーションの手法を学ぶ」では、毎回異なるグループごとに演習を行う。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行うが、恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでほしい。これらは、ピア・サポーターのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングである。

本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してほしい。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしない。

なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 C3036 / 生協で必ず購入すること

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入すること。その他必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
階層化日本と教育危機	苅谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
大衆教育社会のゆくえ	苅谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
下流社会	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /
就職がこわい	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /
「学び」から逃走する子どもたち	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
格差時代を生き抜く教育	寺脇研 / KTC中央出版 / 4-87758-506-0 C0037 /
格差社会 何が問題なのか	橋木俊詔 / 岩波新書 / 4-00-431033-4 C0233 /
学力を育てる	志水宏吉 / 岩波新書 / 4-00-430978-6 C0237 /
「学力低下」の実態	苅谷剛彦・志水宏吉他 / 岩波ブックレットNo.578 / 4-00-009278-2 C0336 /
二十歳の原点	高野悦子 / 新潮社 / /

上記以外にも必要な参考図書は、授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)

各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)

学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。

また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。

授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

特殊講義(ピア・サポート論)(GB)

14090

担当者名 / Instructor 野田 文香

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっている。また、ピア・サポータを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせない。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込む。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とする。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポータ志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものにした。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
2	立命館学	立命館大学の教育と歴史
3	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートの理念と役割
4	現代の若者像	自分たちの世代を知る
5	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
6	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	人を動かすコミュニケーションの秘訣
7	コミュニケーションの手法を学ぶ1	聴き手に求められる力 - オーディエンス教育 -
8	コミュニケーションの手法を学ぶ2	妥協点を見つけるために受容的に聴く力 - 犬バラ法 -
9	コミュニケーションの手法を学ぶ3	相手の気持ちに立って話をする力 - アサーション -
10	コミュニケーションの手法を学ぶ4	表現力とアイコンタクト - 無言面接 -
11	コミュニケーションの手法を学ぶ5	議論に負けない力 - 少女とハゲワシ -
12	コミュニケーションの手法を学ぶ6	自分の情報を整理する力 - 強制連結法 -
13	コミュニケーションの手法を学ぶ7	情報を構造化する力 - フォトランゲージ -
14	コミュニケーションの手法を学ぶ8	主張し、提案する力 - 目的分析 -
15	コミュニケーションの手法を学ぶ9	道徳的に判断する力 - コールバーグ -

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢が望まれる。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められる。さらに本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	A4二枚程度
平常点評価	60 %	各回の授業内容について的小レポートやその他の課題を課し、適切なフィードバックを行う。

小レポートの書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。

小レポートの結果はコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにするので、毎時確

認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「コミュニケーションの手法を学ぶ」では、毎回異なるグループごとに演習を行う。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行うが、恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでほしい。これらは、ピア・サポーターのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングである。

本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してほしい。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしない。

なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 C3036 / 生協で必ず購入すること

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入すること。その他必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
階層化日本と教育危機	苅谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
大衆教育社会のゆくえ	苅谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
下流社会	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /
就職がこわい	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /
「学び」から逃走する子どもたち	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
格差時代を生き抜く教育	寺脇研 / KTC中央出版 / 4-87758-506-0 C0037 /
格差社会 何が問題なのか	橋木俊詔 / 岩波新書 / 4-00-431033-4 C0233 /
学力を育てる	志水宏吉 / 岩波新書 / 4-00-430978-6 C0237 /
「学力低下」の実態	苅谷剛彦・志水宏吉他 / 岩波ブックレットNo.578 / 4-00-009278-2 C0336 /
二十歳の原点	高野悦子 / 新潮社 / /

上記以外にも必要な参考図書は、授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)

各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)

学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。

また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。

授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

特殊講義(ピア・サポート論)(GC)

16359

担当者名 / Instructor 野田 文香

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっている。また、ピア・サポータを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせない。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込む。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とする。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポータ志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものにした。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
2	立命館学	立命館大学の教育と歴史
3	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートの理念と役割
4	現代の若者像	自分たちの世代を知る
5	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
6	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	人を動かすコミュニケーションの秘訣
7	コミュニケーションの手法を学ぶ1	聴き手に求められる力 - オーディエンス教育 -
8	コミュニケーションの手法を学ぶ2	妥協点を見つけるために受容的に聴く力 - 犬バラ法 -
9	コミュニケーションの手法を学ぶ3	相手の気持ちに立って話をする力 - アサーション -
10	コミュニケーションの手法を学ぶ4	表現力とアイコンタクト - 無言面接 -
11	コミュニケーションの手法を学ぶ5	議論に負けない力 - 少女とハゲワシ -
12	コミュニケーションの手法を学ぶ6	自分の情報を整理する力 - 強制連結法 -
13	コミュニケーションの手法を学ぶ7	情報を構造化する力 - フォトランゲージ -
14	コミュニケーションの手法を学ぶ8	主張し、提案する力 - 目的分析 -
15	コミュニケーションの手法を学ぶ9	道徳的に判断する力 - コールバーグ -

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢が望まれる。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められる。さらに本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	A4二枚程度
平常点評価	60 %	各回の授業内容について的小レポートやその他の課題を課し、適切なフィードバックを行う。

小レポートの書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。

小レポートの結果はコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにするので、毎時確

認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「コミュニケーションの手法を学ぶ」では、毎回異なるグループごとに演習を行う。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行うが、恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでほしい。これらは、ピア・サポーターのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングである。

本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してほしい。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしない。

なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9 C3036 / 生協で必ず購入すること

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入すること。その他必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
階層化日本と教育危機	苅谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
大衆教育社会のゆくえ	苅谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
下流社会	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /
就職が怖い	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /
「学び」から逃走する子どもたち	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
格差時代を生き抜く教育	寺脇研 / KTC中央出版 / 4-87758-506-0 C0037 /
格差社会 何が問題なのか	橋木俊詔 / 岩波新書 / 4-00-431033-4 C0233 /
学力を育てる	志水宏吉 / 岩波新書 / 4-00-430978-6 C0237 /
「学力低下」の実態	苅谷剛彦・志水宏吉他 / 岩波ブックレットNo.578 / 4-00-009278-2 C0336 /
二十歳の原点	高野悦子 / 新潮社 / /

上記以外にも必要な参考図書は、授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)

各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)

学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。

また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。

授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

特殊講義(ユニバーサルコミュニケーション入門)(G) § ヴィジョン形成特殊講義(ユニバーサルコミュニケーション入門)(C,¹⁶⁸⁴⁰
 § 特殊講義(基礎)I(ユニバーサルコミュニケーション入門)(G) § 特殊講義(基礎)1(ユニバーサルコミュニケーション入門)
 (G) § 特殊講義(基礎)1(ユニバーサルコミュニケーション入門)(G) § 特殊講義(基礎)(ユニバーサルコミュニケーション入
 門)(G)

担当者名 / Instructor 近藤 幸一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、障害者を取りまく社会的問題を学ぶとともに、手話によるコミュニケーション技術を学び、実際の聴覚障害者支援施設での実習を行う。

科目の前段は、教室で行い、感覚器系障害とコミュニケーションについて学ぶ。講義中には、実際に障害を持つ方をゲストスピーカーとして迎え、実態を学習してもらう。

中段では、コミュニケーション手段としての手話を実習する。実習は学外で行う。

後段では、これまでの学習の成果を元に、実際の障害者支援施設にて実習を行う。

最後に、実習で学んだことの振り返りとワークショップを行い、まとめとする。

受講生を少人数のグループに分けて、ティーチングアシスタント等の協力を得て運営する。

到達目標 / Attainment Objectives

授業の到達目標は次の2点。

多様な人の存在を前提としたユニバーサル社会・共生社会の理解と、障害者の視点から社会を見ることを通じて、新たな問題意識を身に付けてもらうこと。

学習活動にとどまらず、ボランティア活動などの社会的活動や学生相互の学びあいへ自主的に取り組んでいけるような動機付けとなること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教養ゼミナール(ユニバーサル社会へのいざない)」

また上記科目以外にも、普段から新聞記事を読みこなし、障害者を取りまく社会状況やユニバーサル社会に関する動向を把握するなどの情報収集に心がけてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	<感覚器系障害の特徴とコミュニケーション> 感覚系障害について	コミュニケーション障害から学ぶ現代的な諸相を学習する。
2	<感覚器系障害の特徴とコミュニケーション> 聴覚障害論	9オレベルの発達問題/ろう者とコミュニティの状況を学習する。
3	<感覚器系障害の特徴とコミュニケーション> 聴覚障害論	聴覚障害を持つ医師をゲストスピーカーとして招き、難聴・中途失聴者の生活ニーズ、医療系大学における聴覚障害学生の教育保障等を学ぶとともに、コミュニケーション障壁を実感してもらう。
4	<感覚器系障害の特徴とコミュニケーション> 聴覚障害論	重複・重度聴覚障害の方をゲストスピーカーとして招き、生活ニーズ等の実態を学習するとともにコミュニケーション障壁を実感してもらう。
5	<コミュニケーション支援の方法(実習にあたっての準備学習を兼ねる)> 多様な手段を使ったコミュニケーション	ホワイトノイズを発生させるヘッドフォンを着用してもらい、擬似的な聴覚障害を体感して身体表現によるコミュニケーションを学習する。
6~8	<コミュニケーション支援の方法(実習にあたっての準備学習を兼ねる)> 手話を使ったコミュニケーション	コミュニケーション障壁の講義や実感を動機付けとして、具体的な手話の実習を行う。 JR嵯峨駅前の「コミュニティ嵯峨野」(福)全国手話研修センターにて実施予定。
9~12	<フィールドワーク>	以下の組織をカウンターパートとし、受講生の問題関心に応じてフィールドワークを行う。 綾部市「いこいの村聴覚言語センター」 京都市内各所の「地域活動支援センター」(聴覚障害を対象とする活動支援センター)
13	<振り返りとワークショップ> 事後学習	フィールドワークのまとめ/活動報告会準備
14	<振り返りとワークショップ> 事後学習	活動報告会準備
15	<振り返りとワークショップ> 活動報告	フィールドワーク先関係者を招き活動報告

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本学には「障害学生支援室」があり、日常的に障害を持つ学生への学習支援を行っている。

支援室は、障害学生支援の豊富な経験蓄積があり、書籍や機器も充実している。

障害を持つ学生を支援する学生組織「さぼーとnet」もあって、各種研修会を開催している。
 本科目の受講生に対しては、自学自習教材を提供し、各種機器の利用も認めているので、是非一度、障害学生支援室を訪問し、支援の実態にふれてもらいたい。また、さぼーとnetの学生とも交流を深め、授業以外のボランティア活動にも参加してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義への出席状況や受講態度 学外での手話講座出席状況や受講態度 フィールドワークでの出席状況・態度や積極性 課題の提出状況 など総合して評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

手話の実習、支援施設での実習は、時間や礼節を守ってください。短期間とはいえ、地域社会の一員となりますから、自覚をもって臨むようにしてください。

実習は、土・日や平日の夕方に行われることが多くなります。受講生のみなさんの課外活動やアルバイトなどの調整が必要になることがあります。

詳細は受講ガイダンスで伝えます。4月以降に実施しますので、掲示板等を良く見ておいてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

数学入門 (S)

13440

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

数学は理性の音楽であり、知者の武器であり、人類の文化そのものと言える。本授業は、数学を必ずしも得意としない受講者を対象に、そのリメディアル教育の一環として、数学的な内容・方法を講ずるものである。時間数の制約上、内容知すなわち知識・技能よりも、方法知すなわち数学を探究し構成する手法に焦点を当てた上で、数学上の幾つかの重要なトピックを楽しみながら振り返る。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 数学を人類の社会文化的な所産と捉え、その学習に深い関心・意欲をもつことができる。
- 2 数学的なリテラシーの基礎を身につけ、必要に応じて高等学校以前に学んだ数学的内容を再構成できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目は特にありません。日頃から、物事を数学的に考える習慣をつけていきましょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	人はなぜ数学を学ぶか？	数学の文化史, 民主主義, 黄金比, 懸賞金問題
第02回	数学的な方略	ストラテジーとタクティクス, 発見法, 単純化, 特殊化, カプレカル操作
第03回	数学的な推論 蓋然・必然と命題操作	帰納・演繹・類比, 仮説推論(abduction), 合接・離接, 含意, 逆・裏・対偶
第04回	数学的な推論 誤った推論と論駁	反例・反証, 過般化, ラカトシュモデル
第05回	“必勝法”の数理	ゲーム理論, スプラウト, Win-Win, 勝率と期待値
第06回	統計的リテラシー 説得する	分散, 分布, 偏差, 統計的仮説, 検定・推定
第07回	統計的リテラシー 嘘を見抜く	比較の論理, 平均の嘘, グラフ選定と錯視
第08回	数学の実験とは? 数学に触れる	模型・実験, 正多面体, 多面体, オイラー標数
第09回	数学の実験とは? 別次元をみる	拡張・一般化, 平面の分割, 立体の分割, フラクタル
第10回	折り紙の数理 平面	オリガミクス, 平行・対称・回転移動, 正多角形の構成, 二次曲線
第11回	折り紙の数理 空間	オリガミクス, 正多面体の構成, 非ユークリッド操作
第12回	数学と文化 芸術に潜む数理	ピタゴラス音階, 黄金比, フィボナッチ数列
第13回	数学と文化 和算の世界	九章算術, 塵劫記, 算木, 算額, 油分け算, 薬師算
第14回	数学と文化 異文化の計算法	計算法の文脈依存, 比と関数の思想
第15回	市民の数学: Numeracy とは?	数理思想, バーコードの数学, 多様な税計算

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本授業では、小学校から高等学校までに習ってきた数学的知識を学び直す事例が多くあります。授業でも基礎から分かりやすく解説しますが、教科書等を用いて必要に応じて自主的に復習することを勧めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終講義の際に数学の簡潔な作問レポートを課す。
平常点評価	50 %	出席を重視する。また平常点(学習・発表態度, 質問内容, 討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数2 / 3以上を出席することを単位認定の基本条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業は、日常感覚と切り離された数学的教養を身につけるのではなく、各トピックを通じて適切な数学的着想と手法を学び直していきます。数学に王道無し。楽な近道はありませんが、知る喜びを軸に主体的に学ぶことで必ず数学的なリテラシーが身につきます。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
いかにして問題をとくか	G. ポリア / 丸善 / 4-621-04593-8 / 未知の問題にアプローチする上での古典的名著
世界は数理でできている	L. A. スティーン / 丸善 / 4-621-04742-6 / 次元, 量, 不確実性, 形, 変化という着想から数学を省みる

その他, 参考となる資料は随時紹介し, 必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

数学のリメディアル学習につながるsiteを授業時に随時紹介していきます。

その他 / Others

授業において不明な点, 疑問に感じた点を大切に, まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

理科入門I (S)

13441

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校、中学校理科(物理、地学)で扱うテーマを中心に、基礎知識、またその方法(科学の方法)の修得をめざす。また、単に学校理科にとどまらず、科学リテラシーの涵養という観点から、社会現象を科学の目で捉えるための様々な手法、またそのための基礎知識について学習を深める。現代を生きる者の理科という観点を強調したい。講義形式が主になるが、実験、観察、討論等様々な手法を駆使して、学習者の「科学する心」をもう一度目覚めさせたい。

到達目標 / Attainment Objectives

小学校、中学校理科の内容、方法が理解できる。
 日ごろ感じている疑問を、身近な素材で確かめられる。
 科学リテラシーの観点から、理科の内容が再構成できる。
 科学の方法を駆使して、テーマに即した討論に参加、発表ができる。
 「人の関わりとしての理科」という観点から、学校理科のあるべき姿を模索できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、今後展開される教職科目「初等理科教育法」、「初等理科」の基礎科目という位置づけも担っています。「教職に関する科目」、また「教科に関する科目」については計画的に履修するよう心がけてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～3回	理科とは何か - 身近な素材を使って自然に親しむ -	小学校理科(第1回)、中学校理科(第2回)、高等学校理科(第3回)で学んできたものは何かを知ろう
第4回～6回	理科の内容と方法(その1) - 小学校の理科の素材から -	小学校理科をテーマにして(振り子(第4、5回)や電気・磁石(第6回)等を題材にして)科学の方法について学ぶ
第7回～9回	理科の内容と方法(その2) - 中学校の理科の素材から -	中学校理科をテーマにして(地球の自転・公転(第7、8回)や溶ける不思議(第9回)を題材にして)学ぶ
第10回～12回	理科の内容と方法(その3) - 地球の環境(科学のリテラシー)を題材にして[ゲストスピーカーの授業] -	地球環境をテーマに、科学的なものの見方・考え方と「理科の教材」の役割について学ぶ
第13回	科学リテラシーとしての理科(その1) - 生きる力と理科 - 【レポート課題の提示】	テーマごとの演習、討論(ゲストスピーカーの話から小学校・中学校の理科の実態を知る)
第14回	科学リテラシーとしての理科(その2) - 理科の知識と方法 - 【レポート課題についての質疑】	テーマごとの演習、討論(与えられた課題から理科の実験をデザインする)
第15回	課題レポートの発表(各班10分)とその講評(30分)	理科としてのまとめ方、レポート作成の仕方、発表の仕方について学ぶ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

「各家庭の電気の配線は並列ですか、直列ですか、など、毎授業後、理科の内容に関連した面白クイズを出します。各個人の質問・指導、また解答はメール等で行いますが、それを導入として授業を進めていきます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で扱ったいくつかのテーマを元にして各自が興味関心を引いたテーマについて、理科(科学)の方法の運用、また知識の定着を見ます。実験で得られた結果からどのようなことが引き出せるか、そのまとめ方についても評価します。
平常点評価	40 %	講義時に出す課題、またクイズに対する解答内容、また応答回数等を評価します。討論会での発表、調べ学習、また態度等を評価します。特に、第13～15回での発表会での積極性を評価します。

特に、第14、15回で行う模擬実験での取り組み(発表、またそれまでの活動)については、平常点として高く評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校、中学校、また高等学校の理科の教科書を持参することが望ましい。
 (毎回プリント等で資料は提供します。)
 理科が嫌いな学生ほど受講する価値があります。なぜ嫌いなのかを明確にしておくことが受講の際の大切な条件です。
 日ごろ感じている疑問を身近な素材で追求していきます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
理科は理科系のための科目ですか	山下芳樹 / 森北出版 / 4 - 627 - 16121 - 2 / 教科書、資料集として活用

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Q & Aでわかる物理科学(1, 2, 3)	山下芳樹 他 / 丸善 / 4 - 621 - 07237 - 4 / 知識の宝庫(クイズ形式で楽しく学べます)
大人のためのサイエンス!Q	左巻健男, 山下芳樹他 / 化学同人 / 978 - 4 - 7598 - 1088 - 2 / 理科の知識が広く確認出来ます
高校物理 検定外 教科書	山下芳樹 / 宝島社 / 978 - 4 - 7966 - 6026 - 6 / 理数オンチの人には最適

種々の参考書(資料)については, 授業時に伝えます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて伝えます。

その他 / Others

理科入門 では私だけの理科の参考書をつくってもらいます。そのための資料(作り方など)は授業時に連絡します。

理科入門II (S)

15659

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校、中学校理科(物理、化学、生物、地学)で扱うテーマを中心に、基礎知識、またその方法(科学の方法)の修得をめざす。また、単に学校理科にとどまらず、科学リテラシーの涵養という観点から、社会現象を科学の目で捉えるための様々な手法、またそのための基礎知識について学習を深める。現代を生きる者の理科という観点を強調したい。講義形式が主になるが、実験、観察、討論等、様々な手法を駆使して、学習者の「科学する心」をもう一度目覚めさせたい。特に、理科入門 では、理科入門 の学びを前提として、より深い理解を図る。教材の作成という「ものづくり」を中心とした授業展開とする。

到達目標 / Attainment Objectives

小学校、中学校理科の内容、方法が深く理解できる。
 科学リテラシーの観点から、内容に応じてその再構成ができる。
 テーマに即した討論に参加し、科学的根拠に基づいた発表、討論ができる。
 「人の関わりとしての理科」という観点から、学校理科のあるべき姿を模索できる。
 選んだテーマについて、内容、方法等質の高い調べ学習(実験、観察を含む)ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門 では、理科入門 の学びを前提とします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～3回	私たちを取り巻く現状と理科 (理科と地球環境を題材にして)	学校理科と最先端科学, 身の回りの科学
第4回～6回	理科の内容と方法(その1) - 作業(実験、観察)を通して理解する -	小学校、中学校理科をテーマにして(物理分野、化学分野から)
第7回～9回	理科の内容と方法(その2) - 作業(実験、観察)を通して理解する -	小学校、中学校理科をテーマにして(生物分野、地学分野から)
第10回～13回	課題研究(その1) - 科学の方法を具体的事例(教材の開発)を通して学ぶ -	与えられたテーマに即して調べ学習を行う
第14回	課題研究(その2)	課題研究の発表, テーマごとの演習, 討論【評価】
第15回	課題研究(その3)	課題研究の発表, テーマごとの演習, 討論【評価】

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

「理科と地球環境」を主題として、理科の各分野(物理・化学・生物・地学)を取り扱います。課題研究(教材の開発)では、この主題に即した作業(調べ学習など)を行います。相談日等を設け、随時サポートします。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	講義時に出す課題に対する解答内容、またその取り組み態度(応答回数)等を評価します。
平常点評価	60 %	課題研究での発表、調べ学習、また態度等を評価します。教材作成での成果物による評価も重視します。

第14, 15回で各自(またはグループ)で開発した教材の発表を行います。その教材の作成の狙い等(企画説明書、及び成果物)による個人評価や参加者の評価をも総合して平常点評価とします。出席については重要視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校、中学校、また高等学校の理科の教科書を持参することが望ましい。
 (毎回プリント等で資料は提供します。)
 課題研究ではグループで調べ学習を行います。授業時間以外でも、集まって作業をする場合もあります。
 小学校の授業参観等を通して、環境教材についての実態を学習します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
大人のためのサイエンスIQ	左巻健男, 山下芳樹他 / 化学同人 / 978-4-7598-1088-2 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Q & Aでわかる物理科学(1, 2, 3)	山下芳樹 他 / 丸善 / 4 - 621 - 07237 - 4 /

種々の参考書(資料)については、授業時に伝えます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて伝えます。

